

平成 29 年度～令和 3 年度 文部科学省研究開発学校指定
第 5 年次学校公開研究会

新設教科「地域創造学」を中核とした教育課程等の開発
による社会的実践力の育成

～小・中・高等学校の滑らかな接続を活かして～



令和 3 年 9 月 2 9 日 (水)

住田町立世田米小学校

住田町立有住小学校

住田町立世田米中学校

住田町立有住中学校

岩手県立住田高等学校

大会日程概要

1 期 日

令和3年9月29日（水）

2 日 程

| | | | | | | | | |
|-------------|-------|-------|------|-------|-------|---------------|-------|---------------|
| 8:30 | 9:00 | 9:40 | 9:45 | 10:10 | 10:20 | 11:10 (11:05) | 11:40 | 12:30 (12:25) |
| 受付 (各会場) | 全体会 | | 授業説明 | | 公開授業① | 移動・休憩 | 公開授業② | |
| 12:30 | 13:30 | | | 15:00 | 15:15 | | 16:20 | 16:25 |
| 昼食・休憩 | | 授業研究会 | | 休憩 | | 講演会 | | 閉会行事 |

3 全体会

<住田町役場から各会場へオンライン配信 9:00~9:40>

- (1) 挨拶 住田町教育委員会 教育長 菊池 宏
(2) 研究発表 住田町教育委員会 指導主事 千葉 邦彦

4 公開授業

<各会場 ①10:20~11:10 (11:05) ②11:40~12:30(12:25)>

公開授業は密を避けるため体育館等、各学校の広いスペースで実施いたします。授業会場では、ソーシャルディスタンスにご配慮の上、ご参観いただきますようお願いいたします。

○ 世田米小学校会場

| | 学級 | ステージ | 授業者 | 単元名 |
|---|------|--------|------|---------------------------|
| ① | 2年1組 | 第1ステージ | 菅野真美 | 「もっと知りたい、わたしたちのまち②」 |
| ② | 4年1組 | 第2ステージ | 高橋久美 | 「すごいぞ住田！気仙川のためにみんなのできること」 |

○ 有住小学校会場

| | 学級 | ステージ | 授業者 | 単元名 |
|---|------|--------|-------|----------------------|
| ① | 5年1組 | 第3ステージ | 吉田由香 | 「住田の宝 森林をいかした町づくり」 |
| ② | 6年1組 | 第3ステージ | 菅野雄太郎 | 「我が町再発見 地域に根ざした情報発信」 |

○ 世田米中学校会場

| | 学級 | ステージ | 授業者 | 単元名 |
|---|------|--------|-----------------------|----------------|
| ① | 1年A組 | 第3ステージ | 熊谷美保 野口貴弘 新沼久美子 | 「調査をしよう！」 |
| ② | 3年A組 | 第4ステージ | 杉下遼 黄川田潤一 | 「住田の魅力を発信しよう！」 |

○ 有住中学校会場

| | 学級 | ステージ | 授業者 | 単元名 |
|---|------|--------|-----------------------|-------------------------|
| ① | 1年A組 | 第3ステージ | 山内薫 中渡昭徳 志田竜彦 | 「調査をしよう！」 |
| ② | 3年A組 | 第4ステージ | 佐々木佳恵 黒坂太一 高橋秀治 | 「発信したものの成果・課題を明らかにしよう！」 |

○ 住田高校会場

| | 学級 | ステージ | 授業者 | 単元名 |
|---|------------------|--------|------|-----------------------------|
| ① | 1年A・B組 | 第4ステージ | 西出和久 | 「自分を知る」 |
| ② | 2年A・B組 3年A・B組 | 第5ステージ | 佐藤仁 | 「地域を見つめる①」 「地域への貢献を考える①」 |

5 授業研究会

<各会場 13:30~15:00>

| 会場 | 助言者 | 司会者 |
|--------|--------------------|-------------------------|
| 世田米小学校 | 岩手大学教育学部 教授 田代高章 | 住田町立世田米小学校 教諭 高橋 さや香 |
| 有住小学校 | 岩手大学教育学部 教授 山本 奨 | 住田町立有住小学校 教諭 菅原 久里子 |
| 世田米中学校 | 秋田公立美術大学 副学長 毛内嘉威 | 住田町立世田米中学校 教諭 黄川田 潤一 |
| 有住中学校 | 東洋大学食環境学部 教授 後藤 顕一 | 住田町立有住中学校 教諭 黒坂 太一 |
| 住田高校 | 岩手県教育委員会 指導主事 砂沢 剛 | 岩手県立住田高等学校 教諭 利府 崇 |

6 講演会

<住田町役場から各会場へオンライン配信 15:15~16:20>

演題 「探究が地域を創る：学びと育ちを支えるカリキュラムづくり」

講師： 上越教育大学大学院 学校教育研究科 准教授 河野 麻沙美 先生

目 次

あいさつ 教育長 菊 池 宏

【これまでの研究開発の概要】

| | |
|---------------------------|----|
| はじめに | 1 |
| I. 研究開発の概要 | 1 |
| II. 研究開発の実際 | 13 |
| III. 研究開発の成果と課題 | 21 |

【令和2年度校内研究のまとめ】

| | |
|----------------------|-----|
| 住田町立世田米小学校 | 24 |
| 住田町立有住小学校 | 56 |
| 住田町立世田米中学校 | 99 |
| 住田町立有住中学校 | 130 |
| 岩手県立住田高等学校 | 157 |

【巻末資料】

| | |
|--------------------------------|-----|
| 保護者・地域協力者・教職員アンケート結果 | 168 |
| 教育達成測定シート項目 | 189 |
| 教育達成測定分析結果 | 190 |
| 地域創造学についての新聞記事 | 195 |
| 児童作文（小学3年） | 200 |

この地域を託せる人材育成のために

文部科学省研究開発学校指定最終年次学校公開研究会開催にあたり、主催者としてご挨拶申し上げます。

平成 29 年度から取り組み始めた文部科学省指定の研究開発学校事業も最終年度を迎えました。本来であれば4年の指定期間でしたが、国内の新型コロナウイルス感染症拡大の勢いが衰えず、十分な研究推進が行えないことから1年間の指定延長となりました。スケジュール変更を余儀なくされ水を差された感がありましたが、このコロナ禍にあっても“学びを止めたくない”という強い願いがありました。学校や地域、関係諸氏の“できることはしっかり進めよう”という真摯な取り組みが続けられ今日を迎えております。

さて、この「地域創造学」の取り組みは、次のような「問い」から始まりました。

- ・今まで私たちは、一つの答をいかに早く正確に導き出すかに取り組んできた。しかしこれからは、正解の見えない問題を他者と力を合わせ解決にあたろうとする力が求められる。価値観が多様化する中、複数の答えがあるかもしれない社会に対応しなければならない。これからの子どもたちには、こうした新しい時代を切り拓き乗り越える資質・能力が求められる。
- ・加えて、岩手の中山間地では地域を支える人材の育成が急務である。今まで地域を学ぶ取り組みは数多く行われてきたが、地域を支える人材を育成しようとする意図的な学習は稀だったように思う。「地域はそこにあり続ける」とすればそれを担う人材がなければならない。学校教育にはそれを狙いとする教科が必要なのではないか。

そこで本町では、これからの社会を逞しく生きようとする子どもの育成と、地域を愛し、地域に誇りを持ち、地域を支えようとする人材育成の在り方をさぐるために、文部科学省の研究開発学校指定をいただきました。そして教科としての「地域創造学」の開発に取り組むこととなりました。

町内小中学校4校、県立高等学校1校、計5校で、中山間地域における教育の発展の方向性を共有し、そしてまた特色ある教育の実現に協力いただく全ての方々とその理念を分かち合いながら実践を進めてきたところです。

文部科学省、岩手大学教授田代高章先生をはじめとする運営指導委員の先生方、岩手県教育委員会、地域の方々、関係諸機関のご指導ご協力により研究を進めることができいております。この紙面をお借りして御礼を申し上げます。

とはいえまだ緒に就いたばかりです。まさに生みの苦しみを味わっている最中です。そこで、本学校公開研究会は研究指定最終年度での途中経過を皆様に公開し、ご批評を請うために開催したものであります。皆様から忌憚のないご意見、ご指導を頂戴したいと願っております。これまでの成果をこれからの研究実践に活かし、次のステップへつなげてまいりたいと考えております。

住田町教育委員会

教育長 菊池 宏

これまでの研究開発の概要

はじめに

本公開の研究主題である「新設教科『地域創造学』を中核とした教育課程等の開発による社会的実践力の育成～小・中・高等学校の滑らかな接続を活かして～」は、本町の小・中学校及び県立高校5校が平成29年度から文部科学省研究開発学校指定を受けて取り組んできた研究開発課題「子どもたちに新しい時代を切り拓くために必要な資質・能力や心の豊かさを育成するため、小・中・高等学校の滑らかな教育の接続を活かして、新たに教科『地域創造学』を新設した場合の教育課程、指導方法及び評価方法等の在り方に関する研究開発」に基づいて設定したものである。

I. 研究開発の概要

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

岩手県の中山間地域に位置し、豊かな自然に恵まれた住田町では、教育振興基本計画基本目標「生涯学び続け、新しい時代を切り拓く心豊かな人材の育成」の基に、自立して生き抜く力や協働する力、豊かな人生や地域づくりを主体的に創造する力を身につけた人材育成を目指し、これまでも地域の特色を生かした教育を推進してきた地域である。しかしながら、時代の潮流の中、中山間地域における地域課題に直面していることもまた事実である。

その一方で、時代の移り変わりによって価値観が多様化する中で、これからの子どもたちには、正解のない問題を他者と協働して解決に当たろうとする力や、複数の正解がある社会に対応し、乗り越えていく力を身に付けていくことが求められている。このような地方の現状や求められる資質・能力の変化の中で、本町においては、これまでに行ってきた地域の特色を生かした教育をさらに発展させた意図的・計画的な学習を系統的に進めていくことで、これからの時代を切り拓き、自ら主体的に未来の社会を創造しようとする「地域の未来を担う人材」を育てていくことができるのではないかと考えた。

そこで、教育研究所を母体とする町内5校（世田米小学校、有住小学校、世田米中学校、有住中学校、県立住田高校）が一体となって具体的に育むべき資質・能力を明らかにし、地域に根付く特色ある産業や豊かな自然、人々の営み全てを教育資源として活用した小・中・高のつながりのある学びの実現を、「新設教科『地域創造学』を中核に据えた教育課程の実施」を通して図ることを目指す研究開発に取り組むこととした。

(2) 研究の方針【図1-1：住田町研究開発グランドデザイン】

前述の研究のねらいを踏まえ、本研究開発においては、小・中学校及び高等学校が育成を目指す資質・能力を共有し、一体的に推進する教育を展開する。具体的には、12年間を通して、「子どもたちが変化の激しい社会において、充実した人生を実現していくために、豊かな心を持ち、自ら主体的に未来の社会を創造していくことのできる力（社会的実践力）の育成」を目指す。そのために、住田町内の教育の特色を生かした教科「地域創造学」を新設し、これを中核に位置付けた12年間の教育課程の編成と、その指導方法及び評価方法等の開発を行っていく。以下大きく3点について、具体的な研究実践をとおして提言を行う。

- ア 「社会的実践力」を育むため「地域創造学」を据えた教育課程の編成をすること
- イ 「社会的実践力」を効果的に育む指導方法を探ること
- ウ 「社会的実践力」を評価するための具体的指標の開発を行うこと

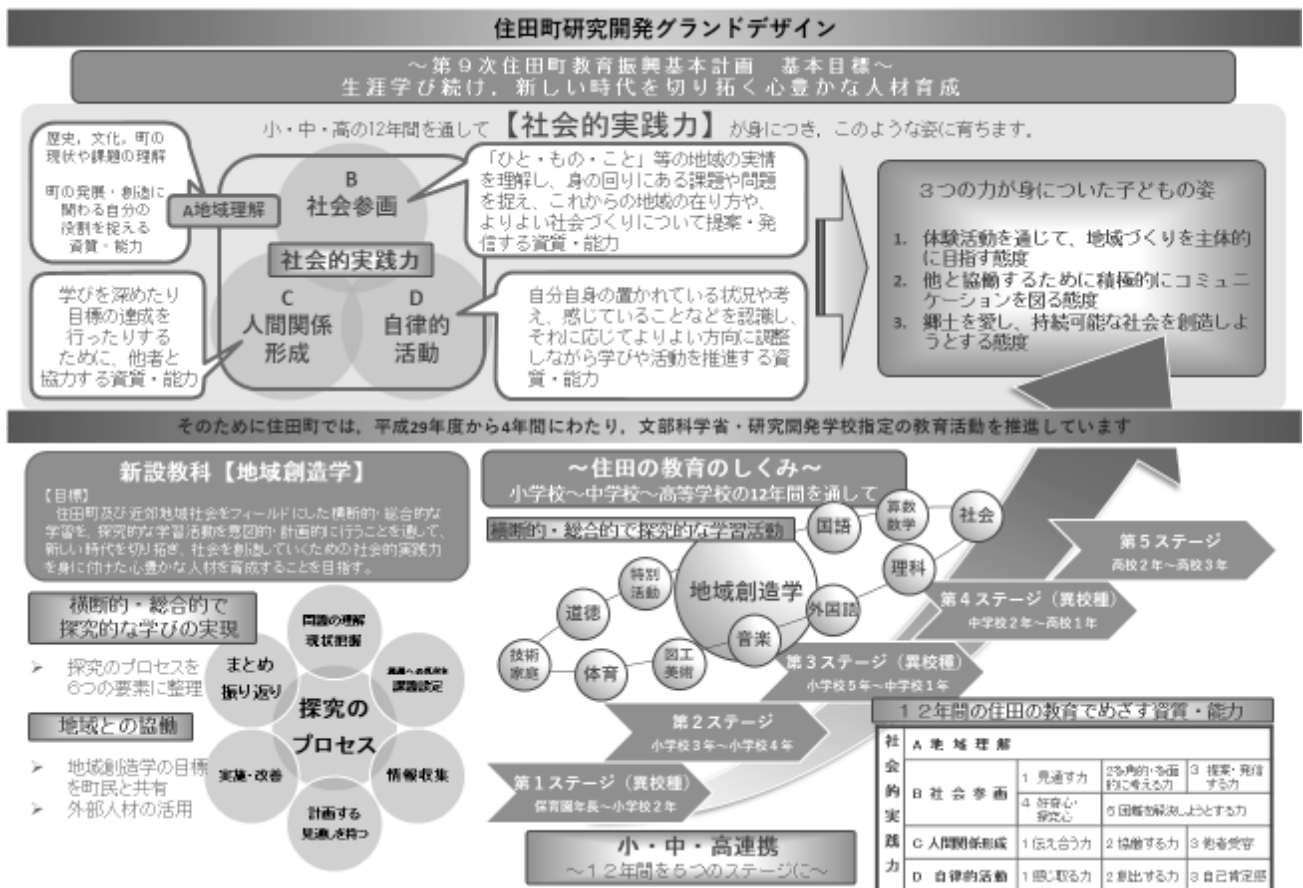
(3) 研究仮説

新設教科「地域創造学」において、小学校から高等学校までが、新しい時代を切り拓き社会を創造していくための社会的実践力の育成を共通に目指し、以下の手立てを講ずることにより、自立して生き抜く力を身に付け、他者と協働してより豊かな人生や地域づくりを主体的に創造することのできる人材を育成することができるであろう。

そのために具体的な手立てとして、以下の5点に取り組む。

- ア 新しい時代を切り拓くために必要とされる資質・能力（社会的実践力）の規定
- イ 社会的実践力を育成するための教育課程の編成や効果的な指導方法の開発
- ウ 社会的実践力の育成を評価するための具体的指標の開発
- エ 教育課程の特例による教科「地域創造学」の創設と授業実践
- オ 新設教科「地域創造学」に関するアンケート調査や外部評価の効果的な活用と教育課程等の在り方の検証

【図1-1】 住田町研究開発グランドデザイン



(4) 教育課程の特例

- ア 小学校では、生活科、道徳、外国語活動及び総合的な学習の時間を減じて、全学年において「地域創造学」を1年生106時間、2年生110時間、3、4、5、6年生では85時間設定する。
- イ 中学校では、全学年において、道徳、外国語及び総合的な学習の時間を減じて「地域創造学」を1年生では62時間、2、3年生では82時間設定する。
- ウ 高等学校では、全学年において総合的な探究の時間を減じて、「地域創造学」を1単位35時間実施する。

2 研究開発の内容

(1) 教育課程の編成について

ア 社会的実践力について

本研究においては、育成を目指す「社会的実践力」を以下のように定義した。

【社会的実践力】

児童生徒が変化の激しい社会において、充実した人生を実現するために、豊かな心を持ち、主体的に未来社会を創造していくことができる力

我々が育成を目指す社会的実践力は、地域資源を学習材として横断的で探究的な学習活動が展開されることにより培われていくものである。まず我々は、社会的実践力が様々な側面や要素を持ち合わせた資質・能力が螺旋的に関わり合いながら培われていく資質・能力であるとの立場に立ち、社会的実践力を形作っている資質・能力は何かについての検討から着手した。

研究開発指定一年目（平成 29 年度）は、各校で検討した「地域創造学で育成すべき資質・能力」を町教育研究所が分析・整理し、育成すべき社会的実践力を構成する資質・能力の分類を 3 つ（自律的活動力、人間関係形成、社会参画に関する力）と定義し、それに基づき更に細分化した 9 つの資質・能力を目指す方向性として確認した。

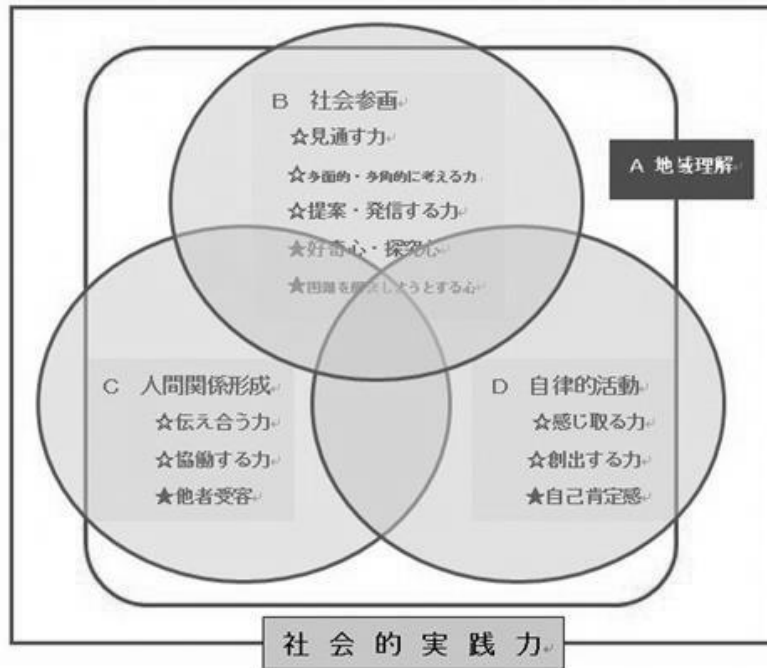
研究開発指定二年目（平成 30 年度）は整理した 9 つの力を基に、新設教科「地域創造学」の指導を開始し、授業実践を基に、社会的実践力として形作られていく様々な資質・能力に関わるさらなる検討を重ね、最終的に【表 2-1】のように、12 の資質・能力として規定した。これらの 12 の資質・能力は、「地域創造学においては何を理解して何ができるようになるか」という知識・技能に相当するもの、汎用的スキルに相当するもの、態度・意欲・学びの価値に相当するものに明確化し、知識・技能に相当する資質・能力を「地域理解」、これ以外の 11 の資質・能力を「社会参画に関する資質・能力」、「人間関係形成に関する資質・能力」、「自律的活動に関する資質・能力」という大きく三つの側面から分類した。「地域理解」以外の 11 の資質・能力については、汎用的スキルに相当するもの（☆で表示）として七つの資質・能力（見通す力、多面的・多角的に考える力、提案・発信する力、伝え合う力、協働する力）を位置付け、態度・意欲・学びの価値に相当するもの（★で表示）として四つの資質・能力（好奇心・探究心、困難を解決しようとする心、他者受容、自己肯定感）を位置付けた。

併せて、地域創造学において育成を目指す社会的実践力は、それぞれ独立して育成されるものではなく、地域理解の資質・能力と相互に関連付けられ、重なり合いながら育成される資質・能力として定義し、地域創造学で育む社会的実践力を形成している資質・能力の関連を【図 2-1】のように示した。

【表 2-1】社会的実践力を形作る資質・能力

| | | | | |
|----------------|---------------|---------------|--------------------------------------|--------|
| 社会的 実践 力 | A 地域理解 | | 他 教 科 等 の 汎 用 性 | |
| | B 社会参画に関する力 | ☆見通す力 | | |
| | | ☆多面的・多角的に考える力 | | |
| | | ☆提案・発信する力 | | |
| | | ★好奇心・探究心 | | |
| | C 人間関係形成に関する力 | ★困難を解決しようとする心 | | |
| | | ☆伝え合う力 | | |
| | | ☆協働する力 | | |
| | D 自律的活動に関する力 | ★他者受容 | | |
| | | ☆感じ取る力 | | |
| | | ☆創出する力 | | |
| | | | | ★自己肯定感 |

【図 2 - 1】 12 の資質・能力の関連



【表 2 - 2】 は、社会的実践力を構成する資質・能力の分類とともに、12 の資質・能力のそれぞれについて、具体的に示したものである。

【表 2 - 2】 社会的実践力を構成する資質・能力の分類

【社会的実践力】児童生徒が変化の激しい社会において、充実した人生を実現するために、豊かな心を持ち、主体的に未来社会を創造していくことができる力

☆ 汎用的スキル ★ 態度・意欲・学びの価値

| A 地域理解 | | 自分たちの地域の歴史や文化、現状や抱えている課題、活用資源を理解し、ふるさとに愛着をもちながら町の発展・創造に関わる自分の役割等を捉える。 | |
|---|-----------------|---|---|
| B 社会参画に関する資質・能力 「ひと・もの・こと」等の地域の実情を理解し、身の回りにある課題や問題を捉え、これからの地域の在り方や、よりよい社会づくりについての提案・発信に関する資質・能力 | 1 ☆見通す力 | 【☆見】 | 自分や集団にとっての課題や問題を見出し、その解決方法を見いだす問題発見力。情報を適切に活用する力。目標の達成に向かって解決の道筋を見通し計画する力。 |
| | 2 ☆多面的・多角的に考える力 | 【☆多】 | 根拠を明確にししながら様々な見方や考え方で検討する力。批判的思考力。考えや解釈の妥当性を考える力。予測し判断する力。 |
| | 3 ☆提案・発信する力 | 【☆提】 | 地域への愛着を持ち、よりよい社会づくりに向けた取組を提案する力。解決策や考えたことについて効果的な発信方法を考える力。新しい視点や価値観を生み出す力。 |
| | 4 ★好奇心・探究心 | 【★好】 | 身の回りや地域の事象に興味関心を持つ態度。もっと知りたいと思う心。知りたいことや解決したいことをみつつけようとする姿勢。 |
| | 5 ★困難を解決しようとする心 | 【★解】 | 失敗してもあきらめずに挑戦しようとする心。集団の仲間とともに困難な場面に直結しても粘り強く取り組み、最後までやり遂げようとする姿勢。 |
| C 人間関係形成に関する資質・能力 学びを深めたり、目標の達成を行ったりするために、他者と協力することに関する資質・能力 | 1 ☆伝え合う力 | 【☆伝】 | 調べたことや自分の考えを伝える力。視覚的に伝え方を工夫する力。気持ちや感じたことなどを伝える力。双方向的に伝え合う力。 |
| | 2 ☆協働する力 | 【☆協】 | 目標達成に向かって、他者と協力して活動できる力。議論し合ったり、集団活動を統制したりする力。 |
| | 3 ★他者受容 | 【★受】 | 多様な他者の考えや価値観、立場を受け入れる態度。相手を尊重したり敬意を抱いたりする心。 |
| D 自律的活動に関する資質・能力 自分自身の置かれている状況や考え、感じていることなどを認識し、それに応じてよりよい方向に調整しながら学びや活動を推進することに関する資質・能力 | 1 ☆感じ取る力 | 【☆感】 | 自己の現在の姿を見つめる力。考えや発想、思いを自分自身で捉えたり、捉え直したりして、これからの自分の学びや活動をよりよいものに調整しようとする力。 |
| | 2 ☆創出する力 | 【☆創】 | 出会う「ひと・もの・こと」に触れて面白さや楽しさ、よさを感じ、自分なりに表現する力。新しい表現の仕方を生み出したる力。 |
| | 3 ★自己肯定感 | 【★肯】 | 学びの過程や活動を省察したり、最後までやり遂げた達成感を味わったりしながら自分のよさを捉える心。自分の可能性を前向きに受け止め、より高いもの・よりよいものを目指して取り組もうとする態度。 |

イ 社会的実践力の系統表を基にした滑らかな学びの接続について

本町における一貫した教育課程の編成をとおして、目指す資質・能力を育成していく上での最も重要な考え方の一つに、子どもたちの発達段階を踏まえ、接続学年の系統性を大切に、育ちと学びを滑らかに接続していくことが挙げられる。そこで、地域創造学の特性を生かし、教科横断的な視点から、校種間、異校種間の接続を図ることにより、着実に社会的実践力が育まれていくよう、発達段階を保育園の年長児も含めた五つのステージのまとまりで編成した。

- ・第1ステージ：保育園年長児、小学校1年、小学校2年
- ・第2ステージ：小学校3年、小学校4年、
- ・第3ステージ：小学校5年、小学校6年、中学校1年
- ・第4ステージ：中学校2年、中学校3年、高等学校1年
- ・第5ステージ：高等学校2年、高等学校3年

さらに、12年間をとおして、町全体で目指す子どもたちの育ちの姿を俯瞰しながら、地域創造学で育てたい資質・能力の確実な育成に向け、本研究開発の根幹となる社会的実践力の系統表を作成し、五つのステージにおける社会的実践力について、その系統性を明らかにした【表2-3】。この表に示したものは、各ステージにおける発達段階に応じた学びの様相としてまとめているものであり、到達目標というよりは、子どもたちの学びの姿を目安として整理したものである。

ウ 地域資源を学習材とした系統的な学びの在り方について

【地域創造学の目標】

住田町及び近郊地域社会をフィールドにした横断的・総合的な学習を、探究的な学習活動を意図的・計画的に行うことを通して、新しい時代を切り拓き、社会を創造していくための社会的実践力を身に付けた心豊かな人材を育成することを目指す。

上記の目標にもある通り、地域創造学においては、住田町及び近郊地域社会に溢れる地域資源を学習材にして、小・中・高の児童生徒が、探究的な学習活動を意図的・計画的に行っていく。「意図的」とは、その時期だからこそ学ぶ意義や価値が大きい学習内容を、ふさわしい学びのステージに位置付けることである。「計画的」とは、学習内容のつながりや学習方法、児童生徒の資質・能力の系統性を吟味して位置付けることである。具体的な学習内容に関しては、以下のようなものが例として考えられる。

- ・住田の産業を通してこれからの町づくりを考え、発信する学習
- ・住田町のよさや抱えている課題を学び、実践的な行動を通して地域へ貢献する学習
- ・住田固有の有形無形の文化遺産や、先人の残した文化的業績の価値を享受する学習
- ・住田と世界のつながり等に目を向ける国際理解に関する学習
- ・地域の中でふるさとの発展のために力を注ぐ人々から生きる事や働くことの意味を学ぶ学習
- ・学校や地域が一体となって取り組む活動へと発展的に広がる学習

上記に示したものは、あくまで数多く考えられる具体例の中の一部である。本研究開発の根幹である社会的実践力の系統表を基に、町全体で目指す子供たちの育ちの姿を俯瞰しながら、小・中・高の各ステージにおいてどのような学習を位置付けることが系統的な学びにつながるのかについて吟味し、教師が意図的に指導計画に位置付けていく。

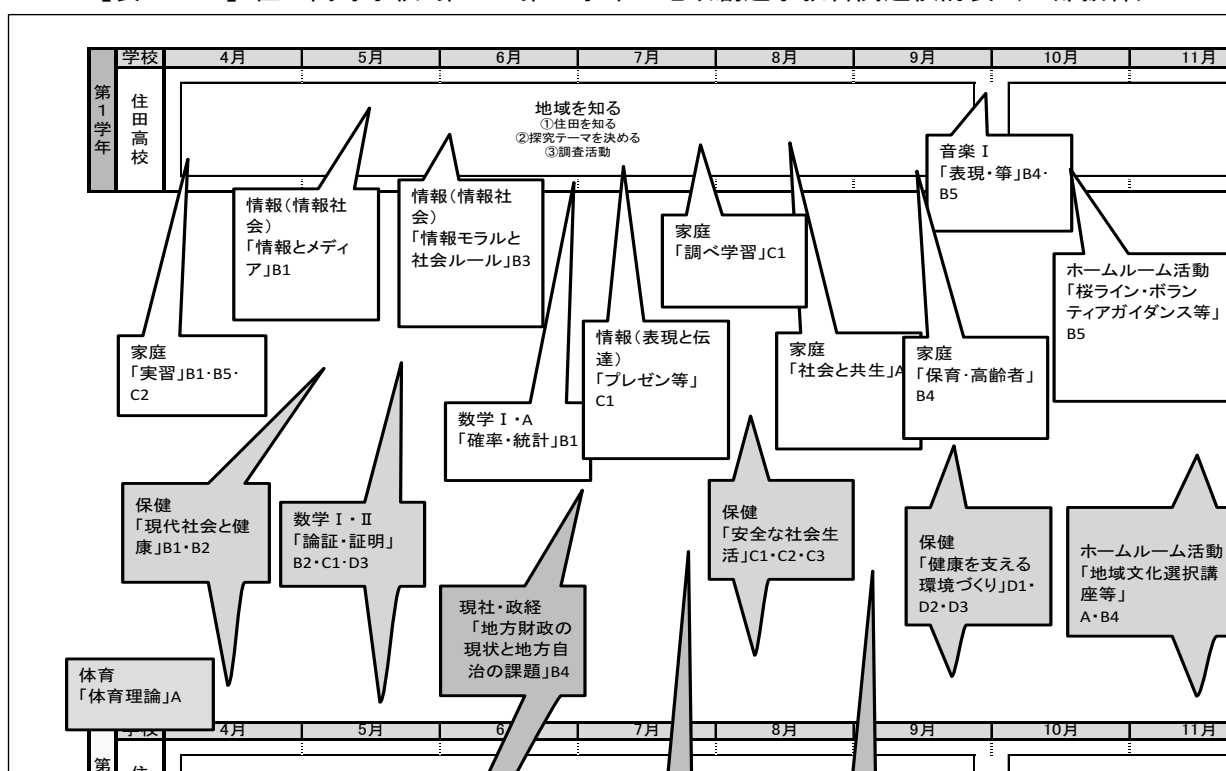
エ 単元計画及び学習指導要領解説地域創造学編について

研究開発指定三年目（令和元年度）から、小学校から高等学校までの全ての校種が、社会的実践力の系統表を基に作成した単元計画及び学習指導要領解説地域創造学編に基づいて授業を進めている。特に、小・中学校における単元計画では、それぞれの学年に「共通単元」を設定し、二つの小学校の児童・生徒同士の交流場面の創出にも取り組みながら、実践を重ねている。

オ 地域創造学で育む社会的実践力と各教科等で育む資質・能力の関連について

地域創造学で育む社会的実践力を支える資質・能力のうち、「B 社会参画に関わる資質・能力」、「C 人間関係形成に関わる資質・能力」、「D 自律的活動に関わる資質・能力」の11の資質・能力（汎用的スキル及び態度・意欲・学びの価値）は、各教科等においても育まれる関連能力である。そのため、地域創造学を中核として育成しつつも、各教科等の学習においても関連性を捉えながら培っていく【表2-4】。

【表2-4】住田高等学校 第1～第3学年 地域創造学教科関連検討表（一部抜粋）



(2) 地域創造学の学習指導について

ア 探究のプロセスの往還を意識した指導方法の在り方について

将来遭遇する様々な問題場面においては、簡単に解決策が見出せないような課題についても、子どもたちが主体的な姿勢で、他者と協働しながら解決を目指していく資質・能力を育成できるようにすることが重要である。本町においては、学習活動をとおして資質・能力を育成できるよう、これまでの研究実践において、子どもたちにとってよりよい探究のプロセスを探ってきた。

町内の児童生徒の探究活動の実態を基に、収集した情報や体験活動等から得た知識や考えを具体的に整理したり、分析・考察したりする過程を一層重視する必要があると判断したことから、研究指定二年目から、試案として「①課題の設定、②情報の収集、③アイディアの拡散と収束、④アイディアの具現化、⑤改善、⑥まとめと振り返り」という六つのプロセスを設定し、児童生徒の探究活動が質的に深まっていこう、発展的に繰り返される「探究的な学習過程」を重視した学習を展開した【表2-5】。

また、各プロセスでの児童生徒の学びの姿を具体的に挙げて、全教職員で児童生徒の探究的な学習活動

での学びの様相を共通理解できるようにした。

【表2-5】平成30年度の実践において活用した地域創造学における基本の探究のプロセス

| ① 問題の理解 | ② 情報収集 | ③ アイディアの 拡散と収束 | ④ アイディアの 具現化 | ⑤ 改善 | ⑥ まとめと 振り返り |
|--|---|--|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・見る、聴く ・理由や根拠を問う ・気づく ・共感する | <ul style="list-style-type: none"> ・調べる ・整理する ・分析する ・課題を焦点化する | <ul style="list-style-type: none"> ・解決案を発想する ・解決策を組み立てる ・解決策を見なおす | <ul style="list-style-type: none"> ・解決策の実施計画を構想する ・解決策を実践する | <ul style="list-style-type: none"> ・実践を対象の立場から問い直す ・実践に不足していることを付け加える ・実践を修正してやり直す ・実践を繰り返す | <ul style="list-style-type: none"> ・実践の成果と課題をまとめて発表する ・実践後の自分の思いや願いを伝える ・学びの意味や価値を表現する |

平成30年度の実践の結果、一般的な探究のプロセスは、「問題の理解」をスタートとし、「課題設定」、「情報収集」と進んでいくことが多いが、プロセスはいつでも一方向とは限らず、時に「実施・改善」と「見通しを持つ」のプロセスが往還されたり、「問題の理解」からではない段階が起点となって学びが始まったりすることが明らかになった。そこで、令和元年度からは、新たに本町における探究の六つのプロセスを設定し、実践を進めている【図2-2】。児童・生徒の学習状況に応じてプロセスを柔軟に往還させることも、地域創造学の特徴の一つであるといえる。

【図2-2】本町における探究の六つのプロセス



イ 探究方法の系統化について

地域創造学においては、探究方法に関しても12年間を見通した系統的な視点を大切にしている。基本的には、第1～第2ステージでは、「地域のよさや魅力（自然、文化、歴史、産業、政策等）」を体感的に理解してそれらをまとめ、発信していくことから始まり、第3～第4ステージからは第1～第2ステージでの「地域理解」を土台としながら「地域の課題」に目を向けた自分なりの「解決方法の提案」等を行い、最終段階である第5ステージにおいては、より実現可能性を意識した、地域活性化に関わる「プロジェクト実践や町への提言」等を行うという流れで学習を進めていく。ただし、これはあくまで基本的な流れであり、このような一方向的な流れにとらわれず、児童生徒の探究活動の深まりに応じて、例えば第2ステージで「地域の課題」に目を向けたり、第4ステージで「町への提言」等を行ったりすることもできるなど、柔軟に指導計画の見直しを行っていけることも、地域創造学の特徴の一つである。

ウ 児童生徒の主体性の重視

(ア) 主体性を生み出す学習課題の設定

地域創造学においては、児童生徒が日ごろから耳目に触れている住田のヒト・モノ・コトなどを学習対象にすることにより、知っているつもりで終わっていたことに気づかせたり、自分や家族に関わる切実な問いとして実感させたりすることで、児童生徒の興味・関心を高め、学習課題の解決に向けて自分事として取り組ませる事を大切にしている。学習課題が自分事になることで、地域創造学以外の時間以外にも、何度も役場や企業等を訪問したり、地域の大人に尋ねたりするなど、自分の考えや見通しを進

んで確かめる姿が期待される。さらにその都度新たな発見や地域人材の助言等を得られることで、学習課題がより具体的になったり、当初描いていた計画を練り直したりすることも考えられ、より質の高い学習展開につながっていくことが考えられる。

(イ) 主体的な学びにつながる工夫

a 児童生徒自らが学習結果やアイデアを書き溜めておく

地域創造学においては、小・中・高の12年間継続して使用するポートフォリオ等を活用し、授業でのまとめの振り返りの他に、日常的に浮かんだ課題解決のための方策や方法等のアイデアを蓄積していくことに取り組んでいる。学校では日常的に、学習の成果物を掲示し進捗状況をクラスで共有したり、学習を振り返ったりと、相互に学び合うことが出来るよう配慮している。他者の学習状況も参考にしながら、冷静に自分の取組を俯瞰できる自己評価力がついてこそ、次のステップがより確かな方向へ定まっていけることが考えられる。

b 他者との関わりに重点をおき協働を必須とする

地域創造学においては、他者と協働することの良さを、以下の4点にまとめている。

- ・新しい情報を得て、自分の情報を増やすことができる。
- ・情報が増えたことにより、課題解決に向けて、検討の視点や方法が明確になる。
- ・他者の考え方や行動面等の良さを学び、自分の生き方につなげることができる。
- ・コミュニケーション能力を高めることができる。

なお、ここでの他者とは、校内の児童生徒や教職員に加え、異校種や役場、企業やNPO等、地域で生活するすべての人々を含んでいる。特に、職種や世代等の立場を超えて考えを交流することで、自分にはない見方・考え方を取り入れることができ、やがては児童生徒の見方・考え方もより豊かになっていくことが考えられる。また、協働的な学習を重ねることで、学習内容を一層深めるとともに、児童生徒には新たな見方・考え方が加わり、課題解決や検討の視点や方法も明確になっていくことが考えられる。

エ 地域創造学の特質を生かした学習指導の展開

(ア) 多様な学習展開（体験活動の重視、異校種の円滑な接続につながる学習）の工夫

地域創造学では、目指す資質・能力を育むため、学びの場を校内に限定することなく、児童生徒の学習課題に応じた体験等を取り入れた体験等を取り入れた学習、役場や企業等の多くの地域人材が積極的に関わる学習等、多様な学習活動を展開する。多様な学習活動が展開される共通点として、次の4点があげられる。

- ・地域人材との交流や体験等の位置づいた学習が展開されること。
- ・児童生徒の学習課題に応じた複線的な学習過程が組み立てられること。
- ・児童生徒の学習課題に応じた学習過程が組み立てられること。
- ・各ステージの特性を生かした学習が展開されること。

(イ) 他地域や類似の事例にも学ぶ

地域創造学は、住田及び近郊地域をフィールドに学習するが、住田でみられる事象には、日本各地に共通する課題もあることから、国内や世界の事例からヒントを得るなど、視野を広げて住田を見つめることも重要である。発達段階に応じて、他地域の事例は、なぜ成功したのか、住田との共通点や相違点は何か、住田に活かせることは何か、住田の強みは何かなど、他地域の事例から、住田の良さに気付いたり、郷土への愛着が育まれたりすることも期待される。

(ウ) 多様な考えを生かす言語活動

地域創造学は、様々な他者との協働的な取組の中で学習が展開され、各教科等における見方・考え方も最大限働かせながら学習課題を追究していく。様々な他者と、相互の考えを理解し合いながら学習を進めるためには、発達段階を踏まえながら各ステージでの充実した言語活動が必要であり、具体的には、他者と伝え合ったり協力したりする場面、多面的・多角的に考える場面や提案・発信する場面、学習の振り返りや自己の在り方を見つめる場面等があげられる。このような場面で教師が児童生徒に意識させたい言語活動の在り方として、次の5点を大切にしている。

- ・情報を正確に取り出し、目的や意図に応じて事実等を整理できること。
- ・事実等を自分の知識や経験等と結び付けて解釈し、自分の考えをもつこと。
- ・意見と根拠、原因と結果等の関係を意識し、表現を工夫しながら、相手に伝えること。
- ・様々な考えの異同（根拠や条件等）を整理して、自分や集団の考えを発展させること。
- ・相手の思いや考えを理解・尊重し、状況に応じて的確に反応できること。

(エ) 家庭や地域社会との連携による指導

地域創造学は、様々な体験等を含んだ多様な学習活動や学習形態が展開されるため、家庭や地域社会との連携の在り方が非常に重要である。連携する際のポイントとして、次の4点を大切にしている。

- ・教師と地域が、授業のねらいと育てたい資質・能力のイメージを具体的に共有しておくこと。
- ・教師と地域が、綿密な事前打ち合わせを行い、互いに関わる役割を確認しておくこと。
- ・教師と地域が、学習の前後において、児童生徒の学びの現状を共有すること。
- ・地域の大人同士が共通の思いや願いでつながっていること。

(3) 地域創造学の評価について

ア 評価の基本的な考え方

地域創造学においては、児童生徒の学習状況の評価は観点別学習状況の評価を基本とするが、数値的に評価することはそぐわず、児童生徒一人ひとりにどのような資質・能力が顕著に身に付いたかを具体的に文章で記述する個人内評価で把握する。そして児童生徒一人一人の学習の成立を促すための評価という視点を一層重視し、教師が自らの指導のねらいに応じて授業の中で児童生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくという、指導と評価の一体化となるサイクルを大切にする。

イ 評価の方法及び工夫

(ア) パフォーマンス評価

児童生徒の学習単元と社会的実践力の系統表を基に、児童生徒の学習単元における目標設定を行い、具体的な児童生徒の学習過程を想定しながら、評価の観点や評価規準の設定を行う。これを土台として、児童生徒にとってのパフォーマンス課題やルーブリックを分析・検討し、設定する。パフォーマンス課題とは、地域資源を学習材として、様々な視点から検討して設定した学習課題であり、学習を通して得た知識やスキルを使いこなしながら納得解や最適解を見出し、解決する課題である。具体的には、成果物や完成作品などのプロダクトや、プレゼンテーションやスピーチ、協働での問題解決、実演といったパフォーマンスを評価する課題を指すものである。地域創造学におけるパフォーマンス評価に関しては、単元において学習した様々な知識や技能等を使いこなすことが求められる場面において設定している。

(イ) ポートフォリオ評価

児童生徒の学習の過程や成果等の記録を計画的にファイルに集積する手立てが有効であり、児童生徒の学びの省察方法としてポートフォリオ（住田町：学びのあしあと）を積極的に活用する。ポートフォリオは、自分が得た情報や学習内容を自ら整理しながら集積し、学びの足跡が明確に捉えられることから、児童生徒自身が自分の学習を自覚的に展開させていくことを大切にしている。

(ウ) 教育達成測定

児童生徒が感じている学習の達成感や満足感、自己効力感等を測定する一方法として、住田町教育達成測定を開発した。この教育達成測定とは、社会的実践力の育成を図る一つ的手段として、12の資質・能力それぞれについて測定項目を設定し、質問紙形式で測定するものである。これらの測定項目は、児童生徒の具体的な学習後の学びの姿を記述していることから、児童生徒自身が自分の学習の成果や情・態度を実感的に振り返り易いだけでなく、教職員全体で児童生徒の目指す姿を具体的に共有することも可能となり、教師の見取りの視点ともなり得るものである。

本測定は、町内の小中高5校で令和元年度から2年間計8回実施。住田町と同規模の自治体の協力校（小～高）の児童生徒の調査結果と比較しながらより客観的に分析を行う。

ウ その他研究開発全体に係る外部評価について

(ア) 地域協力者、保護者、教職員アンケート

地域協力者、保護者、教職員を対象に地域創造学に対しての記述式のアンケートを年1回実施。

(イ) 地域創造学協力者会議

地域創造学の授業で外部講師としてご協力いただいた方々と学校がよりよい地域創造学の在り方を協議する場として年1回実施。

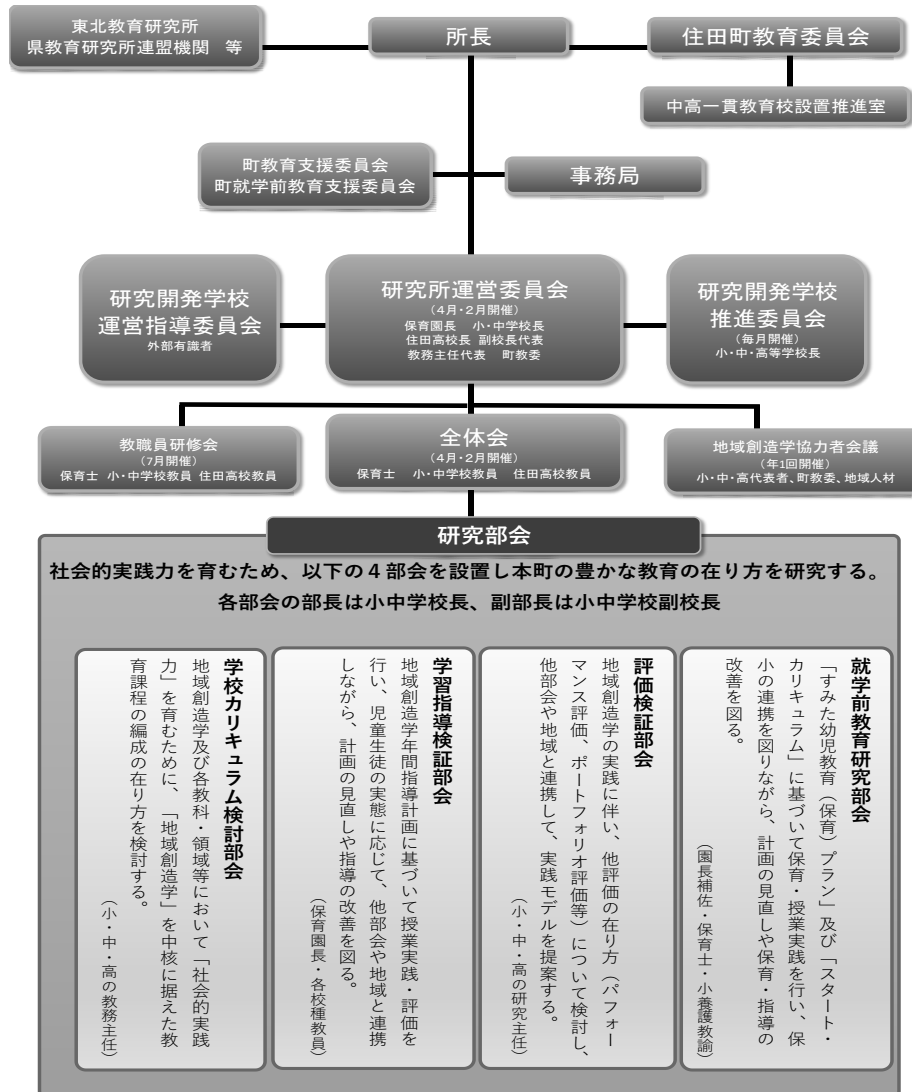
(ウ) 運営指導委員会（外部有識者による評価）

大学教授等の有識者の方々を本町の研究開発の運営指導委員として委嘱し、専門的見地から指導助言していただく運営指導委員会を年3回実施。

3 研究開発に係る運営体制

学習指導要領の趣旨に沿った学習指導を展開するに当たり、教育行政、学校、教育機関、地域、保護者が一体となって組織的に取り組むことや、各学校が円滑に地域創造学を中核とした教育課程を実施するために支援するための組織が必要である。住田町では、その役割を教育研究所が担っており、特に地域創造学の推進に大きく関わっているのは「全体会」「研究部会」である【図3-1】。

【図3-1】住田町教育研究所組織図



【教育研究所全体会の様子】



【学習指導検証部会の様子】



Ⅱ. 研究開発の実際

1 社会的実践力の系統表等を基にした授業実践について

令和元年度から、社会的実践力の系統表及び年間指導計画、学習指導要領解説に基づいて、小・中・高5校が育成を目指す資質・能力、指導方法、評価方法等を共有し、12年間の系統性を意識した授業実践を行った。手探りの中で研究を進めていく事は容易なことではなかったが、それぞれの学校で開催する授業研究会に他校の教員が参加する授業研究会の相互交流なども年間15回程度実施して、指導方法や評価方法等について、議論を重ねながら、よりよい地域創造学の学びの在り方の追求を進めた。研究会では、「社会的実践力の系統表に基づいて各ステージでどのような力をどこまで育成して次のステージへつなげていくべきなのか」、「これまでは自分の校種における指導のことしか考えてこなかったが、地域創造学においては、これまでの校種でどのようなことを学んできたのかという視点で系統性を考えて授業づくりをしていく視点が大切だと感じた」など、校種を越えた視点で指導計画や指導内容について発言する場面が多くみられた。

また、地域をフィールドにした探究活動を行った児童生徒からは、「町を探検したり調べたりすることが楽しい」、「さらに住田町がよいところに思えてきた」、「もっと地域のことを調べて、知らない人に教えてあげたい」、「課題を解決するためにこんな資料が欲しい」等、各ステージ段階に応じて、様々な声が出されるようになった。（巻末資料P200参照）

2 社会参画の資質・能力を育てていく系統的な取組について（児童生徒の実践から）

地域創造学においては、目指す資質・能力の中に「社会参画」を位置付けており、第1～第2ステージでは、「地域のよさや魅力（自然、文化、歴史、産業、政策等）」を体感的に理解してそれらをまとめたり、発信したりしていくことから始まり、ステージが進むにつれて「地域理解」を土台としながら「地域の課題」に目を向けた自分なりの「解決方法の提案」等を行い、最終段階においては、より実現可能性を意識した、地域活性化に関わる「プロジェクト実践や町への提言」等を行うという流れで学習を進めていくことを基本としている。これまでの約2年半においても、各ステージの段階における「社会参画」に関わる多くの実践が見られた。ここでは小・中・高それぞれの実践を一つずつ取り上げる。

(1) R1 世田米小学校第6学年 単元名「考えよう 私たちの未来」より

【住田町役場で町の取組について探究活動を行う児童の様子】



第3ステージにおける、住田町の「町づくりの取組」を題材とした実践である。これらの児童たちは、住田町の「町づくりの取組」として特色の見られる「農業」、「林業」、「子育て支援」、「観光」、「情報ネットワーク」の五つの取組に着目し、主体的に探究を進めた。この実践の特徴として、段階ごとの児童の主体的な探究活動を大切にしていたことが挙げられる。この単元は、「取組のよさ」についての探究、「取組の課題」についての探究、「これから考えられる取組」についての探究の三段階に分けられていたが、特筆すべきは、それぞれの段階において全て役場担当者を訪問してフィールドワークを実施したことにある。さらに、それぞれの段階でのフィールドワークにおいて、ただ質問等を行うのではなく、事前学習において「よさ」、「課題」、「これからの取組」を自分たちなりに突き詰めて考えた上で、臨んで

いたことにある。そのことによって、探究段階が進むにつれて、役場担当者との議論が明らかに深まっていき、最終的には、自分たちなりに「これから町が行っていくべき取組」をまとめ、発表することができていた。教師とゲストティーチャーとの綿密な打合せ、事前学習の時間の確保や探究のプロセスの往還等の地域創造学の特色を生かした、第3ステージ段階での社会参画に関わる貴重な実践例であると捉えられる。

(2) R1 世田米中学校第3学年 単元名「プロジェクト実現に向けて行動しよう！」

○プロジェクト名「住田の食材を生かして給食献立をつくろう」

世田米中学校3年生2名は、住田の食材を生かして給食献立をつくるプロジェクトに取り組んだ。これらの生徒たちは、「住田町では様々な食材生産が行われているが、自分たちの同世代はそのことになかなか気づくことができない」ことを課題としてとらえ、その食材を生かした献立づくりを通して、同世代にそのことに気づかせ、住田のよさをとらえさせるねらいでこのプロジェクトを設定した。生徒たちは住田町で作られている食材調べから情報収集をスタートし、その食材を使った献立や料理の調理方法までを考え、町の給食センター栄養教諭にオリジナル給食として実際に学校で提供することができないかを提案した。最終的には、栄養教諭との何度もの協議の結果、生徒たちが考えた献立が町内の学校給食の献立として採用された。自分たちが興味・関心を持った「住田の食材」をテーマにして、地域を盛り上げていくために自分たちに現実的にできることは何かについて突き詰めて考え、プロジェクトを主体的に進めていったことがうかがえる実践であると捉えられる。

【調理方法を探究する生徒と学校給食に採用された献立】



(詳細は巻末資料 P197 参照)

(3) R2 住田高校第2学年 単元名「地域への貢献を考える」

○プロジェクト名「外国人も暮らしやすい町に」

住田高校の2年生が、自らの海外研修での経験や、他校生徒のプロジェクトとの交流から、気仙地域の外国人の暮らしやすさに着目してプロジェクトを進めた実践例である。この生徒は、まず住田町内の企業の協力を受け、外国人技能実習生へインタビューを実施したり、近隣の自治体へ調査をしたりすることで、外国人と日本人の交流の場が少ないこと、外国語対応の「ゴミ分別表」がないことを課題として抽出した。そして外国人にとっても住みやすい町にするためには、この状況を変えなければならないという思いの基に、他自治体の先進事例を学び、外国語版のゴミの分別表を作成するために活動を進めた。分別表を完成させた生徒は、その後「プロジェクト



(詳細は巻末資料 199 参照)

発表会」で自身の取組についての発表を行い、参観していた町役場関係者の協力のもと、そのごみ分別表が町内の5カ所のごみステーションに設置されることとなった。地域創造学の第5ステージにおいては、実現可能性を踏まえた上で、自分たちなりのよりよい地域の在り方を提言していくことを目指している。この実践は、生徒のプロジェクトを地域の大人が本気で受けとめ、実現に至ったものである。地域創造学において「社会参画」として位置付けている社会的実践力に関わる実践例であると捉えられる。

3 探究のプロセスの往還に関わる生徒の実践から見てきた指導の在り方について

地域創造学では「①問題の理解、②課題設定、③情報収集、④計画・見通し、⑤実施・改善、⑥まとめ・振り返り」というプロセスが発展的に繰り返される「探究的な学習過程」を重視した学習を展開している。ここでは、令和元年度からはじめた住田高校生の2年間の実践例を取り上げる。

○プロジェクト名「歌プロ～住田の名所を歌にする～」

住田高校2年生7名(R1当時)は、オリジナルの住田町の歌を作るプロジェクトに取り組んだ。まず、「①問題の理解」として、住田町の人口減少や高齢化が進む現状を取り上げ、「②課題設定」として住田を活気づけ、今よりも明るい住田にしたいという願いのもとに、住田町のいいところがたくさん詰まった歌を作ろうという課題を設定した。「③情報収集」として、自分たちの主観だけでなく、客観的に住田のよいところをとらえ直すために、校内や町内の小・中学校の生徒たちを対象にアンケートを行った。それを基に歌をつくり、完成したら歌に振り付けもつけて保育園や高齢者施設を訪問するという「④計画・見通し」を行い、「⑤実施・改善」の段階に進んだ。歌詞作り及び曲作りに関しては、音楽科教師と協働して進めて完成させた。



(詳細は巻末資料 P198 参照)

しかし、新型コロナウイルス感染症の広まりから、当初計画していた高齢者施設等を訪問することが困難な状況となり、計画の見直しが必要となった。「どうすれば自分たちが作った歌を地域に届けられるのか」、そう考えた生徒たちはもう一度計画に立ち返って議論を重ね「情報収集」、最終的には歌詞に込めた住田の自然風景や振り付けをつけて歌うプロモーションビデオを制作し、地域に配布するという計画の見直し「計画・見通し」を行った。そして、令和2年度9月に、2年越しの思いが結実し、プロモーションビデオが完成し、地域の各所に配布された。町主催のイベント等でもバックミュージックとして活用されるなど、様々な場面で生徒たちの思いが地域住民へ届けられることとなった。

本事例からは、生徒たちが自分たちなりに地域のよさや抱える課題を理解した上で、自分たちが興味・関心を持った題材(歌)を基に課題を設定し、自分たちに現実的にできることは何かについて突き詰めて考え、探究のプロセスを往還しながらプロジェクトを主体的に実践していったことが推察される。改めて地域創造学で大切にしている柔軟にプロセスを往還させる指導の在り方の重要性を再認識させられた。

しかし、このような探究のプロセスの往還に関わる事例に関しては、高校生段階に限ったことではなく、小学生や中学生のステージ段階においてもみられたことである。上記の「歌プロ」の事例も含め、そのような事例には共通して、教師が一方向的な探究のプロセスを押し付けるのではなく、探究段階に応じて粘り強く生徒に寄り添いながら、「問い」を通して新しい視点に気づかせるような支援を行っていたことが明確になってきた。このような実践例の共有を通して、教師は児童生徒の探究活動を力強く誘導するのではなく、横に寄り添って支え、児童生徒の主体的な活動に対して必要に応じて適切に支援

していく、いわゆる「伴走者」としての考え方が地域創造学における指導方法の土台であることを町全体で再確認した。

4 児童生徒同士の校種間交流について

地域創造学においては、町全体の小・中・高で目指す資質・能力や内容、指導方法及び評価方法を共有している利点を生かし、単元の内容に応じて積極的に校種間交流を行っている。それぞれの小学校の第2ステージの児童がそれぞれの「地域のよさ」を発表して深め合う同校種間交流や、小学生が中学生のプロジェクトを、さらには中学生が高校生のプロジェクトを参観する異校種間交流が何度も行われている。同校種間で学びを深め合うことはもちろんのことであるが、異校種の先輩や後輩と共に学び合うことも、児童生徒の学習意欲に前向きな効果を与えるものと考えられる。

【世田米小学校・有住小学校

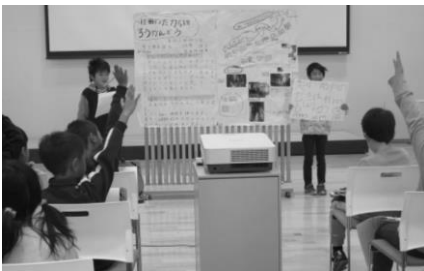
合同授業「いいな・すごいな発表会」】

【有住小学校・有住中学校

合同授業「プロジェクト交流会」】

【世田米中学校・住田高校

合同授業「プロジェクト交流会」】



(詳細は巻末資料 P196 参照)

5 地域との協働について

地域をフィールドにした学びである地域創造学において、地域との連携は不可欠である。令和元年度に地域創造学を本格実施してから、これまでの約2年半の実践において、延べ約250名の地域の方々に、ゲストティーチャーやアドバイザーとしてご協力いただいている。児童生徒にとっては、地域の方々の生の声を基に学びを深める貴重な機会となっている。

【地域をフィールドにし探究活動における様々な場面でゲストティーチャーの話をきく児童生徒】



令和元年度から年1回実施している地域創造学協力者会議においては、地域の方々から学校に対して、「何より子どもたちに地域のことを知ってもらえるのがうれしい」、「事前学習をさらに充実させた方が、ゲストティーチャーとしてのアドバイスがより意味のあるものになる」、「どのような力を育成しようとしているかについて授業前に担任の先生と共通理解を図りたい」、「自分たちが教えたことを、子どもたちはどのようにとらえ、その後どのように

【地域創造学協力者会議の様子】



まとめたのかについて、ぜひ教えてほしい」など、切実な意見が出された。地域創造学を通して、学校だけでなく、地域全体で子どもたちを育てていくという意識の表れであると捉えられる。

また、地域の報道機関（町営ケーブルテレビ、新聞）との連携も、地域創造学の取組を町全体で共有していく意味で大きな役割を担っている。それぞれの媒体における小・中・高の日常の取組の報道による地域の反響は大きく、「子どもたちの取組の様子をテレビで見られることが楽しみだ」という声が多く聞かれる。昨年度は町営ケーブルテレビにおいて、特定の生徒のプロジェクトを詳細に追いかけた番組制作も行っていただいた。地域全体で子どもたちの社会的実践力を育てていく上で、子どもたちの取組を地域で共有していく事は大前提であり、このような報道機関との連携は本町のような小規模中山間地域ならではの、貴重なツールであるといえる。

6 学習評価について

(1) パフォーマンス評価について

地域創造学を本格実施してからのこれまでの2年半においては、評価検証部会の取組を基に、各学校で地域創造学における評価方法の一つである、パフォーマンス評価の実践を積み上げた。その中から、中学校の単元におけるパフォーマンス評価の事例及び評価改善に係る学校の令和2年度の取組を紹介する。

単元名 中学校第1学年「住田に地域貢献している人や資源について調べよう！」

本単元は令和2年度の中学校第1学年第1単元にあたり、話し合いや調査活動を通して、身近なところにも地域のために貢献している人や地域を活性化していける地域資源があること、住田町で活躍している人の願いや町を活性化させるための工夫や現状について知ることで、地域についての理解を深め、自分自身が1年間探究を進める人・資源を設定し、最終的にはCM作成を行って地域の魅力を発信するための見通しを持つことをねらいとする単元である。まず、この単元の内容及び社会的実践力の系統表を基に、具体的な生徒の学習過程を想定しながら評価の観点や評価規準の設定を行い、それを土台として、下記のようなパフォーマンス課題及びルーブリックを設定した。

○単元名 「住田に地域貢献している人や資源について調べよう！」（検討会前）

| | | |
|-------------|--------|--|
| みとる資質・能力 | | A ◎地域理解 D2 ☆創出する力 |
| 取り組むパフォーマンス | | 住田町に貢献している人・資源を発信するための計画を立案する。 |
| パフォーマンスの特徴 | A | ・メンバー全体が情報発信に向けた行動を起こしたり、第三者から建設的な指導を受けることができる、より実現性の高い企画書を作成する。（例：現物・現地を確認した上で取り上げる魅力が映えるような企画を記述している、入手可能な写真・動画を予め検討し、シナリオを設定している。 |
| | B | ・「住田町に貢献している人・資源」を発信するメディアを作成するための企画書を作成する。 |
| | 支援の手立て | ・計画書作成に関する動画を視聴し、その内容を分析する活動を設定する。 ・3人一組のグループを作り、アイデアを出し合える環境を設定する。 |

単元終了後、生徒のアンカー作品や設定したパフォーマンス課題及びルーブリックに基づいて複数の教師で評価を行った上で、評価の視点のすり合わせを行い、さらに次年度に向けてのルーブリックの見直しを行うため、次のような実践（検討会）を行った。

○中学校の実践

「パフォーマンス課題：住田町に貢献している人・資源を発信するための計画を立案する。」について

【1】教師個人による作品の評価

ルーブリックに基づき教師が個人で生徒の作品を評価する。

- ・ルーブリックを確認する。
- ・ルーブリックに基づいて、生徒の作品をA、B、（あればC）と評価する。
その際に、評価した理由を記述する。

【2】複数の教師による評価の視点すり合わせ

教師が個人で評価したものを他の教員と共有し、相違点を確認する。

差異がある場合は、評価をどちらにすれば良いのか話し合い合意形成を図る。

- ・周囲の先生と「評価した結果」や「その理由」について共有を図る。
- ・周囲の先生と「評価した結果」が同じであれば、その子どもの評価は確定。
- ・周囲の先生と「評価した結果」が異なれば、周囲の先生と話し合い、評価を確定させる。その際に、評価を確定させた理由付けを明確にする。

【3】評価のためのルーブリック修正

【2】の内容を踏まえ、次年度に向けたルーブリックの修正を図る。

- ・周囲の先生と「評価した結果」が異なっていたということは、「当初、設定したルーブリックの評価基準に改善の余地があること」を意味している。「評価を確定させた理由付け」を踏まえて、次年度に向けたルーブリックの修正を図る。
- ・ルーブリックの修正を図った後、A、Bそれぞれの評価となった作品をアンカー作品（モデル）として記録に残す。

検討会後、次年度に向けて以下のようなルーブリックの修正を図った。このような実践を通して、児童生徒の実態等に基づいて、随時パフォーマンス課題やルーブリック等の修正を図っていくことが大切であることが明らかになった。本町の地域創造学におけるパフォーマンス評価の在り方に関しては、令和元年度から評価検証部会や教育研究所全体会等で、県内の大学教員を招聘し、パフォーマンス評価に係る理論の部分から勉強会を数回開催して、実践を積み上げてきたものである。まだ手探りで進めている段階であるが、今後も実践を積み重ね、よりよい評価の在り方を追究していく。

○単元名 「住田に地域貢献している人や資源について調べよう！」（検討会後）

| | | |
|-------------|--------------------------------|--|
| みとる資質・能力 | A ◎地域理解 D2 ☆創出する力 | |
| 取り組むパフォーマンス | 住田町に貢献している人・資源を発信するための計画を立案する。 | |
| パフォーマンスの特徴 | A | ・住田町全体を連想できたり、四季を通じて楽しめたり、背景に住田町の良さ・雰囲気を感じられたりするような企画書を作成する。（例：気仙川の魅力や、気仙川での釣り・砂金とりなどを紹介した企画書を書いている。四季を通じて楽しめる種山が原の魅力を紹介する企画書を書いている） |
| | B | ・「住田町に貢献している人・資源」を発信するメディアを作成するための企画書を作成する。 |
| | 支援の手立て | ・計画書作成に関する動画を視聴し、その内容を分析する活動を設定する。 ・3人一組のグループを作り、アイデアを出し合える環境を設定する。 |

(2) ポートフォリオ評価について

令和元年度からの地域創造学の本格実践を機に、町内の小・中・高が共通してポートフォリオ（学びのあしあと）を活用している。ワーキング・ポートフォリオ（青色ファイル）とパーマナント・ポートフォリオ（黄色ファイル）の二つのポートフォリオを使い分け、ワーキング・ポートフォリオには一年間の学びを蓄積し、パーマナント・ポートフォリオはそこから精査して残していく資料を12年間つないでいくために活用している。ワーキング・ポートフォリオに関しては、探究のプロセスの中で児童生徒自身が、自分が得た情報や学習内容を整理しながら集積し、単元末や年度末等の場面で、自分の学習を自覚的に振り返るツールとして活用することが各ステージ段階で定着してきている。また、パーマナント・ポートフォリオに関しても、例えば中学校1年生の生徒が、小学校6年生の時に蓄積した資料を活用して探究テーマを設定する等、ステージ間の学びをつないでいくツールとしての有効性を示す事例も多く見られるようになってきている。令和2年度からは町で配備した一人一台タブレットも活用して、資料の蓄積や探究活動等を行っている。資料の蓄積に関しては、ポートフォリオとタブレットをどのように併用していくことが有効なのかについても、検討を行っていかなければならない。

7 保護者、地域協力者、教職員アンケートについて（詳細は巻末資料 P168 参照）

令和2年度末に地域創造学についての、小・中・高の保護者、ゲストティーチャーやアドバイザー等でこれまでにご協力いただいた地域協力者及び教職員向けアンケートを実施した。内容は、「地域創造学は児童生徒の成長によって有意義だと思うか？」という項目に関して四段階評価で回答するもの他に、「有意義である（ない）と思う理由」や、「地域創造学に期待したいこと」を自由記述で回答するものを設定した。

「地域創造学は児童生徒の成長にとって有意義だと思うか？」という項目に関しては、保護者、地域協力者、教職員共に肯定的な回答の割合が高かった。その理由としては、「主体的に行動したり、物事を考えたり、学びの方法、幅を広げるきっかけとなるから」、「地域のことを学ぶことで郷土愛の形成に繋がると思うから」、「本人が楽しそうに学んでいるため」、「地域の方と交流することでコミュニケーション能力が身につくから」などの回答が得られた。

また、「地域創造学に期待したいこと」の項目における記述内容としては、「住田の将来を担う人材の育成を期待する」、「郷土に誇りを持って地域発展に貢献できる子どもたちを育ててほしい」、「困難なことに遭遇した時に、諦めずに皆と力を合わせて乗り越えていけるような力を身につけてほしい」、「大人にとってもいい学びを生むと思うので、地域全体で子どもたちの活動をもっと応援していく取組になっていくことを期待する」等の回答が得られた。

その一方で、少数ではあるが、「有意義だとは思わない」という回答もあった。その理由としては、「まだやらされている感があって、本気度が感じられない」、「5教科の学習にもっと力を入れるべき」、「家庭学習、部活動、生徒会活動が多忙な中で、地域創造学の活動が負担となっている」などの回答があった。むしろこのような意見を、今後の地域創造学の学びをより充実したものにしていくための材料としていかなければならない。また、全体的には肯定的な回答が多かったが、本当の意味で「地域創造学はどのような学びなのか」ということを理解した上での肯定的な回答なのかということが多面的・多角的に分析しながら、地域全体の共通理解を図るための手立て等をさらに工夫していく必要がある。

8 教育達成測定について

地域創造学の授業実践開始を機に、地域創造学において設定したねらいの達成について、具体的な児童生徒の学びの姿や、学びの積み重ね（計画的な学習の軌跡の追跡）を通して検討を進めた。「評価検証部会」において、地域創造学にふさわしい評価の在り方について検討を行い、児童生徒の学習の変容や、学習への達成感をとらえる一手法として、教育達成測定の項目を検討し、以下の通り開発した【表8-1】。

【表 8 - 1 教育達成測定（詳細は巻末資料 P189 参照）】

◆次のア～シの項目について、現在のあなたは、どの程度当てはまりますか。
当てはまると思った数字一つに○をつけてください。このアンケートは、学習の成績には
⊕関係ありません。

| 質問内容 | | 当てはまら ない | ま った く | 当てはまら ない | 言 え な い | ど う ら い も | 当 て は ま る | よ く 当 て は ま る |
|------|---|-------------|--------------|-------------|------------------|-----------------------|-----------------------|---------------------------------|
| ア | 地域に関する学習は、自分に役立っていて、「地域は大切だ」と思うようになり、地域が好きになった。 | 1 | - | 2 | - | 3 | - | 4 - 5 |
| イ | 自分たちの地域には、どのようなよさや問題があるのかを見つけて、問題の解決のために見通すことができる。 | 1 | - | 2 | - | 3 | - | 4 - 5 |
| ウ | 地域のことについて正しい情報をもとに、自分の考えがふさわしいかどうかを、その理由も明らかにしながら考える。 | 1 | - | 2 | - | 3 | - | 4 - 5 |

令和元年度から町内の小・中・高5校及び、対照群として県内の同規模の自治体の小・中・高5校でそれぞれ2年間、計8回実施した。本測定に関しては、岩手大学山本奨教授に、分析をしていただいた。

まず12の測定項目について因子分析を行い、大きく「地域に対する価値の発見や課題を解決するために必要な能力」に関するものと、「仲間との協働に係る態度」に関するものの二つの因子を抽出し、それらをそれぞれ『地域』、『仲間』と命名し、この2観点で地域創造学の学習成果を評価していただいた。山本教授に作成していただいた分析結果の要旨は以下の通りである。

要 旨

地域創造学の学習成果について、これを実施していない対照群と比較することで、明らかにすることを試みた。まず、学習成果を『地域』『仲間』の2観点でこれを測定する尺度を作成した。これを用いて、地域創造学取組3年目（令和元年度）と4年目（令和2年度）に、各4回測定したところ、次のことが明らかとなった。

小学生では、『地域』は2年間継続して対照群よりも高い成果が認められた。『仲間』については、同様に高い成果が認められていたが4年目の2月のみ差が認められなかった。

中学生では、小学生同様『地域』については2年間継続して対照群よりも高い成果が認められた。

『仲間』は3年目において対照群との差がなかったが、4年目は対照群よりも高い成果が認められた。

高校生では、『地域』は3年目の5月には対照群との差がなかったが、7月には対照群よりも高い成果が認められた。4年目には差がない状態となった。『仲間』は3年目において差がなく、4年目は対照群の方が高かった。（詳細は巻末資料 P190 参照）

「地域に対する価値の発見や課題を解決するために必要な能力」に関しては、小・中・高の校種において、2年間を通して、概ね対照群よりも高い成果が認められた。地域をフィールドに探究活動を展開する地域創造学の特徴があらわれた成果であると捉えられる。

逆に「仲間との協働に係る態度」に関しては、対照群と比較しても、差がない状態であることがわかった。差がないからといって全く効果がないというわけではないかもしれないが、この観点に関して、今後どのように育成に関わる工夫を行っていくのかについては、検討が必要である。

また、今後12の資質・能力それぞれがどのように変容したのかについても、小・中・高の教員が集まり、これまでの取組や児童生徒の変容等を振り返りながら分析していく機会を設定し、12年間の学びであるという視点でカリキュラム全体を見直していかなければならない。

Ⅲ. 研究開発の成果と課題

1 成果について

(1) 住田町独自のカリキュラム開発及び実践について

これまでの約4年半の取組を通して、住田町独自の大枠が完成し、地域創造学の授業実践についても、本格実施から3年目を迎えた。指定1～2年目に関しては、社会的実践力の規定から始まり、系統表（別冊資料1巻末）、学習指導要領解説（別冊資料2）及び単元計画（別冊資料1）を、各学校の教員で作成していく作業に注力した。そして、3年目からは授業実践を積み上げ、実践から理論を再構築する作業を進めた。小・中・高の教員が、目指す資質・能力や指導方法、評価方法等に関して共通理解を図りながら、住田町ならではの12年間の学びの在り方を協働して追究し、日々実践を重ね続けていることは、本研究開発の大きな特色であるといえる。

また、上記に示した通り、地域資源の全てを題材にした12年間の系統的な探究活動を通して、様々な実践が生まれている。特に、本研究開発において育成していくことを目指す社会的実践力の中核をなす「社会参画」に関わる実践については、各ステージ段階において、成果が表れてきていると捉えられる。地域創造学の実践は、本格実施してまだ3年目にあたる。現在第1～第2ステージで取り組んでいる児童が第5ステージまで系統的に探究活動を進めていった時、12年間で培った社会的実践力を基に、どのような実践が成果として表れるのかについて、長期的に検証を進めていかなければならない。

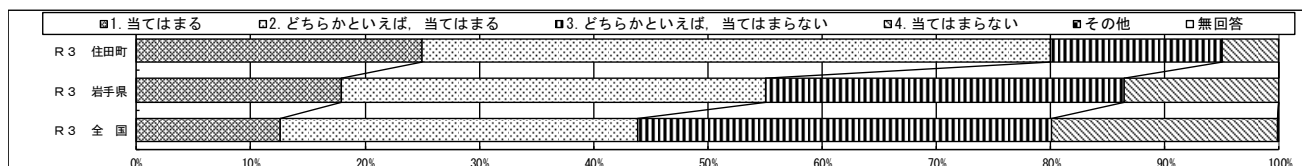
(2) 児童生徒の変容について

社会的実践力の系統表や単元計画、指導要領解説に基づいた地域創造学の本格的な授業実践から2年半が経過し、授業に取り組んできた児童生徒にも、たくさんの成果がみられるようになってきた。地域のよさについて体感的に理解を深め、工夫しながら他者に誇らしげに伝え合う児童や、地域の魅力をどのように発信すればいいのか模索しながら、仲間と協働して自分なりの方法を導き出していく生徒、そして地域課題を自分事としてとらえ、よりよい地域社会の在り方を創造し、これまでに培った知識や地域の方のアドバイスをフル活用して解決を図ろうとする生徒など、このような児童生徒の姿は、社会的実践力に関わる様々な成長の表れであると捉えられる。令和3年度全国学力・学習状況調査の質問紙調査の「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の質問に肯定回答する生徒（中学校3年生）の割合は肯定回答は80%であり、同一集団である平成30年度（小学6年生）の肯定回答56.5%から、23.5ポイントの伸びが見られた【図1-1】。今後も、身近な地域社会というフィールドで、探究のプロセスを幾度も往還し、日々自身の活動を振り返りながら一歩ずつ成長していく児童生徒の変容を、教師が見とり、価値づけ、適切に支援していくことが求められる。

【図1-1】 同一集団での経年変化 H30年度小学校6年生、R3年度中学3年生



| 質問番号 | 質問事項 | | | | | | | | | | | |
|--------|---------------------------------|------|------|------|---|---|---|---|---|----|-----|-----|
| | 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか | | | | | | | | | | | |
| 選択肢 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | その他 | 無回答 |
| R3 住田町 | 25.0 | 55.0 | 15.0 | 5.0 | | | | | | | 0.0 | 0.0 |
| R3 岩手県 | 17.9 | 37.1 | 31.3 | 13.6 | | | | | | | 0.0 | 0.0 |
| R3 全国 | 12.6 | 31.2 | 36.2 | 19.8 | | | | | | | 0.0 | 0.1 |



(3) 教師の変容について

年10回以上行われる授業研究会の相互交流や各部会での協議等を通して、社会的実践力の系統表に基づいてどのような力をどこまで育成して次のステージへつなげていくべきなのかなど、校種を越えた12年間の学びという視点で指導や評価の在り方について考えられるようになってきた。研究会の協議においても、「これまでは自分の校種における指導のことしか考えてこなかったが、地域創造学においてはこれまでの校種でどのようなことをやってきたのかという視点で系統性を考えて授業づくりをしていく視点が大切だと感じた」という声が異校種の教員から聞かれた。地域創造学に係る教職員アンケートにおいても、「教師は先導ではなく、伴走であることを学んでいる。どの教科、指導でも同じことが言えると思うので、伴走であっても、子どもたちの想いを盛り上げていける指導力を身に付けていきたい。」等の記述回答が複数見られ、地域創造学の指導実践が、日常の授業改善に繋がっていることが窺える。このような研究開発に付随して表れてきた変容も、今後の取組を検証していく上での視点の一つとして、大切に捉えていかなければならない。

(4) 地域との協働について

地域をフィールドにした学びである地域創造学においては、地域との協働は欠かすことのできないツールであるといえる。これまでに延べ約250名の方々にゲストティーチャーやアドバイザーとして地域創造学の授業にご協力いただいたことや、地域創造学協力者会議において、地域を担う子どもたちへの切実な思いや願いを聴くことができたことは、地域と共に子どもたちの資質・能力を育成していく形を構築していくことに繋がる、一つの成果であると捉えている。地域創造学に係る地域協力者アンケートにおいては、「大人になってもいい学びを生むと思うので、地域全体で子どもたちの活動を応援する取組に、もっとなっていくことを期待している。」という記述回答も見られた。今後もこのような声が広がっていくように、地域創造学の取組や実践の成果が分かりやすく地域に伝わる手立てについて、さらなる検討を進めていくことが求められる。

2 課題及び今後の方向性

(1) カリキュラムの不断の見直しについて

本町の研究開発においては、これまでに目指す資質・能力や系統的な指導方法及び評価方法、地域の実態に即した単元計画等を開発・実践してきたが、これらのカリキュラムに関しては、常に見直しを図っていくことが求められる。毎年の単元計画の見直しは基より、本研究開発の根幹となる12の社会的実践力や各ステージ段階における系統表に関しても、これまでの2年半の実践を通して、「滑らかに接続していくためのさらなる見直しが必要なのではないか」という小・中・高の教員の声を基に、部会を中心に、見直しについての検討を進めている。また、指導方法や評価方法に関しても、他地域の先進事例等に学びながら、常に追究を進めていく必要がある。既に実施している教育達成測定や保護者・地域協力者・教職員アンケートの回答結果に関しても、小・中・高の教員が協働してさらに詳細に分析を進め、よりよいカリキュラムの在り方を追究していくことが求められる。

(2) 評価の在り方について

地域創造学は12年間の学びであるということを意識しながら、学年や校種を越えて児童生徒がどのように変容したのかについて長いスパンで評価していくことが求められる。全体的な変容だけでなく、一人の児童生徒がどのように変容したのか、成果にたどり着くまでに、失敗を含むどのようなプロセスがあったのか等について継続的に見取っていくために、児童生徒の学びの過程を蓄積する評価方法をさらに検討していかなければならない。

また、地域創造学の評価方法の特色であるパフォーマンス評価やポートフォリオ評価等を充実させていくのはもちろんのこと、児童生徒に社会的実践力を育成していく上では、日常の授業において児童生徒の学習状況をしっかりと見取りながら、常に指導改善を図っていく「指導と評価の一体化」を進めていくことが不可欠である。単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童生徒の現状を踏まえ、どのような問いや言葉かけ、支援を行うことが適切なのかについて、教師は常に考え続けていくことが求められる。

(3) 異校種間連携について

地域創造学は小・中・高の12年間を通して児童生徒の社会的実践力を育成していく教科であり、校種を越えて、教師及び生徒がいかに学びをつなげていくのが大切になってくる。「指導者の協働」や「学習者の協働」の姿は12年間の学びである地域創造学だからこそ表れてきたことであり、地域創造学がまさに異校種間連携を促進する仕組みそのものであることを表していると捉えることができる。地域創造学に係るアンケート結果においても、「小・中・高の取組ならではの異校種間連携をさらに進めるべき」という回答も見られた。今後も指導者や学習者の関係をさらに密にし、より効果的で、持続可能な異校種間連携の形を追究していかなければならない。

(4) 新設教科「地域創造学」の教科書作成について

これまでの実践から、今後も児童生徒がさらに主体的に探究活動を行っていくための教科書の必要性が明らかになってきた。学習指導要領解説を基に、探究の進め方やこれまでの児童生徒の実践事例を記載していくことなど、部会を中心に内容が検討されている。地域の先輩の実践事例を基に、後輩が自身の探究活動を進めていくことや、新しい実践に基づいて教科書の内容が更新されていくことを想定しながら、作成作業を進めていく。

(5) 持続可能なプログラムの構築について

研究開発指定は今年度が最終年次であり、研究開発は一区切りとなるが、指定のあるなしに関わらず、これからも地域創造学の実践は続いていく。今後も持続可能なプログラムにしていくために、これまでの取組が生徒や地域・保護者にとって本当に効果的なものになっているか、指導する教員にとって無理のないものになっていないかなどの検証を行い、取組の内容を精選していかなければならない。

令和2年度校内研究のまとめ

住田町立世田米小学校 住田町立有住小学校

住田町立世田米中学校 住田町立有住中学校

岩手県立住田高等学校

令和2年度

校内研究のまとめ

研究主題

地域に愛着をもち、進んで地域に関わる子どもの育成
～主体的・対話的・探究的な地域創造学の学びを通して～



住田町立世田米小学校

I 研究主題

地域に愛着をもち、進んで地域に関わる子どもの育成
～主体的・対話的・探究的な地域創造学の学びを通して～

II 主題設定の理由

1 研究開発課題から

平成29年度より住田町内の小・中・高等学校は文部科学省研究開発学校の指定を受け、「子どもたちに新しい時代を切り拓くために必要な資質・能力や心の豊かさを育成するため、小・中・高等学校の滑らかな教育の接続を活かして、教科『地域創造学』を新設した場合の教育課程、指導方法及び評価方法などの在り方に関する研究開発」に取り組んでいる。「地域創造学」では、社会を創造していくために必要な「社会的実践力」を身につけ、他者と協働してより豊かな人生や地域づくりを主体的に創造することのできる人材の育成を目指しており、特に小学校段階においては、地域づくりを主体的に創造することにつながる資質・能力の基盤づくりが必要であると考えます。

そのために、地域の環境と関わることを十分に楽しんだり、地域の「ひと・もの・こと」のよさを見つけ親しんだりする経験を通して、地域への興味・関心を高め、地域への愛着を育むとともに主体的に地域に関わることができるようしていきたいと考えた。

2 本校の教育目標から

本校では、「やさしく」「かしこく」「たくましく」を学校教育目標に掲げている。特に、本次研究を通して「かしこく」の具体目標である「自分で考えつくり出す子ども」を育てたいと考えている。

地域創造学では、「社会的実践力」を身に付けた児童の育成を目指している。「社会的実践力」とは、「変化の激しい社会において、充実した人生を実現するために、豊かな心をもち、主体的に未来社会を創造していくことができる力」であり、その力はまさに本校の教育の目指す「自分で考えつくり出す力」と合致する。また、地域創造学において探究的な学習を繰り返す中で、「地域への愛着」や「進んで地域に関わる態度」を育むことは、「やさしく」の具体目標である「なかよく思いやりのある子ども」にもつながるものであると考えます。地域創造学の実践を通して、「地域に愛着をもち、進んで地域に関わる子ども」を育成することにより、学校教育目標の達成を図っていきたいと考えている。

3 児童の実態から

本校の子どもたちは、明るく素直で、様々なことに対して一生懸命に取り組むことができる。自分たちが住む地域を「自然が豊かで住みやすいところ」と感じ、地域の祭りや行事等へ進んで参加する子どもが多い。一方で、地域に対する人々の思いに目を向けたり、地域の未来の姿について考えたりした経験は多くないと思われる。そこで、地域資源を教材として学ぶ体験的・探究的な学習活動を通して、今まで以上に地域に対する理解や愛着を深め、自分たちの生きる地域を含めた未来の社会を創造していくことができる資質・能力を育むことを目指していく。

これまで、「学びを推進する課題設定」「ゴールまでを見通した計画づくり」「協働的な探究活動」

「自分の思いや願いを表出するまとめ」までのプロセスを繰り返すことで、主体的・対話的・創造的に学ぶ児童を育成することを目指した。ゴールを明確にして単元に取り組むことで、見通しを持ち、主体的に探究活動に取り組む子どもの姿が見られるようになってきている。今年度は、これまでの研究を土台としながら、学びの先にある地域への誇りや愛情などをもつこと、地域に主体的に関わりその意味や価値、課題について考え判断することなどの資質や能力の育成を図っていく。

Ⅲ 研究目標

地域に愛着をもち、進んで地域に関わる子どもを育成していくために、どのような単元構想や学習指導をしていけばよいか、主体的・対話的・探究的な学びを視点とした地域創造学の授業実践やその分析、授業交流等を通して明らかにする。

Ⅳ 研究に対する基本的な考え

1 主題について

(1) 「地域に愛着をもつ」について

「地域に愛着をもつ」とは、子どもたちが、自分が住む住田町を自分にとって大切な場所であると感じ、住田町に誇りと愛着をもつことであるととらえる。そして、そのように感じる理由として「自然を楽しむことができる」「お気に入りの場所がある」「誇れる名所や伝統がある」「人々が幸せに暮らすための取組をしている」等の価値があることをとらえ、根拠をもって地域への思いを表現できるようにさせたい。

地域への愛着は、地域について何度も関わってよく知ることで徐々に高まるものであり、一単元の中でも、また学年を越え学習課題を変えながら、何度も繰り返して地域の事象と向き合う学びの積み重ねが大切である。子どもが、事象に対して新たな意味を見出したり、その価値を感じたりして、それらのことを表現できたとき、「地域に愛着をもった」姿と言えると考えている。

(2) 「進んで地域に関わる」について

「進んで地域に関わる」とは、子どもたちが地域の事象と関わることや地域の人とコミュニケーションをとることに意義を見出し、自らつながりをもとうとすることであるととらえる。低学年や中学年では地域との関わりを十分に味わい、「楽しいな」「いいな」「すごいな」と地域のよさを感じること、高学年では地域の事象の特色や関連、意味や価値を考え、未来への発信につなげていくことを目指したい。地域社会の一員としてこれから何をどのようにすべきか具体的に考えたり、現在及び将来の自分の生き方について考えたりして、地域と自分とのつながりについて思いをもつことを「地域に進んで関わった」姿と考えている。

2 副題について

(1) 「主体的な学び」について

地域に愛着をもち進んで地域に関わる子どもを育成するために、地域の事象に興味や関心をもち、見通しをもって粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次の学びに向かう「主体的な学び」の実現を図る。主体的な学習には、探究の見通しをもち、常に探究課題を自覚して探究することが大切である。また、子どもが、学習の結果分かったことや分からなかったこと、もっと調べたいことなど自分の学びを自覚し、自ら次の課題をもつことが大切である。与えられるものでなく主体者として学ぶ姿勢こそが学びを推進し、自分事として探究活動を行うことで地域の事象や人々の思い

に対する気づきにつながると考える。

(2) 「対話的な学び」について

地域に愛着をもち進んで地域に関わる子どもを育成するために、子ども同士の協働的な学びや教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通して、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」の実現を図る。友達との協働的な取組により、地域の事象に対する新たな気づきを得るなど学習の深まりが期待される。また、地域の様々な人と交流しながら学習を展開することで、地域に対する人々の思いにふれ、それが子どもの気づきを生み、地域への愛着や進んで地域に関わる態度につながると考える。

(3) 「探究的な学び」について

地域に愛着をもち進んで地域に関わる子どもを育成するために、子ども自身が学習課題を設定し、その課題に基づいて体験活動や情報収集、整理・分析を行い、自分の考えをもって表現する「探究的な学び」の実現を図る。地域のひと・もの・ことと関わった体験や収集した情報を基に、様々な気づきや思いを巡らせながらその整理や分析を行い、自分の考えをまとめ、判断し表現することで、一人一人の地域理解が深まるとともに、地域の事象の意味や価値、これからの地域の在り方などについて考える力等、社会参画につながる資質や能力を身につけることができると考える。また、地域創造学における探究のプロセスを通してスパイラル的な学びを展開することにより、地域への愛着や進んで関わる態度の育成を図ることができると考える。

V 地域に愛着をもち、進んで地域に関わる子どもを育成するための方途

1 「見通し」「振り返り」の工夫をすること

主体的な学びを展開するために、単元や学習活動のまとめ、単位時間における「見通し」と「振り返り」を大切にしていく。

「見通し」については、特に、探究活動のテーマや、探究活動の道筋についての見通しをもつことができるようにする。そのために、体験的な活動や資料の提示などにより、さらなる活動への願いや事象に対する問題意識をもつことができるようにする。そして、活動への願いや事象への問題意識をもとに、「なにを」「なんのために」「どのように」学習するか等を明らかにしていく。その際、問題や学習課題に対して予想をもつことも大切にしていきたい。

「振り返り」については、自分たちが探究で「なにを学んだか」「どのようにして学んだか」等を話したり書いたりして振り返ることを行う。また、振り返りから生まれた新しい学習課題を次時につなげ、その繰り返しで単元のゴールに向かっていくことができるようにしていく。さらに、振り返りを重ねたポートフォリオを見直すことにより、気づきや思いの高まりを子どもたちが自覚できるようにしていく。

2 学びを深める対話の工夫をすること

対話的な学びを展開するために、特に、探究活動における子ども同士の協働的な学びや地域の人との対話を大切にしていく。

子ども同士が対話し協働的な学びを行っていくためには、学級全体やグループ、ペアなどでの話し合いや相互評価を取り入れる。特に、見通しをもつ場や、体験的な活動や調べたことをもとに気づいたことや考えたことを話し合う場で取り入れるようにしたい。自分の考えを話したり書いたりして相手に伝えたり、相手の考えを聞いたりすることで、子どもが自分の考えを見つめなおしたり、

友達の考えから学んだりすることができるようにしていきたい。

地域の人との対話については、地域の人と一緒にやる体験的な活動において、子どもが感じたり考えたりしたことを地域の人に話したり、地域の人から話を聞いたりして対話が充実するようにしていきたい。そのために、意図的・計画的に話すこと・聞くことの技能を高めたり、ステージや学習内容に合わせた地域の人との対話の場の工夫を行ったりしていく。

3 探究活動における言語活動の工夫をすること

探究的な学びを展開するために、発達段階を踏まえながら探究のプロセスにおける言語活動の充実を図ることを重視していく。

具体的には、他者と話し合ったり協働による活動をしたりする場面、体験をもとにした気づきを伝え合う場面、事象について多面的多角的に考える場面、提案や発信をする場面、学習の振り返りや自己の在り方を見つめる場面等での言語活動を大切にしていく。特に、体験的な活動の中から気づいたことを表現したり伝え合ったりする学習活動や、地域のひと・もの・ことについて調べたことの中から必要な情報を取り出し、その意味や価値や課題などを考える学習活動を意図的に設定する。その際、体験的な活動を通して気づいたことや取り出した情報を、比較したり、分類したり、関連付けたり、統合したりして整理しながら思考できるようにしていく。また、気づいたり考えたりした事象の意味や価値、課題やそれに対する思いを、根拠を明らかにして表現し伝え合うことができるようにしていく。

VI 研究の仮説

地域創造学の教育過程において、地域素材を題材とした学習活動を通して次の手立てを講ずれば、地域に愛着をもち、進んで地域に関わる児童が育つであろう。

- ・「見通し」「振り返り」の工夫
- ・学びを深める対話の工夫
- ・探究活動における言語活動の工夫

VII 研究内容

- 1 地域創造学の単元構成
- 2 地域創造学の指導方法

VIII 研究方法

- 1 授業実践を通じた仮説の検証
- 2 他校授業研究会への参加

IX 研究の実際

1 主に「主体的な学び」にかかわって — 「見通し」「振り返り」の工夫

(1) 「見通し」の工夫

体験的な活動や資料の提示などにより、活動への願いや事象に対する問題意識をもつことができるようにする。その際、「なにを」「なんのために」「どのように」学ぶかなど、学習の内容や目的、方法について明らかにして、課題探究の見通しをもてるようにする。

【実践例】 第1ステージ 第1学年「たのしいな あきのすみだ

～あきを見つけよう・あきのおもちゃでたのしもう～

1 実践の意図

- 制作の見通しをもつための具体物に自由にふれる活動

「秋見つけ」で種山や学校の周辺などで集めたさまざまな自然物を、動かしたり組み合わせたりしながら、制作したいものや制作できそうなものを発想し活動の見通しを持つことができるようにした。また、自然物の特徴に気付き、より一層地域の自然のすばらしさを感じることができるようにした。

2 実践の実際

授業の前半において、木の実や枝などの自然物の実や葉、枝を子どもたちに配布し、十分に親しませる活動を行った。その際、友達との対話が発想の手がかりとなるよう小グループでの活動を取り入れた。さらに、子どもたちが、制作の見通しをより明確に持つことができるようにするために、制作活動に入る前に、一人一人が発想したものを全体の場で発表し伝え合う場を設けた。

学習課題

あつめた木のみやはっぱでできることやものをかんがえよう。

T 班のみんなで、実際に木の実を触ってみて、できそうなことを考えましょう。

C (子どもたちは、渡された自然物をさわりながら発想を広げ、友たちと見せ合ったり比べたりしながら、簡単なものを制作した。)

T おもしろそうなことをしている人がたくさんいていいですね。どんなものが作れそうですか。

C 棒を刺して、やじろべえを作りたい。

C 目を付けて、ふくろうを作りたいです。

C 自然貯金箱を作りたいです。

C こまです。

C めいろです。

T みなさん、楽しいものが作れそうですね。今日は、先生が紙やカップ、竹ひごなどを少し用意しました。この材料も使って、あきのおもちゃや飾るものなどを作りましょう。

C (子どもたちは、教師の準備したものも活用して、さらに制作を続けていった。)



3 考察

直接自然物に触れる時間を確保したことで、形や色などから、「枝を並べて、迷路のコースを作りたい。」「松ぼっくりに目や口などをつけて、人形を作りたい。」「栗に穴をあけて棒をさして、やじろべえを作りたい。」など、自分の思いをもとに制作の見通しを持つことができたと考える。また、小グループでの活動や全体で作れそうなものを交流することで、アイデアや作り方などを友達から学び、発想に広がりが見られた。

交流の場面で、「木の実や枝をどのようにするのですか。」「どうやってつくるのですか。」など、制作につながるような発問ができず、児童の制作の思いを深めることができなかつた。制作に見通しを持たせるための発問を考える必要があつた。

(2)「振り返り」の工夫

分かったことや感想、さらに調べたいこと等を話したり書いたりする振り返りを行い、気づきや思いの高まりを自覚できるようにする。

【実践例】 第2ステージ 第3学年 「すごいな 住田町のいいところ～見つけよう～」

1 実践の意図

○ 次の探究課題をもつことができるようにするための体験的な活動の振り返り

まち探検で分かったことや感じたことを交流したあと、名所についてさらに調べてみたいことを書いたり話し合ったりする振り返りを行った。このことにより、二度目のまち探検に向けての見通しをもつとともに追究意欲を高めることができるようにした。

2 実践の実際

子どもたちが感じたまちの「すごい」ところを全体で交流し、その後さらに詳しく調べてみたい名所とその理由をワークシートにまとめるようにした。ワークシートにまとめる際は、見たり触れたりした体験を振り返りながら、次の探究活動の見通しをもつことができるようにした。

T 名所についてもっと知りたいことはありますか。

C 蔵の壁に書かれている漢字が、どうして一つ一つ違うのか調べたいです。

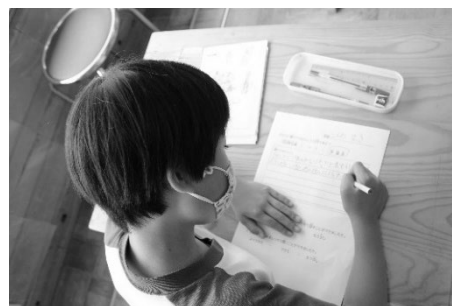
C ○○さんと似ていて、なぜいろいろな花や漢字が書かれているか知りたいです。

C 私は、蔵のマークにはどのような思いが込められているのか知りたいです。

T いろいろ調べたいことが出てきましたが、どうしていき

C もう一度町探検をして、調べてみたいです。

C 今度は、地域の人に詳しく話を聞いて調べたいです。



3 考察

- ・ 振り返りの学習では、写真やカードを活用しながら、子どもたち全員がもっと詳しく調べてみたいことを表現することができており、二度目の探検に向けた課題意識を高めることができたと考える。
- ・ さらに詳しく調べてみたい理由を明確にもたせることができなかった。理由を書いている子どもをとりあげながら、全員が理由を言えるようにしていきたい。

1 主に「対話的な学び」にかかわって — 学びを深める対話の工夫

(1) 「子ども同士の協働的な学び」の工夫

見通しを持つ場や体験的な活動、調べたことをもとに気づいたことや考えたことを表現する場で、学級全体やグループ、ペアなどでの話し合いや相互評価を取り入れる。

【実践例】 第2ステージ 第3学年 「すごいな 住田町のいいところ ~みつけよう~」

1 実践の意図

- よさを書き留めたカードをもとに話し合い、友達の多様な考えに触れる活動

まち探検で感じた名所のよさをカードに書き留め、カードをもとにまち探検で気づいたことや考えたことを友達と交流した。そのことを通して、まちの名所には様々なよさがあることを知るとともに、名所に対する多様な考えに触れることができるようにした。

2 実践の実際

前時に、見学した名所（住田町役場、蔵、浄福寺）でよさとして感じたことやそう感じたわけを「すごいところカード」に絵や文章でまとめた。本時では、そのカードをもとにしてそれぞれが感じた名所のよさを3人グループや学級全体で交流した。

T 「すごいところカード」を使って友だちにすごいと感じたところを伝えましょう。

C わたしは、役場にあった太い柱がすごいと思いました。わけは、樹齢140年の木を使っていたからです。

C ぼくは、蔵がすごいと思いました。わけは、江戸時代からある建物なのに、今でもあるからです。

C わたしは、浄福寺にあった大きな鐘がすごいと思いました。わけは、鐘や屋根の作りがしっかりとしていたからです。



3 考察

- ・ 名所のよさについて書き留めたカードを活用し、互いの考えを伝え合い比べたことにより、自分の気づきがより明確になったと考える。気づきをもとに、さらに世田米のよさについて考えを深める様子も見られた。
- ・ よさを交流する際に、児童の間で感じた「すごい」にずれがあった。名所のなにを価値とするか、さらなる検討が必要である。

(2)「地域の人との対話」の工夫

ステージや学習内容に合わせた地域の人との対話の場の工夫を行ったり、意図的・計画的に話すこと・聞くことの技術を高めたりする。

【実践例】 第1ステージ 第1学年「あきのすみをみつけよう ～たねやまで、あきをみつけよう～」

1 実践の意図

- 「地域の人と積極的に対話し、学びを深めるための工夫」

種山の秋を見つける活動において、一人一人が「知りたい、見つけたい」という課題を持つことができるようにした。さらに、森の案内人さんやボランティア高校生と積極的に対話するなかで、その課題を決していく活動を意図的に設定した。

2 実践の実際

(1) 課題を持った場面

保育園の時にいった種山のスライドを見て、見たものやしたことを思い出しながら、もっと知りたいことや探したいものを出し合い、その中から、自分の課題を見つけた。

学習課題

たねやまで、もっと知りたいことや見つけたいもののかんがえよう。

T 「森の保育園」で、去年みなさんが行った種山の写真を見ながら、楽しかったことやもっと知りたいことを見つけていきましょう。

C (春夏秋冬に行った種山の登山のスライドを見る。)

T 楽しかったことやもっと知りたいことを教えてください。

C 川遊びが楽しかったです。

C かえるを見つけたことです。

C 近くにカナヘビがいて、保育園で飼ったことです。

T もっと知りたいことはありますか。

C 川とか川の近くにいる生き物を見つけてみたいです。

C どんな魚がいるかもっと探したいです。

T 種山へ行くのが待ち遠しいですね。みなさんの知りたいことや見つけたいものを探すお手伝いを森の案内人さんや高校生のお兄さん、お姉さんがお手伝いして下さいます。森の案内人さんや高校生のお兄さん、お姉さんと、どのような学習をするか計画を立てましょう。

(2) 地域の人と対話しながら課題を解決した場面

種山の校外学習で、森の案内人や高校生のボランティアに質問したり説明を聞いたりしながら自分の課題を解決する活動を行った。

高校生のボランティアに見つけた木の実を見せながら、見つけた喜びを話している子どもたち。



木の実や花などの植物を見つけたという課題を解決するために、森の案内人に質問したり説明を聞いたりしている子どもたち。



3 授業の考察

目的意識を持って活動をしたことで、子どもたちは、森の案内人や高校生のボランティアと積極的に関わりながら活動することができたと考える。同じ課題を持つグループで活動したことにより、自分から話すことが苦手な子どもも一緒に話を聞くことができ、少しずつ自分からボランティアと関わりを持てるようになっていった。

活動をする中で、課題が解決できなかつたり、もっと知りたいことが見つかったりした子どもも多く見られた。改めて子どもたちが課題を解決する場を設けることで、地域の方とより積極的に対話し、学習が深めることができると考える。

1 主に「探究的な学び」にかかわって — 探究活動における言語活動の工夫

(1) 「言語活動の充実」の工夫①

体験的な活動の中で気づいたことを表現したり伝え合ったりする学習活動を設定する。

【実践例】 第3ステージ 第5学年 「住田の宝、森を生かそう」

1 実践の意図

- 栗木鉄山についての理解を深める言語活動

栗木鉄山についての新聞づくりと、その内容の交流を通して、地域の社会的事象の意味や意義について考えることができるようにした。また、栗木鉄山の発展と地域の自然環境や社会環境との関係についてもとらえることができるようにすることを意図した。

2 実践の実際

作成した新聞の交流から学んだことを振り返り、栗木鉄山のすごさや、なぜ栗木鉄山が発展したのかを考え、伝え合った。

T 新聞を交流してみて、栗木鉄山のどんなところがすごいと感じましたか。

C 第一高炉で一日2～3 tの鉄が生産されて、それを牛や馬で運んでいたところです。

C 第二高炉が高さ9 mもあり、一日8 tも鉄を生産していたところです。

C 栗木鉄山の歴史で鉄の生産量が日本で第四位になったところです。

(以下略)

T そんなすごいところがたくさんあった栗木鉄山だけでなく、なぜそんなに発展したのだと思いますか。

C 栗木鉄山には森林が多くて、気仙川があるので水もたくさん流れていたからだと思います。

C たくさんあった森林を切って、燃料にしていたと思います。

C 栗木鉄山では昔鉄鉱石が採れていたからだと思います。



3 考察

思考場面を栗木鉄山のすごさについて考える場面と栗木鉄山の発展した理由について考える場面の2つに分けることで、子どもたちから出された考えを整理しながら問題について考えることができた。しかし、作成した新聞に書かれた内容がどのグループも類似していたため、新たな発見が生まれやすくなる機会はあまりなかった。

また、児童から出された「発展した理由」についての考えが正しいかどうかを検証することができなかった。教師から資料提示を行ったり、コミュニティ・ゲストからさらに話を聞いたりして、確かめることができるとよかった。

(2)「言語活動の充実」の工夫②

地域の事象について調べた中から必要な情報を取り出し、その意味や価値、課題などを考えることができるようにする。その際、考えた根拠を明らかにして表現できるようにする。気づいたことや取り出した情報、情報から考えたことを、比較したり、分類したり、関連付けたり、統合したりして思考できるようにする。

【実践例】 第3ステージ 第6学年 「我が町、再発見②～住田テレビを調べよう～」

1 実践の意図

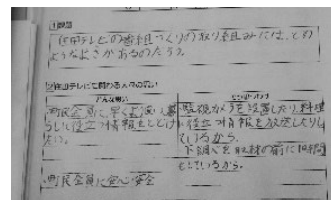
- 地域における「住田テレビ」の意義について根拠を明らかにして考える言語活動

見学を振り返ることを通して、学んだことをワークシートにまとめたものをもとに、住田テレビの取り組みのよさや意味について話し合い、考えを深めることができるようにした。さらに番組を制作している人々に視点をあて、住田テレビに関わる人々の思いについても考えることができるようにした。

2 実践の実際

(1)「住田テレビ」の番組づくりの取り組みのよさについて考えたことを交流する言語活動

- T 住田テレビの番組づくりについて分かったことを発表しましょう。
- C 1年間に500本、多い時には700本取材しています。
- C 時間帯によって放送する番組を分けています。
- C コロナウイルスの関係で、4人いるスタッフを2人ずつに分けて勤務しています。
- T そこにはどんなよさがありますか。
- C 自分たちが知らなかった住田町のことを知ることができます。
- C 番組を見たい時に見ることができます。
- C 万が一のことがあっても、放送が止まらないので安心です。



(2)「住田テレビ」の番組づくりの取り組みから、制作に関わる人々の思いや願いを考える言語活動

- T 住田テレビに関わる人々は、どういう思いで番組を作っているのでしょうか。
- C 速く正確に届けるようにしていました。町民が困らないようにするためだと思います。
- C 下調べをしっかりとしていたので、よりよい番組にしようと思っています。
- C カメラを使い分けていたから、町民に分かりやすく伝えたいと思っています。
- C 年齢によって構成や流す時間帯を考えているから、みんなを笑顔にしたいと思っています。
- T なぜ、そのようなことをしていると思いますか。
- C 町民に安心、安全な暮らしをしてほしいからです。
- C 住田町のことをより知ってほしいからです。
- C 情報を発信するだけでなく、歴史として残していきたいからです。



3 考察

- ・ 見学などの体験的な活動を通して気づいたことや分かったことについて、分類したり関連付けたりすることで、住田テレビのよさについて一人一人が考えることができた。また、根拠を明らかにしながら取り組みのよさを考える場面をつくったことで、番組づくりの取り組みに携わる人たちの思いや願いに気づかせたり、児童の地域への思いを広げたりすることができた。
- ・ 住田テレビの取り組みのよさを捉えるための実際に見学した際の写真資料提示は有効だった。しかし、「よさは何か」について考える際、「よさ」や「努力」、「工夫」などの聞き方をしてしまったために、何を発表していいのかわかりにくく迷いが生じてしまった。「よさ」の捉えを指導者側が明確にし、発問の仕方を吟味して授業を進めていく必要がある。

X 成果と課題

1 成果

- (1) 体験的な活動を生かした導入を行うことや、子どもたちが探究により、分かったことやさらに調べたいこと等を話したり書いたりする振り返りを工夫することにより、気づきや思いを自覚して次の課題意識をもって探究活動に取り組む様子が見られるようになってきている。
- (2) 友達や地域の人との対話によって、友達の考えから新たな気づきを得たり、地域の人への願いや自分たちの地域への思いに気づいたりする様子が見られるようになってきている。
- (3) 地域の事象について考える学習活動によって、身近な地域の人々や自然、施設の価値や意味に気づき、より地域理解を深める様子がみられるようになってきている。

2 課題

- (1) 子どもたちがより主体的に探究活動を進めていくことができるように、子どもたちの「気づき」や「問い」を生むような見通しのもとせ方や自分たちが学んだことを振り返る方法をさらに工夫していく必要がある。また、子どもたちが自分たちの気づきや思いの高まりを自覚できるように、ポートフォリオを見直すことを活動の中に位置づけていきたい。
- (2) 対話的な学びについては、話し合いの意図や視点を明確にした上で、活動を進める必要があった。また、学習課題や探究活動の目的に応じた学習形態を考えていかなければならない。
- (3) 言語活動の工夫については、各ステージにおいて発達段階を踏まえ、どのような言語活動を行っていくべきか明確にしていきたい。

IX 研究実践

| 回 | 月日 | 曜日 | 研究・研修 | 内容 | 講師 |
|---------------------------|---------|----|---------|------------------------------------|---------------------------------|
| 1 | 4 / 9 | 木 | 研究推進委員会 | 今年度の研究について（主題、日程） | |
| 2 | 4 / 14 | 火 | 全体研究会 | 理論研究会（重点研究の研究主題・研究内容 研究日程・確認事項） | |
| 3 | 5 / 28 | 木 | 全体研究会 | 事前研究会 3年 地域創造学 | |
| 4 | 6 / 9 | 火 | 全体研究会 | 事前研究会 5年 地域創造学 | |
| 5 | 6 / 12 | 金 | 授業研究会 | 授業研究会① 3年 地域創造学 | 指導主事 向口千絵子先生 |
| 6 | 6 / 17 | 月 | 授業研究会 | 授業研究会② 5年 地域創造学 | 指導主事 佐藤宏之先生 |
| 7 | 9 / 3 | 木 | 全体研究会 | オンライン体験研修会 | 教諭 泉田剛志先生 |
| 8 | 11 / 10 | 火 | 授業研究会 | 授業研究会③ 6年 地域創造学 | 校長 田代 航先生 |
| 9 | 11 / 12 | 木 | 授業研究会 | 事前研修会④ 1年 地域創造学 | 校長 田代 航先生 |
| 10 | 11 / 24 | 火 | 授業研究会 | 授業研究会⑤ わかあゆ学級 | 特別支援教育エリア コーディネーター 坂本容子先生 |
| 11 | 11 / 26 | 木 | 授業研究会 | 授業研究会⑥ 2年 特別の教科 道徳 | 校長 田代 航先生 |
| 12 | 1 / 15 | 金 | 現職教育 | I C T活用研修会 | (株)エクナ |
| 13 | 2 / 2 | 火 | 全体研究会 | 伝講会・研究のまとめ | |
| 14 | 2 / 9 | 火 | 現職教育 | eライブラリ研修会 | (株)エクナ ラインズ(株) |
| 15 | 2 / 13 | 木 | 研究推進委員会 | 次年度の研究について | |
| 2 / 16 (火) 研究所 全体会 | | | | | |
| 16 | 2 / 22 | 月 | 現職教育 | ロイロノート研修会 | (株)エクナ |
| 17 | 2 / 26 | 木 | 全体研究会 | 次年度の研究の方向性 C R T結果分析 | |

第1学年 地域創造学学習指導案

日 時 令和2年10月12日(木) 2校時
場 所 第1学年 教室
学 級 第1学年 男8名 女12名 計20名
授業者 高橋 久美 サポート 水野 智恵

1 単元名 「たのしいな あきのすみた ～あきを見つけよう・あきのおもちゃでたのしもう～」

2 単元について

(1) 学習材について

第1学年では、学校周辺や種山の自然に触れたり、地域の人と一緒に活動したり交流したりして、その楽しさやよさに気付くことを地域創造学のねらいの一つとしている。

種山ヶ原森林公園は、標高870mの物見山を頂点としたなだらかな高原地帯で、近年カラマツなどの植林を行ったことにより、木、花、野草や鳥、動物や昆虫など四季折々の自然を体験できる散策コースとして整備され、近隣の保育園や小学校から動植物採集やネイチャーゲームなどをする場所として親しまれている。また、学校周辺においても校舎のそばを気仙川が流れ、周囲には、田畑が広がるなど自然を体験できる教材に恵まれている。

本単元では、1学期から取り組んできた身の回りの季節の変化を感じることに加え、保育園から探検に行っていた種山ヶ原の自然と比較することで、それぞれに楽しさやよさがあることに気づき、自分の住んでいる住田町のすばらしさを実感できるようにしていく。

(2) 児童について

児童は、年中時に1回、年長時に春夏秋冬1回ずつ種山ヶ原を訪れて、種山の自然や散策コースに慣れ親しんでいる。また、1学期から「ちいきのきせつをかんじよう」の学習で、学校周辺の自然について観察したり、生き物を採集し飼育したりするなどの体験を重ねてきている。そのため、ほとんどの児童が、生き物や草花などの自然と積極的に関わろうとしている。また、体験したことをカードやペープサート、絵や作文にかき表して自分の思いをまとめたり、栽培したアサガオを使って押し花やリースづくりをしたりするなど自然の素材を使って製作したりする学習も進めている。

今まで、観察や飼育は、グループで協力して活動することが多かったが、まとめる活動は、ほとんど個人での活動が中心であった。自分の考えを整理したり表現したりすることについては、個人によって差が大きく、自分の思いをどのように表現したよいか考えることができる児童はあまり多くない。そこで今回は、グループで協働してまとめたり制作したりする中で、互いの表現のしかたを学び、そのよさを認め学び合うことができるようにしていきたい。

(3) 指導にあたって

本校における地域創造学では、「地域への愛着をもち進んで地域に関わる児童の育成」を目指している。本単元のテーマである「楽しい」を見つける活動を行いながら、地域への愛着につながるように、見通しをもち自ら進んで体験的な活動に取り組める手立てを講じていく。

単元の前半では、はじめに、季節の変化や保育園での体験をもとに、自分の中で興味があること想起し、観点を明確にして秋探しの計画を立てる。種山での秋探しでは、森の案内人をゲストティーチャーとして迎え、高校生ボランティアとともに、散策コースを歩きながら、登山や岩登りをしたり、木の実や葉、花、生き物を探したりして自然とたくさん触れ合う。事後指導では、「見つけたもの・こと」を写真や友達の発表をもとに振り返り、カードや絵、日記などに記録する。自分が「どんなもの・こと」に興味を持ち、それを「だれに」「どんな方法」で伝えるか話し合い、楽しかったことをまとめ発表する。さらに、学校周辺の秋探しも行い、2つの場所の違いを比較させ、それぞれの良さに気付くことができるようにする。

後半では、採取したものを活用して、おもちゃなどを制作することで、自然の楽しみ方を増やすとともに、おもちゃランドを計画し、遊ぶことで、楽しさを身近な人に伝えたいという気持ちに繋げていきたい。

3 単元の目標と評価規準

| | 資質・能力の分類 | 資質・能力別の分類 |
|--------|-------------------|--|
| 社会的実践力 | A【地域理解】 | ○学校周辺や種山の自然にふれたり、地域の人と活動したり交流したりして、その楽しさやよさに気付くことができる。 |
| | B【社会参画に関する資質能力】 | ○地域の自然の楽しさやよさについて考え、絵や言葉で表すことができる。 |
| | C【人間関係形成に関する資質能力】 | ○友達と協働して活動して、地域の自然や地域の人たちと楽しく関わることができる。 |
| | D【自律的活動に関する資質能力】 | ○地域の自然に関心を持ち、創作活動を通して、発想したり創意工夫したりすることを楽しむことができる。 |

| 資質・能力 | | 評価規準 |
|------------------|-----------------|--|
| A ◎地域理解 | | ・学校周辺や種山の自然にふれたり、身近な人と活動したり交流したりすることで、地域の楽しさやよさ、場所の違いに気付いている。 |
| B 社会参画に関する資質能力 | 1 ☆見通す力 | ・地域の自然とのふれ合う活動について、自分の思いを持ち、話し合いながら活動の計画を立てている。 |
| | 2 ☆多角的・多面的に考える力 | ・地域の自然とふれ合う体験活動の中で、自分なりの楽しさや地域の自然のよさを見つけ、その理由を考えている。 |
| | 3 ☆提案・発信する力 | ・地域の自然とふれ合う体験活動の中で見つけたことや感じたことについて、絵や言葉などで表している。 |
| | 4 ★好奇心・探究心 | ・地域の自然に興味・関心を持ち、観察したり、触ったりするなど積極的に関わっている。 |
| | 5 ★困難を解決しようとする心 | ・地域の自然とふれ合う体験活動の中で、困ったことがあっても、周りの人に相談したり助け合ったりしながら、最後までやり遂げている。 |
| C 人間関係形成に関する資質能力 | 1 ☆伝え合う力 | ・地域の自然とふれ合う活動やおもちゃ作りなどの創作活動の中で、自分の思ったことを伝えたり、友達の思ったことを聞いたりしている。 |
| | 2 ☆協働する力 | ・地域の自然とふれ合う活動やおもちゃ作りなどの創作活動を通して、友達や地域の人々と交流しながら、力を合わせて取り組んでいる。 |
| | 3 ★他者受容 | ・地域の自然とふれ合う活動やおもちゃ作りなどの創作活動の中で、友達と楽しく活動を積み重ねることで、友達の考えを知ろうとしている。 |
| D 自律的活動に関する資質能力 | 1 ☆感じ取る力 | ・自然と、これからの学習や生活にどう生かすか考えている。 |
| | 2 ☆創出する力 | ・地域の自然とふれ合う活動やおもちゃ作りなどの創作活動で、発想したり創意工夫したりすることを楽しんで活動している。 |
| | 3 ★自己肯定感 | ・地域の自然とふれ合う活動やおもちゃ作りなどの創作活動を通して、完成の喜びや遊びの楽しさ、自分でできたことに気付いている。 |

5 本時の指導

(1) 目標

さまざまな自然物を転がしたり、組み合わせたり動かしたりしながら、自然物の特徴を捉え、制作の見通しを持つことができる。

(2) 評価について

| | | |
|-----------|---|--|
| みとる資質・能力 | ○ (できた) | 支援を要する児童の手立て |
| B 1 ☆見通す力 | 自分なりに発想したり創意工夫したりして創作活動の見通しを持ち、次に作りたいものをイメージしている。 | おもちゃづくりのヒント (作り方や材料) になる掲示や教師が作った作品を用意しイメージづくりの手助けをする。 |

(3) 本時の主な手立て

制作をするための見通しを持つことができるようにするための工夫

・素材に十分触れさせたり 2 年生が制作したおもちゃを振り返ったりしながら、自分が作りたいものや遊びのイメージを広げる。

(4) 展開

| | 学習活動・学習内容 | 指導上の留意点 ◆評価 |
|------------|--|---|
| 導入 3分 | <p>1 前時の学習の想起</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アサガオのリースの飾りをしたときのことを思い出し、探検で見つけたものを使ってやってみたいことを話し合う。 <p>2 学習課題の確認</p> <p>あつめた木のみやはっぱでできることやできるものをかんがえよう。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・リースづくりの振り返りカードから集めたものを使ってみた感想やもっとやりたいことを紹介し、本時の活動のきっかけにする。 |
| 見通す 12分 | <p>3 学習課題の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集めた木の実や葉っぱに触れながら考える。 <ol style="list-style-type: none"> ① ならべる ② ころがす ③ なげる ④ かさねる ⑤ あなをあける ⑥ くみあわせる <p>4 全体で学び合い・深める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えた遊びやおもちゃなどについて話し合う。 <ol style="list-style-type: none"> ① どんなあそびやおもちゃができそうか。 まとあて、けんだま、マラカス、めいろ、こま、やじろべえ ② そのためにどんな道具や材料が必要か。 道具：のり、はさみ、ボンド、 材料：紙コップ、竹ひご、紙、ひも、毛糸、 | <ul style="list-style-type: none"> ・重ねたり、並べたりして自由に遊ばせおもちゃづくりの発想を高める。 ・友達の活動のよいところに気付かせる。 ・材料 (木の実など) をグループの机に用意してどんな遊び・おもちゃができそうか考えさせる。 ・木の実や葉っぱの色や形を生かして遊んでいる児童を取り上げ、全体に広げる。 ・つくりたいおもちゃなどをつくるために、何が必要か考えることにより、活動への見通しを持つことができるようにする。 |
| 展開 20分 | <p>5 課題解決に向けての学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びに必要なものやおもちゃを作る。 <p>6 全体で学び合い、深める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなことやどんなものができたか発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃづくりのための材料 (紙、ひもなど) や道具 (はさみ、のりなど) を用意して提示する。 ・2 年生がつくったおもちゃを提示したり、教科書や資料を提示したりして発想を広げることができるようにする。 <p>◆ 行動観察・発言</p> |

| | | |
|------------------------|--|---|
| ま と め 10 分 | 7 学習のふりかえり ・本時の学習をふりかえり、おもちゃをつくった感想や次の 時間にどんなものを作りたいか発表する。 | ・一人一人の振り返りを聞き合うことにより、次の制作活動への見通しを持つことができるようにする。 |
|------------------------|--|---|

第3学年 地域創造学学習指導案

| | |
|-----|----------------------------------|
| 日時 | 令和2年6月12日（金）2校時 |
| 場所 | 第3学年 教室 |
| 学級 | 第3学年 男7名 女11名 計18名 (わかあゆ学級1名) |
| 授業者 | 菅野 真美 |

1 単元名 「すごいな 住田町のいいところ ～見つけよう～」

2 単元について

(1) 学習材について

3年生では、「名所」や「伝統」を題材に地域の現在と歴史を学び、そのよさを知ることを目指す。本単元で扱う「名所」は、児童が場所や名前を知っていることが多く、興味をもって学ぶことができ、調査活動によってその特徴を捉えやすい題材である。第1ステージで自分の生活に身近な事物で「楽しさ」「よさ」を体感した経験のもと、その対象を広げて歴史や地域の人々の思いを学ぶことで、新しい価値を感じるのに有効な題材であると考え。そしてその価値が、自分が住む場所に対する誇りを持ち、愛情を深めることにつながると考える。

住田町の名所としては「滝観洞」「種山ヶ原」などが有名で、近くには「気仙川」や「蔵」、有住地区には「めがね橋」「鏡岩」などがある。また、「林業のまち」として、近年は「木」が特徴的に使われた公共施設が建設されている。これらの中から数か所を見学したり、地域の方から話を聞いたりして、名所の特徴や地域の人々の思いについて学ぶ。

(2) 児童について

児童は昨年度、単元「商店街の自慢を見つけよう」において、地域に根付いた商売をしている店を取材し、世田米の店や人のよさ、自分たちの生活との関わりに気づいて「いいね」を見つけて学習をしている。今年度の計画づくりでは「住田町のいいところ【ヒト・モノ・コト】」だと思えるものに「店」の名前が多く挙がり、児童が自分の身の周りの事物に対して興味を持ち、協力して調査活動を行い、そのよさを見つけて愛着を深めてきたことが感じられた。それをもとに、学ぶ対象を広げ、調査活動で得た情報を比べたり、分類したり、疑問を持ったり、よいところを取り入れたりしながら対象に対する価値を得ていくことができるようにさせたい。

「住田町」のいいところを知るために、有住小学校の児童と「互いに自分の地区を学び紹介し合う」という約束をしたことから、児童は自分たちの地区について学習したいという意欲を高めている。

(3) 指導にあたって

地域創造学において「地域への愛着をもち進んで地域に関わる児童の育成」を目指している。主体者として学習する姿勢により地域への気づきが生まれ、そこに価値をもって地域への愛着につながるように、見通しをもち自ら進んで探究活動に取り組める手立てを組みたい。そのために「何を」「何のために」「どのように」学習するかを掲示物等用いて確認する。

2学期に有住小に紹介することも大きな目的の1つだが、1学期は、自分自身が地域の名所のよさを知り、自分が見つけた世田米の名所の「すごい」を感じて表現できることが大切であり、「住田町が好き」という思いが高まることを目指して活動させたい。本時では、住田町の名所の様子やそのよさについて交流する言語活動を取り入れる。さらに、「すごい」と思ったことから調べていきたいことを考え、次時の探究活動へとつなげていきたい。以下のように手立てを組んで指導にあたっていくようにする。

3 単元の目標と評価規準

| | 資質能力の分類 | 資質能力別の分類 |
|--------|-------------------|--|
| 社会的実践力 | A【地域理解】 | ○地域の名所について理解を深め、そのよさを感じ、積極的に関わることの大切さを捉えることができる。 |
| | B【社会参画に関する資質能力】 | ○地域の名所の特色に気づき、そのよさを表現することができる。 |
| | C【人間関係形成に関する資質能力】 | ○地域の名所に対する人々の思いを感じ取るとともに、友達と協働して名所について探究する活動を行うことができる。 |
| | D【自律的活動に関する資質能力】 | ○自分たちの活動を振り返りながら、地域の名所について調べる内容や方法を考えて、探究活動を進めることができる。 |

| 資質能力 | | 評価規準 |
|---------------------|-----------------|---|
| A ◎地域理解 | | ・地域の名所について理解を深め、そのよさを感じ、さらに調べたいと感じたり、周りの人に伝えたりしている。 |
| B 社会参画に関する資質能力 | 1 ☆見通す力 | ・地域の名所について理解を深めるために必要な学習を考えて取り組もうとしている。 |
| | 2 ☆多角的・多面的に考える力 | ・地域の名所について、様々な観点でよさを見つけたり、友達がよさと感じた点を聞いて自分の考えを広げたりすることができている。 |
| | 3 ☆提案・発信する力 | ・地域の名所のよさがよりよく伝わる方法を考えて、自分の考えを話したり書いたりして表現している。 |
| | 4 ★好奇心・探究心 | ・地域の名所に興味をもち、積極的に調べている。 |
| | 5 ★困難を解決しようとする心 | ・地域の名所について、疑問を解決したり、より理解を深めたりするための探究のしかたについて考えて実行している。 |
| C 人間関係形成に関する資質能力 | 1 ☆伝え合う力 | ・理由付けしたり、事例をあげたりして地域のよさを伝えたり、相手の伝えたいことの内容を捉えて聞いたりしている。 |
| | 2 ☆協働する力 | ・地域の名所についての探究において、協力して調べたりまとめたりしている。 |
| | 3 ★他者受容 | ・地域の名所に対する地域の方の思いや友達の感じ方を大切に受け止め、理解しようとしている。 |
| D 自律的活動に関する資質能力 | 1 ☆感じ取る力 | ・調査活動をまとめ、相手校に伝えたいことやさらに調べたいことについて計画を立てることができている。 |
| | 2 ☆創出する力 | ・自分たちの地域にある名所のよさについて感じたことを自分なりの方法で表現し、伝えようとしている。 |
| | 3 ★自己肯定感 | ・地域の名所についての自分の探究のよさに気づき、次の探究に生かそうとしている。 |

4 単元の指導（全17時間／本時 第12時）

| 月 | 小単元名 | プロセス | 時 | 主な学習活動 | 関連する教科・領域 | 評価項目 (評価方法) |
|---|-----------------------------|----------------|-----------|--|------------------------------------|--|
| 5 | 調査の計画 課題解決に向けた取組やこれからの取組 | 問題の理解・現状把握 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの地域の名所について知っていることを話し合う。 ※知らないことが多く、誇りであると感じたり、誰かに紹介したりできる段階ではないことに気付かせる。 地域の名所について理解したり紹介し合ったりするために必要な学習を考える。 単元の学習課題を設定する。 | | ☆感じ取る力 (発言) ☆見通す力 |
| | | 情報収集 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 名所について、家の人に聞いたり、ガイドブックで調べたりする。 | 【社会】わたしの住むまちはどんなまち | B4★好奇心・探究心 (学習シート・行動観察) |
| | | 見通しをもつ | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 集まった情報を整理し、詳しく知りたい場所や紹介したい場所を考える。 | | B2☆多角的・多面的に考える力 (発言・学習シート) |
| 6 | 調査の実施 | 見通しをもつ 計画する | 3 | <ul style="list-style-type: none"> 名所を見学する計画を立てる。 調べ方について考え、決める。(実際に行く、人に聞く、本で調べる、地図や写真を見る、役場から資料をもらうなど) 「すごいな」「いいな」を見つけるには、どんな観点で見ればいいのか、調査内容を考え、決める。 マナーの確認や話し方の練習をする。 | | B1☆見通す力 (学習シート) C2☆協働する力 (行動観察) |
| | | 実施 | 5 | <ul style="list-style-type: none"> 全員で地域の名所に出かけて調査活動を行う。 実際に見たり話を聞いたりして分かったこと、感じたこと、考えたこと、もっと調べたいと思ったことなどを記録する。 | 【国語】よい聞き手になる 【社会】わたしの住むまちはどんなまち | A◎地域理解 (学習シート) C3★他者受容 (発言・学習シート) |
| | | 振り返り まとめ | 1 (本時) | <ul style="list-style-type: none"> 名所のすごいと思ったところをグループで共有する。 全体でそれぞれの名所のよさを確かめる。 もっと詳しく調べたいことを考え、伝え合う。 | 【社会】わたしたちの市の様子 | B2☆多角的・多面的に考える力 ☆創出する力 |

| | | | | | |
|---|----------------|---|--|----------------|-----------------------------|
| 7 | 計画する 見通しをもつ | 1 | ・調査活動の結果、さらに調べたいことについて、計画を立てる。 | 【社会】わたしたちの市の様子 | B2☆多角的・多面的に考える力 D2☆創出する力 |
| | 振り返り まとめ | 3 | ・さらに調べたいことについて、人から聞いたり、資料で調べたりする。 ・調べて分かったこと、感じたこと、考えたことを記録する。 | 【社会】わたしたちの市の様子 | A◎地域理解 |
| | 振り返り まとめ | 1 | ・再度、分かったこと、感じたこと、考えたことをグループで共有し、誰かに紹介したいと思うことが見つかったかということを確認する。 ・調査結果や自分の考えをまとめる。 | | B2☆多角的・多面的に考える力 D1☆感じ取る力 |

5 本時の指導

(1) 目標

「すごいところカード」を活用して調べた名所の様子やそのよさについて交流し、さらに調べてみたいことについて考えることができる。

(2) 評価について

| みとる資質能力 | ○ (できた) | 支援を要する児童の手立て |
|-----------------|--|---|
| D2 創出する力 | 調べた名所のよさについて、「何が」「どのように」すごいと思ったのか根拠をはっきりさせて交流することができる。 | 児童が根拠を伝えることができるようにするため、すごいと思ったことと理由を分けて書くことを支援する。 |
| B2 多角的・多面的に考える力 | さらに調べてみたいことについてワークシートに記述している。 | 児童に画像を示し、視点を与えることで調べてみたいことを考えることができるように支援する。 |

(3) 本時の主な手立て

協働的に学ぶ場と学年に応じた言語活動

全体・グループの相互評価を取り入れた学び合いの工夫

・「すごいところカード」を活用して、調べた名所の様子やそのよさを伝える活動を設定する。

(4) 展開

| | 学習活動・学習内容 | 指導上の留意点 ◆評価 |
|----------|---|--|
| 導入 5分 | 1 前時の学習の想起 ・世田米の「すごいところ」だと思ふ名所を見学して、自分が感じた「すごい」をカードに書いたことを確認する。 ① 住田町役場 ② 蔵 ③ 浄福寺 2 学習課題の確認 世田米の名所で見つけた「すごい」を伝え合おう。 | ・「すごいところカード」に、「どこ」の「何が」「どのように」すごいのかを記録したことを確認する。 ・『すごい』には「たくさんある」「大きい」「きれい」「めずらしい」「昔からある」などの価値があることをおさえる。 |

| | | |
|------------|---|---|
| 見通す 5分 | <p>3 学習課題の見通し 交流のしかたの見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習課題の解決に向けた2つの視点 ① 調べた名所のすごいと思ったところについて、「すごいところカード」を使って、伝え合う。 ② 伝えるときは、なぜ「すごい」と思ったのか、その理由も伝えるようにする。 <p>について、掲示物を通して再確認する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・第2次から見通しを掲示し、毎時間意識させて、取り組ませる。 |
| 展開 25分 | <p>4 課題解決に向けての学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見学後に自分で書いた「すごいところカード」を使い、名所のすごいと思ったところを根拠を含めて伝え合う。 <p>5 全体で学び合い・深める</p> <p>(1) 交流を通して、グループで特に「すごい」と思ったことを発表し、それぞれの名所のよさについて確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループから1名ずつ発表する。 <p>(2) もっと詳しく調べたいことを考え、伝え合う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・各グループ(3人)で3名所の「すごい」を交流する。 ◆「すごい」と思ったことを根拠をはっきりさせて話すことができる。(カード・発言) ・見つけた「すごい」と思ったことからさらに、調べたいことを考えることにより次の探求活動への見通しを持つことができるようにする。 |
| まとめ 10分 | <p>6 振り返り 交流して名所のよさについて感じたことやさらに調べてみたいことについて振り返る。</p> <p>7 次時の学習内容の確認</p> | <ul style="list-style-type: none"> ◆さらに調べてみたいことについてワークシートに記述している。(ワークシート・発言) ・「もっと知りたい」ことを調べることを確認する。 |

第5学年 地域創造学学習指導案

| | |
|-----|--------------------|
| 日 時 | 令和2年6月26日(金) 5校時 |
| 場 所 | 第5学年 教室 |
| 学 級 | 第5学年 男6名 女14名 計20名 |
| 授業者 | 及川 栄輝 |

1 単元名 「住田町の宝、森をいかそう」

2 単元について

(1) 学習材について

第5学年では、住田町が特に力を入れている「林業やそれを支える自然環境」を題材として取り上げ、住田町ならではの取り組みを学習し、そのよさや課題について探究活動をおこなう。第5学年の第一単元では、町の豊かな森林や水資源を背景として発展した「栗木鉄山」を取り扱う。

「栗木鉄山」は明治14年から大正9年まで、住田町世田米子飼沢地内で稼働していた製鉄所である。斜面に平坦地を設け、そこから高炉頭頂部に栈橋を架け、鉱石・木炭を投入するという山間の地形を活かした山地型高炉が栗木鉄山の大きな特徴の一つである。周辺には、製鉄に必要とされる「原料(鉄鉱石)」「燃料(木炭)」「動力(水)」といった豊富な資源がある。これらをふんだんに活用し、最盛期には銑鉄の生産量が日本で第4位(民間で第3位)を誇っていた。その当時は、従業員が五百数十名、郵便局や住宅、学校までもが設置されるなど、一つの製鉄村を形成していたとされている。

本単元は3つの小単元で構成し、第二単元では、「林間学校」で自然の中で実際に森林や木に関わる活動をおこなう。第三単元では、住田町の産業として力をいれている「林業」についての学習をおこなう。第一単元「栗木鉄山」の森林や水資源の産業への探究から、第二単元「林間学校」では自然に触れ合う体験を通して、木や自然のよさを体感する活動につなげていきたい。

(2) 児童について

児童は、第4学年で「地域の福祉・川・先人の功績」を学び、住田町のために自分たちに出来る取り組みを壁新聞にまとめ、学級を対象に発表を行った。児童たちの住田町の先人についての興味・関心が高く、昨年度の地域創造学での学習を振り返った際には、7年もの年月をかけて大股地区に街道を開いた与一翁についての話が児童から多く出された。

本単元の導入の時点で、「栗木鉄山」について知識のある子はいなかった。そこで、住田町教育委員会発行「栗木鉄山跡」の小冊子を活用し、事前学習を行った。栗木鉄山の位置や歴史、設備、鉄の生産量等を調べワークシートにまとめ、栗木鉄山跡の見学に出かけた。事前学習をおこなったので、見学の際にはガイドの説明を理解し、栗木鉄山に関わるガイドの方の質問に対し、多くの児童が自分の考えを発表することができた。跡地ではあったが、1日に10トン近くの鉄が生産された背景や金が発掘された背景などに触れながら、当時の様子を想像して見学することができた。

(3) 指導にあたって

本校では、地域創造学において「地域に愛着をもち、進んで地域に関わる児童の育成」を目指している。住田町の貴重な文化財である栗木鉄山についての学習を通し、国内生産第4位を誇った栗木鉄山の価値を実感させ、栗木鉄山への興味・関心を高めるとともに、林業での学習への意欲づけにしていきたい。

本単元の学習の見通しとして、栗木鉄山について学んだことを新聞にまとめて学級内で交流し、栗木鉄山のすごさや発展した理由について考えることをゴールとして設定する。それにあたって、新聞にまとめる際に自分が伝えたい栗木鉄山のすごさが何なのかを明確にした上で記事を書かせていく。

対話的な学びを深める言語活動として、新聞記事を読み合い、アドバイスし合う活動を取り入れていく。記事の中で栗木鉄山のすごさが読み手に伝わる記事になっているかどうかを確認し合い、記事を推敲させる。そして、新聞の交流の際に栗木鉄山のすごさを明確に伝え合い、全体で共有できるようにしていく。また、新聞を通して交流した栗木鉄山のすごさをもとに、栗木鉄山が発展した理由を様々な視点で考えさせることを通して、地域の自然環境と産業との関わりについて捉えることができるようにしていきたい。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

| | 資質能力の分類 | 資質能力別の目標 |
|--------|-------------------|---|
| 社会的実践力 | A【地域理解】 | ・栗木鉄山の探究を通して、栗木鉄山があった地域や、生産の様子について知り、その特色を捉えることができる。 |
| | B【社会参画に関する資質能力】 | ・栗木鉄山のよさや発展した理由について、生産の様子と町の特色を関連付けて考えることができる。 |
| | C【人間関係形成に関する資質能力】 | ・課題解決に向けて、栗木鉄山を詳しく知る人との対話や、グループでの伝え合いをしながら探究活動することができる。 |
| | D【自律的活動に関する資質能力】 | ・栗木鉄山に関心をもって学び、自らの学習を振り返り調整しながら探究することができる。 |

(2) 評価規準

☆汎用的スキル ★態度・意欲・学びの評価

| 観点 | | 評価規準 |
|-------------------|-----------------|--|
| A | ◎地域理解 | 【地理】 ・栗木鉄山について学び、そのよさに気付きながら理解を深めている。 |
| B 社会参画に関する資質能力 | 1 ☆見通す力 | 【☆見】 ・栗木鉄山について調べていく活動を見通し、計画を立てて取り組んでいる。 |
| | 2 ☆多面的・多角的に考える力 | 【☆多】 ・栗木鉄山の見学を通して、栗木鉄山のすごさや発展した理由について考えている。 |
| | 3 ☆提案・発信する力 | 【☆提】 ・栗木鉄山の価値について、自分の思いがよく伝わるように、表現を工夫して新聞に書いている。 |
| | 4 ★好奇心・探究心 | 【★好】 ・栗木鉄山について興味・関心をもち、積極的に探究活動を行っている。 |
| C 人間関係形成に関する力 | 1 ☆伝え合う力 | 【☆伝】 ・栗木鉄山についての自分の考えを分かりやすく話したり、相手の話を分かろうとして聞いたりしている。 |
| | 2 ☆協働する力 | 【☆協】 ・友達と協力しながら栗木鉄山について新聞づくりを進めている。 |

| | | | | |
|-----------------------------|----------------------------|----------|------|-------------------------------------|
| 能 に 関 する 資 質 | D 自 律 的 活 動 | 1 ☆感じとる力 | 【☆感】 | ・栗木鉄山についての学習を振り返り、調整しながら探究活動を進めている。 |
| | | 2 ☆創出する力 | 【☆創】 | ・調べた栗木鉄山の価値を自分なりの方法で表現し、伝えようとしている。 |

4 単元の指導・評価計画（本時 第14時／全14時間）

| 月 | 単元名 | プロセス | 時 | 主な学習活動 | 関連する教科・領域 | 評価項目 (評価方法) |
|--------|------|-------------|-----------|---|------------------|---|
| 4 | | 問題の理解 | 3 | ・栗木鉄山について知り、興味をもったことについてインターネットや住田町史で調べる。 | 社会「わたしたちのくらしと国土」 | B4★好奇心・探求心 (チェックリスト) |
| | | 課題設定 | 1 | ・栗木鉄山について調べたことを交流し、その中からさらに自分が追究したいことを見つけ、課題を設定する。 ・栗木鉄山見学で何を知るためにどのような方法で解決するか、解決の道筋を立てる。 | | B1 ☆見通す力 (チェックリスト) |
| 5 6 | 栗木鉄山 | 情報収集 | 4 | ・栗木鉄山を見学し、ゲストティーチャーの説明を聞いたり疑問点を質問したりして自分の課題を解決する。 | 国語「きいてきいてきいてみよう」 | B2 ☆多面的・多角的に考える力 D1 ☆感じとる力 |
| | | 実施・改善 | 5 | ・これまでの学習を通して感じたことや考えたことが表れるよう、1グループ4人程度で新聞に表す。 ・新聞発表の原稿をつくり、グループごとに発表の練習をする。 | 国語「新聞を読もう」 | B3 ☆提案・発信する力 C1 ☆伝え合う力 C2 ☆協働する力 D2 ☆創出する力 |
| | | 振り返り まとめ | 1 (本時) | ・新聞を友達と交流し、栗木鉄山のすごさや発展した理由について考えたことを交流する。 | | A ◎地域理解 |

5 本時の指導

(1) 目標

作成した新聞を交流し合い、栗木鉄山について学んだことを振り返ることを通して、栗木鉄山のよさや発展した理由について考えることができる。

(2) 評価について

| みとる資質能力 | ○ (できた) | 支援を要する児童の手立て |
|---------|---|--|
| A 地域理解 | 栗木鉄山のすごさや発展した理由について考え、発表したり感想に書いたりしている。 | 栗木鉄山のすごさや発展した理由を見つけることができるように、縮小した新聞を用意し、該当する部分を一緒に確認し、線を引かせる。 |

(3) 本時の主な手立て

栗木鉄山についての理解を深める言語活動

栗木鉄山のすごさや発展した理由を伝え合う言語活動の工夫

- ・作成した新聞の交流から学んだことをふり返り、栗木鉄山のすごさや、なぜ栗木鉄山が発展したのかを考え、伝え合うことができるようにする。

(3) 展開

| | 学習活動・学習内容 | ・指導上の留意点 ◆評価 |
|------------|---|---|
| 導入 2分 | <p>1 前時の学習の想起</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真資料や作成した新聞をもとに、これまでの学習内容を想起する。 <p>2 学習課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成した新聞の内容を交流し合って、自分たちが学んだことをふり返り、栗木鉄山のすごさや、なぜ栗木鉄山が発展したのかを考える学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>新聞を発表し合い、栗木鉄山について調べたことを交流しよう。</p> </div> | <ul style="list-style-type: none"> ・栗木鉄山の写真や作成した新聞を提示し、学習してきた内容を想起できるようにする。 |
| 展開 33分 | <p>4 課題解決に向けての学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成した新聞を交流する。(1グループ2分程度) <p>5 学び合い・深める</p> <p>(1) 他のグループの発表を聞き、栗木鉄山のすごいと感じることについて交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの鉄を生産し、日本で生産量第4位になったことがすごい。 ・山の中に町をつくって生産に取り組んでいたことがすごい。 <p>(2) 栗木鉄山がなぜ発展したのかについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住田に水や森林が豊富にあったから。 ・原料となる鉄鉱石をとりの奥州市からかんたんに運んで来ることができたから。 | <ul style="list-style-type: none"> ・栗木鉄山のすごさを考えるとともに、なぜそのようなことができたのかを考えさせ、発展が、住田町の森林や水などの豊富な資源が支えられていたことを捉えることができるようにする。 |
| まとめ 10分 | <p>6 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時で学んだことをワークシートに記入する。 ・今後林業についてさらに詳しく学習していくことを確認する。 | <p>◆評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 栗木鉄山のすごさや発展した理由について考え、発表したりふり返りに書いたりしている。(発言・ワークシート) 栗木鉄山の発展を支えた森林が豊富にあること、また、林業日本一を目指す町であることを確認し、林業への学習意欲を引き出していく。 |

第6学年 地域創造学学習指導案

| | | |
|-----|---------------|------|
| 日時 | 令和2年11月10日(火) | 3校時 |
| 場所 | 第6学年 教室 | |
| 学級 | 第6学年 男8名 女12名 | 計20名 |
| 授業者 | 菊池 マキ | |

1 単元名 「我が町、再発見②」

2 単元について

(1) 学習材について

第6学年では、住田町が暮らしやすい町づくりのために行っている事業を題材として取り上げ、住田町ならではの取り組みを学習し、そのよさや課題について探究活動を行う。本単元では、その取り組みの中で「住田テレビ」に関わる取り組みに焦点をあて、探究活動を進めていく。

「住田テレビ」は、住田町が放送事業者となり、町内の出来事や行政情報を中心に情報を発信する町営のテレビ局である。平成20年4月に開局し、取材・撮影から編集・制作まで、遠野テレビの技術協力を受けながら、番組を放送している。番組を視聴するためには、住田町地域情報通信基盤施設への加入が必要であり、現在の加入率は98%となっている。地域の身近な話題を中心としながら、町民に親しまれる番組づくりを目指している。

本単元の導入部分では、「住田テレビ」の番組表から毎日放送されている番組内容について資料をもとに想起する。それをもとに番組づくりについて児童一人一人が調べる課題を設定し、調べる内容ごとにグループをつくって「住田テレビ」と人々の暮らしの関わりについて調べることができるようにする。次の段階では、実際に「住田テレビ」を見学し、番組の制作の様子や事業内容、働いている人々の思いや番組づくりの課題について探究できるようにしていく。

単元を進めるにあたっては、国語科の「発信しよう」の学習を関連付けながら、再発見した住田のよさを相手意識をもって発信する活動へとつなげ、横断的な学びを意識させながら学習を進めていく。

(2) 児童について

児童は第一小単元の「我が町、再発見」の学習で、住田町の暮らしやすいまちづくりについて、「農業」「子育て支援」「情報ネットワーク」「観光」の分野を中心にインターネット等で調べ、調査活動を行った。そして、さらに疑問に思ったことを役場の各課に質問し、理解を深めてきた。また、その結果をリーフレットにまとめ、身近な人に発信することなどを経験している。

本学級の児童は、住田のよさに目を向けてよく考え、意欲的に学習に取り組む児童が多い。調査活動においては、大事な部分のメモをとり、それをもとに文章にまとめることができる。しかし、自分の考えや思いを思ったように伝えることができずに、消極的な態度になってしまう児童の様子も見られる。また、児童のほとんどがスポ少に所属しており、普段テレビを視聴する時間が少ないことから、本単元で探究する「住田テレビ」でどんな番組を放送しているか把握していない現状が見られる。そこで、学習課題の解決に向けての他者との対話や交流を大切にし、そこで得た情報をもとに自信をもって主体的に課題解決に取り組むことができるようにしていきたい。

(3) 指導にあたって

本校では、地域創造学において、主体的・対話的・探究的な学びを通して「地域に愛着をもち、進んで地域に関わる児童の育成」を目指している。

主体的に学ぶことができるようにするために、調べたことを「誰に発信・提案するのか」という単元のゴールを明確にし、「学習の見通し」をもって、児童一人一人が主体的に活動できるような手だてを組んでい

く。また、学習のまとめりごとの「振り返り」では、単位時間に関わる資質能力を確認し、自己評価ができるようにする。さらに、根拠を明らかにしながら自分の思いを振り返る時間を設ける

対話的な学びを深めることができるように、活動に応じた形態で、互いの立場や意図を明確にして、意見交換する言語活動に取り組む。その際、国語で学習した意見交換の仕方などを積極的に取り入れていく。

探究的な学びとしては、学習計画に基づき学習活動や調査内容を確認しながら探究活動に取り組み、思いや価値に迫ることができるようにする。調べるだけでなく、調べて分かったことや考えたことから取り組みの意味や意義についても考えることができるようにしていきたい。また、調査のまとめや交流による気づきについて、掲示の工夫を行い児童自身が学習の深まりを感じることができるようにしていく。

3 単元の目標と評価規準

| | | |
|--------|---------------|---|
| 社会的実践力 | 【地域理解】 | ・住田テレビの番組づくりについて探究する活動を通して、地域のよさを知り、積極的に関わることができる。 |
| | 【社会参画に関する力】 | ・住田テレビの番組づくりの取り組みについて、その内容やよさを理解し、探究した内容をよりよい社会づくりと関わらせながら発信することができる。 |
| | 【人間関係形成に関する力】 | ・課題解決に向けて、住田テレビの番組づくりに関わる人との対話やグループでの伝え合いをし、協力して探究活動を行うことができる。 |
| | 【自律的活動に関する力】 | ・住田テレビの番組づくりに関心をもって学び、自らの取り組みを振り返り調整しながら主体的に探究することができる。 |

| 観点 | | 評価規準 | | |
|----|-------------------------|-----------------|---------------------------------------|--|
| A | ◎地域理解 | 【地理】 | ・住田テレビの番組づくりについて、そのよさに気づきながら理解を深めている。 | |
| B | 社会参画に関する資質能力 | 1 ☆見通す力 | 【☆見】 | ・住田テレビの番組づくりの取り組みやそのよさについて、探究活動の見通しをもって計画を立てている。 |
| | | 2 ☆多面的・多角的に考える力 | 【☆多】 | ・住田テレビのよさや働きについて、番組制作の様子や視聴者側の捉えと関連させて考えている。 |
| | | 3 ☆提案・発信する力 | 【☆提】 | ・住田テレビの番組づくりの取り組みのよさについて、自分の思いがそれぞれ伝わるように、表現を工夫して発信している。 |
| | | 4 ★好奇心・探求心 | 【★好】 | ・住田テレビの番組づくりについて興味・関心をもち、関わる人々に積極的に関わりながら探究している。 |
| | | 5 ★困難を解決しようとする心 | 【★解】 | ・住田テレビの番組づくりの取り組みについて、粘り強く探究している。 |
| C | 人間関係形成に関する力 | 1 ☆伝え合う力 | 【☆伝】 | ・住田テレビの番組づくりの取り組みについての自分の考えを明確にもち、資料などを活用して互いに伝え合っている。 |
| | | 2 ☆協働する力 | 【☆協】 | ・住田テレビの番組づくりの取り組みのよさや役割について、友達と検討を重ねて協力しながら調べている。 |
| | | 3 ★他者受容 | 【★受】 | ・友達や番組づくりに携わる人々の思いに気づき、相手の思いを大切にしている。 |
| D | 力 動 自 律 的 活 動 関 関 する する | 1 ☆感じとる力 | 【☆感】 | ・住田テレビの番組づくりについて、学習を振り返り、調整しながら探究活動を進めている。 |
| | | 2 ☆創出する力 | 【☆創】 | ・住田テレビの番組づくりの取り組みのよさや役割を価値付け、そのよさを自分なりの方法で表現している。 |

| | | |
|---------|------|--|
| 3★自己肯定感 | 【★肯】 | ・住田テレビのよさや働きについて探究し、深く理解することができたことに自信を深めている。 |
|---------|------|--|

4 単元の指導（本時 第13時／全22時間）

| 月 | プロセス | 時 | 活動内容と学習活動 | 関連する 教科・領域 | 評価項目 (評価方法) |
|---------|----------------|-----------|---|---------------------------------|--|
| 9 | 現状把握 問題の理解・ | 2 | ○「住田テレビ」の取り組みについて、知っていることを話し合う。 ・「住田テレビ」の概要や番組について調べる。 ・「住田テレビ」の番組づくりについて、調べてみたいことを考え、話し合う。 | | B1☆見通す力 |
| 9 10 | 付き・ 課題への気 | 3 | ○「住田テレビ」について調べる内容と調べる方法を考える。 ・「住田テレビ」を見学する計画を立てる。 ・質問事項をまとめる。 | 【国語】 | B1☆見通す力 B4★好奇心・探究心 |
| 10 | 情報収集 | 4 | ○「住田テレビ」の番組づくりの様子を調べる。 ・「住田テレビ」を見学し、番組づくりの様子を調べる。 ・「住田テレビ」の方に、番組制作に関わる話を聞く。 ・「住田テレビ」の今後の番組づくりについて調べる。 | | B4★好奇心・探究心 B5★困難を解決しようとする力 |
| | | 1 | ○住田町の人々は、「住田テレビ」についてどう思っているのかを調べる。 ・家庭や地域の人へのインタビューから分かったことをまとめる。 | | C3★他者受容 |
| 11 | 実施・改善 | 2 | ○見学したことをもとに、「住田テレビ」の取り組みについて分かったことをまとめる。 ・必要な内容を分類したり、情報を整理したりする。 | | C1☆伝え合う力 D2☆創出する力 |
| | | 1 (本時) | ○「住田テレビ」の取り組みで、分かったことを整理し、そのよさを考える。 ・番組づくりの製作過程から気付いた取り組みのよさを考える。 ・友だちの意見を聞き、取り組みのよさを多面的に捉え、自分の思いを広げる。 ・「住田テレビ」に携わっている方の思いや自分たちにとってどんな存在なのかを考える。 | | C1☆伝え合う力 (発言・ワークシート) B2☆多面的・多角的に考える力 |
| 12 | | 6 | ○発表する相手を意識したまとめ方や発表方法を考えるとともに、発表資料にまとめ、発表会を行う。 ・「住田テレビ」の取り組みについてまとめ、発信する準備をする。 ・リハーサルを行い、発表内容について検討する。 ・修正を加えて、発表会を行う。 | 【国語】 調べた情報の使い方 日本文化を発信しよう | B3☆提案・発信する力 C1☆伝え合う力 C2☆協働する力 |
| 12 | 振り返り まとめ・ | 3 | ○「住田テレビ」の探究活動を通して、感じたことや考えたことを交流する。 ・自分の生き方と関わらせながら、単元のまとめをする。 | | A◎地域理解 D3★自己肯定感 D1感じとる力 |

5 本時の指導

(1) 目標

『住田テレビ』の番組づくりの取り組みや関わる人々の思いを捉え、そのよさについて考えることができる。

(2) 具体の評価規準

| | ◎ | ○ | 支援を要する児童の手立て |
|------------------|--|---|---|
| B 好奇心・探 求心 | 住田テレビの取り組みをこれまでの学習を根拠に多面的に捉えたり、記述したりして考え、そのよさについて考え、価値付けている。 | 住田テレビの取り組みをもとに、そのよさについて多面的に考え発言したり、記述したりしている。 | 教師との対話や友だちの考えをもとに、住田テレビが放送する理由について考えることができるようにする。 |

(3) 本時の主な手立て

地域における「住田テレビ」の意義について根拠と共に考える言語活動の工夫

- ・見学した内容を資料とともに振り返ることを通して、住田テレビの取り組みのよさや価値について、自分なりの考えをもつことができるようにする。

(4) 展開

| | 学習内容・学習活動 | ・指導上の留意点 ◆評価 |
|-------------------|--|--|
| 導 入 10 分 | 1 前時の活動の想起 ・住田テレビについて調べたことをふり返り、探究してきた「住田テレビ」の事業内容について想起する。 2 学習課題の設定 ・前時までの調査活動をふり返り、気付いたことや疑問に思ったこと等から課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 住田テレビの番組づくりの取り組みは、住田町民にとってどのようなよさがあるのだろう。 </div> | ・指導上の留意点 ◆評価 ・番組製作に関わる写真を提示し、前時までに調べた内容を想起できるようにする。 ・住田テレビの取り組み内容にもとづき、取り組みのよさを見出すことを確認する。 |
| 展 開 | 3 課題解決に向けての学び (1) 前時までの学習を整理する。 ・番組づくりの取り組み内容とその製作に関わる人々の努力や工夫について考え、整理する。 (2) 整理した内容から、各自で製作者側の思いについて考える。 ・考えの根拠を明確にする。 | ・番組づくりの様子だけでなく、それぞれの過程で気付いた工夫なども発表することで、製作者側の思いを捉えられるようにする。 |

| | | |
|-----------------------------------|--|---|
| <p>展開 25分</p> | <p>4 全体で学び合い、深める (2) 全体で住田テレビに関わる人々の思いについて自分の考えを 発表し合い、交流する。 予想される児童の考え)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住田町の生活に関わる新しい情報を早く、正確に伝えたいという 思いで番組をつくっていると思う。毎週2回収録をしたり、 「町からのお知らせや慶弔のお知らせ」を制作して、新しい情 報を放送していることが分かったから。 ・住民に安全・安心に暮らしてもらいたいという思い。災害時 には、役場と協力して災害の様子を撮影し、避難場所などの情 報を緊急放送で流しているから。 <p>5 調査内容をもとに、住田テレビは自分たちにとってどんなものか を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の情報を知らせてくれる。 ・生活を楽しくしてくれる。 ・地域の人々の安心・安全な暮らしを支えている。 ・命を守ってくれている。 ・暮らしを支えている。 ・なくてはならないもの。 ・生活する上でないと困るもの。 | <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの調べたことから根 拠を明確にし、考えるように する。 ・自分の考えを発表したり、友 だちの考えを聞いたりする ことで、住田テレビの取り組 みのよさを多面的に捉えるこ とができるようにする。 <p>◆住田テレビの取り組みをこ れまでの学習を根拠に多面的 に捉えたり、記述したりして考 え、そのよさについて考え、価 値付けている。 (発言・ワークシート)</p> |
| <p>ま と め 10 分</p> | <p>6 学習の振り返り ・本時の振り返りをする。</p> <p>7 次時の学習内容の確認</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習について振り返り を行う。 (ふり返りの観点 B-2) ・次時は、探究活動を通して分 かったことを製作者側の思 いや自分の考えを踏まえて、 発信していくことを確認す る。 |

令和2年度

校内研究のまとめ

研究主題

よりよく伝え合い、深く学び合う児童の育成
～多様な考えを生かす言語活動を通して～



住田町立有住小学校

1 研究主題

よりよく伝え合い，深く学び合う児童の育成
～多様な考えを生かす言語活動を通して～

2 主題設定の理由

(1) 本町の地域創造学の目指す姿から

本町は，文部科学省の研究開発学校の指定を受け，自立して生き抜く力を身に付け，他と協働してより豊かな人生や地域づくりを主体的に創造することができる人材の育成を目指し，小学校から高等学校までが一貫して新設教科「地域創造学」を実施するために，12年間の教育課程と指導方法，評価方法等の開発を行う。

町の9割を山林が占め，自然豊かな環境にある住田町は，製鉄のような森林資源とのつながりや，砂金採取のような気仙川とのつながりなど地域特有の資源を生かし，先人たちが苦難を重ねながら発展してきた歴史がある。私達は，その魅力ある地域素材を生かし，学習できる恵まれた環境にある。

住田町の「ひと・もの・こと」に関わり，自らが暮らす地域に愛着をもつことは，地域の課題に対して自分事として目を向け，主体的に考えるきっかけとなる。

地域の環境や課題を学習材にし，学習者が，体験活動を通じて地域づくりを実際に行う「主体者」として考え，伝え合い，学び合いながら，提案・発信しようとする経験を積むことは，将来社会を創造しようとする際の重要な力につながると考える。

(2) 本校児童の実態から

本校の児童は，これまで，住田ならではの地域素材を生かし，自然の偉大さや美しさ，不思議さに感動しながら，楽しんで学習してきた。それらの学習活動の中で，与えられた課題に真面目に取り組み，アドバイスを素直に受け入れて課題解決に向かおうとする前向きな姿が見られる。しかし，その反面，自ら課題を見出し，思いや願いの実現や解決に向けて粘り強く追求することが難しいという実態が浮かび上がっていた。また，自分が経験したり，体得したりした事を他者に伝えたいという思いはあるものの，伝えたい対象を明確にし，伝えたい事柄を適切な方法やよりよい表現を選んで伝える力が十分に身に付いていないという実態が見られた。そのため，昨年度は，自ら思いをもち，主体的にかかわる児童を育成するために，単元や授業の導入と振り返りの工夫を重点にして取り組んできた。その結果，児童が自分の思いをもって探究活動に取り組んだり，友達や地域の人とのかかわりから新たな気づきを得て今まで日常的に接してきたものの意味や価値を改めて考えたり，見つめ直したりしたことから，学習の面白さや学習を通して身に付けた力を実感できるようになってきているところである。

今年度は，昨年度までの研究を土台としながら更に児童の思いや願いを大切に，児童自身が主体となって学びを進めることができるよう，それらの基礎となる言語活動の充実に焦点を当てて研究を進めたいと考え，本主題を設定した。

尚，本校では地域創造学を「創造」とし，教育課程に位置付けることとする。

3 研究の目標

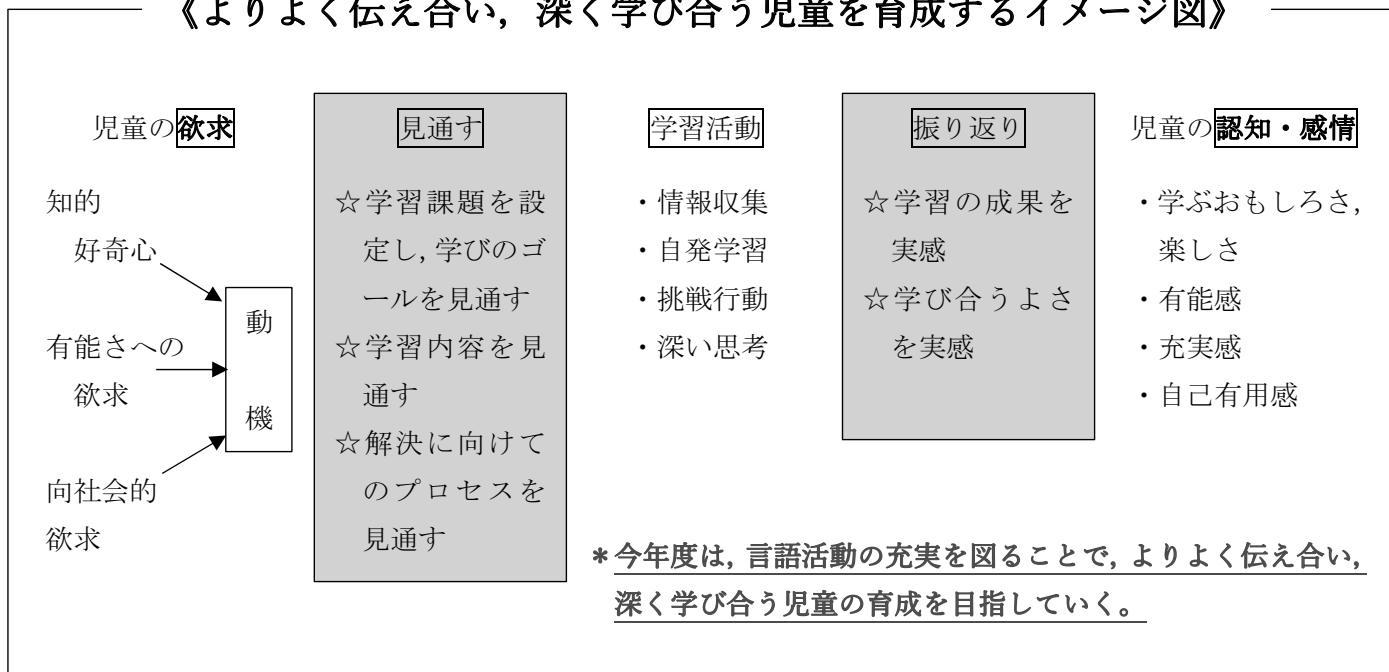
よりよく伝え合い、深く学び合う児童を育成していくために、どのような学習指導をしていけばよいか検証するため、学習過程に多様な考えを生かす言語活動を位置付け、主に地域創造学の授業実践やその分析、授業交流と児童アンケートの分析を通して明らかにする。

4 研究に対する基本的な考え（主題について）

住田町では、めざす子どもの姿を、自ら主体的に未来の社会を創造していくことのできる力「社会的実践力」を身に付けた姿として、研究開発を行っている。社会的実践力は、「A地域理解」「B社会参画に関する資質・能力」「C人間関係形成に関する資質・能力」「D自律的活動に関する資質・能力」の4つを統合した力であり、この力の育成を、小学校、中学校、高等学校が共通して段階的に目指し、12年間の育ちを見通した教育の在り方を考え、実践を進める。4つの力を統合した社会的実践力を身に付けた姿として、次のような態度に表れることを目指していく。

- ①体験活動を通じて、地域づくりを主体的に目指す態度
 - ②他と協働するために積極的コミュニケーションを図る態度
 - ③郷土を愛し、持続可能な社会を創造しようとする態度
- （住田研究開発グランドデザインより）

《よりよく伝え合い、深く学び合う児童を育成するイメージ図》



本校では、昨年度までの反省を受け、児童が様々な関わり合いの中で主体的に学んだことや習得したことを自身が理解するにとどめるだけでなく、他者に分かりやすく伝えることや伝え合うことで学びを深め、自分や集団の考えを発展させることを目指している。そのためには、発達段階に応じた言語活動を充実させていくことやその基となる児童一人一人が考えをもつための工夫が必要であると考えます。

5 よりよく伝え合い、深く学び合う児童を育成するための方途（副題について）

地域創造学は、様々な他者との協働的な取組の中で学習が展開され、各教科等における見方・考え方も最大限に働かせながら学習課題を追究していく。様々な他者と相互の考えを理解し合いながら学習を進めるためには、発達段階を踏まえた各ステージでの充実した言語活動が必要であり、具体的には、他者と伝え合ったり協力したりする場面、多面的・多角的に考える場面や提案・発信する場面、学習の振り返りや自己の在り方を見つめる場面等が挙げられる。

これらの場面では、児童に事実を正確に理解して他者に分かりやすく伝えることや伝え合うことで自分や集団の考えを発展させること等を意識して取り組ませたい。このことにより、多面的・多角的に考える力や協働する力、創出する力、他者受容の姿勢等が身に付いていくことが期待される。

教師が児童に意識させたい言語活動の在り方を、次の5点にまとめることができる。

- 情報を正確に取り出し、目的や意図に応じて事実等を整理できること。
- 事実等を自分の知識や経験等と結び付けて解釈し、自分の考えをもつこと。
- 意見と根拠、原因と結果等の関係を意識し、表現を工夫しながら、相手に伝えること。
- 様々な考えの異同（根拠や条件等）を整理し、自分や集団の考えを発展させること。
- 相手の思いや考えを理解・尊重し、状況に応じて的確に反応できること。

第1ステージでは、身近な「ひと・もの・こと」に焦点を当てた社会を「知る・分かる・親しむ」体験活動を多く実施し、そこで気付いたこと、感じたことを表現し合う学習活動が想定される。特に、保育園児や低学年児童は、家庭環境等による生活経験に差があることから共通の学習基盤を作る必要があり、意図的に学習対象に出合わせ、交流させることが必要である。

第2ステージでは、前ステージの成果を生かしながらより踏み込んだ言語活動に取り組ませたい。例えば、体験等の前には十分な情報収集を行い、視点に沿ってまとめたり、既習事項やこれまでの生活経験等を交流しながら予想等を立てたり、体験等の後には気付きや現時点での考えを交流したり、予想の検証を行って新たな考えを構築したりして、学習課題のゴールに向かわせたい。

第3ステージでは、これまでの学習の成果を生かしながら発表の仕方を意識した言語活動に取り組ませたい。特に、互いの立場や意図をはっきりさせ、資料を活用したり、根拠を明確にしたりして相手に伝わるように表現を工夫させたい。

このように、各ステージに応じて児童が思考したことを言語化し、発表・意見交換といった交流を組み合わせながら相互に共有したり、深めたり、支援したりすることができる。言語活動を通して自分の発表に対して他者からコメントをもらうことは、相手に自分の伝えたいことが伝わっているのか、自分の考え方は妥当なのかなど、客観的な評価を得ることにもなるため、学習の方向性を確かなものにし、自分の考えを修正し、深めたりしていく機会になる。

あわせて、支持的学習集団の風土のもと、学習対象に対して共感的な理解を示し、関心をもち続ける姿勢や自分がどのように関わっていけばよいか考え続ける姿勢も、言語活動の充実を支える重要な要素である。

各ステージで取り組ませたい言語活動は、次の表にまとめられる。

| ステージ | 各ステージで位置付けたい効果的な言語活動 |
|------|--|
| 第1 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 主語と述語を明確にして、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。 ○ 比較の視点（大きさ、色、形、位置等）を明確にして表現すること。 ○ 自分の経験と結び付けたり、判断と理由の関係を明確にしたりして表現すること。 ○ 話題に沿って話合うこと、互いの良いところを見つけて感想を伝え合うこと。 |
| 第2 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 考えの共通点や相違点を整理し、話合うこと。 ○ 判断と根拠、原因と結果の関係を明確にして表現すること。 ○ 「例えば」「もし」等の条件文を使用して表現すること。 ○ 学んだ専門用語や概念を活用して、表現すること。 |
| 第3 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 演繹法や帰納法等の論理を用いて表現すること。 ○ 規則性や決まり等を用いて表現すること。 ○ 互いの立場や意図を明確にして、意見交換すること。 ○ 学習した内容について、方法等を吟味して表現すること。 |
| 第4 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 相手が納得できるように、相手を意識した説得力のある表現をすること。 ○ 相手の複数の質問にも、根拠を示しながら答えることができること。 |
| 第5 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 現代社会で必要とされる実用的文章の内容を理解し、自分の考えをもって表現すること。 ○ 現代社会でみられる問題等について、提言や根拠等を示しながら議論できること。 |

充実した言語活動が行われるためには、児童一人一人が自分の考えをもっていることが大前提となる。児童が相互の考え方を理解し、考えをもつことができるようにするため、思考ツールを活用するなどして意図的に思考する力を鍛えていく必要がある。

各ステージで取り組ませたい思考ツールは、次の表にまとめられる。

| ステージ | 各ステージで挑戦したい思考ツール（例） | |
|------|----------------------------------|-------------------|
| 第1 | ベン図 ブレインライティング ウェビング法 | ホワイトボードでの 整理分析 |
| 第2 | Yチャート Xチャート ビフォー・アフター KJ法 | |
| 第3 | メリット・デメリット ピラミッド・チャート SWOT分析 | |
| 第4 | 生徒が選択して活用する | |
| 第5 | 生徒が選択して活用する | |

6 研究の仮説

地域創造学の教育課程において、地域素材を題材とした学習活動を通して次の手立てを講ずれば、よりよく伝え合い、深く学び合う児童が育つであろう。

- ・多様な考えを生かす言語活動の工夫
- ・探究活動における思考ツールの工夫

7 研究の内容

- (1) 地域創造学の単元構成
- (2) 地域創造学の指導方法

8 研究の方法

- (1) 授業実践を通じた仮説の検証
- (2) 他校授業研究会への参加
- (3) 創造に関わっての児童アンケート

参考文献

- 「学習指導要領解説『地域創造学編』 住田町教育委員会
- 「平成31年度住田町学校教育運営計画 住田町教育研究所運営計画」住田町教育委員会
- 「平成31年度学校教育指導指針」岩手県教育委員会

9 研究日程

| | 月 日 | 曜 | 分 類 | 内 容 | 備 考 |
|----|-------|---|--------|---|--------|
| 1 | 4月 4日 | 土 | 全体研究会① | 経営計画について① | |
| 2 | 4月 8日 | 水 | 全体研究会② | 経営計画について② | |
| 3 | 4月10日 | 金 | 全体研究会③ | 経営計画について③ | |
| 4 | 4月16日 | 木 | 全体研究会④ | 校内研究会(授業交流) 3・4年 | |
| 5 | 5月 1日 | 金 | 町 | 教育研究所全体会 | |
| 6 | 5月 7日 | 木 | 全体研究会⑤ | 校内研究会 公開に関わって(授業者等決定) | |
| 7 | 5月21日 | 木 | 全体研究会⑥ | 校内研究会 6年 指導案検討会(A) | |
| 8 | 6月 4日 | 木 | 全体研究会⑦ | 校内研究会 公開に関わって(授業場面検討) | |
| 9 | 6月 8日 | 水 | 小中交流会 | 合同授業研究会 | |
| 10 | 6月18日 | 木 | 全体研究会⑧ | 校内研究会 6年 授業研究会(A) | 指導主事① |
| 11 | 7月 2日 | 木 | 全体研究会⑨ | 校内研究会 4年 公開単元構想(2S) | |
| 12 | 7月 9日 | 木 | 全体研究会⑩ | 校内研究会 5年 公開単元構想(3S) | |
| 13 | 7月29日 | 水 | 全体研究会⑪ | 校内研究会4・5年 公開単元構想(2S)(3S) | 地区一斉活動 |
| 14 | 7月31日 | 金 | 町 | 教育研究所研修会 | |
| 15 | 夏休み中 | | 個人作業 | 研究授業, プレ公開の指導案作成等 *1学期の実施の様子掲示づくり | |
| 16 | 8月18日 | 火 | 全体研究会⑫ | 校内研究会 公開に向けての確認 伝講会 4年 公開指導案検討会(2S) 5年 公開指導案検討会(3S) | |

| | | | | | |
|----|--------|---|--------|-----------------------------------|-------|
| 17 | 8月27日 | 木 | 全体研究会⑬ | 校内研究会 4年 公開指導案検討会 (2S) | |
| 18 | 9月 3日 | 木 | 全体研究会⑭ | 校内研究会 5年 公開指導案検討会 (3S) | |
| 19 | 9月10日 | 木 | 全体研究会⑮ | 校内研究会 | |
| 20 | 9月24日 | 木 | 全体研究会⑯ | 校内研究会 | |
| 21 | 9月30日 | 水 | 学校公開 | 4年次公開研究会 | |
| 22 | 10月 5日 | 月 | 小中交流会 | 合同授業研究会 | |
| 23 | 10月 8日 | 木 | 全体研究会⑰ | 校内研究会 公開反省 | |
| 24 | 10月15日 | 木 | 全体研究会⑱ | 校内研究会 2年 指導案研究会 (B) | |
| 25 | 10月29日 | 木 | 全体研究会⑲ | 校内研究会 1年 指導案検討会 (C) | |
| 26 | 11月12日 | 木 | 全体研究会⑳ | 校内研究会 2年 授業研究会 (B) | 指導主事② |
| 27 | 11月19日 | 木 | 全体研究会㉑ | 校内研究会 1年 授業研究会 (C) | 指導主事③ |
| 28 | 12月 3日 | 木 | 全体研究会㉒ | 校内研究会 研究のまとめ① | |
| 29 | 12月10日 | 木 | 全体研究会㉓ | 校内研究会 研究のまとめ② | |
| 30 | 冬休み中 | | 個人作業 | * 2学期の実施の様子掲示づくり * 実施授業の実践記録作成 | |
| 31 | 1月15日 | 金 | 全体研究会㉔ | 今年度の研究反省と来年度の方向性確認 | |
| 32 | 2月10日 | 水 | 全体研究会㉕ | CRT 分析 伝講 | |
| 33 | 2月16日 | 火 | 町 | 教育研究所全体会 | |
| 34 | 3月 4日 | 木 | 全体研究会㉖ | 来年度の研究について提案 | |
| 35 | 春休み中 | | 個人作業 | * 実施の様子掲示づくり | |

*本年度はコロナ禍ということもあり、予定を変更した部分が多かった。

10 成果○と課題◇ 考えていきたいこと☆

○4月に、オリエンテーションの場面を全職員で授業参観したことで、どのように進めていけばよいのかについて共通理解ができた。

○コロナ禍にありながらも、全学年研究授業を行ったことで、研究資料の蓄積や共通理解が図られた。

○各学年が学期ごとに学習の様子をまとめて掲示することにより、各学年の学習の様子を交流したり、児童が見通しをもって授業に取り組むことができたりした。

◇研究を進めていく中で、単元計画の修正が必要であると思われるところが出てきた。単元計画は、町全体のものであるためすぐに修正というわけにはいかないが、単元計画の大改訂に向けての意見をまとめていかなければならない。

◇研究資料の蓄積の仕方を工夫していきたい。

☆来年度は、今年度の研究内容に加え、地域の人材や資源活用の在り方についても深めていけるとよい。

☆ゲストティーチャーの活用に関わり、ゲストティーチャー自身に地域創造学について理解してもらうための取り組みが必要と感じた。そのために、町で地域創造学についてわかりやすくまとめたパンフレットなどを作成していただきたい。

よりよく伝え合い，深く学び合う児童の育成
～多様な考えを生かす言語活動を通して～

- 1 研究主題，主題設定の仕方等について
 - ・昨年度のレベルアップを図っており，段階を踏んでいてよかった。
 - ・児童の実態をもとにしていてよかった。

- 2 仮説について
 - ・「多様な考えを生かす言語活動」という文言については，町指導要領「各ステージで位置付けたい効果的な言語活動」を参考に，具体的なもの（実践例等）を持ち寄り，より具体化していきたい。

- 3 研究の内容について
 - (1) 地域創造学の単元構成
 - ・単元が世田米小学校と有住小学校で違いすぎるのではないか。
 - ・世田米小学校6年生の住田テレビの単元は，社会の発展と捉えられなくもないが，ねらいはどうなっているのか知りたい。
 - ・世田米小学校と有住小学校の交流は必須である。
 - ・各学年ともやるが多すぎる。内容を減らすべき。
 - ・生活科ベースの1・2年生の単元の見直しの方針を示してほしい。

 - (2) 地域創造学の指導方法
 - ・「学習指導要領解説『地域創造学編』」をよりどころとして，共通理解のもと，指導方法の改善を行っていく。

- 4 研究の方法について
 - (1) 授業実践を通じた仮説の検証
 - ・各ステージに適した思考ツールの使い方とツールの活用による思考の深まり等を更に検証していく必要がある。

 - (2) 他校授業研への参加
 - ・本校はたくさん参加していると思う。
 - ・研究授業の場面は，発表会場面以外が適しているのではないか。（指導過程が見えるように）
 - ・研究授業では，他教科ではなく，創造の授業を行ったほうがよい。（関連があるとしても）

(3) 創造に関わっての児童アンケート

- ・本校独自のアンケートを作成・集計し、活用している。
- ・アンケートが始まり2年たったが、児童の変容などをしっかりと見取りながら、今後の研究に生かしていきたい。
- ・アンケート内容については、精査していく。

5 研究日程について

- ・学校行事日程が変更になる中、その都度しっかりと対応できた。
- ・今年度程度を予定

6 校内研の持ち方について

- ・本年度と同じく、必要な場合はイレギュラーでも随時校内研を持つ。

7 校内の研究に関わる掲示について

- ・各学年が作ったものを、随時掲示・提示できるよう工夫していきたい。(ホール等)
- ・学力向上については、各学年のノート(家庭学習)掲示コーナーを作ることができてよかった。

8 来年度の研究の方向性について(現職教育を含め)

- ・ゲストティーチャーや、異学年交流、他校との連携などについても研究を深めていけたらいいと思う。

9 その他(町や各部会への提案, 確認など, 様々お書きください。)

- ・創造, 行事の様子を住田テレビ・東海新報等に連絡して撮影・記事化してもらおうとよいのではないか。
(記録・宣伝・子どもたちの満足感・充実感のため)
- ・町で整えるべきもの(指導要領, 資質能力系統表, 単元計画等)をしっかりと整えてほしい。

第1学年 地域創造学学習指導案

日 時 令和2年11月19日(木) 5校時

場 所 1年教室

学 級 第1学年8名

授業者 菅原 久里子 サポート 熊谷 みなみ

1 単元名 「たのしいな あきのすみた ～②あきのおもちやでたのしもう～」

2 単元について

(1) 題材について

本単元は、まず、住田町の名所である種山高原に行き、秋探しをする。事前に、昨年度種山学習を経験している2年生から種山学習の楽しさや約束などについて教えてもらったり、アドバイスをもらったりする。そして、2年生とグループを作って自然に親しむ活動を十分に行い、秋の種山の楽しさを味わう。種山学習では、種山について詳しいゲストティーチャーを招き、木や木の実の名前、自然と触れ合う中で気を付けてほしいことなどを教えてもらう。そして、種山で見つけた木や木の実が、自分たちの学校の周りや近くの山にもないか調べてみる。さらに、拾ってきた秋の木の実や葉、枝などを使って簡単なおもちやを作り、友達と一緒に遊ぶ活動を計画する。また、自分たちが年長児のとき、現在の2年生に招待されておもちやで遊んだことを思い起こさせ、年長児を楽しませる計画を立てる。今年はコロナ禍で直接交流は難しいが、ハロウィン交流で行ったビデオメッセージを想起させ、できる範囲で喜んでもらえる活動を計画させ、交流する。

これらの活動を通して、地域の自然の楽しさやよさに気付く力、友達や地域の人たちと楽しく関わる力、困ったことがあっても周りの人に相談したり、助け合ったりして最後までやり遂げる力を育てていきたい。

(2) 児童について

児童は、これまで、学校探検をしたり、アサガオやヒマワリ、いろいろな野菜などの世話や観察をしたりしてきた。また、学校の周りや通学路で草花や生き物を探し、それらで遊びながら季節と触れ合ってきた。特にも、アサガオの世話や観察では、小さな変化にもよく気が付いて成長を喜び、植物に対する関心の高さが窺えた。また、有住小学校独自単元「ハロウィンでつながろう」では、6年生から教わったことを基に、保育園児にもハロウィンを楽しんでもらおうと、ビデオメッセージとプレゼントを贈る活動を行った。

地域創造学については、1学期のアンケートで8人中7人が地域創造学を好き、1人がどちらかといえば好き、と回答している。その理由としては「探検が楽しいから」や「いろいろなことがわかるから」などが挙げられていた。このことから、児童が、楽しみながら分かる喜びを感じていることが分かる。しかし、自分の考えを発表することや説明することに関しては消極的な様子が見られるため、発表に自信がもてるように声がけをしたり、友達同士で励まし合う活動を行ったりしてきた。その結果、徐々に、自分の考えを最後まで話すことができるようになってきた。伝え合うということに関しては、「～さんと同じで」「～さんと違って」と話しながら、自分の考えを話す話し方に徐々に慣れてきたところである。しかし、最後までしっかりと聞くことがまだ不十分であるので、聞くときは話す人が何を話そうとしているのか分かろうとして聞くことや、自分の考えと比べながら聞くことを意識するよう指導している。

(3) 指導にあたって

本単元では、種山や近くの山で拾ってきた木の実などを使って、友達や年長児と遊べるおもちやを作り、みんなが楽しむための計画を立てる。その際、常に相手意識をもたせ、活動を振り返らせながら学習を進め

ていきたい。また、友達から作り方を学んだり、アドバイスをもらったりするなど、協力して活動することを通して、友達よさを見付けさせたり、一緒に活動する楽しさを実感させたりしたい。そして、この楽しさを園児と共有できないかということを考え、園児との交流計画を立てる。その際、昨年度交流した時のビデオを見て楽しかったことを思い出させ、ぜひ交流したいという意識をもたせるとともに、コロナ禍である現状でもできる交流の持ち方について考えさせる。それから、まず、児童のモチベーションを上げるため、看板や飾り、ご褒美作りをさせる。次に、具体的におもちゃを提示して考えさせ、遊び方や製作物の見直しをさせ、改良させる。どちらも、自分たちが直接遊び方を教えられないことを念頭に置き、園児が遊びやすいように工夫させる。そして、ハロウィン交流で行ったビデオ撮影の経験を基に、園児に向けてのビデオ撮影を行う。今回はビデオを見てもらうだけでなく、実際に園児に自分たちの作ったおもちゃで遊んでもらうことになる。直接交流ができない今回は、園児が楽しく遊べるような雰囲気作りも含めたメッセージが求められる。そこで、本時は、児童会行事やハロウィンでみんなにいろいろなことを楽しく伝えてくれた6年生にアドバイスをもらい、自分たちのビデオメッセージを、より分かりやすく、楽しいものにするよう改善を図り、新たにビデオメッセージを収録する。園児が遊んでいる時間は、自分たちも園児の様子を思い浮かべながらプレゼントづくりを行い、時間を共有する。最後に、園児からの感想や自分たちの感想から単元の振り返りを行う。

これらの活動を通して、このような楽しい活動を行うことができたのは、住田の素晴らしい自然と人と人とのつながりのおかげであることに気付かせ、住田の自然のよさ、友達と関わることの楽しさや友達と協力し合うことのよさを実感させたい。また、直接交流できないという困難を乗り越え、園児と思いを共有できたことから自己肯定感をもたせ、次単元の「できるようになったよ」、2年時での1年生との交流へとつなげていきたい。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

| | 資質能力の分類 | 資質能力別の目標 |
|--------|-------------------|---|
| 社会的実践力 | A【地域理解】 | ○学校周辺や種山の自然に触れたり、地域の人と活動したり、交流したりして、その楽しさ、よさに気付くことができる。 |
| | B【社会参画に関する資質能力】 | ○地域の自然の楽しさ、よさに気づき、絵や言葉で表すことができる。 |
| | C【人間関係形成に関する資質能力】 | ○友達と協力して活動し、友達や地域の人たちと楽しく関わるができる。 |
| | D【自立的活動に関する資質能力】 | ○地域の自然に関心を持ち、創作活動を通して、発想したり創意工夫したりすることを楽しむことができる。 |

(2) 評価規準

| 資質能力 | | 評価規準 |
|--------------------|-----------------|--|
| A | ◎地域理解 | 【◎地】 ・学校周辺や種山の自然に触れたり、地域の人と活動したり交流したりして、その楽しさ、よさに気付いている。 |
| B 資質能力 社会参画に | 1 ☆見通す力 | 【☆見】 ・様々な体験活動の中から「楽しい」をたくさん見付けたいという気持ちを持ち、話し合いながら活動の計画を立てている。 |
| | 2 ☆多角的・多面的に考える力 | 【☆多】 ・様々な体験活動の中で、自分なりの「楽しい」を見付け、その理由を考えている。 |
| | 3 ☆提案・発信する力 | 【☆提】 ・様々な体験活動の中で見付けた「楽しい」について、絵や言葉などで表している。 |

| | | | | |
|------------------------|---|---------------|------|--|
| 関する | 4 | ★好奇心・探究心 | 【★好】 | ・様々な体験活動に興味・関心をもち、積極的に関わっている。 |
| | 5 | ★困難を解決しようとする心 | 【★解】 | ・体験活動の中で困ったことがあっても、周りの人に相談したり助け合ったりしながら、最後までやり遂げている。 |
| C 人間形成に 関する資質能 | 1 | ☆伝え合う力 | 【☆伝】 | ・自分の思ったことを伝えたり、友達の思ったことを聞いたりしている。 |
| | 2 | ☆協働する力 | 【☆協】 | ・身近な人々と交流しながら、力を合わせて取り組んでいる。 |
| | 3 | ★他者受容 | 【★受】 | ・友達と楽しく活動を積み重ねることで、友達の考えを知ろうとしている。 |
| D 自律的活動に 関する資質能力 | 1 | ☆感じ取る力 | 【☆感】 | ・地域の自然と自分の生活とのつながりに気付いている。 |
| | 2 | ☆創出する力 | 【☆創】 | ・感じたことや考えたことをもとに、発想したり創意工夫したりすることを楽しんで活動している。 |
| | 3 | ★自己肯定感 | 【★肯】 | ・自分でできるようになったことが増えて喜びを感じ、前向きに過ごそうとしている。 |

4 単元の指導・評価計画（本時 第23時／全28時間）

| 月 | 小単元名 | プロセス | 時 | 主な学習活動と思考ツール | 関連する 教科・領域 | 評価項目 (評価方法) |
|-------------|-----------|-------------|--|---|---|---|
| 9 | ①あきをみつけよう | 課題設定 | 1 | ・保育園のときの種山での自然体験を、スライドを見ながら振り返り、これからの活動について話し合う。 | | ・B1 ☆見通す力 (チェックリスト) |
| | | 計画する・見直しをもつ | 2 | ・種山学習での活動内容を知り、きまりや約束について2年生からアドバイスをもらう。 ・2年生とのグループを作り、グループのめあてなどを話し合っ決めて。 | | ・B1 ☆見通す力 (チェックリスト) ・C1 ☆伝え合う力 (チェックリスト) |
| | | 情報収集・実施・改善・ | 2 | ・種山学習で、初秋の草花や樹木、虫などの動植物を観察したり、木の実などを集めたり、ネイチャーゲームを楽しんだりする。 | | ・B4 ★好奇心・探究心 (振り返り) ・C2 ☆協働する力 (チェックリスト) |
| 振り返り・まとめ・ | | 2 | ・種山学習で体験したことを紹介し合い、楽しかったことや気付いたことを発表し、カードに記録する。(短冊・KJ法) ・お世話になった人(森の案内人・2年生)に、お礼の手紙を書く。 | | ・A ◎地域理解 (チェックリスト) ・B3 ☆提案・発信する力 (チェックリスト) | |
| 情報収集・実施・改善・ | | 2 | ・種山で見つけた秋(木の葉や実など)が学校の周りにもないか、秋探しをする。 ・学校の周りや近くの山(上有住城跡公園)の木の名前を調べたり、木の葉や実などを集めたりする。 | | ・B4 ★好奇心・探究心 (振り返り) ・C2 ☆協働する力 (チェックリスト) | |
| まとめ・振り返り | | 2 | ・学校の周りや近くの山(上有住城跡公園)で見つけた秋について、楽しかったこと、気付いたことを発表し、カードに記録する。 (短冊・KJ法) ・道徳の学習と関連付けながら秋探しの活動を思い出し、自分たちの住んでいる町のことについて振り返る。 | 【国語】 「しらせたいな、見せたいな」「まちがいをなおそう」「かん字のはなし」 【道徳】 伝統文化の尊重・国や郷土を愛する態度 | ・C1 ☆伝え合う力 (チェックリスト) ・B3 ☆提案・発信する力 (ルーブリック) ・A ◎地域理解 (チェックリスト) | |
| 10 11 | | 情報収集・実施・改善・ | 6 | ・種山で拾ってきた木の実などを使って何をしたいか話し合う。① ・拾ってきた木の実などで、アサガオリースに飾りをつける。① ・友達や園児(年長児)と遊べるおもちゃや楽器など、作りたいものを考え、製作する。③ ・みんなで作ったおもちゃで遊ぶ。① | 【図工】 「いっぱいつかってなにしよう」 | ・B4 ☆好奇心・探究心 (振り返り) ・D2 ☆創出する力 (チェックリスト) |

| | | | | | | |
|-------|-----------------|----------------|----------|---|-------------------|--|
| 10・11 | ② あきのおもちゃでたのしもう | 計画する・見直しをもつ | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の保育園との交流ビデオを見て、今年の会をどうするか考える。①（座標軸） ・看板やごほうびなどを制作する① ・遊び方や制作物の見直しや改良を行う。② | | <ul style="list-style-type: none"> ・B1 見通す力 ・C5 ★困難を解決する力 ・C1 ☆伝え合う力 ・C3 ★他者受容（ルーブリック） |
| | | | 2（本時2/2） | <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いをもとに、ビデオメッセージの内容を決め、練習して録画する。 ・6年生からのアドバイスをもとに、ペアで話し合い、よりよい伝え方について話し合う。 | 【国語】 「じどう車くらべ」 | <ul style="list-style-type: none"> ・D2 ☆創出する力（チェックリスト） ・C1 伝え合う力 ・C1 他者受容（チェックリスト） |
| | | 情報収集 実施・改善・ | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイスをもとに改善したビデオメッセージを録画する。 ・園児の遊んでいる姿を想像しながら、プレゼントを製作する。 ・おもちゃランドの取り組みについて振り返る。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・B3 ☆提案・発信する力（チェックリスト） ・D3 ★自己肯定感（振り返りの記述） |
| | | 振り返り・まとめ・ | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・楽しかったことをカードに記録する。 ・これまでの活動を振り返り、住田の「楽しい」について確かめる。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・A ◎地域理解（チェックリスト） ・B3 ☆提案・発信する力（ルーブリック） |

5 本時の指導

(1) 目標

アドバイスをもとに、ペアで協力して、園児がより楽しく遊べるようなメッセージの伝え方について話し合うことができる。

【C人間関係形成に関する資質・能力 C1☆伝え合う力 C3★他者受容】

(2) 評価

○観察・チェックリスト

| みとる資質能力 | 学習内容・学習活動 | 支援の手立て |
|-----------------------|---|---|
| C1 ☆伝え合う力 C3 ★他者受容 | アドバイスをもとに、ペアで協力して、園児がより楽しく遊べるような伝え方について話し合うことができたか。 | 考える際の観点を一つずつ確認させる。相手の考えも分かれば、自分の考えが増えたと考えてよいことを伝える。 |

(3) 展開

| 段階 | 学習内容・学習活動 | ・指導上の留意点 ◆評価 |
|--------------|--|--|
| 導入 6分 | 1 前時の学習を想起する ・園児に向けてのビデオメッセージを録画し、自分たちなりに改善点を見つけたことを想起する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・直接交流できなくても園児が楽しく遊ぶためにビデオメッセージを録画し、自分たちなりに改善点を見つけたことを想起させる。 |
| | 2 学習課題を確認する アドバイスをもとに、つたえかたを見なおそう。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今日はもっとわかりやすくするために、6年生のアドバイスをもとに考えることを確認する。 ・前時までの活動や気付きから、6年生のアドバイスを見る際の観点（わかりやすくしたほうがよい点）を確認する。 |

| | | |
|---|--|---|
| <p style="text-align: center;">展 開</p> <p style="text-align: center;">33 分</p> | <p>3 自分の考えをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年生からのアドバイスビデオを見て、気付いたことをワークシートに記入する。 <p>4 ペアで交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記入したことをもとに、気付いたことを交流する。 <p>5 全体で交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年生からのアドバイスビデオを見て、気付いたことを発表する。 ・意見やアドバイスを出し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要な児童には、サポートが支援する。 ・前回自分が気付いたことと同じでもよいことを確認する。 ・機械操作などはグループ観察の先生に頼み、ペアでの話し合い時間を確保する。 ・ペアごとに終了時間が違うため、先に見終わって自分の考えを書けたペアは、もう一度〇〇を見ていてよいことを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・全部のペアが終わったところで、ペアでの交流の仕方を確認する。 ・交流させることで、自分と同じ考えや自分が気付かなかったことに気付かせ、考えを深めさせる。 <p>◆アドバイスをもとに、ペアで協力して、園児がより楽しく遊べるような伝え方について話し合うことができたか。</p> <p style="text-align: center;">C1 伝え合う力 C3★他者受容 (観察 ワークシート)</p> |
| <p style="text-align: center;">ま と め</p> <p style="text-align: center;">6 分</p> | <p>6 学習を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに自己評価と振り返りを記入し、発表する。 <p>【自己評価の観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ペアで協力して話し合うことができたか。 ○6年生のアドバイスビデオや話し合いから、園児がより楽しめるような伝え方に気付くことができたか。 <p>【振り返りの観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○どのように改善すればよいか見通しをもつことができたか。 ○アドバイスをもらって、どうだったか。 ○今日の学習を通しての感想 <p>7 次時の学習内容を確認する</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習について、自己評価と振り返りを観点に沿って書かせる。 ・児童が評価しやすいように、自己評価は3段階で記号に印を付けさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・次時は、今日気付いたことをもとに、本番のメッセージビデオを撮影することを確認する。 |

6 成果〇と課題◇

- 前単元で行ったビデオ交流の手法を生かし、間接ではあったが、保育園児と交流することができた。
- 前単元につき、ビデオという形ではあったが、小学校内でも交流を深めることができた。
- 教師も児童も、単元のつながりや活用を意識して学習をすることができた。
- 計画表を掲示して学習を進めることで、児童が見通しと満足感をもって学習を行うことができた。
- ペア学習を継続したことで、話し合いの質が高まり、子どもたちが学習の有用性を感じることもできた。
- ペア学習の場を、タブレット操作をしてくれた教師との交流の場とすることもできた。
- ◇1年生段階で「よくわかる」説明ビデオを作り上げるのはかなり難しく、時間も要する。事前の詳細な計画と指導の工夫が必要である。
- ◇6年生にアドバイスビデオを依頼する際の視点が曖昧であった。意図、視点、時間等、他者に依頼する際には詳細に示すことが必要である。
- ◇導入の際に、比較の視点を与えすぎた。前時や掲示を生かし、視点は絞る必要がある。



7 資質能力（地域創造学 付けたい力）の育成実践例・意識付け例

「付けたい力」を意識して生活することにより、教科だけでなく生活全般においても力が付いたと感じられた。また、振り返りの際に、どの力が付いたか考えてみることで、自分に付いた力を意識し、いろいろなことを資質・能力と関連付けて考えようとする姿が見られた。実践結果としては、児童自身がその必要性を納得し、より有用性を感じた力が身に付いたと考えられる。

見通す力

- ・「ゴールを食べ終わる時間として、逆算して～だから○分までに～をする。」という具体的な行動を設定。「時間内に食べ終わるために考えて実行する力は『見通す力』という立派な力だから、みんなも頑張っこの力を付けてみよう。」と呼びかけて取り組んだ結果、ほぼ毎日、設定どおりの時間に食べ終わることができている。その他の5分前行動等もほぼできるようになった。

<児童の声>

- ・どこまでに何ができていけばよいかかわかったから、時間までに終わらせるのが簡単になった。
- ・見通しをもつと楽。
- ・見通す力は、算数の予想や方法とちょっと似ている。

多面的・多角的に考える力 受け入れる力

- ・算数で、なかなか他の児童の考えを受け入れられない児童に対して円柱を提示。「横から見ると四角だけど、上から見れば丸。あなたの答えが間違いではない。考え方がもっと増えるから、嬉しいことだね。」と話すとな得。「この形を見るみたいに、物事をいろんなところから見るができるのが『多面的・多角的に考える力』というんだね。」と説明。児童たち納得。「自分と違うから違うと言わず、きちんと聞いたことは、『受け入れる力』という素晴らしい力だから、これも一緒に付いたね。」と言うと喜ぶ。他の児童も納得。

<児童の声>

- ・いっぱい考えると面白いから、〇〇さんみたいに考えたら、前よりいっぱい考えられて嬉しい。
- ・〇〇くんみたいに考えるとやりやすい。ぼくも、今度そういう風に考えてみたい。
- ・自分の考えがだめなわけじゃないと分かったから、他の人の考えをもっと聞きたくなった。

伝え合う力

- ・主にペア学習で育った。伝える相手が常に目の前にいることが、児童にとって非常に分かりやすかった。「伝え合いはキャッチボール」の合言葉のもと、①相手の話を分かって聞こうとして聞く。反応する(受け取る)。②相手の話は最後まで聞く。③相手の話が終わったら、必ず自分も話す(返す)。④話し終わったら自分一人の時と考えの質を比べてみる。この4点を継続して行った結果、児童は、ペア学習(伝え合うこと)が大好きになり、その有用性を実感することができた。また、CRTの「話す 聞く」の1項目では、全国比180という高い結果となった。

<児童の声>

- ・ペア学習をすると、優しい気持ちになるから大好き。最後まで聞いてもらえるのが嬉しい。
- ・ペア学習をすると、一人で考えるよりずっといい考えがでてくる。すごくいい。
- ・伝えるだけでなく、聞くだけじゃないから、2人でやるから「伝え合う」のが好き。
- ・伝え合うと、けんかにならない。けんかになるのは、かたっぽだけのとき。
- ・2人の考えだけど、ちゃんと聞いていると、自分の考えが増えてくる。

行事・教科と結び付けた意識付け

- ・創造の本学習が終了した後、『粘り強く解決する力』や『協働する』、『創り出す力』とはこういうことだと確認し、児童も納得していた。
- ・漢字、計算とも50問ずつのすずかけ漢字・計算大会取り組み後に、児童にどんな力を使ったか、どんな力がついたか質問したところ、『見通す力』、『粘り強く解決する力』を使い、『感じ取る力』や『自分のよさを高める力』が付いたという答えであった。

2 学年 地域創造学学習指導案

日 時 令和2年11月16日（月）5校時

場 所 2年教室

学 級 第2学年15名

授業者 田 中 研

1 単元名 「いいなわたしたちのまち2～お気に入りの場所をくわしく調べよう～」

2 単元について

(1) 題材について

1学期には、種山学習で1年生に教えたり、一緒に活動したりすることで、児童は下級生ができたという実感をもつことができた。また、地域探検を行い、地域や町の様子、店や公共施設を見学して調べる活動を行い、地域の「いいね」を見付けることができた。2学期になり、種山学習や川の学校の学習を通して、住田町の自然や地域の川のよさなどについても体験し、学ぶことができた。本単元では、地域で慣れ親しんだことのある自然の様子を再発見したり、有住に広がる森林資源を活用した産業についての理解を深めたりして探求的な学習を展開する。

単元の導入では、1学期に地域探検をしたことをもとに、地域の自然について目を向けさせていく。そして、探検の途中で見た川や山について関心をもたせ、種山散策や川の学校での学習活動を通して、自然についての理解を深めるとともに、木のよさを味わったり、種山と同じようなよいところがあることを調べたりしていく。次の段階では、調べて分かったことや感じたこと、自分の思いや願いを目的や相手意識をもって伝え合う活動につなげていく。単元のゴールでは、学校の周りから更に広げた有住の「いいね地図」を作成し、発信していく。

(2) 児童について

児童は、保育園と1年時に、種山で自然体験を行っている。また、1年時には、目の前の気仙川で川遊びをするなどして、住田の自然を満喫することができた。2年時の1学期には、町探検を行い、町や地域の人々の様子やよさについて調べて3年生に発表を聞いてもらい、アドバイスを受けて発表の仕方などについて自信をもつとともに、地域の様子に関心をもつことになった。

日常の学校生活においては、与えられた課題に根気強く取り組み、学習に意欲的である一方、人前での発表や自分の考えを伝える際には、自信がなく、苦手意識が見られる。創造の学習や行事などでの1年生との関わりから上級生となったという意識をもち始めたことで、様々な面においてしっかりしていきたいという意識も芽生えてきている。発表の場面においては、児童が安心して自分の考えを発表できるよう、事前に発表原稿を作成したり、ペアやグループでの発表を行ったりするなどして自信をもたせるなどの工夫を行っているところである。

(3) 指導にあたって

これまでに、児童は、保育園と1年生の時に種山を中心に学習を行ってきた。2学年になり、自分たちの学区の様子について学習してきている。1学期は、町の様子について調べるために町探検を行った。2度目の町探検では、グループに分かれ、地区の気になる施設について行って調べたり、インタビューした動画などを使って調べたりした。そこで分かったことは、地図に書き表したり、画用紙にまとめたりして発表する活動を行っている。2学期は、気仙川や種山など地域の自然のよさについて学習した。これま

で、地域の様子やそこで働く人の思いに触れるようにするとともに、分かったことを伝え合うために、それらを掲示物にまとめて発表するという方法を取り入れ、交流の仕方を工夫してきた。また、これまで学習した場所を振り返り、「いいね」「すごい」と思える所は、自分が見たり体験したりして「とても楽しい」「また行きたい」「誰かに伝えたい」という所であるということから、「お気に入りの場所」として考えられるようになってきている。

本時の指導にあたっては、種山学習からつながる森林やそれを生かした町のよさについて再認識させたい。そのため、自分たちの選んだ場所の調べ活動を通して分かったことをグループや学級全体で交流させることで、自分の調べたところが有住地区のお気に入りの場所であることを伝えたいという思いを高めさせたい。その際、児童同士の対話の場として考えを交流しながら「いいね」「すごいね」「にているね」の3つに分類させる活動を設定することで、主体的・対話的な学びを深めさせたい。特に、「にているね」の部分を強調することで、種山学習から続く「木のよさ」につなげていきたい。また、その最も多く付箋が集まった所こそ「おすすめポイント」であることに気付かせ、次時の活動につなげていきたい。

これまで、見付けたことは、大きな地区の地図にまとめてきた。今回学習したことを、これまでに作成してきた地図に書き加えることで、自分たちの住む有住地区には、よいところがたくさんあることを認識させるとともに、地域の木を生かした町のよさへの関心を深め、地域への愛着をもたせていきたい。さらに、住田町には、有住地区以外にもたくさんの地区があり、そこにもたくさんのよいところがあることを知らせ、3年生の地域学習へとつなげていきたい。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

| | 資質能力の分類 | 資質能力別の目標 |
|--------|-------------------|--|
| 社会的実践力 | A【地域理解】 | ○探究活動を通して、自分たちの町についての理解を深め、そのよさを感じ、積極的に関わることができる。 |
| | B【社会参画に関する資質能力】 | ○調べる内容や方法を考えながら積極的にその様子について調べ、自分たちの町のよさを考えることができる。 |
| | C【人間関係形成に関する資質能力】 | ○友達と協力して町の様子について調べるとともに、探検先の人との対話を通してその思いに気付くことができる。 |
| | D【自立的活動に関する資質能力】 | ○自分たちの活動を振り返り、町の様子やよさについて、何をどのように調べたらよいか考えながら活動することができる。 |

(2) 評価規準

| 資質能力 | | 評価規準 | |
|----------------|-----------------|--|---|
| A ◎地域理解 | 【◎地】 | ・自分たちの住んでいる地域の様子について知り、そのよさを感じ、積極的に関わっている。 | |
| B 社会参画に関する資質能力 | 1 ☆見通す力 | 【☆見】 | ・探検についての大まかな見通しをもち、話し合いながら町の様子について探究する計画を立てている。 |
| | 2 ☆多角的・多面的に考える力 | 【☆多】 | ・探検で調べたことについて、気付いたことや考えたことを比べたり分類したりしながら、そのよいところを考えている。 |
| | 3 ☆提案・発信する力 | 【☆提】 | ・町のよさや町に対する自分の思いがよりよく伝わるように、表現方法を選んで発信している。 |
| | 4 ★好奇心・探究心 | 【★好】 | ・町の様子に興味・関心を持ち、積極的によさについて調べている。 |
| | 5 ★困難を解決しようとする心 | 【★解】 | ・町の様子についての探究活動がうまくいかないときでも、仲間と助け合いながら最後までやり遂げようとしている。 |

| | | | |
|------------------------|----------|------|--|
| C 人間形成に 関する資質能 | 1 ☆伝え合う力 | 【☆伝】 | ・探検で調べた町の様子やよさ、分かったことや気付いたことを絵や文で表し伝えようとしている。 |
| | 2 ☆協働する力 | 【☆協】 | ・課題を探究するために、友達と協力して有住の町の様子やよさについて調べたり、まとめたりしている。 |
| | 3 ★他者受容 | 【★受】 | ・探検先の町の人や友達の思いや考えの理解に努め、相手の思いや考えを大切にしている。 |
| D 自律的活動に 関する資質能力 | 1 ☆感じ取る力 | 【☆感】 | ・町の様子やよさを調べた学習活動を振り返り、自分の活動がよりよいものにしようとしている。 |
| | 2 ☆創出する力 | 【☆創】 | ・町のよさについての思いを自分なりの方法で表し、伝えることを楽しんでいる。 |
| | 3 ★自己肯定感 | 【★肯】 | ・町探検で自分たちができるようになったことを自覚し、これからの生活に生かそうとしている。 |

4 単元の指導・評価計画（本時 第22時／全29時間）

| 月 | 小単元名 | プロセス | 時 | 主な学習活動と思考ツール | 関連する 教科・領域 | 評価項目 (評価方法) |
|-------|----------|----------------|---|---|-----------------------|--|
| 8・9 | たんけんにいこう | 現状把握・ 問題理解・ | 1 | ・1年生の川学習を想起し、活動への意欲と見通しを持つ。① | | ・B1 ☆見通す力 (振り返りの記述) |
| | | 実施・改善・ 情報収集 | 3 | ・気仙川に入り、川で流れて遊んだり川の生き物を調べたりして、川の楽しさ、恵みを堪能する。② ・ゲストティーチャーから気仙川について学ぶ。① | 【国語科】 「こんなものみつけたよ」 | ・A ◎地域理解 (チェックリスト) ・B4 ★好奇心・探究心 (振り返りの記述) |
| | | まとめ・ 振り返り | 2 | ・実際に体験したこと（気仙川の様子、川についての注意点など）、学んだことなどを地図にまとめる。② | | ・C2 ☆協働する力 (チェックリスト) ・D2 ☆創出する力 (振り返りの記述) |
| 10・11 | お気に入りの場所 | 課題への 気付き | 1 | ・種山学習を想起し、町の森林に目を向け、どんなところがあるか出し合う。① | | ・B1 ☆見通す力 (ルーブリック) |
| | | 計画・ 見直し | 3 | ・これまでの学習を振り返り、これからもっと調べたい場所について大まかな行先を決める。② ・準備物やめあて、きまりを決める。① | | ・B1 ☆見通す力 (ルーブリック) ・B2 多面的・多角的に考える力 (振り返りの記述) |
| | | 実施・改善・ 情報収集 | 4 | ・鏡岩せせらぎ公園で森林について学ぶ。 ・木工館で森林資源を活用した仕事・施設について学ぶ。③ ・個人で、見学先で分かったことなどをまとめる。① | 【国語科】 「こんなものみつけたよ」 | ・B1 ☆見通す力 (ルーブリック) ・B2 多面的・多角的に考える力 (振り返りの記述) |
| | | 計画・ 見直し | 3 | ・これまで学習した中から、さらに調べたいと思う場所はどこか考え、行先を決める。① ・決めた行先について、これまでに分かったことについて振り返り、もっと調べたいことや質問の内容等を考える。② | | ・B1 ☆見通す力 (ルーブリック) ・B2 多面的・多角的に考える力 (振り返りの記述) |
| | | 実施・改善・ 情報収集 | 4 | ・お気に入りの場所について、詳しく調べる。③ (鏡岩せせらぎ公園、木工館、上有住城散策道、めがね橋) ・見学・探検場所で更に詳しく知ったことを書く。① | | ・B2 多面的・多角的に考える力 (振り返りの記述) |

| | | | | | | |
|------------|-----|----------|--------------|--|-----------------------------|--|
| 1.1 1.2 | | まとめ・振り返り | 6 (本時1/6) | <ul style="list-style-type: none"> グループごとに調べてきたことを分類し、おすすめポイントを全体で交流する。① (本時) グループごとに、その場所のおすすめポイントなどをまとめる。② 発表の練習など、準備を行う。① 見つけたお気に入りの場所を1年生に紹介する。① 発表の振り返りを行う。① | | <ul style="list-style-type: none"> C1 ☆伝え合う力 (振り返りの記述・チェックリスト) B3 ☆提案・発信する力 (振り返りの記述) C2 ☆協働する力 (チェックリスト) B3 ☆提案・発信する力 (振り返りの記述) |
| | 作り手 | まとめ・振り返り | 2 | <ul style="list-style-type: none"> 絵地図に、今回調べたことを加え、有住の町のよさをまとめた地図を完成させる。① 単元を振り返り、振り返った内容について交流する。① | 【道徳】 伝統と文化の尊重・国や強度を愛する態度 | <ul style="list-style-type: none"> B3 ☆提案・発信する力 (振り返りの記述) |

5 本時の指導

(1) 目標

友達と協力して「お気に入りの場所」を観点に沿って分類し、「おすすめのポイント」と「その理由」についてまとめることができる。

【C人間関係形成に関する資質能力 C2☆協働する力】

(2) 評価

○チェックリスト

| みとる資質能力 | 項目 | 支援の手立て |
|----------|--|--|
| C2☆協働する力 | 友達と協力して「お気に入りの場所」を観点に沿って分類し、「おすすめのポイント」と「その理由」についてまとめることができたか。 | <ul style="list-style-type: none"> 活動の写真や付箋を手掛かりにして見学の時の気持ちを想起させ、どのような分類になるか気付かせる。 付箋が多いところは見つけたよさが多く、伝えたいことであることに気付かせる。 |

(3) 展開

| | 学習内容・学習活動 | ・指導上の留意点 ◆評価 |
|----------|---|---|
| 導入 6分 | 1 前時の学習を想起する <ul style="list-style-type: none"> 探検で見つけたこと、学んだこと、行ったこと、感じたことがどんなことだったかを確認する。 2 課題を確認する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> グループで町たんけんのことをこうりゅうし、よりつたえたいおすすめのポイントをえらび出そう。 </div> | <ul style="list-style-type: none"> 写真と前時に書いた付箋を掲示しておき、探検のことを思い出しやすいような環境づくりをする。 |
| 展 | 3 学習の見通しをもつ <ul style="list-style-type: none"> 分かったことを、3つのカテゴリーで分類する。 <div style="display: flex; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">いいね</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">すごいね</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">にているね</div> </div> 最後に、グループごとに「おすすめポイント」と「その理由」を発表すること伝える。 | <ul style="list-style-type: none"> 川学習や種山散策の時の分類の仕方を思い出させる。 なぜそこがおすすめポイントなのか、選んだ理由についても考えさせる。 |

| | | |
|----------------------------------|---|--|
| <p>開 33 分</p> | <p>4 グループごとに分類をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時にそれぞれが書いた「おすすめポイント」の付箋を動かし、どのカテゴリーに分類されるか、相談しながら動かす。 ・それぞれのカテゴリーで、特に伝えたい「おすすめポイント」をグループで共有する。 ・選び出した「おすすめポイント」と「その理由」を、ワークシートに記入する。 <p>5 おすすめポイントをまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとにまとめた「おすすめポイント」と「その理由」を発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・Yチャートを使用し、児童に3つのカテゴリーで分類させる。 ・付箋を動かせるようにしておき、子どもたち自身が分類できるようにしておく。 ・写真で振り返ったり、交流をして更に書き加えたりしたいときには、付箋に書き加えられるようにする。 ・活動の途中でも、随時、よいところを紹介したり、気を付けることを確認したりする。 ・付箋が多く集まっているところや同じような内容が重なっているところが「おすすめポイント」であることを確認する。 ◆友達と協力して「お気に入りの場所」を観点に沿って分類し、「おすすめのポイント」と「その理由」についてまとめることができたか。 <p>C2 ☆協働する力 (チェックリスト)</p> |
| <p>ま と め 6 分</p> | <p>6 学習を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに振り返りを記入し、発表する。 <p>7 次時の学習内容を確認する</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習を振り返り、「分かったこと」「感想(思ったこと・考えたこと)」の観点から感想を書かせる。 ・今回選び出した「おすすめポイント」を、「いいね地図」に写真や吹き出しを貼り付け、1年生に伝わりやすくまとめていくことを伝える。 |

6 成果〇と課題◇

- 写真を見ながら振り返ることで、児童がその時の気持ちや情景を思い出して分類を行うことができた。
- 思考ツールは、学年に応じて分類されており、発達段階に応じて段階的に活用することによって効果を発揮することが分かった。
- 思考ツールを使うことにより、児童たちの考えを可視化し、それぞれの考えを共有することができた。
- ◇事前に、本時に何を行うのか計画的に児童に伝えていくことで、本時の学習がしつかりとした協働の場となる。

◇事前に、児童から多くの意見（付箋に記入）が出されたが、精査することで、本時の児童の考えをもっと絞っていくことができた。

◇3つの観点が曖昧であった。今回は、それぞれの場所に講師がいたので、人とのつながりやそこに辿り着くまでの学習のステップをしっかりと行うことで、児童にも観点をしっかりと理解させることができるようになる。

◇今回のような活動であれば、もっと広い場所を設定することで、活動のしやすさも改善できる。

◇学習の途中に、中間発表を入れることにより、それぞれのまとめ方を共有させることができた。

7 学習の成果物の掲示について

学校の周囲を調べ、それを年間を通じて地図に表していくということを行った。大きな地図に表し、廊下に掲示することで、すぐに見て振り返ることができた。その他分かったことを書くことを意識して大きく地図を作ってしまったことで、掲示する場所についてよく考えなければならないという反省に至った。見やすさ、発表のしやすさ、掲示できる場所のすべてを考えながら作成していくと、更に使いやすいものになると思われる。

地図の他に、各単元のまとめを画用紙に書いた。これについては、学習が終わってから縮小して地図に貼り付けることで、よりくわしい地図にするための素材として活用することができた。



第4学年 地域創造学学習指導案

日 時 令和2年9月30日（水）3校時
場 所 4年教室
学 級 第4学年10名
授業者 菊池雅子
サポーター 新沼美香子

1 単元名 「すごいぞ住田！ 気仙川のためにみんなのできること」

2 単元について

(1) 題材について

1学期の社会科では、「ごみのゆくえ」や「水はどこから」を学び、無意識のまま利用してきた生活環境を支える働きについて認識を新たにするきっかけをもつことができた。本単元では、普段から慣れ親しんでいる気仙川に着目し、地域を流れる河川と私たちとの関わりについて探求的な学習を展開する。社会科での学習などを横断的に扱い、地域の一員としての自覚を再認識させた上で気仙川を捉えさせることにより、地域に対する誇りや愛情を更に深めることになると考える。

単元の導入では、昨年までの川での活動体験をもとに、もっと知りたいことや調べたいことはないか話し合いながら、身近にある気仙川について自己課題をもち、その解決に向けて探究活動を行う。次の段階では、調査をして分かったことや感じたこと、自分の思いや願いを目的や相手意識をもって伝え合う活動につなげていく。単元のゴールでは、自分の課題を追求していく活動を通して学んできたことを生かし、気仙川の将来的な在り方について考え、発信していくことを目指していく。

(2) 児童について

児童は、1年時に、種山で自然体験をしたり、目の前の気仙川で川遊びをしたりして住田の自然を満喫することができた。また、2年時には、町探検を行い、町のよさや地域の人々の思いなども感じることもできた。これらの学習活動を通して有住地区の「いいところ」を体感し、3年時学習の有住地区の「いいな・すごいな」について個人課題をもって調べる活動につなげてきた。また、ここで調べたことは、世田米小学校3年生との合同発表会で互いに交流し合い、住田町全体についての理解や愛着をもつということにつながった。

日常の学校生活においては、与えられた課題にまじめに取り組み、学習にも意欲的であるが、人前で発表することや、自分自身で考え、行動することが苦手な面も見られる。1学期に行った地域創造学のアンケートでは、全員が創造の学習について「好き」と答えている。しかし、自分の考えを発表したり説明したりすることに関しては、まだ苦手意識をもっている児童がいる。また、高学年の仲間入りをした児童は、リーダーとしての自覚が芽生え、主体的に関わろうとする姿も見えてきたが、まだ十分とはいえない。現在は、学習の中に自分の考えを話したり、説明したりする活動を多く取り入れ、子ども同士の認め合いやアドバイス、教師からの声かけなどを行い、児童が抵抗感をもつことなく発表できるよう支援を行っているところである。

(3) 指導にあたって

児童は、これまで、川と親しむ活動はしてきているが、その環境や他地域とのつながりなどを意識して学習するまでには至っていない。そのため、「児童自身が知っている気仙川について」という視点だけでは

なく「他者から見た気仙川はどうか」という視点を与えたり、友達や住田の自然に精通しているゲストティーチャーと協力して調査を進めたりすることで、気仙川について多面的に捉えさせ、探求的な活動となるよう工夫してきた。

本時の指導にあたっては、上流から下流までの気仙川探検を通して、地域の川学習から気仙川全体に視野を広げさせ、新たな発見や驚きを大切にしたい。また、これまで「もの・こと」として調べてきた気仙川を「気仙川と人とのかかわり」に焦点を当てていくために、ゲストティーチャーを活用し、人々の思いや願いに触れさせることで、その後の気仙川の保全活動に主体的に関わる児童を育成したいと考える。

このような学習を意図的に位置付けることで、地域を代表する自然の一つである「気仙川」をより身近なものとして捉え、その自然を守っていかうとする態度を育み、「未来の気仙川を考える」という発展的な学びにつなげていきたい。さらに、住田には自然からの贈り物が他にもたくさんあることを知らせ、5年生の森林学習へとつなげていきたい。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

| | 資質能力の分類 | 資質能力別の目標 |
|--------|-------------------|--|
| 社会的実践力 | A【地域理解】 | ○気仙川について理解を深め、気仙川を守る取組に積極的にかかわることができる。 |
| | B【社会参画に関する資質能力】 | ○気仙川の様子や地域の人々とのかかわりを調べ、気仙川の特徴や今後の在り方について考えることができる。 |
| | C【人間関係形成に関する資質能力】 | ○友達と協働して気仙川の探索を行い、気仙川に携わる人々の思いを感じ取ることができる。 |
| | D【自律的活動に関する資質能力】 | ○気仙川に関心を持ち、取組を振り返りながら進んで探究活動に取り組むことができる。 |

(2) 評価規準

| 資質能力 | | 評価規準 | |
|------------------|-----------------|---|--|
| A ◎地域理解 | 【◎地】 | ・気仙川の現状についての理解を深めるとともに、気仙川の環境保全に自分がどのようにかかわることができるか捉えている。 | |
| B 社会参画に関する資質能力 | 1 ☆見通す力 | 【☆見】 | ・気仙川に関わり、課題を見出したり、課題について解決の計画を立てたりしながら、探究活動に取り組もうとしている。 |
| | 2 ☆多角的・多面的に考える力 | 【☆多】 | ・気仙川についての課題を解決するために、情報を比較したり、関係付けたりしながら、よりよい考えを見出そうとしている。 |
| | 3 ☆提案・発信する力 | 【☆提】 | ・気仙川のよさがよりよく伝わるように、適切な方法を選んでまとめ、発信しようとしている。 |
| | 4 ★好奇心・探究心 | 【★好】 | ・気仙川に関心を向け、それを自分自身にとって意味のあるものと感じ取り、積極的にかかわろうとしている。 |
| | 5 ★困難を解決しようとする心 | 【★解】 | ・気仙川に関わる探求のために自分のやるべきことを考え、最後までやり遂げようとしている。 |
| C 人間関係形成に関する資質能力 | 1 ☆伝え合う力 | 【☆伝】 | ・気仙川について調べて分かったことから、自分の考えをまとめ、伝えることができるとともに、話し手の伝えたいことの内容を捉えて聞き、考えを伝え合おうとしている。 |
| | 2 ☆協働する力 | 【☆協】 | ・気仙川の様子について、友達と交流しながら力を合わせて調べたり、まとめたりしようとしている。 |
| | 3 ★他者受容 | 【★受】 | ・気仙川にかかわる地域の人々や友達の思いや願い、考えを、その背景にあるものに目を向けながら大切に受け止めようとしている。 |

| | | | |
|------------------------|----------|------|--|
| D 自律的活動に 関する資質能力 | 1 ☆感じ取る力 | 【☆感】 | ・気仙川についての課題解決に向け、学習活動の進捗状況を振り返り、現状を捉えた上で、これからの学びや活動に必要なことを捉えようとしている。 |
| | 2 ☆創出する力 | 【☆創】 | ・気仙川について感じたことや考えたことをもとに、自分の感性や創造性を発揮しながら発想したり、創意工夫したりしようとしている。 |
| | 3 ★自己肯定感 | 【★肯】 | ・気仙川について調べる活動の中で、よく考え判断して行動し、自分のよさや可能性に気づき、よい所を伸ばそうとしている。 |

4 単元の指導・評価計画（本時 第2 1時／全3 7時間）

| 月 | 小単元名 | プロセス | 時 | 主な学習活動と思考ツール | 関連する 教科・領域 | 評価項目 (評価方法) |
|-------|-------------------|---------------|-----------|--|-----------------------------|---|
| 6・7 | 調べよう 地域の気仙川 | 理解 問題の | 1 | ・身近な気仙川の様子について、それぞれに知っていることを書き出したり、分類したりする。(ウェビング法) | | ・B1 ☆見通す力 (学習シート) |
| | | 課題設定 | 1 | ・前時に個人で分類したことを全体で分類・共有し、課題設定をする。 | 【道徳】 伝統と文化の尊重、国や国土を愛する態度 | ・B1 ☆見通す力 (ルーブリック) |
| | | 実施・改善 | 3 | ・川の汚れについての観点で、気仙川の水質、生物、川の様子を調べる。 | | ・B4 ★好奇心・探究心 ・B5 ★困難を解決しようとする心 (観察・学習シート) |
| | | | 1 | ・道徳の学習との関連を図りながら、川を守っていくために自分たちができることを考える。(クラゲチャート) | 【道徳】 自然愛護 | ・A ◎地域理解 ・B2 ☆多角的・多面的に考える力 (発言・振り返りの記述) |
| | | まとめ・ 振り返り | 1 | ・地域の川の様子について自分の見解をまとめる。 | | ・B3 ☆提案・発信する力 (発言・振り返りの記述) |
| 8・9 | 調べよう わたしたちの気仙川 | 設定 課題 | 2 | ・1学期の学習から、気仙川全体の様子について調べたいことを話し合う。(ウェビング法) | | ・B1 ☆見通す力 (ルーブリック) |
| | | 見直し | 2 | ・前時の話し合いや、1学期のまとめなどから気仙川を探求する個人課題を設定する。(KJ法) | | ・B4 ★好奇心・探究心 (ルーブリック) |
| | | 情報収集 実施・改善 | 8 | ・気仙川探検の計画を立てる(1) ・校外学習で気仙川探検をする。(5) ・気仙川探検の結果を個人でまとめる。(2) | | ・B1 ☆見通す力 ・B4 ☆好奇心・探究心 ・C2 ★協働する力 (観察・学習シート・振り返りの記述) |
| | | まとめ・ 振り返り | 3 | ・国語の学習を生かしながら、調べたことをグループで新聞にまとめる。 ・新聞を見合い、交流する。 | 【国語】 「調べた事を整理して書こう」 | ・B3 ☆提案・発信する力 (学習シート・振り返りの記述) |
| 10・11 | 守ろう みんなの気仙川 | 情報収集 | 1 (本時) | ・ゲストティーチャーを招き、気仙川の現状や保全のために行っている活動について何うとともに、自分たちが気仙川について調べたことと比較する。 | 【道徳】 自然愛護 | ・C1 ☆伝え合う力 ・C3 ★他者受容 (チェックシート) |
| | | 計画・見直し | 2 | ・自分たちの生活と気仙川を関連付けて考え、自分たちにできる気仙川の環境保全について話し合う。(ビフォー・アフター) | | ・A ◎地域理解 ・C2 ☆協働する力 ・C3 ★他者受容 (チェックシート) |
| | | | 1 | ・自分たちにできる保全活動について計画を立てる。(美化活動、ポスター作成など) | | ・B1 ☆見通す力 (ルーブリック) |
| | | 実施・改善 | 3 | ・自分たちで考えた保全活動を行う。 | | ・B5 ☆困難を解決しようとする心 ・C2 ☆協働する力 ・D2 ☆創出する力 (観察・振り返りの記述) |
| | | まとめ・ 振り返り | 1 | ・気仙川の保全活動を振り返り、活動から感じたことなどを話し合う。 | | ・D1 ☆感じ取る力 (振り返りの記述) |

| | | | | | | | |
|------------|----------------|------|---|--|--|--------------|---------------------------------|
| 1.1 1.2 | 考えよう 未来の気仙川 | 現状把握 | 問題の理解 | 1 | ・道徳「気仙川のために…」との関連を図りながら、気仙川の未来を考えていこうという思いをもつ。 | 【道徳】 自然愛護 | ・B2 ☆多角的・多面的に考える力 (発言・学習シート) |
| | | | 1 | ・これからの気仙川について、大人になった時、そして自分の子どもや孫の代になった時に、どのようになっていてほしいかということについて話し合う。 | ・C3 ★他者受容 (ルーブリック) | | |
| | まとめ・振り返り | 3 | ・これまでの調査活動や保全活動を振り返り、活動を続けていくことでどのような気仙川になっているかということについて「気仙川未来日記」にまとめる。 | ・A ◎地域理解 ・B3 ☆提案・発信する力 ・D2 ☆創出する力 (学習シート) | | | |
| | | 1 | ・まとめた未来日記を、5年生や学習でお世話になった方々に発表する。 | ・B3 ☆提案・発信する力 ・C1 ☆伝え合う力 ・D2 ☆創出する力 (振り返りの記述) | | | |
| | | 1 | ・単元全体を通しての振り返りを行い、気仙川と住田町の未来についての考えをもつ。 | ・D3 ☆自己肯定感 (発言・振り返りの記述) | | | |

5 本時の指導

(1) 目標

気仙川に携わるゲストティーチャーに気仙川の現状と気仙川に対する思いや願いを聞き、気仙川や気仙川保全活動についての自分の考えをもつことができる。

【C人間関係形成に関する資質・能力 C1☆伝え合う力 C3★他者受容】

(2) 評価

○チェックリスト

| みとる資質能力 | 項目 | 支援の手立て |
|---------------------|--|---|
| C1☆伝え合う力 C3★他者受容 | ゲストティーチャーの話聞き、気仙川や気仙川保全活動についての自分の考えを書くことができたか。 | 教師との対話や友達のを考えをもとに、気仙川に携わっている方の思いや願いについて気付かせる。 |

(3) 展開

| 段階 | 学習内容・学習活動 | ・指導上の留意点 ◆評価 |
|---|-------------------------------------|---|
| 導入 8分 | 1 前時の学習を想起する ・気仙川探検のまとめについて振り返る。 | ・教室掲示を参考に、前自までに調べた内容や発表したことを確認する。 ・お互いの発表から学んだことや気付いたことについても触れる。 |
| | 2 学習課題を確認する ・ゲストティーチャーの取組を紹介する。 | ・自分たちが調べた気仙川のことと比べながら聞く、という聞き方の視点を確認する。 |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 気仙川漁協の方のお話を聞き、「気仙川」についての考えを深めよう。 </div> | | |

| | | |
|--------------------|--|---|
| <p>展開 25分</p> | <p>3 ゲストティーチャーの話を聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気仙川の現状，気仙川に対する思いや願いについて話を聞く。 <p>4 自分の考えをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気仙川と人のかかわりという視点で，気付いたことや考えたことについてワークシートに記入する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーの話を分かりやすく板書したり，事前に把握していた児童の調べたいことを引き出し，質問のきっかけをつくったりして，ゲストティーチャーと児童をつなぐようにする。 ・1学期に児童から出された，これから調べたいことの中にあつた「気仙川に関わる人の思い」について，児童の言葉でインタビューするように聞き取っていく。という聞き方の視点を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・話を聞く前と聞いた後の自分の変容に目を向けさせる。 <p>◆ゲストティーチャーの話を聞き，気仙川や気仙川保全活動について自分の考えを書くことができたか。</p> <p>C1 伝え合う力 C3 他者受容（チェックリスト）</p> |
| <p>まとめ 12分</p> | <p>5 学習を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返り，ワークシートに記入する。 ・振り返りを発表し，全体で交流する。 <p>6 次時の学習内容を確認する</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習から分かったことをまとめ，感想を書かせる。 ・児童の振り返りを全体で交流した後，振り返りについてゲストティーチャーに感想を伺う。 <ul style="list-style-type: none"> ・次時からは，気仙川の保全活動に関わって，自分たちができることを考え，行動していくということを確認する。 |

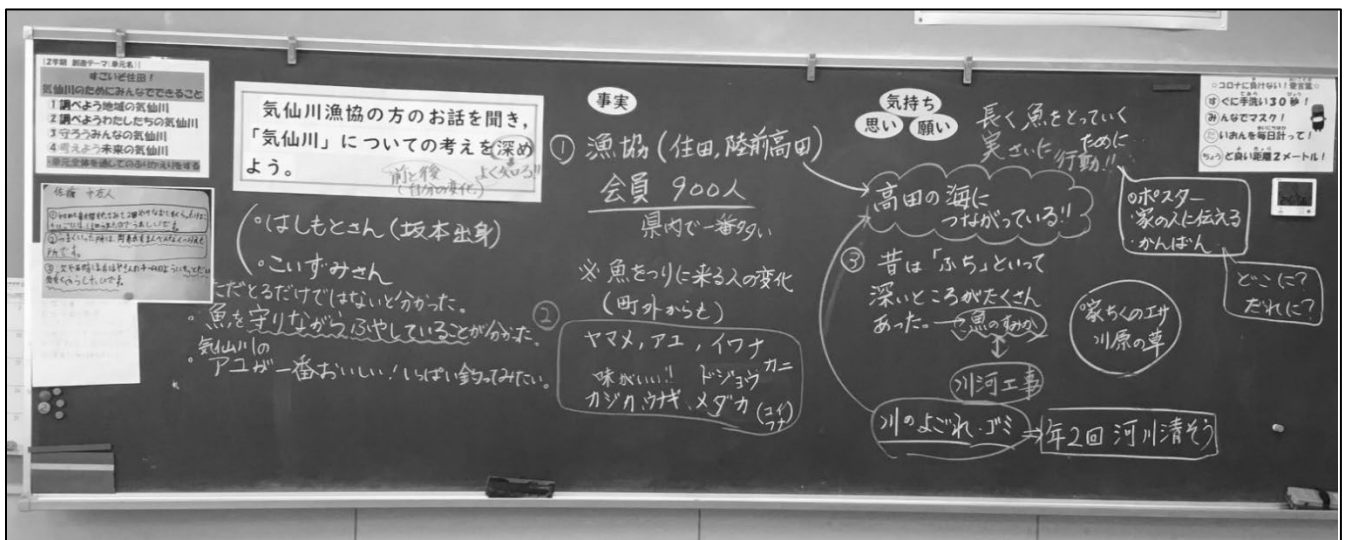
6 成果〇と課題◇

- これまでの活動の様子が分かる掲示物が，授業の導入や振り返りのために効果的だった。
- ゲストティーチャーが地域の方であることから，身近に感じるとともに，話の内容が自分事として捉えやすく共感できたことが，事実から思いや願いを聞き取ることに繋がったと考えられる。
- ゲストティーチャーとの打ち合わせの際に，指導案のねらいやゲストティーチャーの役割の部分にラインを引くなどして説明し，本時に話すことの内容を吟味していただいた。そのことで，より本時のねらいに即したお話を聞くことができた。
- ◇ゲストティーチャー自身の思いがたくさんあることから，話す内容の取捨選択が必要である。事前打ち合わせの際に，こちらの学習のねらいを的確に伝え，打ち合わせをしっかりとしていく必要がある。

7 ゲストティーチャーの活用にあたって考えたいこと

ゲストティーチャーとの打ち合わせの際、授業時間のみの打ち合わせでなく、指導案などを示しながら単元全体のねらいや目指す児童の姿（資質・能力）をお伝えすることで、よりポイントを絞ったお話を伺えると感じた。そのためには、ゲストティーチャーのみなさんに「地域創造学」というものを理解していただけるよう、町からの説明パンフレットがあればよいと思う。

また、ゲストティーチャーと学習したことがどのように児童の学習に生かされているのかを、ゲストティーチャー自身にフィードバックすることが必要であると感じた。



～学習のまとめで作成した個人ポスター～

第5学年 地域創造学学習指導案

日 時 令和2年9月30日（水）4校時
場 所 5年教室
学 級 第5学年15名
授業者 菅野 雄太郎

1 単元名 「住田の宝 資源をいかそう」

2 単元について

(1) 題材について

住田町は、町の土地面積335km²のうち、およそ90%を占める303km²もの森林を保有している。また、人工林率が全国平均41%、県平均42%に対し、本町は51%と高い数値となっている。そこで、5年生では、住田町が町づくりとして特に力を入れている「森林・林業」を題材として取り上げ、住田町ならではの取組を学習し、そのよさや課題について探究活動を行う。

単元の導入段階では、日本と住田町の森林面積の割合を比べたり、住田町の「森林・林業」について知っていることを全体で共有したりした上で、住田町の「森林・林業」について自分が興味をもったことについて調べる活動を取り入れる。次の段階では、実際に住田町の「森林・林業」に関わる方をゲストティーチャーとして招いて「森林・林業」に対する思いや願いについて話を聞き、新たな課題を設定させ、より深い探究活動へとつなげる。単元のゴールでは、学習を通して気付いた住田町の「森林・林業」のよさやそれを守り育てていくために自分たちにできることについて考え、発信していく活動を行う。

(2) 児童について

児童は、これまで、1・2年の種山学習で、実際に自然の中で森林や木に慣れ親しむ活動を行っている。3・4年では、地域を流れる気仙川周辺に生息している虫調べや気仙川の様子、気仙川と地域との関わりについて調べることで、川の源である森林について関心を高めてきた。そして、5年生になり、栗木鉄山見学、たたら製鉄体験を通して、住田町の森林資源をいかしてきた歴史について学び、理解を深めた。本単元では、現在住田町で盛んに行われている「森林」をいかした取組や「林業」の様子について学習する。

1学期に実施した創造のアンケート結果から、児童は、地域について興味関心があり、意欲的に創造の学習に取り組んでいることが分かる。また、自分の考えを発信することに楽しみを見出し、地域の役に立ちたいという思いをもつ児童もいる。しかし、一方で、発表や話し合い活動の場では、自分の考えに自信がもてず、活発に意見交流をすることができない児童も多い。そこで、授業の中で児童が自分の考えに自信をもって発表することができるよう、話型のモデルを示したり、ペアやグループで考えを交流した後に全体で話し合うようにしたりしているところである。

(3) 指導にあたって

本校の研究テーマは、「よりよく伝え合い、深く学び合う児童の育成 ～多様な考えを生かす言語活動を通して～」である。この単元の学習を深い学びへと導くため、学習した内容について表現する方法を吟味し、根拠と判断、原因と結果の関係を明確にして自分の考えを表現したり、考えを交流したりすることができるよう言語活動の充実を図っていきたい。これらの言語活動を支える手立てとして、話型のモデルを活用させたり、ウェビングマップなどの様々な思考ツールを使って考えを整理させたりすることにより、自信をもって意見を発表し、他者との対話や交流を大切にしながら自らの課題解決をしようとする態度を育てたい。

また、児童が、主体的に学習に取り組み、見通しをもって自らの課題を解決していく力や調べたことについて相手意識をもって分かりやすく表現する力を高めることができるように、「何を解決するのか」「何を調べるのか」という課題意識と「誰に」「どのように」提案・発信したいのかという単元のゴールを明確にしていく。さらに、ゲストティーチャーの話を聞いたり、地域の方々にインタビューをしたりする場面を取り入れ、「森林・林業」に携わる人々の思いや願いに触れさせることで、新たな気付きや課題へと発展させる。そして、新たな課題を追究する中で、住田の宝である「森林・林業」を守り育てていくために自分たちにできることを考え、実践していく力を養っていききたい。

本時の指導では、これまで「もの・こと」として調べてきた住田町の「森林・林業」を「人とのかかわり」に焦点を当てていくために、ゲストティーチャーから話を聞く場面を設ける。ゲストティーチャーから「森林・林業」に対する思いや願いを聞くことで新たな気付きと課題が生まれるきっかけとし、今後の「住田の産業を盛んにするために」の学習につなげていくとともに、6年時で学習する「我が町 再発見」の素地をつくっていききたい。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

| | 資質能力の分類 | 資質能力別の目標 |
|--------|-------------------|--|
| 社会的実践力 | A【地域理解】 | ○住田町の森林をいかした町づくりや文化遺産を知ることを通して地域のよさを知り、積極的に活動することができる。 |
| | B【社会参画に関する資質能力】 | ○住田町の森林をいかした町づくりの事業を知り、その取組のよさを理解し、よりよい社会づくりに向けて自分ができることを提案することができる。 |
| | C【人間関係形成に関する資質能力】 | ○住田町の森林をいかした町づくりに関わる人との対話やグループでの伝え合いをしながら、課題解決に向けて活動することができる。 |
| | D【自律的活動に関する資質能力】 | ○住田町の森林をいかした町づくりに関心をもって学び、自らの学習を振り返りながら探究することができる。 |

(2) 評価規準

| 資質能力 | | 評価規準 | |
|------------------|-----------------|---|--|
| A ◎地域理解 | 【◎地】 | ・住田町の森林をいかした町づくりについて学び、そのよさに気付きながら理解を深めている。 | |
| B 社会参画に関する資質能力 | 1 ☆見通す力 | 【☆見】 | ・住田町の森林をいかした町づくりや林業のよさについて調べていく活動を見通し、計画を立てて取り組んでいる。 |
| | 2 ☆多角的・多面的に考える力 | 【☆多】 | ・住田町の森林をいかした町づくりや林業のよさについて、それぞれを統合しながら考えている。 |
| | 3 ☆提案・発信する力 | 【☆提】 | ・住田町の森林をいかした町づくりや林業のよさについて、自分の思いがよりよく伝わるように、表現を工夫して発信している。 |
| | 4 ★好奇心・探究心 | 【★好】 | ・住田町の森林をいかした町づくりや林業について興味・関心をもち、積極的に課題に関わっている。 |
| | 5 ★困難を解決しようとする心 | 【★解】 | ・活動がうまくいかないときも、原因を考え、改善して最後までやり遂げようとしている。 |
| C 人間関係形成に関する資質能力 | 1 ☆伝え合う力 | 【☆伝】 | ・自分の考えを分かってもらえるように相手意識をもって話し、相手の話を分かろうとして聞いている。 |
| | 2 ☆協働する力 | 【☆協】 | ・友達と協力しながら林業が盛んなわけを調べている。 |

| | | | | |
|------------------------|---|--------|------|--|
| 能力 成に | 3 | ★他者受容 | 【★受】 | ・友達の考えや森林や林業に関わった人の思いに気付き、大切にしている。 |
| D 自律的活動に 関する資質能力 | 1 | ☆感じ取る力 | 【☆感】 | ・「森林・林業」についての学習を振り返り、これからの生活や学習に生かそうとしている。 |
| | 2 | ☆創出する力 | 【☆創】 | ・住田町の森林をいかした町づくりや林業のよさを自分なりの方法で表現し、伝えようとしている。 |
| | 3 | ★自己肯定感 | 【★肯】 | ・これまでの学習活動を通して自分の成長や役割に気付き、今後の学習や生活に生かそうとしている。 |

4 単元の指導・評価計画（本時 第35時/全59時間）

| 月 | 小単元名 | プロセス | 時 | 主な学習活動と思考ツール | 関連する 教科・領域 | 評価項目 (評価方法) |
|--------|--------------------------|----------------------------------|-----------|--|--|---|
| 5・6・7 | 住田の首の産業を調べよう(栗木鉄山・たたら製鉄) | 現状把握・課題設定・見直し・ 情報収集・実勢・改善・まとめ | 21 | <ul style="list-style-type: none"> 住田町の資源について話し合う。(ウェビングマップ) 役場にある栗木鉄山の模型や写真を見学し、栗木鉄山について調べる計画を立てる。 栗木鉄山を見学し、その様子や産業の様子について調べる。 ゲストティーチャーの説明を聞いたり、質問したりして自分の課題について解決を図る。 これまでの学習を通して感じたことや考えたことが表れるように、工夫してミニ新聞を作成する。 ミニ新聞を見合い、交流する。 たたら製鉄についてインターネット等で簡単に調べる。 製鉄体験をする。 製鉄に携わった人の苦労や大変さに焦点を当て、感じたことをまとめ、交流する。 | 【国語】 「きいてみよう」 「新聞を読もう」 【社会】 「製鉄にたずさわる人々」 | B1 ☆見通す力 A ◎地域理解 B4 ★好奇心・探究心 B5 ★問題を解決しようとする心 C1 ☆伝え合う力 C3 ★他者受容 D2 ☆創出する力 (ルーブリック) A ◎地域理解 B4 ★好奇心・探究心 (チェックリスト) |
| 8・9 | 住田の産業を調べよう | 見直し | 3 | <ul style="list-style-type: none"> 住田町の「森林・林業」について知っていることを話し合う。(ウェビングマップ) 森林のもつはたらき、森林と人とのかかわり、木の活用について考える活動を通して、住田町の「森林・林業」に関心をもつ。 | 【社会】 「森林とともにいきる」 | A ◎地域理解 B1 ☆見通す力 (ルーブリック) |
| | | 情報収集 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> 「森林・林業」について自分が調べたいことを見付け、個人やグループで調べる。(林業・木造建築・クッパ・種山・森の案内人・チェーンソーアート・木育等) | 【国語】 「インターネットで調べよう」 | B4 ★好奇心・探究心 (ルーブリック) |
| | | まとめ・振り返り | 6 | <ul style="list-style-type: none"> 「森林・林業 日本一を目指す町」の取組で分かったことについてまとめる。(リーフレット等) 分かったことについて発表会をする。 発表会を振り返り、分かったことや発表の仕方のよさについて考える。 | 【国語】 「目的に応じて引用するとき」 | C1 ☆伝え合う力 C3 ★他者受容 (パフォーマンス) |
| 住田の産業を | 現状把握 | 問題の理解・ 見直し | 1 (本時) | <ul style="list-style-type: none"> 住田町の「森林・林業」に関わるゲストティーチャーから話を聞き、その思いや願いに触れ、新たな気付きや思いをもつ。 | 【道徳】 | C1 ☆伝え合う力 C3 ★他者受容 (チェックリスト) |
| | 課題設定 | 見直し | 4 | <ul style="list-style-type: none"> 新たな課題を設定する。 調べる内容が妥当であるか検討する。(ピラミッドチャート) 調べる方法について個人やグループで吟味する。(ステップチャート) | | B1 ☆見通す力 (チェックリスト) |
| | 情報収集 | | 10 | <ul style="list-style-type: none"> 設定した課題について調べる。(インタビュー、見学等) | 【国語】 「インタビューをしよう」 | B5 ★問題を解決しようとする心 C2 ☆協働する力 C3 ★他者受容 (チェックリスト) |

| | | | | | | |
|----------|----------|----------|---|---|--|--|
| 10 11 | 盛んにするために | 実施・改善 | 2 | <ul style="list-style-type: none"> 自分たちの考えを交流する。 調べた内容をもとに、これからも住田の宝である「森林・林業」を生かした取組や産業を盛んにしていくために大切にしなければならないこと、自分たちにできることについて考える。 | | B2 ☆多面的・多角的に考える力 (ルーブリック) |
| | | 振り返り・まとめ | 8 | <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習から、森林を守り育てていくために自分たちができることについてまとめる。 発表する相手を意識したまとめ方や発表方法について考える。(ボックスチャート) まとめたり、発表の練習をしたりする。 ゲストティーチャー等を招き発表会を行う。 発表会を振り返り、単元を通して感じたことや考えたことについてまとめる。 | | C1 ☆伝え合う力 C2 ☆協働する力 D1 ☆感じ取る力 (パフォーマンス) |

5 本時の指導

(1) 目標

住田町の「森林・林業」に関わるゲストティーチャーから話を聞き、その思いや願いに触れた新たな気付きや自分の考えをもつことができる。

【C人間関係形成に関する資質・能力 C1☆伝え合う力 C3★他者受容】

(2) 評価

○チェックリスト

| みとる資質能力 | 項目 | 支援の手立て |
|---------------------|--|---|
| C1☆伝え合う力 C3★他者受容 | ゲストティーチャーの思いや願いに触れた新たな気付きや自分の考えを書くことができたか。 | ゲストティーチャーとの対話や友達の考えをもとに、「森林・林業」に携わっている方の思いや願いについて気付かせる。 |

(3) 展開

| 段階 | 学習内容・学習活動 | ・指導上の留意点 ◆評価 |
|----------|---|--|
| 導入 8分 | 1 前時の学習を想起する <ul style="list-style-type: none"> 住田町の林業の取組やよさについて想起する。 2 学習課題を確認する <ul style="list-style-type: none"> ゲストティーチャーの方の取組を紹介する。 | <ul style="list-style-type: none"> 教室掲示を参考に、前自までに調べた内容や発表したことを確認する。 調べたことをさらに詳しく調べるための方法として地域の方に聞くという意見があったことを想起させる。確認する。 |
| | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 佐々木さんと平林さんのお話を聞き、「森林・林業」についての理解を深めよう。 </div> | |
| 展 | 3 ゲストティーチャーの話を聞く <ul style="list-style-type: none"> 取組や仕事の内容や苦勞などについて話を聞く。 | <ul style="list-style-type: none"> ゲストティーチャーに質問をしたり、話題を振ったりしながら話を進めていくようにする。 ゲストティーチャーの話を分かりやすく板書したり、児童が持っている調べたいことを質問したりして、ゲストティーチャーと児童をつなぐ |

| | | |
|-----------------------------------|--|---|
| <p>開 27 分</p> | <p>4 自分の考えをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話を聞いて感じたことやさらに聞いてみたいことをワークシートに記入する。 ・ペアで考えを交流する。 <p>5 ゲストティーチャーと交流する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感想を話したり、質問したりする。 | <p>ようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に話を聞いて理解を深めることで、「森林・林業」に関わる人々の思いや願いを感じ取らせるようにする。 ・ワークシートに記入後、互いに考えを共有したり、生かしたりするために、ペアで交流させる。 ・なぜそのような取組や仕事をしているのか、どのような気持ちで取り組んでいるのかなど、思いや願いに触れた感想や質問を意図的に取り上げる。 |
| <p>ま と め 10 分</p> | <p>6 学習を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返り、ワークシートに記入する。 ・振り返りを発表し、全体で交流する。 <p>6 次時の学習内容を確認する</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習から分かったことをまとめさせ、感想も書かせる。 ◆ゲストティーチャーの思いや願いにふれた新たな気づきや自分の考えを書くことができたか。 C1 伝え合う力 C3 他者受容（チェックリスト） ・児童の振り返りを全体で交流した後、振り返りについてゲストティーチャーに感想を伺う。 ・次時は、新たな課題を具体的に立てたり、新たな課題について調べる方法を考えたりすることを知らせる。 |

6 成果〇と課題◇

- ゲストティーチャーを子どもたちにとって馴染みのある地域の方にやっていただくことで、より効果的に住田町の森林林業に関わる人々の思いや願いに気付かせることができた。本時を基に、子どもたちは、自分たちのテーマに関わる人々の思いや願いについても知りたいという意欲をもつことができた。
- ペア学習を取り入れたことで、子どもたちが互いの考えを共有したり、活かしたりすることができていた。
- ゲストティーチャーと複数回打ち合わせをすることで、授業のねらいに沿ったゲストティーチャーからのお話を伺うことができた。また、指導案やシナリオなどをお渡し、授業の流れを理解していただくことで、構造的な板書やそれに合わせたワークシートを準備することができた。
- ◇森林を守り育てる取組をしている方とそれを活用した様々な取組をしている方の2名のゲストティーチャーを選定し、授業を行ったところはよかった。しかし、45分の授業の中で2名のゲストティーチャーにお話ししていただいたため、時間配分が少しくまらぬところがあり、子どもから出た質問を

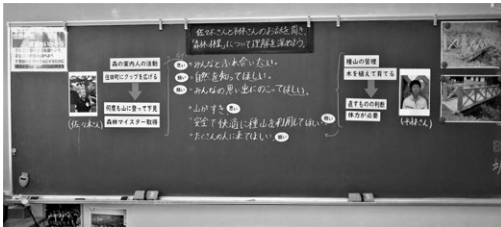
上手に取り上げてあげられなかった。

7 ゲストティーチャーの活用にあたって考えたいこと

ゲストティーチャーを活用し、学習することは、子どもたちにとって地域がより身近なものに感じられ、学習意欲が高まり、より深い学びへとつながっていくと感じた。校内アンケートの結果から子どもたちも自覚しているように、地域の方と関わりながら学習することで、コミュニケーション力や発表する力なども高まるため、ゲストティーチャーと連携を取りながら今後も続けていきたいと思った。



児童の感想



○児童の発言とワークシートより

- ・佐々木さんや平林さんは、みんなのことを考えているということが分かりました。みんなの思い出に残るようにしたいという願いがよく分かりました。
- ・種山に来る人に、安全に利用してほしいという思いをもっていることが分かった。
- ・学級内での発表会のときよりも、気になっていたことを知ることができた。
- ・私たちの知らないところで、こんなに頑張ってくれていることが分かりました。とても思いや願いなどが強いのだなと思いました。
- ・これからは、もっと森林などの自然を大切にしていきたいと思いました。
- ・これからの創造の学習でも、直接人に聞くことで、詳しく知れたらいいなと思いました。



第6学年 地域創造学学習指導案

日時 令和2年6月19日（金）5校時
場所 6年教室
学級 第6学年 14名
授業者 吉田由香

1 単元名 「我が町 再発見」

2 単元について

(4) 題材について

本単元は、自分たちが住んでいる住田町についての資源や小さい町だからこそできる町づくりの取組のよさについて理解し、住田町のよさを再確認していこうという単元である。単元の導入段階では、これまでの学習を基に、住田町のよさと課題について確認する。特にも、大きな課題の一つである「年々人口が減っている」という現状から、解決に向けた住田町の町づくりの取組について、自己課題を設定して調べる。次の段階では、調査して分かったことや感じたことを、再発見した「我が町」のよさとして、来年度学習する5年生に伝える活動を行う。これらの活動を通して、自分が関心をもった町づくりの取組のよさを、積極的に探求していく力や発信していく力を育てるものである。単元のゴールでは、学習を通して再発見した町のよさだけでなく、見えてきた町の課題についての考えを交流し、住田町の将来的な在り方について考え、発信していくという2学期の学習へとつなげていく。

(5) 児童について

児童は、これまで、1・2学年で有住の町探検や種山学習、3年生で地域を流れる「気仙川」周辺に生息している虫調べ、4年生で「気仙川」の様子や地域との関わりについて調べてきた。また、住田町の資源の一つである「杉」の苗植えを経験している。5年生では住田町の産業について調べ、住田町は、昔、製鉄が盛んだったことや「森林の町 日本一」を目指している町であることを学んでいる。さらに、大股地区にある「栗木鉄山跡地」に行き製鉄について詳しく調べ、木材を利用した産業が盛んに行われてきたことも学習している。

児童は、創造の学習に対して、意欲的に調べ学習を行っている。しかし、話し合いになると、自分の考えに自信がもてず、活発に意見交流をすることができない。そこで、KJ法やウエビングマップなど様々な思考ツールを使って考えを整理させたり、ペア学習やグループ学習の場を意図的に設定したりし、自分の考えに自信をもって積極的に話せるよう工夫していきたい。

(6) 指導にあたって

まず、これまで学習してきた住田町のよさと課題について、「児童自身が知っている住田町について」という視点から、自分の考えをまとめさせる。次に、グループや学級全体で話し合わせ、住田町のよさや課題についてまとめる。特にも、課題については、「年々人口が減少している」ことに着目させ、町の広報や新聞、インターネットなどから情報を収集し、人口が減少していることでどのような問題が考えられるのか話し合わせる。そして、町としてどのような取組を行って解決しようとしているのか、役場や地域の方から聞く活動を取り入れながら積極的に探求していく。そして、町の取組について調査してわかったことや考えたことをまとめ、5年生に発信する。その際、相手意識、目的意識をもたせ、わかりやすく伝えるためには、言葉に着目したり、効果的な表現方法を考えたりすることが大事であることを意識させ、発信させていく

い。

本時の指導では、住田町の町づくりの取組について詳しく知るために、役場（地域）の方に質問する内容を考える。まず、「観光・イベント」の「気仙ロックフェスティバル」について、どのような質問をしたらよいか学級全体で話し合わせる。そして、質問内容は、5W1Hを使うと質問することが明確になり、相手がわかりやすいということに気付かせる。学習の順序としては、初めに自分で考えさせ、次にステップチャートの思考ツールを取り入れながらグループで話し合わせ、よりよい質問内容にまとめさせる。さらに、全体で交流することで、質問の内容や順序に着目させながら、価値のある質問になるように深めていく。これらの活動を通して、住田町の町づくりの取組とそのよさに関心をもって積極的に探求していく力を育てていきたい。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

| | 資質能力の分類 | 資質能力別の目標 |
|--------|-------------------|---|
| 社会的実践力 | A【地域理解】 | ○住田町の資源や小さい町だからできる取組などのよさについて理解することができる。 |
| | B【社会参画に関する資質能力】 | ○住田町の町づくりの取組について、自分で意味づけをして、そのよさに気付き、発信することができる。 |
| | C【人間関係形成に関する資質能力】 | ○住田町の町づくりの取組のよさについて、協力して調査したり、話し合ったりすることができる。 |
| | D【自律的活動に関する資質能力】 | ○住田町の問題を自分との関わりで関連づけて捉え、住田町の町づくりの取組のよさについて活動を見つめ調整しながら探究することができる。 |

(2) 評価規準

| 資質能力 | | 評価規準 |
|-----------------------|-----------------|--|
| A | ◎地域理解 | 【◎地】 ・住田町の人口が減少していることや、それに関わる町づくりの取組とそのよさを理解している。 |
| B 資質能力 社会参画に関する | 1 ☆見通す力 | 【☆見】 ・住田町の町づくりの取組とそのよさについて、探究への見通しをもち、探究の計画を考えている。 |
| | 2 ☆多角的・多面的に考える力 | 【☆多】 ・住田町の町づくりの取組とそのよさについて、子育て支援や農政など様々な分野から多角的に捉え、考えている。 |
| | 3 ☆提案・発信する力 | 【☆提】 ・住田町の町づくりの取組とそのよさが効果的に伝えられるような方法を考え、発信している。 |
| | 4 ★好奇心・探究心 | 【★好】 ・住田町の町づくりの取組に関心をもち、積極的に探究している。 |
| | 5 ★困難を解決しようとする心 | 【★解】 ・住田町の町づくりの取組が分かる資料の収集などがうまくいかないときも、粘り強く最後まで取り組もうとしている。 |
| C 人間関係形成に関する資質能力 | 1 ☆伝え合う力 | 【☆伝】 ・根拠や理由を明らかにして検討したり、グラフや表などを活用して分かりやすく表したりしている。 |
| | 2 ☆協働する力 | 【☆協】 ・友達と考えを交流することで、住田町のよさを見出し、表そうとしている。 |
| | 3 ★他者受容 | 【★受】 ・住田町の町づくりの取組に携わっている方や友達の考えの理解に努め、相手の思いを尊重しようとしている。 |
| D 自律 | 1 ☆感じ取る力 | 【☆感】 ・友達と話し合うことで、住田町よさを見出し、課題を解決しようとしている。 |

| | | | |
|--|----------|------|---|
| | 2 ☆創出する力 | 【☆創】 | ・住田町の町づくりの取組とそのよさを価値付け、住田町の取組に対する自分の思いを広げようとしている。 |
| | 3 ★自己肯定感 | 【★肯】 | ・住田町の町づくりの取組とそのよさを深く理解することができたことに自信を深め、今後の学習に生かそうとしている。 |

4 単元の指導・評価計画（本時 第7時／全17時間）

| 月 | 小単元名 | プロセス | 時 | 主な学習活動と思考ツール | 関連する 教科・領域 | 評価項目 (評価方法) | | |
|----------|--|-------------|----------------|---|---------------|---|--|--|
| 5・6 | 住田町の町づくりの取組 | 問題の把握・現状把握 | 2 | ・今までの学習経験から、住田町のよさと課題について考える。 (KJ法) | | ・A ◎地域理解 (ワークシートの記述) | | |
| | | | 2 | ・住田町は人口が減少していることを把握する。 (広報、新聞、インターネットなどから) | | ・A ◎地域理解 (ワークシートの記述) | | |
| | | | 1 | ・人口の減少が及ぼす影響を知り、理解を深める。 (高齢化、子どもの数と学校数の減少、医療・福祉・介護の低下、商店街の空洞化など) | | ・A ◎地域理解 (ワークシートの記述) | | |
| | | 課題設定 | 1 | ・人口の減少による問題の解決に向けた、住田町の町づくりの取組について話し合う。 (クラゲチャート) | | ・B4 ★好奇心・探究心 (チェックリスト) | | |
| | | 計画する・見直しをもつ | 1(本時) | ・住田町の町づくりの取組とそのよさについて、役場(地域)の方に質問する内容を考え、詳しく調べるための計画を立てる。 (ステップチャート) | | ・B1 ☆見通す力 (ワークシートの記述) ・B4 ★好奇心・探究心 (チェックリスト) | | |
| | | 実施・改善 | 1 | ・住田町の町づくりの取組とそのよさについて、役場(地域)の方から話を聞く。 | | ・B2 ☆多面的・多角的に考える力 (ワークシートの記述) ・C3★他者受容 (チェックリスト) | | |
| | | | 1 | ・まとめたことを基にしながら、改めて住田町の町づくりの取組とそのよさについて話し合う。 (ボックスチャート) | | ・B2 ☆多面的・多角的に考える力 (チェックリスト) | | |
| | | | 1 | ・住田町の町づくりの取組とそのよさについて、話し合いを通して分かったことや考えたことをまとめる。 (ボックスチャート) | | ・D1 ☆感じ取る力 (ワークシートの記述) ・C2 ☆協働する力 (ワークシートの記述) | | |
| | | 7 | 住田町の取組のそのよさの発信 | 課題設定 | 1 | ・住田町の町づくりの取組とそのよさについての発表会に向けた活動内容を考え、計画を立てる。 | | ・B3 ☆提案・発信する力 (チェックリスト) |
| | | | | 実施・改善 | 3 | ・住田町の町づくりの取組とそのよさについての発表会の準備を行う。 | | ・B5 ★困難を解決しようとする力 (チェックリスト) ・D2 ☆創出する力 (発表シートの記述) |
| 1 | ・住田町の町づくりの取組とそのよさについて5年生に伝える。 (発表会) | | | | | ・B3 ☆提案・発信する力 (チェックリスト) ・C1 ☆伝え合う力 (発表シートの記述) | | |
| 振り返り・まとめ | 1 | | | ・単元の学習活動を振り返り、自分の探究活動を評価する。 | | ・D3 ★自己肯定感 (振り返りの記述) | | |

5 本時の指導

(2) 目標

住田町の町づくりの取組とそのよさについて、詳しく知るために役場（地域）の方に質問することの内容を考える。

【B社会参画に関する資質・能力 B1☆見通す力 B4★好奇心・探究心】

(2) 評価について

○ルーブリック(ワークシート)

| | | |
|-------------------|----------------------|--|
| パフォーマンス課題 | | ・住田町の町づくりの取組とそのよさについて詳しく知るために、役場（地域）の方に質問する内容を工夫する。 |
| みとる資質能力 | | ・B1 社会参画に関する資質・能力 ☆見通す力 |
| パフォーマンスの特徴 | A | ・価値のある質問ができるように、質問の言葉や順序に着目しながら内容を考え、積極的に記述・発言している。また、よりよいものにしようと、友達にアドバイスをしている。 |
| | B | ・価値のある質問ができるように、質問の言葉や順序に着目しながら、内容を考えて記述したり、発言したりしている。 |
| | C (支援の手立て) | ・どんな内容の質問をすれば、取組とよさについて知ることができるか、キーワード（5W1H）を手がかりに気付かせる。 |

○チェックリスト

| | | |
|----------------|----------------------|--|
| チェック課題 | | ・住田町の町づくりの取組とそのよさについて詳しく知るために、役場（地域）の方に質問する内容を工夫する。 |
| みとる資質能力 | | ・B4 社会参画に関する資質・能力 ★好奇心・探究心 |
| チェックリスト | A | ・知りたいことが質問できるように、価値のある内容を考え、積極的に記述・発言している。（4つ以上）価値のある質問をするために、友達にアドバイスをしている。 |
| | B | ・知りたいことが質問できるように、価値のある内容を考え、積極的に記述・発言している。（3つ） |
| | C (支援の手立て) | ・どんな内容の質問をすれば、取組とよさについて知ることができるか、キーワード（5W1H）を手がかりに気付かせる。 |

(3) 展開

| 段階 | 学習内容・学習活動（思考ツール） | ・指導上の留意点 ◆評価 |
|---|---|--|
| 導入 | 1 前時の学習を想起する ・人口減少がもたらす課題を解決するための住田町の町づくりの取組を想起する。 | ・産業（林業・農業）、観光（観光地や町のイベント）、移住・定住サポートなどの町づくりの取組を想起させる。 |
| | 2 学習課題を確認する | ・本時は、町づくりの取組について、詳しく知るための質問づくりをすることを意識させる。 |
| 町づくりの取り組みについて、くわしく知るためには、どのような質問をしたらよいのだろう。 | | |

| | | |
|----------------------------------|--|---|
| <p>展 開 30 分</p> | <ul style="list-style-type: none"> • 例えば「観光・イベント」の場合について、質問を提示し話し合う。 <p>3 自分の考えをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自分で考える。(付箋⇒ワークシート) <p>4 交流をして考えを深める</p> <p>①グループで話し合う。 内容を吟味して、質問をまとめる。 (ステップチャート)</p> <p>②各グループが考えた質問を交流し合う。</p> <p>③グループで確認する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> • 「気仙ロックフェスティバル」を提示し、いつごろから、なぜ始めたのか。質問内容には(5W1H)を使うとよいことに気付かせる。 • 自分が考えた質問を付箋に書いてワークシートに貼らせることで、自信をもって友達に伝えられるようにする。 • グループで話し合わせることで、自分と同じ考えや自分が気付かなかったことに気付かせ、考えを深めさせる(付箋から質問をまとめる)。 • ステップチャートを使い、よりよい質問にまとめさせる。 • 全体で発表し合い、他のグループからもアドバイスをもらって価値のある質問(内容、順序)になるよう考えを深めさせる。 • 全体で交流した後、もう一度、言葉や内容、順序に着目させて確認させる(決定した内容は別の色で囲む)。 |
| <p>ま と め 7 分</p> | <p>5 学習を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本時の学習課題について振り返る。 (評価の観点について) <p>6 次時の学習内容を確認する</p> | <p>◆評価</p> <ul style="list-style-type: none"> • 住田町の町づくりの取組とそのよさについて詳しく知るために、役場(地域)の方に質問する内容を工夫する。 (ループリック・チェックリスト) • 次時は、話し合ったことをもとに役場(地域)の方からお話を聞くことを確認する。 |

6 成果〇と課題◇

- 思考ツール(ウエビングマップ, KJ法, クラゲチャート)を活用することで、住田町の取組が可視化され、よりはっきりすることができた。
- KJ法は、色分けされて分かりやすいし、同じ考えである安心感や友達の考えを知った驚きを感じられる。また、グループで話し合いながら進めるので、リラックスして考えられるし、コミュニケーションもとりやすく効果的であった。
- ◇人口減少という課題から住田町の取組を調べたが、課題が大きすぎて難しかった。もっと子どもたちにとって身近な問題を課題にしてもよいと考える。
- ◇見通しをもたせる場面で例題を扱う時、「思い」を強調しすぎたために、質問内容を自分たちで考える場面では、「どうして」「なぜ」に集中した感じになってしまった。
- ◇5w1hでインタビューしたい質問内容を考えさせた。インターネットで調べればわかる内容ではなく、あえてインタビューの必然性がある内容を考えさせたかった。

校内研修（地域めぐり）

4月27日（月） 五葉・坂本方面

上有住駅は、建て替えられていて、きれいな駅舎になっていました。

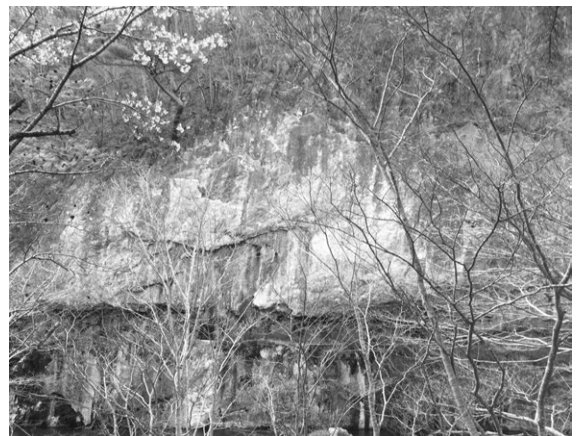


ここに、先日、聖火を乗せたSLが停まったと思うと、ちょっと感動しました。

滝観洞の入口ってこんなに小さかった？ 夏になったら、滝流しそうめん食べに行こう！



月のきれいな夜、左の松の木影が右の岩に、まるで鏡に映ったかのように映し出されたことから「鏡石」と名付けられたのだそうです。



今年度は、家庭訪問ができないため、4月27日（月）と30日（木）は家庭確認の日でした。それに合わせ、地域創造学指導にかかり予てから「やりたいね。」と言っていた地域巡りを校内研修として行いました。



滝観洞駐車場から上有住駅を望む。

滝観洞と上有住駅って、目と鼻の先の所にあったんですね。改めて知りました。遠い記憶しかなかったからなあ…

鏡岩の名前の由来は、岩が鏡みたいな形をしているからだと思っていたのですが、そうではないそうです。



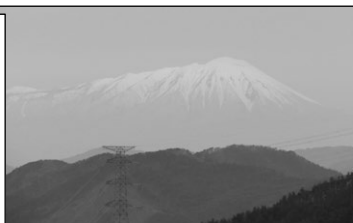
校内研修（地域めぐり）

4月30日（木） 下有住・種山方面

『上有住小学校根岸分校』の一角が残っていました。発見したときは、ホントびっくり！



『星座の森』に行く途中の車中から、なんと岩手山が見えました。カンド～。



旧大股小学校の校庭に、江刺街道開拓者『与市さん』がおりました。お花見をしておりました。一人で、立ったまま…



『ぼらん』は住田、『星座の森』は奥州です。「へ～、そうだったんだ、種山高原」。今日、初めて知りました。



『栗木鉄山跡』です。勉強不足のため、よくわかりませんでした。勉強します。



道路から『栗木鉄山跡』を見下ろす。



『めがね橋』近くにあった東屋。『弁慶のあしあと』という看板がぶら下がっていました。ペンケイノアシアト？ その真相は、次回散策で明らかに！



『めがね橋』です。ここ周辺には、もっと見処があるようなので、また散策に行きます。



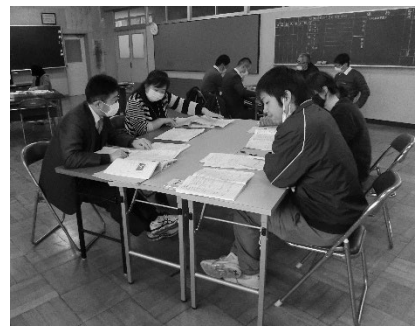
令和2年度 住田町立世田米中学校 校内研究のまとめ



※令和2年12月9日プロジェクト報告会の様子



※令和2年6月4日授業研究会の様子



※令和3年1月15日ルーブリック検討会の様子

I…研究主題

II…研究の目的

III…研究仮説

IV…今年度の校内研究の経過

V…研究の成果と課題

VI…次年度に向けて

添付資料1…杉下遼（教諭）らによる地域創造学（2年生）の指導案

添付資料2…黄川田潤一（教諭）による国語（2年生）の指導案

添付資料3…小岩洋介（教諭）らによる地域創造学（3年生）の指導案

添付資料4…ルーブリックの運用について

令和二年度 世田米中学校 校内研究計画書

I 研究主題

社会的実践力を身に付けた生徒の育成
～主体的・協働的な学び方を身に付ける授業づくりを通して～

II 研究の目的

現在、本校には、三つの教育的課題がある。第一に、地域創造学を中核に据えた授業実践に取り組むことである。第二に、次期学習指導要領の全面実施を見据えた授業実践に取り組むことである。第三に、生徒の学習内容の定着を図ることである。

「地域創造学」、「次期学習指導要領」、「学習内容の定着」に共通するものは何か。それは、生徒自身が目的意識を持ち、対話（生徒と教員、生徒自身、生徒同士、生徒と地域住民）と活動を通して、試行錯誤を経ながら目的実現に向けて行動する姿勢である。

昨年度、本校では、上記の姿の育成を目指し、「社会的実践力の育成—主体的・協働的な学び方を身につける授業づくりを通して—」を研究主題に掲げ、校内研究に取り組んできた。

先に挙げた三つの教育課題の解決に取り組みながら、今年度も「社会的実践力を身に付けた生徒」を目指すものとする。

III 研究仮説

研究仮説：教科や各領域の授業や家庭学習の指導等において、「主体的な学び方」や「協働的な学び方」を意図的・計画的に取り入れることができれば、社会的実践力を身に付けた生徒を育てることができるだろう。

1 地域創造学の実践に関わって

地域創造学の実践を通して、「社会的実践力を身に付けた生徒」の育成を目指すために、以下三点を配慮したい。

- ①各学年で、「地域の魅力を取り扱い、その魅力の発信に取り組む活動（以降、「プロジェクト）」に重点を置いた授業実践に取り組む。
- ②「プロジェクト」では生徒の興味・関心に寄り添った活動を展開する。ただし、生徒の思考や活動の質・幅を広げられるように、教員は適宜手立てを講じる。
- ③生徒同士や生徒と教員による対話の他、生徒と地域住民による対話等、活動が促進できるように、手立てを講じる。

2 次期学習指導要領の完全実施に関わって

次期学習指導要領の見据えた実践を通して、「社会的実践力を身に付けた生徒」の育成を目指すために、以下三点を配慮したい。

- ①「世中授業スタンダード」をベースにした授業開発・実践に取り組み、指導上の不一致を解消すること。
- ②「キャリアパスポート」に取り組む活動を年間指導計画に組み込み、生徒のポートフォリ

力を蓄積し生徒自身が成長に気づけるように促すこと。

- ③生徒や学校の実態を踏まえた「特別な教科 道徳」の年間指導計画を作成し、その計画に基づいて授業実践に取り組むこと。

3 学習内容の定着に関わって

学習内容の定着を通して、「社会的実践力を身に付けた生徒」の育成を目指すために、以下三点を配慮したい。

- ①「生徒の夢」「自身の現状」「現状から夢実現までになすべきこと」等を生徒自身に把握させ、生徒自身が学習に取り組む目的意識を持てるように、手立てを講じること。
- ②校内研究の他に、計画的に授業の教科・領域の授業の相互交流を実施し、「主体的な学び方」や「協働的な学び方」を取り入れた授業の実現に取り組むこと。
- ③家庭学習に取り組む目的を確認し合ったり、目的に向かって適切な学習方法が選択できるように支援したりするなど、家庭学習に関する指導の改善を図ること。

IV 今年度の校内研究の取り組み

| 月日 | 研究・実践 | 内容 |
|-----------|----------|--|
| 4月3日(木) | 職員会議 | 協議：「研究主題、年間計画、組織等について」 |
| 6月4日(水) | 授業研究会 | 実践：地域創造学 住田町魅力発信プロジェクト①「自分が追求するプロジェクトを考えよう！」(2年生) |
| 7月1日(水) | 校内研 | 協議・演習：「ルーブリックの運用について」 |
| 8月20日(火) | 棚支援教育研究会 | 実践・講習：「難病を抱えた生徒に対する支援方法・関係づくりについて」 |
| 10月22日(木) | 校内研 | 協議・演習「ルーブリックの運用について②」 |
| 11月10日(火) | 授業研究会 | 実践：国語・単元「意見文を書く」(2年生) ※事後研修会の「その他」で「発表会に向けて」確認する。 |
| 12月9日(金) | 授業研究会 | 実践：地域創造学・単元 住田町魅力発信プロジェクト②「活動の振り返りをしよう！」(3年生) |
| 1月15日(金) | 校内研究会 | 協議・演習「ルーブリックの運用について③」 |
| 1月21日(木) | 校内研 | 協議「今年度のまとめと次年度計画」 |

V 地域創造学の成果と課題

1 「プロジェクト」に重点を置いた授業実践

(1) 成果

- 感染症拡大防止の観点から、各学年、当初予定した活動に制限があったが、可能な範囲で「プロジェクト」に重点を置いた授業実践に取り組むことができた。
- ステージで育成する姿を意識し、各学年の活動内容の差異化を図って授業実践に取り組むことができた。

【1年生】

- ・小学校までの学習内容や探究方法を踏まえ、第3ステージのまとめに位置づく活動に取り組むことができた。
- ・SUMITAテレビと連携を図りながら、生徒の作成物を実際に発信することができた。CMの作成にあたっては、実際のCMを見せるなど、モデルの提示が効果的だった。

【2年生】

- ・2年生と3年生とで学習内容の差異化を図ったことで、学年のテーマが焦点化され、集中して計画的に実践を積み重ねることができた。
- ・プロジェクトの目的を意識させることで、住田町の魅力を再発見することができた。
- ・プロジェクト達成に向けて、インターネットや取材など、様々な手段を用いて活動することができた。

【3年生】

- ・プロジェクトのゴール（発信して、なおかつ自分達の活動の振り返りすること）を意識して活動の見通しを持ち、実際に取り組めた。
- ・クラス内報告会や報告会準備を通して、よりよいプロジェクト実現に向けての振り返りを行えた。
- ・2年間や3年間の積み重ねが学習の深まりにつながった。このことから、2年生と3年生の二年間でプロジェクトに取り組む教育的効果はあると考えられる。

【全体に関わって】

- ・感染症拡大防止の観点から、活動に制限があったが、それぞれの学年で、現在実践できる内容を挙げながら、実践を積み重ねることができた。

(2) 課題

- ▲教員による指導・支援が適宜入るようになったものの、生徒の認識を広げたり、生徒の活動の質を高めたりするために、教員による指導・支援の充実化を図る必要がある。
- ▲感染症拡大防止を図りつつ、活動を質の高いものにするために、年度当初に、「教員と地域の方・アドバイザーとの事前の打ち合わせ」や「小・中連携」「中・中連携」の機会を計画する必要がある。

【1年生】

- ・生徒の作成物が「世田米を流れる気仙川」や「ありすポークを利用した料理」といったように、身近な地域のものになってしまったため、「住田町における気仙川」や「ありすポークが提供されるまでの住田町のストーリー」といった、生徒の視点を広げる支援を講じたい。
- ・次年度は、取り上げた観光資源に携わる関係者の想いや願いを、インタビュー（もしくはオンラインで聴

講する)機会を十分に保障できるようにしたい。

【2年生】

- ・教員が一年間の見通しをしっかりと持ち、実践する必要がある。今年度のように、研究授業や報告会の直前に、まとめて「地域創造学」の授業を取り入れては、内容を深く探究したり、計画を変更したりする場合に、時間を十分にとることができない。
- ・実効性のあるプロジェクトを立てるために、教員による支援がさらに必要となる。「目的が何なのか」「どのような方法で達成しようとしているのか」「その方法が妥当なのか」などといった発問を教員が投げかけ、生徒の思考を整理する必要があった。

【3年生】

- ・活動が停滞したときや、新たな活動に取り組もうとした際に、「その魅力やテーマを選んだ目的や理由」を教員が問いかけ、生徒に十分に思考させる時間をとる必要があった。
- ・生徒が作品の制作に入る前に、地域の方々の要望や意見を取り入れる時間を作る必要があった。また、地域の方から助言をもらう機会を増やす必要があった。

【全体に関わって】

- ・感染症拡大防止の観点から実施に難しいところはあるが、アドバイザーや地域の方との交流や連携を定期的に行われるようにしていきたい。

2 生徒の興味・関心に寄り添った活動の展開・支援の手立て

(1) 成果

- 昨年度と比べて、**教員の指導・支援が計画的・組織的**に行われるようになり、生徒の興味・関心に寄り添いつつ、内容のある活動を実践することができた。
- **小学校までの学びの蓄積が生徒の興味・関心**となり、それらを踏まえた活動に取り組む姿が見られるようになった。

【1年生】

- ・小学校での積み重ねを踏まえたことで、生徒自身が持つ課題意識を軸に、実践を進めることができた。
- ・初期(SUMITAテレビ)、中期(米川さん・滝さん)、後期(SUMITAテレビ)とアドバイスをいただきながら取り組み、生徒自身が満足できるものが作成されたと感じる。

【2年生】

- ・生徒が選択する場面を、昨年度以上に、意図的・計画的に取り入れることができた。
- ・生徒の考えを尊重しながら支援できた。
- ・「問い」を通じて興味・関心を深める機会を作ることができた。
- ・ここ2～3年間の実践で注目されなかった題材を掘り起こす生徒がみられた。
- ・グループごとに協力しながら取り組み、プロジェクトの決定まで進めることができた。
- ・各グループと、それを支援する教員との対話が効果的に行われていた。

【3年生】

- ・生徒の意見を尊重しながら、適宜助言を行うことができた。
- ・報告会の反省、気づきが記録として残るよう支援を講じた。
- ・時間の確保ができた。
- ・昨年度までの学びを振り返りながら、十分に活動ができていた。

- ・報告会で高評価を得ていた。グループの想いやねらいが伝わったように感じる。

(2) 課題

- ▲ 活動場所が多岐に渡るため（特に3年生）、**安全確保のためにも、教員が事前に活動場所を把握したり、職員間で活動場所を共有したりする必要がある。**
- ▲ グループによっては、**興味・関心**が広がらず、調査や制作物の進行が遅れる様子が見られた。**多様な立場の人と対話し意見を交わすなど、興味・関心を広げる機会を保障する必要がある。**
- ▲ グループごとのスキルの差が制作物に顕著に反映されてしまったので、**スキルの差に応じた支援を充実させる必要がある。**

【1年生】

- ・生徒達は、小学校や生活経験で培ってきた認識に依拠し、作品の制作に取り組む傾向にある。生徒の認識を広げるために、他校の生徒、専門家、町外の人等、様々な人と対話をするなど工夫が必要である。

【2年生】

- ・個人やグループのスキルに差があり、制作物に如実にその差が現れた。「生徒の興味・関心に寄り添う」とは言え、ステージ4としての資質・能力の育成も必要であるため、スキルの差に応じた支援を充実させる必要がある。
- ・生徒同士の対話に関わる「問い」の視点を教員が提示することで、対話に深まりをもたせられた。そのため、年度当初から教員間で「問い」の視点等を共有し、生徒の活動を支援する必要がある。

【3年生】

- ・各グループの取り組みは、リーダーに任せてしまいがちで、1人1人の興味や関心が活かし切れていない場面もみられた。時間に限りはあるが、1人1人の興味・関心の達成度などを、振り返る機会を作る必要がある。グループの人数は多くても3人が良いと思う。
- ・生徒の活動は多岐に渡るため、様々な教室で活動することになる。事前に活動場所を把握したり、教員全員に周知を図ったりするなど、生徒の活動場所に教員が配置する必要がある。また、教員の出張等をふまえ、教員の人数が少ない日は、地域創造学の授業を改めて設定する必要がある。

【全体に関わって】

- ・校外や特別教室での活動を実施する際には、生徒の安全面を確保するためにも、事前に職員に周知する必要がある。

3 生徒同士、生徒と教員、生徒と地域住民の対話の促進

(1) 成果

- **「発表の視点」や「質問の視点」などを共有する時間**をとったことで、質疑の視点の焦点化が図られ、生徒同士や生徒と教員の対話を促進することができた。
- **「オンライン授業」や「講師を招いての授業」など、可能な範囲で、生徒と地域住民の対話の機会を保障**することができた。

【1年生】

- ・興味・関心のある生徒同士でグループを組んだため、生徒同士の対話は活発に行われていた。

・生徒の認識を広げるために、教員が適宜、質問を投げかけた。繰り返し投げかけることで、徐々に、質問の意図を理解し、それに応えようとする姿が見られるようになった。

【2年生】

・質疑の基本を学び、経験を積み重ねることで、対話する力が向上したように感じる。

【3年生】

・電話を通して、地域の方から助言をいただくことができた。
・すべてのグループが校外で活動する機会や地域の方と交流する機会があった。
・報告会を通して伝えること、聞くことが以前よりも要点を絞って行えるようになった。また、その場で考え質問や意見を言えるようになった。

【全体に関わって】

・報告会前に、「質問の視点」を授業で提示した。報告会では、その視点を活用して、生徒同士の質疑を、昨年度以上に取り組んでいたように見える。
・今後も、対話や活動を積み重ねることで、プロジェクトの理解を深めたり、ねらいを見つめなおしたりする機会となり、学習が深まっていくと思う。対話や活動の積み重ねを、どのように意図的・計画的に設定するか、今後も検討する必要がある。

(2) 課題

- ▲ **生徒の活動・制作物の質を高めるためには、生徒と教員による対話を一層促進する必要がある。** 適宜、「何のために」「どのようにして」「なぜ、その方法が妥当なのか」といった問いを投げかけ、生徒の思考の整理を図りたい。
- ▲ **生徒の認識を広げるために、地域住民との対話やオンライン授業などを一層推進する必要がある。** そのためには、教員が、今まで以上に教育コーディネーターと連携を図りながら、「地域の専門家」や「その分野に精通した人」などを探し対話する必要がある。

【1年生】

・SUMITAテレビや米川さんとの対話では、編集技術を習得する対話に終始する傾向にあった。「なぜ、その方法が良いのか」「その方法は、どのような願いを込めて取り入れるのか」といった、願いや想いに触れる対話を促進させたい。

【2年生】

・感染症拡大防止の観点から、地域住民との対話の機会を十分に保証することができなかった。

【3年生】

・生徒同士の対話を重視したが、生徒の認識を広げたり、活動の具体性を持たせたりする時には教員が対話に参加する必要がある。

4 その他（カリキュラムや評価などに関わって）

(1) 成果

- 校内研究会を通して、**教員でルーブリックの概念の共有化**を図ることができた。また、実際に**ルーブリックを用いたパフォーマンス評価を実施**したり、**定期的にルーブリックの更新**に取り組んだりすることができた。

○ 実践を通して、「小学校や高校との接続」や「有住中学校と進捗状況を合わせること」を
意識した来年度に向けたカリキュラムを作成することができた。

【1年生】

- ・各単元のルーブリックを検証し、より妥当性のあるルーブリックにバージョンアップさせることができた。
また、アンカー作品を設定することもできた。

【2年生】

- ・学びの記録を積み重ね、それをもとに振り返り、次の学びにつなげることができた。
- ・ルーブリックを学年で検討することができた。

【3年生】

- ・ルーブリックを作成し、評価の難しさを学年で共有できた。

【全体に関わって】

- ・ルーブリック評価について、職員で、理念や方法等を共有し、実践することができた。また、実践を通して、より妥当性のあるルーブリックを開発することができた。
- ・オンライン授業など、ICTを新たに活用した実践にも取り組むことができた。

(2) 課題

▲ ルーブリックを用いたパフォーマンス評価を実施するためには、年度当初に各単元のルーブリックを確定させ、学年ごとにルーブリックの内容の共有化を図る必要がある。

▲ 生徒の認識を広げるために、他者との対話の機会を保障する年間計画を作成する必要がある。次年度のカリキュラムには、可能な範囲で、小中、中高、中中連携の場を設定する必要がある。

【1年生】

- ・ルーブリックを年度当初に作成し、各単元のゴール像を、教員で共有し合う必要がある。

【2年生】

- ・生徒同士で評価しあう機会を増やす必要があると感じる。
- ・定期的にルーブリックを見直し常にバージョンアップしていきたい。
- ・誰が評価しても同じ評価になるよう、ルーブリックの文言に具体性を持たせる必要がある。

【3年生】

- ・評価をきちんと定めた上で、支援を行う。
- ・評価方法の再検討する必要があるかも。

【全体に関わって】

- ・ポートフォリオの編集の機会を、年度当初から計画したい。
- ・ルーブリックを活用する評価は、学年ごとに実施することが望ましい。しかし、時間的な制約があるため、今年度同様に、校内研究会で実施することが現実的である。

5 次期学習指導要領を見据えた授業実践の成果と課題① - 「世中授業スタンダード」をベースにした授業開発・実践による、指導上の不一致の解消 -

| | 成果 | 課題 |
|----|---|--|
| 国語 | ○単元導入部や終結部で、振り返りシートを用いて、単元の見通しや学習後の振り返りを実践することができた。 | ▲振り返りシートで何を振り返らせるのか曖昧な部分があった。単元で何の力を身に付けるのか、また、何の力を使うのかをもっと明確に授業者が持たなければいけない。 |
| 数学 | ○「モデルを提示し、その後、類似問題の提示」という手立てを講じたことで、生徒自身が解決の方針・方略を考えられるようになった。 | ▲展開部において、下位層の生徒が、解法のヒントを見つけたり、問題に活用できる技能について考えたりすることができるように、補助教材等の充実を図る必要がある。 |
| 社会 | ○国語の授業で提示されたツールミン図式を活用し、「主張の理由」を考える授業を実践することができた。 ○単元末に、振り返りの視点を明示しながら振り返りを実施したことで、生徒は次単元で身に付けたい力を記入することができた。 | ▲次期学習指導要領を踏まえると、より定期的に、生徒の資質・能力の到達度を見取る必要がある。年度当初に、「いつ」「何を」「どのように」みとるか確定させたい。 |
| 理科 | ○導入部で、生徒の生活経験に関連した事象を提示し、課題意識を持たせることができた。 ○単元を通して身に付けさせたい資質・能力を生徒と共有を図りながら、実践に取り組むことができた。 | ▲展開部（特に実験）で成果・課題等を、生徒に考えさせる時間を十分にとることができなかった。重点内容を精選し、教える場面と考えさせる場面のメリハリをつけたい。 |
| 音楽 | ○展開部で、自分達で修正点を見つけ、練習時間・練習内容・練習回数を考えさせることができた。 | ▲振り返りの活動を実施することができたので、今後は、教員によるフィードバックする活動を充実させたい。また、フィードバックしやすい、振り返り用紙を作成したい。 |
| 保体 | ○導入部で、単元の活動の見通しを提示し、生徒達が自主的に活動できるように手立てを講じた。 ○安全面を確保するために、適宜、学習規律について指導をした。 | ▲今後は、授業で学んだことを部活動や日常生活に活用できるような視点・動き等を充実させたい。 |
| 技術 | ○次時までの時間が離れることが多くあったため、生徒の学びが継続するように、「振り返り」と「導入」を意図的に結び付けて授業実践を積み重ねることができた。 ○「作業」の時間を保障するために、「道具の使い方」の練習時間を十分に確保した。その結果、生徒達が主体的に「作業」する場面が多く見られた。 | ▲授業の準備が不足した際には、生徒に授業の見通しを持たせられず、振り返りも不十分になることがあった。 |

| | | |
|-----|--|---|
| 家庭 | ○前時の振り返りを、本時の導入に取り入れることで、「前時とのつながり」や「本時の見通し」を持たせることができた。 | ▲展開部のグループ学習では、生徒同士の情報交換に終始し、考えを深めることが難しかった。 |
| 外国語 | ○単元のゴールを毎時間提示し、見通しをもたせることができた。 ○課題について答える機会を確保することができた。 | ▲自分の成長を確かめるための振り返りを実践することができなかった。 ▲解決した課題をその後の課題解決等に活かす、生徒によるPDCAサイクルを実施する機会を十分に保障することができなかった。 |
| その他 | ・互見授業の実施、併せてミニ研究会を次年度継続させたい。 | ・参観の視点の焦点化を図り、互見授業の継続しやすい形を模索する必要がある。 |

6 次期学習指導要領を見据えた授業実践の成果と課題②一年間指導計画にそった「特別の教科 道徳」の授業実践の蓄積、評価方法の確定

(1) 成果

- どの学年も、おおむね年間指導計画に沿って実践することができた。
- 授業力向上研修などの内容をふまえ、道徳的判断力に迫る授業を実践することができた。

【1年生】

- ・計画に沿って着実に授業実践を積み重ねることができた。
- ・道徳的心情の理解に留まらず、道徳的判断力に迫る活動を十分に確保することができた。

【2年生】

- ・計画に沿って着実に授業実践を積み重ねることができた。

【3年生】

- ・おおむね予定通り行えた。

(2) 課題

- ▲ 年度当初から、年度末の評価（何をみとるのか、どのようにみとるのか、どのようにフィードバックするのか）を見据えて実践する必要がある。**「特別の教科 道徳」の評価に関する校内研究会（演習形式）を実施する必要がある。**
- ▲ 「特別の教科 道徳」の**互見授業を定期的に実践し、取り扱われている内容や指導方法に関する情報交流の機会を定期的に持つ必要がある。**

【1年生】

- ・年度当初から、年度末の評価（何をみとるのか、どのようにみとるのか、どのようにフィードバックするのか）を見据えて実践する必要がある。

【2年生】

- ・評価については、今後も試行錯誤を重ねながら確立させていく必要がある。
- ・毎回、ねらいとする価値に迫る発問に対する生徒の考えを記入させることができた。

【3年生】

- ・指導書を用いての指導に難しさも感じた。

7 次期学習指導要領を見据えた授業実践の成果と課題③—その他（家庭学習、学力アップ取り組みなど）—

（1）成果

- 年度当初に、教員の間で「課題学習」と「自主学習」の違いを共有し、それらの情報を生徒・家庭に提示することができた。
- 諸調査の結果をふまえ、学力向上を特に図らなければならない学年を抽出し、職員一丸となって学力向上に向けた活動に取り組むことができた。

【1年生】

- ・副担任を中心に自主学習ノートの点検を行い、模範となる学習方法を提示し、自主学習についての意欲を喚起することができた。
- ・定期テスト取り組みなどでは、「目標となる学習時間（「平日：90分×日数」＋「休日120分×日数」＋ α ）」を提示し、学習時間の確保に努めることができた。

【2年生】

- ・職員室前の掲示で、各教科の課題が明示され、職員間での共通理解が図られた。
- ・提出が目的ではなく、自分の学力向上のために取り組む姿勢が見られるようになった。

【3年生】

- ・定期的にクラスへの声がけをしたり、個人への呼びかけをしたりすることができた。
- ・職員が一体となって取り組みができた。

（2）課題

- ▲ 今年度は、実力テストの結果を受けて、内容を見直し新たな取り組み始めた経緯がある。
次年度は、年度当初から、一年後の生徒のゴール像を見すえて、意図的・計画的に学力向上活動に取り組む必要がある。
- ▲ 生徒に「現在の自身の状況」「学習の必要性・有用性」について考えさせる活動が必要。
次年度は、進路担当やキャリア教育担当とも協力しながら、「現在の自身の状況」「学習の必要性・有用性」について考える学習相談等、支援の充実を図りたい。

【1年生】

- ・「世中の1年生の中で、自分は〇〇といった立場だから大丈夫」という認識を広げることに苦労した。自分達の現状を知り、学力向上の意欲を喚起させるために、他校の生徒の活動の様子を見せたり、他校の生徒と協働して活動したりする必要があると思う。

【2年生】

- ・「個に応じた課題・自主学習」を、今後、大幅に取り入れる必要がある。
- ・学習相談を定期的に行えれば、学習の効果が出てくるように感じる。取り組めない子への支援が不十分な面もあったのではないかと思う。相談する時間が欲しいような気がする。

【3年生】

- ・進路実現を意識しながら、活動を継続させる必要がある。

【全学年に関わって】

- ・学力向上取り組みは、全学年で挑戦・実施する。

VI 次年度に向けて

(1) 次年度の校内研究で意識したいこと

次年度(令和3年度)は, 研究開発学校としての取り組みの成果を全国に発信する年であり, 中学校における次期学習指導要領が完全実施される年でもある。「研究開発学校取り組み」と「次期学習指導要領の完全実施」を校内研究の両輪として捉え, どちらの取り組みもバランスよく, 意図的・計画的に実施することが必要である。

そのために, 次年度の校内研究では, 今年度の成果・課題をふまえ, 以下3点を意識したい。

令和3年度 校内研究で意識したいこと

- ①教員が見通し(年度当初, 単元の導入部)を持ち, 周囲の教員・生徒とその見通しについて共有すること。
- ②生徒の認識を広げるために, 教員と生徒, 生徒同士(他校や異校種の児童・生徒), 生徒と地域住民の対話の機会を拡充すること。
- ③互見授業の計画的・継続的な実施, 校内研究会での協議, 諸調査の分析などを踏まえて, 教員の授業改善や, カリキュラム・マネジメントに日常的に取り組むこと。

特に, ①「見通し」については, 「研究開発学校取り組み」と「次期学習指導要領の完全実施」, この両輪を滞りなく進めるために重要といえる。

年度末や年度初頭に, 研究開発学校取り組みの日程を確認したり, 各教科の年間指導計画を確認したりするなど, 次年度に向けた準備を進めたい。

(2) 令和3年度 校内研究計画に関わって

① 主題

社会的実践力を身に付けた生徒の育成 - 主体的・対話的な学び方を身に付けた授業づくりを通して -

② 研究の目的

現在, 本校には, 三つの教育的課題がある。第一に, 地域創造学を中核に据えた授業実践に取り組むことである。第二に, 平成29年告示版学習指導要領(以降H29告示版)を踏まえた授業実践に取り組むことである。第三に, 生徒の学習内容の定着を図ることである。

「地域創造学」, 「H29告示版」, 「学習内容の定着」に共通するものは何か。それは, 生徒自身が目的意識を持ち, 対話(生徒と教員, 生徒自身, 生徒同士, 生徒と地域住民)と活動を通して, 試行錯誤を経ながら目的実現に向けて行動する姿勢である。

昨年度, 本校では, 上記の姿の育成を目指し, 「社会的実践力の育成—主体的・協働的な学び方を身につける授業づくりを通して—」を研究主題に掲げ, 校内研究に取り組んできた。

先に挙げた三つの教育課題の解決に取り組みながら, 今年度も「社会的実践力を身に付けた生徒」を目指すものとする。

添付資料1…杉下遼（教諭）、黄川田潤一（教諭）、高木浩二（教諭）らによる地域創造学（2年生）の指導案

- ・日 時：令和2年 6月4日（金） 14：00～
- ・授業者：杉下遼（教諭）
- ・学 級：2年A組（男子6名，女子11名，計18名）
- ・場 所：パソコン教室
- ・単 元：住田町魅力発信プロジェクト①「自分が追求するプロジェクトを考えよう！」
- ・助言者：千葉邦彦指導主事（住田町教育委員会）

添付資料2…黄川田潤一（教諭）による国語（2年生）の指導案

- ・日 時：令和2年11月10日（火） 14：00～
- ・授業者：黄川田潤一（教諭）
- ・学 級：2年A組（男子6名，女子11名，計18名）
- ・場 所：2年A組教室
- ・単 元：根拠を明確にして意見を書こう
- ・助言者：木下克美指導主事（沿岸南部教育事務所）

添付資料3…小岩洋介（教諭）、新沼久美子（教諭）、熊谷美保（教諭）らによる地域創造学（3年生）の指導案

- ・日 時：令和2年12月 6日（木） 9：45～
- ・授業者：小岩洋介（教諭）、新沼久美子（教諭）、熊谷美保（教諭）
- ・学 級：3年A組（男子16名，女子9名，計25名）
- ・場 所：体育館等
- ・単 元：4 活動の振り返りをしよう！
- ・助言者：向口千絵子指導主事（沿岸南部教育事務所）

添付資料4…ルーブリックの運用について

【添付資料 1】

第2学年 地域創造学学習指導案

日 時 令和2年6月4日（木）5校時

場 所 パソコン教室

学 級 第2学年 男7名 女11名 計18名

授業者 杉下遼，黄川田潤一，高木浩二

1 単元名 住田町魅力発信プロジェクト①「自分が追求するプロジェクトを考えよう！」

2 単元について

大単元「住田町魅力発信プロジェクト」のねらいは、住田町の魅力を発信する活動を通して、生徒の地域社会に対する見方・考え方を深めたり、広げたりすることと、地域に対する社会参画意識を高めたりすることである。

そこで本単元では、住田町の魅力を発信するための個人プロジェクトプランの作成を通して、「住田町にも様々な魅力がある」といった考えを深めたり、「今年度の学びを生かして、来年度のプロジェクト達成に向けて取り組みたい」といった気持ちを高めたりすることをねらいに置きたい。以下、「題材」「生徒の実態」「指導にあたって」の特徴について紹介する。

（1）題材について

大単元「住田町魅力発信プロジェクト」で取り扱う題材は、住田町の魅力である。

生徒達は、これまでの活動を通して、「これまで育ててくれた住田町に、自分のできることで恩返しをしたい」「住田町の自然の素晴らしさを各地の人に知って欲しい」「自分達の仕事が町の人の元気に繋がれば嬉しい」といった、町に関わる人たちの願いに触れてきた。住田町で活躍する人・企業への取材は、第一ステージから第三ステージ前半期まで学んできた「住田町は、種山ヶ原や気仙川に代表されるように豊かな自然に恵まれている」といった町の魅力（自然）に加えて、「住田町には、地域の良さをいかしながら活躍する人や企業がある」といった町の魅力（人・企業）についてより深く考える機会になったといえる。

本単元は、個々で作成したプロジェクトプランを学級でスピーチし、追求するプロジェクトを選択する活動を予定している。活動を通して、生徒達は、「〇〇の魅力を発信することが誰のためになるのか」「〇〇の魅力を発信するためにはどのような方法があるか」「〇〇の魅力をより良く伝えるためには地域の方の助けをどのように借りれば良いか」など、より具体的なプロジェクトプランの考案につながる機会としたい。

（2）生徒について

大単元「住田町魅力発信プロジェクト」では、住田町の魅力を発信する活動を通して、生徒の地域社会に対する見方・考え方を広げたり、地域社会に対する社会参画意識を高めたりすることをねらいとしている。

昨年度、生徒達は、町内で活躍する人・企業の取材を行い、その内容をパンフレットにまとめる活動を通して、「住田町を自分のできることで盛り上げたい」「たくさんの人に住田町のすばらしさを知って欲しい」といった、町内で活躍する人・企業の願いや思いに触れることができた。

本単元は、大単元「住田町魅力発信プロジェクト」の第三単元にあたるため、個人プロジェクトプランの

作成や発表を通して、住田町の魅力を発信する際に大切にしたいことを考え、「自分達でも、町のためにできることがあるかもしれない…」といった生徒の地域社会に対する社会参画意識を高める機会にしたい。なお、本単元では、主な活動として、住田町の魅力について特に発信したいものを選択し、プロジェクトプランを個々に作成し、学級でスピーチする活動を予定している。その特徴を踏まえ、社会的実践力の中でも、「A地域理解」「B5 困難を解決しようとする力」「C1 伝え合う力」「D2 創出する力」といった資質・能力を高められるよう、支援を講じていきたい。

(3) 指導にあたって

学習材の特徴と生徒の実態を踏まえ、「A地域理解」「B5 困難を解決しようとする力」「C1 伝え合う力」「D2 創出する力」といった資質・能力の育成に迫るために、それぞれの段階において、以下に示す活動を計画している。

単元の導入部では、追求したいプロジェクトを考える活動を取り入れる。具体的には、①大単元のテーマ「住田の魅力を発信する準備をしよう！」を確認する、②個人プロジェクトプランに盛り込む内容を確認する、等である。

単元の展開部では、個人プロジェクトプランの作成に取り組む。具体的には、「発信する魅力、発信先、発信方法等」、あらかじめ決まった様式に書き込む活動である。

単元のまとめでは、追求するプロジェクトを選択する活動を取り入れる。具体的には、①学級で提案されたプロジェクトの中でより追究したいプロジェクトを一つ選択する、②同じものを選択した生徒同士が集まりチームを作る、である。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

| 育成した資質・能力 | | 資質・能力別の目標 |
|-----------|-------------------|---|
| 社会的実践力 | A【地域理解】 | ○地域の方々から聞いた内容や住田町の産業や環境等の現状を踏まえ、住田町の良さや課題を追究するプロジェクトを当事者意識をもって積極的に考案することができる。 |
| | B【社会参画に関する資質能力】 | ○取り組んでいる作業を目的と照らし合わせたり、作業が上手くいかない場合はその原因を追及したりするなどして、よりよいプロジェクトの考案に向けての行動を起こすことができる。 |
| | C【人間関係形成に関する資質能力】 | ○調査活動で自分が学んだことを整理して、考案したプロジェクトを提案することができる。また、仲間のプロジェクトで共感することや気になったことを伝えたり、助言したりすることができる。 |
| | D【自立的活動に関する資質能力】 | ○先輩方が実行したプロジェクトを参考にするとともに、これまでの自分の学びを振り返り、住田町の魅力や課題を意識したプロジェクトの案を作成することができる。 |

(2) 評価規準

| 資質能力 | | 評価規準 | |
|------------------|-----------------|--|--|
| A ◎地域理解 | 【◎地】 | ◆これまで学んできたことを踏まえつつ、必要に応じて地域の方々の助言を受けながら、住田町の良さや課題を追求するプロジェクトを計画しようとしている。 | |
| B 社会参画に関する資質能力 | 3 ☆提案・発信する力 | 【☆提】 | ◆追究したいプロジェクトの発表で追究調査活動で得た内容を、成果物等で示し、住田町の魅力や課題を意識したプロジェクトの案を発表しようとしている。 |
| | 5 ★困難を解決しようとする心 | 【★困】 | ◆追究活動のまとめを通して、調査活動で学んできた情報を整理・分析し、自分の言葉でまとめようとしている。 ◆自分が取り組みたいプロジェクトの立案に向けて、課題点や調べなければいけないことを必要に応じて様々な人に相談し、自分で追加の調査を行いながら解決しようとしている。 |
| C 人間関係形成に関わる資質能力 | 1 ☆伝え合う力 | 【☆伝】 | ◆プロジェクトを提案する活動を通して、学んできた住田町の魅力や課題について更に知りたいことや気づいたことを学級で伝え、交流しようとしている。 |
| | 3 ★他者受容 | 【★他】 | ◆提案活動後、自分が調べた住田町の魅力や課題以外にも様々な魅力や課題があること、異なった捉え方があることに気づき、興味や疑問を持つようとしている。 |
| D 自律的活動に関する資質能力 | 2 ☆創出する力 | 【☆創】 | ◆自分が調査した住田町の魅力や課題、新たな視点も加えながら、住田町の魅力を高めるプロジェクトの案を作成しようとしている。 |

※授業の様子 1



授業の導入時、杉下先生が、「作ったモノ・調べたこと・企画したことを発信するための方法」「各方法の対象とメリット・デメリット」について説明しました。この活動を取り入れたことで、生徒と教員で発信方法に関する考えを共有することができました。

4 単元の指導・評価計画（本時 第2時／全12時間）

| 月 | 小単元名 | プロセス | 時 | 主な学習活動 | 関連する教科・領域 | 評価項目 (評価方法) |
|---|------|----------|---|--|--------------------------------------|---|
| 6 | 立案する | プロジェクト立案 | 8 | ○追究したいプロジェクトを考える。 ・「何を」、「何のために」、「誰のために」、等のあらかじめ決まった様式で書く。 ・魅力を生かした作成物だけでなく、課題を改善するための提言等でも良いことを意識する。 | 【国語 書くこと】 | ・D2 ☆創出する力 (ルーブリック) ・A ◎地域理解(ポートフォリオ個人) ・B5 ★困難を解決しようとする心(ポートフォリオ個人・他者) |
| | | | 2 | ○考えたプロジェクトを仲間や先生方に提案する。 ・追究したいプロジェクトを発表する。 ・発表についての質疑を行い、必要に応じて返答する。 | 【国語 話すこと 書くこと】 【道徳 相互理解 寛容】 | ・A ◎地域理解(ポートフォリオ個人・他者) ・B3 ☆提案・発信する力 (ポートフォリオ個人・他者) ・C1 ☆伝え合う力 (ポートフォリオ個人・他者) |
| | | | 2 | ○追究するプロジェクトを選択する。 ・他の人が提案したプロジェクトか自分が提案したプロジェクトの中でより追究したいプロジェクトを一つ選択する。 ・同じものを選択した生徒同士が集まり、チームを作る。 | 【道徳 自然愛護】 【道徳 伝統文化】 | ・C3 ★他者受容(ポートフォリオ個人・他者) |

※授業の様子2



授業の展開時、杉下先生・黄川田先生・高木先生が、考えがまとまらない生徒を対話をする支援を取り入れました。この活動を取り入れたことで、教員は生徒の実態を把握し、生徒は自身の考えを整理することができました。

5 本時の指導

(1) 目標

- 個人プロジェクトプランの提案に向けて、自分が調査した住田町の魅力や課題、新たな視点も加えながら、住田町の魅力を高めるプロジェクトの案を作成しようとしている。【A ◎地域理解】【D2 ☆創出する力】

○本時のルーブリック

| みとる資質・能力 | | D2 ☆創出する力 | ※A ◎地域理解 |
|-------------|--------|--|----------|
| 取り組むパフォーマンス | | 「発信する魅力、発信先、発信方法等」を盛り込んだ個人プロジェクトプランの作成 (2/12) | |
| パフォーマンスの特徴 | A | 発信する魅力、発信先、発信方法等を明確にした、住田の魅力を発信する上でより実現性の高い個人のプロジェクトを作成する。(例:類似する事例を分析し選択する発信方法の適性を具体的に示している、実際に発信しその方法の妥当性を検証している…など) | |
| | B | 発信する魅力、発信先、発信方法等を明確にした、住田の魅力を発信する個人のプロジェクトを作成する。 | |
| | 支援の手立て | <ul style="list-style-type: none"> プロジェクト作成のモデルと観点を共有する。 「発信する魅力」や「発信方法」を記入する際には、「調べ方」を全体で考える機会を意図的、計画的に取り入れる。 | |

○【A◎ 地域理解】と【B5 困難を解決しようとする心】のポートフォリオ評価

- 教員…単元末の振り返りの際に、毎回の振り返りシートの記述内容を踏まえ、新たに気づいたこと・考えを深めていたことや、課題解決に向けて努力していたこと・工夫していたことなどについて記述する。
- 生徒…単元末の振り返りの際に、個人プロジェクトの作成を通して、新たに気づいたこと・考えを深めたことや、課題解決に向けて特に努力したこと・工夫したことなどについて記述する。

※授業の様子3



年間を通して、適宜、教育コーディネーター（写真赤丸部分）が授業を参観できる体制を作りました。教務主任は週予定を早めに作成、研究主任は翌週の各学年地域創造学の計画をとりまとめ、副校長は教育コーディネーターに次週の活動計画を連絡しました。

| 地域創造学 次週の活動計画 | | |
|---------------|---------------------------|------------------------|
| | 2020年11月30日（月） | 2020年12月2日（水） |
| 1年生 | 6時間目…CM修正、プレゼン資料作成、(写真選抜) | 6時間目…発表練習、質疑練習 |
| 2年生 | 5・6時間目…魅力の追究、発表準備 | 5・6時間目…魅力の追究、発表準備、発表練習 |
| 3年生 | 5・6時間目…発表準備、(クラス報告会) | 5・6時間目…クラス報告会 |

(3) 展開

| 題 | 学習内容・学習活動 | ・指導上の留意点 ◆評価 |
|--|--|---|
| 導入 5分 | <p>1 学年テーマの確認 テーマ「住田の魅力を発信する準備をしよう！」を示し、活動の目的について確認する。</p> <p>2 「学習課題」の設定 前時の活動を踏まえて「学習課題」を確認する。</p> | <p>・住田町の魅力を発信するための準備段階であることを、改めて生徒と教員で確認する。</p> <p>・事前に振り返りシートを返却し、「学習課題」についての見通しを抱かせる。</p> |
| <p>学習課題 個人プロジェクトプラン発表会に向けた準備をしよう！ (発信方法に重点を置く)</p> | | |
| 展開 35分 | <p>3 発信方法の確認 想定される発信方法とその特徴について生徒と確認する。</p> <p>4 個人プロジェクトプランの作成 個人で発信方法について選択した後、グループで確認し合ったり、相談し合ったりする。</p> | <p>・発信方法と特徴をまとめたプリントを用意する。</p> <p>・発信方法については生徒たちから挙げさせ、その特徴は教師が提示する。</p> <p>・魅力・発信する目的・発信対象・発信方法が一貫しているプロジェクトを作る必要性に気づかせる。</p> <p>◆取組の目的を明確にしなが、住田町の魅力を高めるプロジェクトの案を作成しようとしている。【☆創】</p> <p>◆自分が取り組みたいプロジェクトの立案に向けて、課題点や調べなければいけないことを必要に応じて様々な人に相談し、自分で追加の調査を行いながら解決しようとしている。【★困】</p> |
| まとめ 10分 | <p>5 振り返り 振り返りシートを記入する。</p> <p>6 次時の学習の確認 振り返りの内容を踏まえ、次時に取り組みたいことを提案する。</p> | <p>・本時に取り組んだ内容を踏まえ、振り返りシートの「今日の活動」「成果」「課題」「続けたいこと」「改善したいこと」「次回取り組みたいこと」「その他」等を記入するように促す。</p> <p>・魅力・発信する目的・発信対象・発信方法に一貫性のあるプロジェクトを作成することを促す。</p> |

国語科学習指導案

日時 令和2年11月10日(火) 5校時
学級 住田町立世田米中学校 2年A組 計17名
授業者 黄川田 潤一

1 単元名 根拠を明確にして意見を書こう

教材名 「意見文を書く」(光村図書2年生) pp.172 - pp.175

※中学校学習指導要領国語第2学年「B書くこと」-「イ 伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫すること」及び、「B書くこと」-「ウ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること」

2 単元について

(1) 生徒について

本学級の生徒は、文章を書くことへの抵抗感は少しあるものの、決められた字数や構成に従って文章を書きあげることが全体的に出来ている。しかし、自分の意見を支える根拠の示し方や妥当性まで吟味することに苦手意識を抱えている。

諸調査の結果からも、その傾向がうかがえる。R1新入生学習状況調査では、「段落構成を考えながら指定された長さの文章を書く」について県平均を上回っていたが、「根拠に基づいて自分の考えを書く」では県平均を5ポイントよりも下回っていた。

「B書くこと」に関わって、生徒は2年生までに、「絵画についての鑑賞文」「読書ポスター」「調べたことをまとめたレポート」など様々な様式の文章を書く学習に取り組んできた。その際には、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確かめながら根拠を明確にするような学習を続けている。また、週末課題として200字意見文トレーニングにも取り組んでいる。

これらの学習を踏まえつつ、本単元の学習では、①意見文の根拠の示し方や妥当性などを理解する力、②妥当性のある根拠を示した説得力のある意見文を書く力、③より説得力のある意見文を書くために、自身の意見文の修正点・その理由を把握しようとする力、といった資質・能力の育成を図りたい。

(2) 教材について

本題材は、意見と理由・根拠を書き分けるだけの意見文から脱却し、主張・根拠・理由の関係性を理解し、それを活用して説得力のある意見文を書く力をつけることをねらいとしている。

生徒達は、意見文を書くにあたり必要な要素に「主張を示すこと」と「理由を示すこと」を挙げている。日常的に記述する文章においても「主張」と「理由」を意識し記述する様子が見られている。

しかし、社会に出て会社などで企画をプレゼンテーションする際には、「主張」と「理由」だけでは、説得力ある提案ができない。説得力のある提案を行うためには、「主張」と「理由」を支える「根拠」の妥当性や、「主張」「根拠」「理由」の一貫性を検討する必要がある。

本題材は、①説得力のある意見文の構造の理解、②妥当性のある根拠の性質の理解、③①・②を踏まえた説得力のある意見文の記述の実践、④記述した意見文の「主張・根拠・理由の一貫性」や「根拠の妥当性」の検証、という構成になっている。この構成を踏まえ、本題材を通して説得力のある意見文を書く力の育成を図りたい。

(3) 指導について

本単元における「説得力のある意見文」を、以下の3点とした。

- ①主張が明確で一貫性（最初と最後で意見が同じ）がある。
- ②主張・根拠・理由が一貫している。
- ③主張を支える根拠が適切である。
 - ア 根拠となる妥当性や信頼性のある事実（データや体験、具体例など）が述べられている。
 - イ その事実がなぜ根拠となりうるのかという理由づけが述べられている。

本単元は全3次から構成する。第1次は、単元について見通しを持つ活動、文章の構成と根拠の示し方をとらえる学習を計画している。第2次は、構成メモを作成し、意見文を書きあげ、文章を推敲する活動を計画している。第3次は、書いた意見文を相互に評価し、単元の振り返りを計画している。

第1次については、説得力のある意見文を書くために、必要な要素を捉えさせる。ここでは特に根拠の示し方を、主張・事実・理由づけの関係を用いて学習を展開する。また生徒が主体的に学習へ向かえるよう、振り返りシートを活用し、学習の見通しを持たせる。

第2次については、意見文を作成するために、構成メモの作業を通して根拠の示し方を吟味させる。その後、書き上げた意見文を推敲するポイントを押さえ、小グループで交流する。苦手な生徒には机間巡視や、小グループの交流する時間確保し支援したい。

第3次については、書き上げた意見文を相互交流し単元のまとめとしたい。また、単元を通してどのように学習を進めてきたか、どのような力が身についたかを振り返らせ今後の学習へとつなげていきたい。

なお、単元を通して、生徒の考えを書いたりまとめたりする際には、「個人で書く→グループで共有する→学級で共有する」というサイクルを活用したい。

3 単元の目標

【知識及び技能の習得】

- ・説得力のある文章における、主張・根拠・理由の関係性（一貫性、根拠の妥当性・信頼性）を理解できる。

【思考力・判断力・表現力等の育成】

- ・主張・根拠・理由の関係性を踏まえ、説得力のある意見文を書くことができる。

【学びに向かう力・人間性等の涵養】

- ・より説得力のある意見文を書くために、自身の意見文の修正点・その理由を把握しようとしている。

※授業の様子①



黄川田先生が、情報を焦点化し提示するために、ICT機器（大型モニター）を授業に取り入れました。単元を通して利用できる思考ツールを視覚的に示したことで、適宜、教員と生徒で、明らかにすべき内容を確認することができました。

4 単元の評価規準

| 知識及び技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力・人間性等 |
|---|---|---|
| (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 オ 意見文という文章形態の特徴を 押さえ、説得力のある構成を理解して いる。 | 「B書くこと」 ウ 主張・根拠・理由の一貫性や妥当 性を踏まえ、自分の主張が伝わる文章 で意見文が書かれている。 | より説得力のある意見文を書くため に、自身の意見文の修正点・その理由 を把握しようとしている。 |

5 単元の指導計画（全6時間）

| 次 | 時 | 学 習 活 動 | 評 価 規 準 |
|---|-----------------------|--|---|
| 1 | 1 (本 時) | ○単元全体の見通しを持つ。 ○モデル文から意見文の構成を理解し、 根拠の示し方について考える。 | 学 説得力のある文章を書くために、必要な要素をとらえ、 今後の学習の見通しを持とうとしている。(学習状況) 書 根拠が事実と理由づけに基づいて示され、妥当性のある 根拠になっているか考えている。(観点別) |
| 2 | 2 | ○テーマを自分で選び、構成メモを作成 する。 | 知 説得力のある文章構成について理解している。(観点別) 書 自分の立場を支える根拠の適切さを考え、構成メモにま とめている。(観点別) |
| | 3 | ○自分の主張に必要な資料を集め、自分 の立場を支える根拠を整理する。 | 書 根拠の妥当性や信頼性について考え意見文を書いてい る。(観点別) |
| | 4 | ○構成メモや集めた資料の情報を整理 し、意見文を書きあげる。 ・構成メモで主張と根拠の妥当性を検討 しながら、原稿用紙に意見文を書く。 | |
| | 5 | ○書いた意見文を読み合い、説得力のある文 になっているか意見を述べ合い、推敲する。 ・小グループで推敲ポイントを基に助言し合 う。 | 書 根拠の適切さや具体例などの、表現の効果を考えて推敲 している。(観点別) |
| 3 | 6 | ○修正した意見文を発表し、相互交流を する。 ○自分の文章を振り返り、学んだことを 振り返る。 | 書 根拠の適切さや表現の効果を考えて交流している。(観点 別) 学 説得力のある文章を書くために、必要なことについての 学習の振り返りを行うことしようとしている。(観点別) |

※授業の様子②



今年度は、個人やグループで考えたことの共有化を図るために、黒板やホワイトボードにとりまとめ掲示しました。今後は、1人につき一台パソコンが配布されたため、パソコンを活用した共有方法も模索します。

6 本時（1／6）の学習指導について

（1）目標

- ・説得力のある意見文の構成や根拠の示し方をとらえる。

（2）評価規準

- ・説得力のある文章を書くために、必要な要素をとらえ、今後の学習の見通しを持つようとしている。

【学びに向う力・人間性等の涵養】（学習状況）

- ・根拠が事実と理由づけに基づいて示され、妥当性のある根拠になっているか考えている。【思考力・力・表現力等の育成 B書くこと】（観点別）

（3）展開

| 段階 | 学習活動及び学習内容 | 指導上の留意点及び評価（◇） |
|-------------|---|---|
| 導入 （5分） | 1 「説得力のある意見文」とはどのようなもの文章かを考える。 2 本単元で学習することを知り、見通しを持つ。 3 本時の目標を確認し、本時の見通しを持つ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項や実生活の体験・経験などから考えさせる。 ・学習シートを使って、身に付けたい力と学習計画を確認させる。 |
| 展開 （37分） | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 【目標】 説得力のある根拠の示し方を考える。 </div> 4 意見文の構成をとらえる。 5 根拠の示し方を考える。 ○主張・事実・理由づけの関係を理解する。 ○学習プリントで根拠の示し方を考える。 ○小グループ（4人）で交流する。 ○全体で検討し共有する。 6 説得力のある意見文に必要なものをまとめる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・根拠の示し方などではなく、構成に着目させる。既習事項でもあるので、あまり時間はかけない。 ・主張・事実・理由づけのモデルを用いて、根拠の示し方をとらえさせる。 ・PPTを用いて視覚的に援助する。 ・小グループで交流するために、個人の考えを持つように保障する。 ・机間巡視で苦手な生徒へ、もう一度学習プリントを使い、主張・事実・理由づけの説明をしながら考えさせる。 ・交流する時のポイントを確認する。 ・全体共有をスムーズにするために、短冊に記入させる。 ◇説得力のある根拠の示し方をとらえている。 (書)観点別 |
| 終結 （8分） | 7 本単元でどのように学習を進めていくか、振り返りカードに記入する。 8 次時の学習の流れを確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を今後どのように活かし、取り組んでいくか具体的に記入させる。 ◇意見文を書くために、自分の必要な要素をとらえ、次時以降の学習で取り組んでいくことをまとめている。(学)学習状況 |

第三学年 地域創造学 学習指導案

日 時： 令和2年12月 9日（水）9：30～14：30

場 所： 住田町立世田米中学校体育館

学 級： 第三学年 男：16名 女：9名 計：25名

授業者： 小岩洋介，熊谷美保，新沼久美子

1 単元名 第4単元「活動の振り返りをしよう！」

2 単元について

中学校第三学年の「地域の魅力・課題を探究・発信」に関わる単元は、「住田の魅力を発信するための企画を完成させよう！」「住田の魅力を発信しよう！」「発信したものの成果・課題を明らかにしよう！」「活動の振り返りをしよう！」の4単元から構成されている。本単元は、中学校第三学年の最終単元にあたる。

本単元では、活動のまとめや振り返りを通して、「自分達のプロジェクトも、あのグループのように工夫すればさらに良くなったかもしれない」といった考えを深めたり、「様々な方々からの助言を受けて改良したことで昨年よりもここが良くなった」、「来年度以降、自分達のプロジェクトを後輩たちにぜひ参考にしてほしい」といった気持ちを高めたりすることをねらいとしている。以下、「題材」「生徒の実態」「指導にあたって」の特徴について紹介する。

（1）題材について

大単元「住田町よりよいまちづくりプロジェクト 実践」で取り扱う題材は、生徒がこれからさらに発展してほしいと願う住田の魅力である。なお、住田町の魅力については二年時に、「住田町にしかないもの」・「他の地域と比べて、住田町に多いもの」として位置づけしている。

これまで三年生の生徒たちは住田町の魅力を発信するために、①「昨年の反省」や「報告会での助言」をふまえ、プロジェクトを再考すること、②実際にプロジェクト達成のために「地域の梅を利用した食品作り」「町内産の木材を利用した物作り」「地域のお店や自然を描いたポスターやカレンダー作り」といった作品を制作すること、③クラス内での発表会を実施し、目的と作成物の整合性を確認し合うこと、④作成したものを地域の方々や専門家に見せて助言をいただき修正を図ること、⑤実際に作成したものを提供し発信すること、などに取り組んできた。

本単元は、グループ毎に発信方法を工夫しつつ取り組みを通して得た成果や課題を地域の方々や同校の生徒に報告する活動を計画している。活動を通して、「昨年の反省を活かしてここが良くなった。こんなところを工夫できた。」といった達成感や、「自分達の発表に対する他の生徒や地域の方の意見を踏まえ、もっとこうすれば良かった。後輩たちには、こんな工夫をしてほしい。」という他者の意見を踏まえ自身の考えを深める機会としたい。

(2) 生徒について

昨年度は発信する魅力の焦点化を図りきれず、作成物や発信に行き詰まる生徒が多く見られた。しかし今年度は、昨年度の反省を活かし、発信する魅力の焦点化を図り全てのグループが発信まで至ることができた。例として、「住田の野菜」から「住田の梅」を発信すること、「地域の観光全般」から「地域のレストランラッセ」の魅力発信することといった変化があげられる。

この活動を通して、住田の魅力について改めて考えるとともに、発信方法について具体的なイメージを持つことができた。またクラスでの報告会を通して仲間の意見を取り入れ新しい考えへの気づきや、自分のプロジェクトと比較した助言を送ることで互いのプロジェクトを高め合うことができた。

本単元は、大単元の最終段階にあたり、昨年度からの取り組みの様子や成果・課題を生徒や地域住民に発表するプロジェクト報告会を計画している。質疑を通して自分達の取り組みの成果と課題を確かめ合ったり、住田町の魅力をしっかりと発信できたという自己肯定感を高めたり、地域貢献についての思いを高めたりする機会としたい。これらの特徴を踏まえ、社会的実践力の中でも「A ◎地域理解」「B3 ☆提案・発信する力」「C3 ★他者受容」「D3 ★自己肯定感」といった資質・能力を高められるよう、支援を講じていきたい。

(3) 指導にあたって

学習材の特徴と生徒の実態を踏まえ、「A ◎地域理解」「B3 ☆提案・発信する力」「C3 ★他者受容」「D3 ★自己肯定感」といった資質・能力の育成に迫るためにそれぞれの段階において、以下に示す活動を計画している。

単元の導入部では、報告会に向けての見通しを持つ活動に取り組む。具体的には、①報告会のねらいと流れを共有する。②発表内容と発表方法を学年で共有する、どのような助言をすれば相手の為になるのかを自分達でまとめる。といった活動に取り組む。

単元の展開部では、プロジェクト報告会に向けての準備、発表練習、実施等を行う。具体的には、①グループごとに発表資料や発表原稿を作成する、②作成した資料、原稿を導入部で決定したねらいと整合性があるか確認する、③クラスで発表の練習する、④実際に発表会で発表する、といった活動に取り組む。

単元の終結部では、報告会やこれまでの活動を振り返る活動を取り入れる。具体的には、①住田の魅力発信する活動を通して自身の成長したことや今後の地域貢献に活かしたいことについて考える、②自分達の活動や報告会を通して新たに気づいた住田の魅力や課題について考える、といった活動に取り組む。

※授業の様子①



今年度は、発表方法を統一させず、それぞれのグループに発表方法を検討する機会を持ちました。生徒は、発表する相手や、自分達の制作物の特質を考え、発表方法を選択しました。

3 単元の目標と評価基準

(1) 単元の目標

| 育成した資質・能力 | | 資質・能力別の目標 |
|-----------|-------------------|---|
| 社会的実践力 | A【地域理解】 | ○これまでの活動を通して、住田の魅力について改めて学んだり、これまでの学びを踏まえて将来どのように地域に貢献したいか考えたりすることができる。 |
| | B【社会参画に関する資質能力】 | ○自分たちが取り組んできた企画の成果・課題を他の生徒や地域の方に、的確に伝えられるために資料や発表方法を工夫することができる。 |
| | C【人間関係形成に関する資質能力】 | ○他の生徒や地域の方の意見を踏まえて、自分たちの取り組んできた企画の成果・課題を改めて振り返り、後輩へ伝えたいことなどをまとめることができる。 |
| | D【自立的活動に関する資質能力】 | ○自分達に取り組んできた企画の良さや地域に与えた影響を確かめるとともに、活動を通して身についた力や成長したことなどに気づくことができる。 |

(2) 評価規準

| 観点 | | 評価規準 |
|------------------|-------------|--|
| A ◎地域理解 | | 【◎地】 ◆これまでの活動を通して改めて気づいた住田の魅力や地域貢献のあり方についてポートフォリオを踏まえて振り返り、単元の振り返りシートに記入している。 |
| B 社会参画に関する資質能力 | 3 ☆提案・発信する力 | 【☆提】 ◆自分たちが取り組んできた企画の成果・課題を他の生徒や地域の方々へ的確に伝えるために、資料や発表原稿などに発表方法や工夫を提示している。(付箋やメモ、成果物の仕上の仕方など。) |
| C 人間関係形成に関わる資質能力 | 3 ★他者受容 | 【☆伝】 ◆他の生徒や地域の方の意見を踏まえて、自分たちの取り組んできた企画の成果・課題を改めて振り返り、後輩へ伝えたいことなどをまとめている。 |
| D 自立的活動に関する資質能力 | 3 ★自己肯定感 | 【★肯】 ◆自分達に取り組んできた企画の良さや地域に与えた影響を確かめるとともに、活動を通して身についた力や成長したことなどの自己評価を単元の振り返りシートに記入している。 |

※会場について



3年生の発表の場として、体育館を二カ所に分け、発表ブースを作りました。ステージ側のブース(写真右)は、日が差し込みプロジェクターが見えにくくなるため、暗幕をはりました。

4 単元の指導・評価計画（本時 9～12 / 14時間）

| 月 | プロセス | 時 | 主な学習活動 | 関連する 教科・領域 | 評価項目 (評価方法) |
|--------|-----------------------|-----------|-------------------|---|---|
| 1 1 | 現状把握・課題設定・計画する・見直しを持つ | 1 | ・報告会に向けての計画を確認する。 | 【特別活動 学級活動】 | ・B1 ☆見通す力 ・B3 ☆提案・発信する力 (発表原稿, 作成物 ルーブリック) |
| | 実施・改善 | 4 | ・報告会の資料を作成する。 | 【国語 書くこと】 | |
| 1 2 | 計画する・見直しを持つ | 2 | ・クラス内報告会に取り組む。 | 【国語 話すこと・聞くこと】，【道徳 相互理解・寛容】 | |
| | 実施・改善 | 1 | ・発表内容の修正・改善に取り組む。 | 【国語 話すこと・聞くこと】 | |
| | 実施・改善 | 4 (本時) | ・報告会に取り組む。 | 【道徳 伝統と文化の尊重・国や郷土を愛する態度】 | ・C3 ★他者需要 (振り返りシート, ポートフォリオ) |
| | まとめと振り返り | 2 | ・活動の振り返りを行う。 | 【特別活動】， 【国語 書くこと】， 【道徳 自然愛護】， 【道徳 伝統と文化】 | ・A ◎地域理解, D3 ★自己肯定感 (ポートフォリオを踏まえた感想文 個人内評価) |

5 本時の指導

(1) 目標

- ・他のグループの報告や地域の方々の助言を聞き、自分達の企画の振り返り「視点①：どのような質疑を通してどのような成果課題が明らかになったか」「視点②：後輩にこれらのことをどのように活かしてほしいか」を記入することができる。【C人間関係形成に関する評価 C3 ★他者受容】

(2) 自己評価の視点について

| みとる資質・能力 | 視点 | 支援の手立て |
|----------------------------|---|---|
| C3 人間関係形成に関する資質能力 ★他者受容 | <ul style="list-style-type: none"> ・他グループの発表や地域の方々の助言を踏まえ、以下2つの視点をもとにした振り返りを記入する。 ①質疑を通して、どのような成果や課題が明らかになったか。 ②どのようなことを後輩に活かしてほしいか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・報告会の際に、黒板に視点を掲示するなどして、全体で共有する。 ・質疑の内容のメモをとる役割を確認したり、共有したりする時間を保障する。 |

※授業の様子②



今年度も、地域住民の方（アドバイザー）をお招きし、生徒の活動についてフィードバックをいただきました。アドバイザーは、①担当学年の先生と生徒が話し合い候補者を選出し副校長に伝え、②副校長が候補者を教育コーディネーターに伝え、③教育コーディネーターが調整しました。

※授業の様子③



報告会は、生徒が運営しました。開・閉会式は前期生徒会本部、ブースごとのタイムキーパー（赤丸部分）を当該学年の生徒が、その役割を担いました。前期生徒会本部やタイムキーパーの生徒とは、本番7～3日前に事前打ち合わせを実施し、スムーズに取り組めるように支援しました。

(3) 展開

| 段階 | 学習内容・学習活動 | ・指導上の留意点 ◆評価 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|---|-------|-------------|------------|------|-------------|-------------|------|--|----|--|--|-------------|-----|-----|-------------|-----|---|---|
| 導入 (15分) | <p>1 開会行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会の言葉 (菅野良稀) ・今日の活動について (細川T) | <ul style="list-style-type: none"> ・報告会のねらいの意識化を図ることができるように、事前指導する。 ・学年ごとの「報告のねらい」、全学年共通した「報告を深めるために」の具体化・共有化を図る。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <p>3年生報告のねらい：グループで通り組んできたことの成果・課題を報告しよう！ 報告を深めるために：① 「質問⇔回答のやり取り」がポイント！ ② 「疑問に思ったこと」「自分だったらこうしてみたい、と思ったこと」等をメモに取ろう！ ③ 発表者も「待ち」の姿勢では無く「積極的」に聞こう！</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 展開 (165分) | <p>2 準備</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・スムーズに準備に入るため、事前に発表場所や、準備する物品を確認する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | <p>3 報告</p> <table border="1" data-bbox="252 801 715 1081"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>体育館前</th> <th>体育館後方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9:45~10:00</td> <td>3-1</td> <td>3-5</td> </tr> <tr> <td>10:10~10:25</td> <td>3-2</td> <td>3-6</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">休憩</td> </tr> <tr> <td>10:45~11:00</td> <td>3-3</td> <td>3-7</td> </tr> <tr> <td>11:10~11:25</td> <td>3-4</td> <td style="text-align: center;">/</td> </tr> </tbody> </table> | 時間 | 体育館前 | 体育館後方 | 9:45~10:00 | 3-1 | 3-5 | 10:10~10:25 | 3-2 | 3-6 | 休憩 | | | 10:45~11:00 | 3-3 | 3-7 | 11:10~11:25 | 3-4 | / | <ul style="list-style-type: none"> ・1グループ15分（報告7分+質疑8分） ・次のグループがタイムキーパーをする。 ・取り組みの様子を、要点を抑え、分かりやすく・聞き取りやすく伝えられるように、事前指導に十分に組み込む。 ・スムーズに活動に入るため、質疑の方法等について事前に学習する。 ・各グループの発表は、そのグループの成果・課題が、聴衆によく伝わる方法・媒体を用いるように促す。 |
| | 時間 | 体育館前 | 体育館後方 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 9:45~10:00 | 3-1 | 3-5 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10:10~10:25 | 3-2 | 3-6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 休憩 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10:45~11:00 | 3-3 | 3-7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11:10~11:25 | 3-4 | / | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>4 聴取</p> <table border="1" data-bbox="252 1093 715 1283"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>体育館前</th> <th>体育館後方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11:35~11:50</td> <td>第4-1</td> <td>第4-2</td> </tr> <tr> <td>12:00~12:15</td> <td>第5-1</td> <td>第5-2</td> </tr> </tbody> </table> | 時間 | 体育館前 | 体育館後方 | 11:35~11:50 | 第4-1 | 第4-2 | 12:00~12:15 | 第5-1 | 第5-2 | <ul style="list-style-type: none"> ・1グループ15分（報告7分+質疑8分） ・基本的に、中学生がタイムキーパーをする。 ・3年生が中心となった質疑に取り組めるように、質疑の視点を事前に確認したり、演習に取り組んだりするといった準備をする。 | | | | | | | | | | |
| 時間 | 体育館前 | 体育館後方 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11:35~11:50 | 第4-1 | 第4-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12:00~12:15 | 第5-1 | 第5-2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>5 高校生による講評</p> <p>6 高校生への感謝の言葉 (菊池真衣)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・各ステージから2名ずつ、「中学生の発表内容の講評」と「これからの地域創造学で中学生に期待すること」を発表してもらえるように、予め高校の担当に連絡する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (昼食・昼休み) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 終結 (60分) | <p>7 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・13:30~13:45…記入 ・13:45~14:00…発表・共有 <p>8 閉会行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講評 (校長) ・閉会の言葉 (小野田朝日) <p>9 会場片づけ</p> | <ul style="list-style-type: none"> ◆前期生徒会役員が中心となり、振り返りの発表・共有に取り組む。「発表・共有」の際には、細川Tが生徒会役員をサポートする。「意見のとりまとめ」(水野姫奈)、「ホワイトボード記入」(佐藤絢音) ・一年間を通して、特に向上した資質・能力を、学年ごとに講評していただく。 ・報告会のねらいの振り返りと、次の活動(1年生：ピアサポート、2年生：運動会準備、3年生：進路実現)につなげることを意図した閉会の言葉になるように、事前指導する。 ・応援委員会(3年生)が中心となり、会場片づけの指示を出す。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(3) 板書計画 3年生に出してほしい内容

3年生 例

助言をいただいたの自分達の成果、課題、改善点等の振り返り

- ・自分達のPR方法は動画でのPRだったが、時間がかかることや難しさに気づいた。
- ・大村さんから助言をいただいたように動画に固執するのではなく、他の木工のグループのようにどこかに送ることで住田の木材をPRするやり方の方が良かった。
- ・大村さんから助言をいただいたように、見通しを自分達で持ちまたブーメラン以外の選択肢を考える必要もあった。

自分達の振り返りをもとにした後輩への助言

- ・地域創造学を通して、見通しをもつことと様々な方の話を聞くことの大切さに気づいた。
- ・1, 2年生は自分達で取り組めることと地域の方々に相談することをしっかりとわけ、取り組んでほしい。

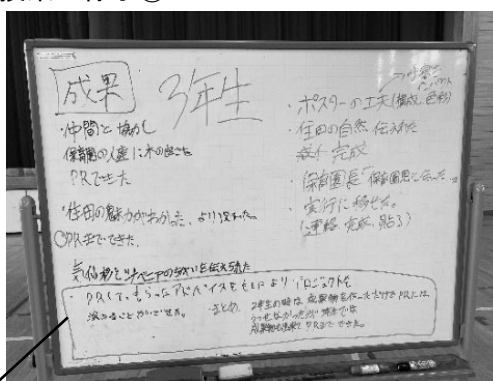
※授業の様子④



報告会には、高校生(赤丸部分)も発表者や聴衆として参加しました。

地域創造学では、ステージ連携や、同校種連携が求められています。次年度は、ステージ連携や同校種連携を、今年度以上に意識的・計画的に実施していきます。

※授業の様子⑤



報告会の終盤では、生徒会本部が中心となり、一年間の活動の振り返りを各学年で実施しました。3年生からは、「昨年までと違い、PRまで取り組むことができた」「PRを上手くするためには、地域の方からのアドバイスをもらうことが必要」といった声が挙がりました。

ルーブリックの運用について

文責：研究部

- 【1】 ルーブリックに基づき個人で生徒の作品を評価します。
- 【2】 個人で評価したものを共有し、相違点を確認します。差異がある場合は、評価をどちらにすれば良いのか話し合い合意形成を図ります。
- 【3】 【2】の内容を踏まえ、次年度に向けたルーブリックの修正を図ります。

【1 個人作業】

- ・ルーブリックを確認します。
- ・ルーブリックに基づいて、生徒の作品を A, B, (あれば C) と評価します。その際に、評価した理由を記述します。

【2 グループ作業 1】

- ・周囲の先生と「評価した結果」や「その理由」について共有を図ります。
- ・周囲の先生と「評価した結果」が同じであれば、その子どもの評価は確定です。(生徒 A, 生徒 B)
- ・周囲の先生と「評価した結果」が異なれば、周囲の先生と話し合い、評価を確定させます。その際に、評価を確定させた理由付けを明確にしてください。

| | 生徒の作品 | | | | |
|----|-------|------|------|------|------|
| | 生徒 A | 生徒 B | 生徒 C | 生徒 D | 生徒 E |
| 小岩 | B | A | A | B | B |
| 杉下 | B | A | B | B | B |
| 細川 | B | A | A | A | C |

※評価は確定です。

※どの評価にすればよいか話し合いをします。

【3 グループ作業 2】

- ・周囲の先生と「評価した結果」が異なっていたということは、「当初、設定したルーブリックの評価規準に改善の余地があること」を意味しています。「評価を確定させた理由付け」を踏まえて、次年度に向けたルーブリックの評価規準の修正を図ってください。
- ・ルーブリックの修正を図ったら、「これが A のモデルの作品だ!」、 「これが B のモデルの作品だ!」という生徒の作品を添付（アンカー作品）してください。

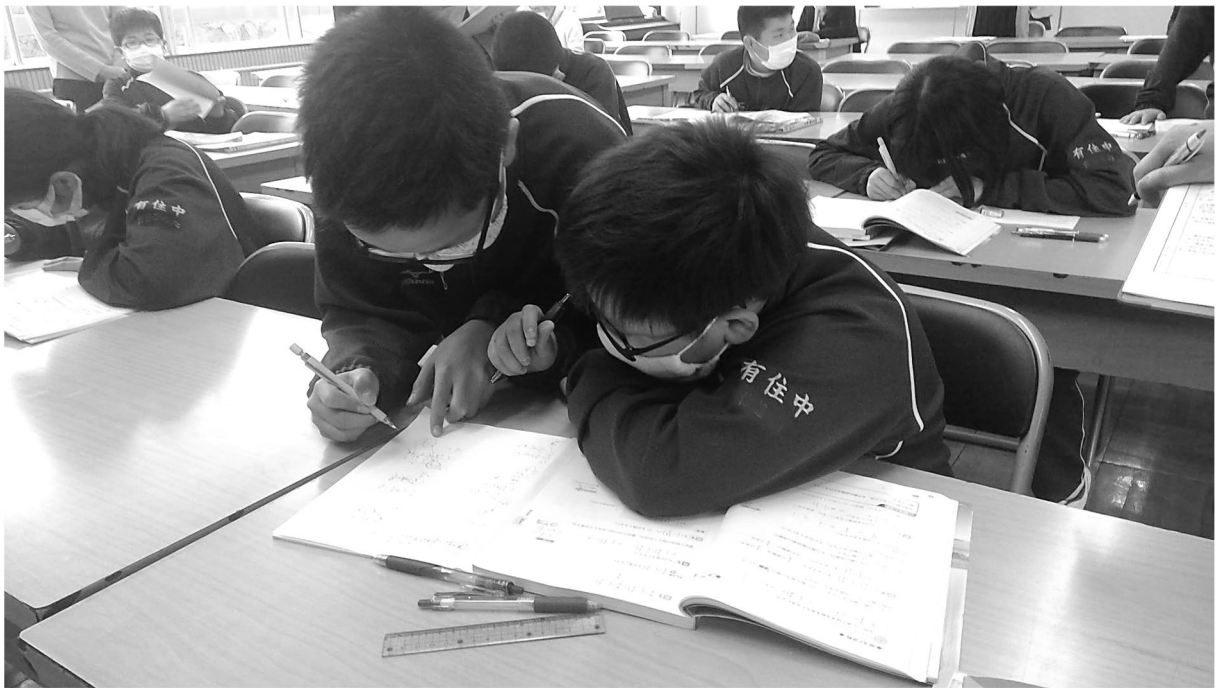
令和2年度

校内研究のまとめ

研究主題

生徒の社会的な実践力を伸ばす授業の在り方の研究

～「協同的な学び」の実践を通して～



住田町立有住中学校

I 研究主題

生徒の社会的な実践力を伸ばす授業の在り方の研究 ～「協同的な学び」の実践を通して～

○「社会的な実践力」について

本校では、昨年度から「生徒の社会的な実践力を伸ばす授業の在り方の研究」を主題に研究に取り組んできた。社会的実践力は、住田町の学校が研究開発学校の指定を受けて新設された地域創造学で育むことを目指す力である。教職員と生徒が年間を通して継続的に取り組んだことにより、一定の成果が得られた反面、年間計画が流動的で担任の裁量が大きかったという反省もあった。

そこで、今年度は改定された年間の単元計画に基づいて地域創造学を進めていきたい。また、地域創造学に限らず、他の教科や領域、学校の教育活動などのさまざまな局面での育成を目指す力とすることを意図として、「社会的な実践力」と「協同的な学び」を研究主題のキーワードとした。

社会的な実践力の具体的な資質・能力は、地域創造学で分類されるもののうち「地域理解」と、地域に重点を置いたものを除いた「社会参画に関する資質・能力」「人間関係形成に関する資質・能力」「自律的活動に関する資質・能力」に準ずるものとして定義し、その育成を目指す。

＜地域創造学で目指す社会的実践力の資質・能力＞

A 地域理解

B 社会参画に関する資質・能力

「ひと・もの・こと」等の地域の実情を理解し、身の回りにある課題や問題を捉え、これからの地域の在り方や、よりよい社会づくりについて提案・発信することに関する資質・能力

C 人間関係形成に関する資質・能力

学びを深めたり、目標の達成を行ったりするために、他者と協力することに関する資質・能力

D 自律的活動に関する資質・能力

自分自身の置かれている状況や考え、感じていることなどを認識し、それに応じてよりよい方向に調整しながら学びや活動を推進することに関する資質・能力

○協同的な学びについて

本研究では「協同」を、「助け合って課題を解決する」という意味合いで据えている。「共に取り組む(共同)」や「力を合わせて取り組む(協働)」ではなく、「それぞれの良さで助け合い、補い合いながら解決にせまる」ことと、同時に「仲間の良さから学ぶ」ことを目指し「協同的な学び」と表現している。

助け合うということは、二人以上であることは前提となるが、「教師が、どのように生徒のグループ学習を進めさせるか」という研究だけにならないようにしたい。生徒が課題(目標)を明確に捉えてその解決(達成)にせまるために効果的な学習形態や過程を教師と考えたり、自他の成長に気付いて認め合う振り返りの方法を教師と考えたりできるように、生徒と教師の協同的な関わりも大事にしたい。

さらに、教職員どうしの協働的な取組で研究主題を追究することで、生徒とのより共感的、協同的な研究になると考える。

Ⅱ 設定理由

1 学校教育目標との関わり

本校は、学校教育目標を「21世紀を担うたくましい心豊かな子どもの育成 自主的創造的実践者をめざし」と掲げている。この目標では、これからの社会の維持・発展するために必要な実践力を、「たくましさ」と「心豊かさ」と捉えていると考えられる。

「たくましさ」や「心豊かさ」は普遍的に必要な資質であり、昨年までの校内研の反省でも、学校生活の中で継続的に身につけさせたいものとして挙げられている。今年度の実践でも、これからの社会を担う子どもたちに必要な力として、これらの資質を身につけさせることを目指す。

2 これまでの研究の流れから

本校では、平成27・28年度、小規模校の特性を生かして「生徒の考えを学級全体で交流、共有し、よりよい考えに高めていく」ためにどのような指導が有効かを研究した。各種学力調査の分析から生徒の実態把握を行い、指導形態の工夫や考えを発表させる機会を増やすことで、生徒の考えの深まりや広がりが見られ、質問紙の分析から授業の理解度も高まったと言える結果が得られた。

平成29年度からは、住田町の学校が文部科学省の研究開発学校に指定され、「地域創造学」で目指す社会的実践力を育てる研究を行っている。前述の通り、昨年度は広く社会的実践力の育成を研究課題としたが、実践のねらいが明確ではない、地域創造学偏っている、検証が難しいなどの反省が上げられた。そこで今年度は、サブテーマを「協同的な学び」と絞り、「生徒が授業の課題（目標）にせまる」ためのさまざまな実践を教師が意図的・計画的に行い、そこから学び合えることをねらい、主題とサブテーマを設定した。

3 生徒の実態から

本校の生徒は、教師やリーダーの指示を素直に聞き、まじめに学校での活動に取り組んでいる。平成8年度から続いている全校トレーニングや合唱活動などは、「チーム有住」という意識で、全員が一丸となって行っている。しかし、自分から積極的に行動したり工夫したりする生徒は少なく、活動が保守的・依存的になる傾向がある。また、大勢の前で感想や考えを話すことはできるが、その内容は「型どおり」になっている場合が多く、考えを深めたり広げたりすることが少ない。

このような実態から、生徒が学習の形態や過程を他の生徒や教師と共に考えることで学びがより主体的・意欲的になり、課題の解決にせまる経験を通して思考を深めたり広げたりしようとすると考え、設定した

Ⅲ 研究の仮説

授業で課題（目標）を明確に示し、その解決（達成）のための学びを協同的に進めることで、社会的な実践力が身につくだろう。さらに、教職員が協働的に取り組むことで、研究はさらに充実するだろう。

IV 研究の内容と方法

(1) 本校生徒の実態把握

- ① 授業や行事の後のアンケートなどによるふりかえりの実施と分析
- ② 新入生学調，全国学調，県学調の結果分析
- ③ Q-U，心とからだの健康観察の結果分析
- ④ 健康観察や行動観察などによる日常的で継続的な実態把握

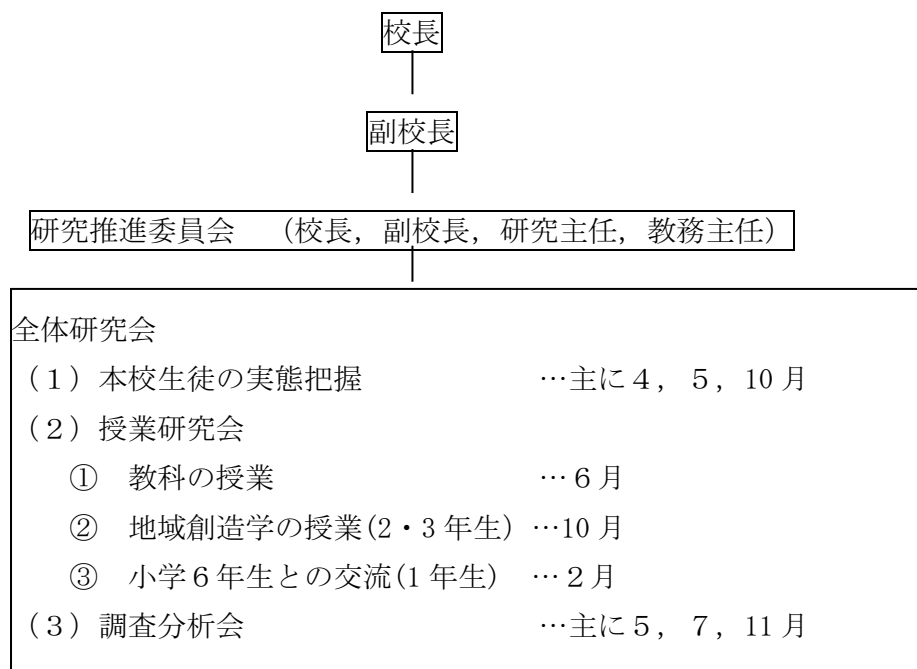
(2) 協同的な学びのあり方の実践と効果の検証

- ① 実態に応じた，授業での実践と交流
- ② 校内研究会による指導方法の学習や検証・検討

(3) 社会的実践力の育成とその支援方法の考察

- ① テストや表現による生徒の変容の評価
- ② ふりかえりやアンケートによる生徒のメタ認知の評価
- ③ 生徒の変容やメタ認知の評価をもとにした，グループでの学習活動の評価

V 研究組織



VI 研究経過

| 月 日 | 研究・研修行事名 | 内 容 | 講師等 |
|---------|----------|---|----------------------|
| 4 / 2 | 職員会議 | 研究主題の確認, 地域創造学の進め方 | |
| 5 / 20 | 調 査 | Q-U 実施 (第 1 回) | |
| 5 / 22 | 校内研究会 | 第 1 回校内研究会 (授業研 数学) 地域創造学の評価に関わる確認 | 佐 藤 宏 之 沿岸南部教育事務所 |
| 6 / 30 | 校内研究会 | 第 2 回校内研究会 (授業研 生活) 特別支援教育校内研修会 | 坂 本 容 子 沿岸南部教育事務所 |
| 7 / 7 | 森林環境学習 | 種山学習 (1 年生) | |
| 7 / 22 | 調 査 | (3 年全国学調) | |
| 7 / 31 | 教育研究所全体会 | 職員研修会 | |
| 8 / 27 | 校内研究会 | 第 3 回校内研究会(ポートフォリオ評価, 振り返りシート, 主体的・対話的で深い学 びに向けたグループ活動について) | |
| 9 / 8 | 防災教育 | 防災講習会 | |
| 9 / 16 | 森林環境学習 | 木工団地見学 (3 年生) | |
| 10 / 1 | 小中連携 | 小学校授業参観, 小中交流会 | |
| 10 / 29 | 調 査 | Q-U 実施 (第 2 回) | |
| 11 / 6 | 森林環境学習 | 間伐体験 (2 年生) | |
| 11 / 12 | 校内研究会 | 第 4 回校内研究会 (全国学調で求められ ている力について) | |
| 12 / 16 | 中高連携 | 地域創造学中高連携交流会 (ステージを またぐ発表会) | |
| 12 / 16 | 校内研究会 | 第 5 回校内研究会 (今年度の探究活動の 振り返り) | |
| 12 / 23 | 地域創造学発表会 | 各種活動報告会 | |
| 1 / 15 | 校内研究会 | 第 6 回校内研究会(タブレット P C 講習 会) | |
| 2 / 4 | 校内研究会 | 第 7 回校内研究会(タブレット P C の効果 的な活用方法について) | |
| 2 / 5 | 小中連携 | 1 年生 地域学習発表会 (第 3 ステージ) | 向 口 千絵子 沿岸南部教育事務所 |
| 2 / 16 | 教育研究所全体会 | 職員研修会 | |
| 2 / 22 | 校内研究会 | 第 8 回校内研究会 (来年度の方針につい て) | |

Ⅶ 研究実践と分析

(1) 社会的な実践力の育成と協同的な学びについて

① 課題解決の取組の中での、社会的な実践力の育成

昨年度に引き続き、「各教科においても社会的な実践力を育成することができる」ことの検証を進めた。数学の授業研究会では、昨年の県学調で正答率が低かった「正負の数の除法を、逆数を使って乗法になおして計算する」場面に取り組んだ。グループワークにより、生徒たちが知恵を寄せ合い助け合って課題を解決する姿が見られた。



社会的実践力を構成する資質・能力についても、教科全体で常に意識して授業を進めていきたい。【B1 ☆見通す力】や【B2 ☆多角的・多面的に考える力】、【C1 ☆伝え合う力】、【C2 ☆協働する力】は、特に数学と関わりが深い。また、学び合い学習が抵抗なくできるのは、小学校からの財産である。

② 小学校や高等学校との「地域創造学」の活動を中心にした連携について

ア 住田高校との「地域創造学中高連携事業ステージ交流会」による第3ステージから第5ステージまでの異校種間連携

住田高校生に発表者と聴衆者になっていただき、今年度探究したことを交流することができた。第3ステージ(中1)の発表3本、第4ステージ(高2)の発表3本、第5ステージ(高3)の発表1本、合計7本の発表を、聴衆者は自分で選択して聞いた。テーマは「身近な地域で輝いている人」、「住田の名所をうたにする」、「郷土芸能」、「畜産」、「国際理解」と多岐にわたった。中学生にとって高校生の発表が聞けたことは、今後自らの発表を組み立てていく上で大きな目標となった。【A◎地域理解】と自律的活動に関する資質・能力【D1 ☆感じ取る力】、【D3 ★自己肯定感】を効果的に育むことができる内容であった。



イ 有住小学校との「地域創造学発表会」による第3ステージの異校種間連携

中1ギャップを解消するための新入生説明会で、昨年度に引き続き行われた。第3ステージの最終学年である中学1年生が発表を行うことにより、小学6年生は次年度の地域創造学の様子が見え、小中の滑らかな接続ができた。今年度は、ポスターに加えて電子黒板によるプレゼンテーションにも取り組んだ。住田高校との異校種間連携で学んだことがいかされた。

ウ 世田米中学校との校種間連携

今年度は、感染症対策のため地域創造学の取り組みをスタートさせるのが遅くなり、実現できなかった。来年度の実現に向けて計画的に進めていきたい。

③ 各種活動報告会での地域の方々や保護者への発信について



地域創造学に取り組んでいる住田町内の学校とは交流会を設定しやすく、発信が容易である。しかし、それ以外への発信は難しい。昨年度に続き生徒会行事「各種活動報告会」で、お世話になった地域の方々や保護者へ探究内容を発信できたことは、大きな成果である。生徒には地域の方々に学んだことを伝えたいという思いが見られ、地域の方々も生徒の様子から自分たちの役割を再認識することとなったと感じた。

地域の人間として、これからの地域を担う人材として、地域から学ぶのであれば、地域の方々とどんどん関わり学び合って学習を進めていくのが大切である。

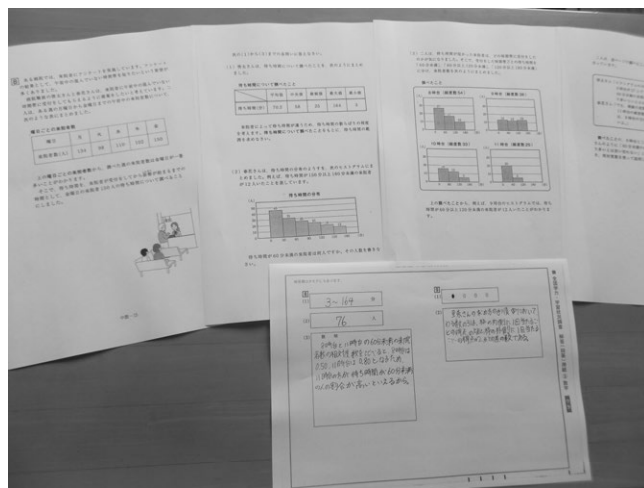
また、自律的活動に関する資質・能力【C3 ☆提案・発信する力】をより効果的に発揮させるために、住田町外への発信について実現させる必要があると考える。修学旅行などの校外学習の機会を、有効に活用していきたい。

(2) 各種調査と学力向上について

ア 全国学調の問題から読み取れることと、授業へのいかし方について

昨年度に引き続き、学力向上にも取り組んだ。教員全員で、全国学調の問題を解いた。国数どちらも、「何を問われているのかわかりにくく、問題を読み取る力を求められているようだった。」と感想が話された。深く考え、その考えを表現するのがポイントとなる。1時間1時間の国数の授業の中だけで身に付けさせるのは難しい。他の教科や地域創造学の授業、教育活動全般の活動の中で、社会的実践力と共に身に付けさせていきたい。

また、「問題が解けるだけではなく、授業



ではさらに上を求められている。」という声もあった。それを学ぶ意義がわかっているならば、粘り強く取り組めて、課題である無解答も減っていくのではないかと考えられる。

イ 家庭学習の見直し

学力の向上を図るために、家庭学習の充実は欠かせない。昨年度後半から、「学習内容の定着、向上、深化」と「家庭での学習習慣の確立」の2つにねらいを絞り取り組んでいる。今年度の平日における各学年の家庭学習内容は次の通りである。

○1年生 教科の宿題 + 週末に向けた計画的な学習

○2年生 教科の宿題 + 帰りの会までに計画を立てた学習

○3年生 教科の宿題 + テスト過去問 + 各自に必要な学習

現在は「教科の宿題」と「週末課題」以外は学習の量を決めていない。生徒が自ら家庭学習をマネジメントできるように支援することが大切だと感じた。見直しを図りながら取り組ませることを確認していたが、それが学習の向上につながっているのかを検証することができなかった。PDCA サイクルをしっかりと回し、学習の向上に繋げていきたい。

情報モラル教室での調査によると、「有住中生はメディア接触時間が長く、睡眠時間が十分に確保されていない」状況が見えてきた。タブレットPCの効果的な活用方法についても、研究していく必要がある。



Ⅷ 考察と今後の課題

(1) 社会的な実践力の育成と協同的な学びについて

- 各教科においても社会的な実践力の育成に取り組んだ。地域創造学に限定せず、これからの時代を生き抜く上で必要な力を多角的・多面的に身につけさせたい。
- 地域学習は、各資質・能力の獲得や伸長に有効と考える。また、その学習を通して、外部との連絡の取り方やメディアの活用の仕方、訪問のマナー、ゲストティーチャーとの接し方・態度など多くの事を学ぶことができる。
- 中1を中心に、地域学習で人物（ゲストティーチャー）について掘り下げて探究し発信することを目指した。地域創造学協力者会議では、取材時の質問を「自分で調べればわかること」と「ゲストティーチャー本人に聞かなければわからないこと」に分類する授業を設定することで、より深い学びになるという提案があった。



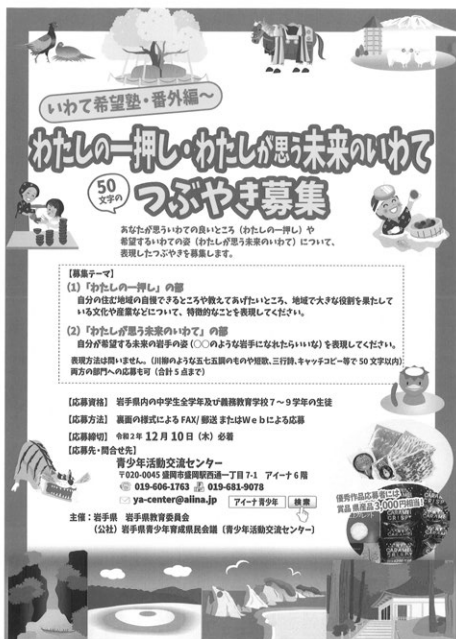
- ・ 今年度も小中高の滑らかな接続を目指し、異校種間の連携を進めた。住田高校の「地域文化選択講座」に代わり、地域創造学の探究活動をまとめたステージ交流会を実施できた。高校生の発表は、中学生にとって大きな刺激となった。
- ・ 校内研で、発表会の後の振り返りの重要性について助言をいただいた。「生徒自身がこれを学んで力がついたなど実感できる」こと、「次の学習への意欲を持っている」こと、「自分の生き方について考える」ことが振り返りに記述されれば評価は成功である。教師側が一つの単元について、「見通し」と「途中経過」と「振り返り」までが描けるものになっているかが課題である。
- ・ 評価は複数の教師の目で行う。協同チームでその子の良さを見つけて評価し、見取ったことをしっかり子どもに伝えられるようにする。
- ・ 先輩のアンカー作品をもとに、ルーブリックを子どもと作る授業を取り入れていきたい。教師と子どもがゴールを知っていて、探究のプロセスの途中でゴールを確認する。ルーブリックは、教師と子どもが迷わないために作るものであるから、常に修正していくものである。



(2) 各種調査の結果分析と学力向上について

- ・ 学力向上に向けて、全国学調等の調査問題を活用する授業改善の方向性を探ることができた。「わからない、まちがい」から出発した授業を組み立てていくこと等に取り組んで行く。
- ・ タブレットPCを活用し、家庭学習のマネジメントを生徒自身に行わせる等、家庭においても学校においても進んで学習に取り組む生徒の育成を目指していきたい。検証方法を事前に確認しておく必要があった。

<資料>



住田町で行われている地域創造学の学習が生かされると考え、全校で応募した。以下のように、2つの部門で10名の作品が優秀作品に選ばれた。

いわて希望塾・番外編～「わたしの一押し・わたしが思う未来のいわて」つぶやき募集事業優秀作品

○「わたしの一押し」の部

住田町 すみきった空 満天の星空
(1年生)

僕の一押しは、住田がほこる雄大な自然です。杉や、山鳥、満天の星空、僕も見えてとても気持ち良くなります。(1年生)

住田町といえば木が多い！木が多いから学校の机もいすもすべて町内の木。木のおいがただよう教室は最高！(1年生)

住田町は、おじいちゃん、おばあちゃんが元気いっぱい、笑顔がかわいいです！(3年生)

全国のいちご栽培を 支えた！じゃじゃじゃうんめえ 住田いちご！(3年生)

となりのお父さんが釣ってくるアユがおいしい。住田の川はキレイだから。(3年生)

住田町は、森が多く、たくさんの動物がいて都会では見られない天然記念動物が見られるすごい町です。(3年生)

住田っ子 そろって夏は 気仙川
笑顔ひろがる 魚は躍る (3年生)

僕の思う地域の良い所は地域の温かさです。僕が下校する時に地域の人が「おかえりなさい」と声をかけてくれます。(3年生)

○「わたしが思う未来のいわて」の部

「行ってみたい観光地はどこですか？」「そりゃあ、岩手県ですよ。自然が豊かでしょ？」・・・未来の岩手の話です。(3年生)

第1学年 数学学習指導案

日時 令和2年5月22日（金）5校時

場所 視聴覚室

学級 第1学年 計9名

授業者 村上 勝博（T1）

高橋 秀治（T2）

1 単元名 「1章 正負の数」 ③-2 除法

2 単元について

(1) 教材について

小学校では、第4学年までに整数についての基本的な四則計算ができるようになっている。さらに、第5学年までに小数、第6学年までに分数についての四則計算を学習してきた。

本単元では、数の範囲を負の数まで拡張することで、四則が自由にできるようになり、減法が加法に表現できたり、除法が乗法で表現できたりすることを理解する。中学校における数と式の領域の第一歩となる大変重要な単元である。

ここでの学習が、次に学習する「文字と式」や「方程式」、「比例と反比例」の礎となり、中学校第3学年の「平方根」や高等学校の「実数と虚数」へとつながっていくこととなる。指導にあたっては、技能の習熟に偏ることなく、それぞれの学習場面に即した数学的活動を充実させていきたい。

また、住田町で目指している「社会的実践力」についても意識し、特に「C 人間関係形成に関わる資質能力」については常に高め合えるように指導していきたい。

(2) 生徒について

入学から1ヶ月が経ち、中学校生活にもようやく慣れてきたところである。男子6名、女子3名の少人数であるが、明るい生徒が多く、全校トレーニングや合唱などに熱心に取り組む学級である。

数学の時間は、授業態度が良好で発言も多い。しかし、どのように考えたかを説明する場面になると挙手が少なくなってしまう。小学校で習ってきた「算数」を苦手と答える生徒は多いが、中学校では頑張りたいという思いをもつ生徒もいる。

小単元2までの単元テストでは、次のように問題が整数から分数になると正答率が半減している。計算方法は理解しているが、分数が苦手な生徒が多いことが分かる。

$$\cdot (+8) + (-10) \quad \rightarrow \quad \text{正答率} 89\% (8 \text{名})$$

$$\cdot \left(+\frac{2}{3}\right) + \left(-\frac{1}{9}\right) \quad \rightarrow \quad \text{正答率} 44\% (4 \text{名})$$

また、「自然数を選ぶ」問題と「約数をすべて求める」問題はどちらも正答率11%（1名）であり、数学的な用語を正しく理解していない生徒が多いことも分かる。数学的な用語を説明に用いたり、自由に活用したりする生徒を育てていきたい。

(3) 指導にあたって

本単元は、中学生になり、初めて出会う数学の単元である。数学への興味を失わず、生徒一人一人が楽しく理解ができ、かつ印象に残るように大切に扱いたい単元であると考え。しかも、この

単元では、この後の数学では切っても切れない計算の規則がいろいろと登場する。簡単なようではあるが、初めは覚えにくく分かりにくいものである。さまざまな規則の混同を避けるために、生徒たちに加減と乗除はちがう種類の計算であるということを強調して指導をしたい。

また、数式における計算の考え方は、以後すべて代数和の考え方になってくる。生徒たちには理解しにくい内容ではあるが、ここを乗り越えれば、あとの単元での理解が早くなる。難しくてわからないという生徒も減ると考える。代数和の考え方を重視し、この単元を通してその理解を深めるように努めていきたい。

社会的実践力を構成する資質能力についても、常に意識して授業を進めていきたい。【B1 ☆見通す力】や【B2 ☆多角的・多面的に考える力】、【C1 ☆伝え合う力】、【C2 ☆協働する力】は、特に数学と関わりが深いと考える。自らの発言がほかの人のヒントになったり、少し方法を変えるだけで課題解決できたりする体験を味わわせていきたい。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

- ・ 正の数と負の数の必要性や意味、四則計算の方法などを理解するとともに、正の数と負の数を用いて事象を式で表したり処理したりする技能を身に付ける。【知識・理解／技能】
- ・ 正の数と負の数を具体的な場面で活用したり、四則計算の方法を算数で学習した数の四則計算と関連付けて考察し表現したりすることができる。【数学的な見方や考え方】
- ・ 正の数と負の数のよさに気付いて粘り強く考え、正の数と負の数について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、正の数と負の数を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとする態度を身に付ける。【関心・意欲・態度】

(2) 単元の評価規準

| 知識・理解／技能 | 数学的な見方や考え方 | 関心・意欲・態度 |
|---|---|---------------------------------------|
| ①正の数と負の数の必要性と意味を理解している。 | ①算数で学習した数の四則計算と関連付けて、正の数と負の数の四則計算の方法を考察し表現することができる。 | ①正の数と負の数の必要性と意味を考えようとしている。 |
| ②自然数や整数、素数、正の数と負の数の大小関係、符号、絶対値の意味を理解している。 | ②数の集合と四則計算の可能性について捉え直すことができる。 | ②正の数と負の数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 |
| ③正の数と負の数の四則計算をすることができる。 | ③正の数と負の数を活用して様々な事象における変化や状況を考察し表現することができる。 | ③正の数と負の数を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしている。 |
| ④具体的な場面で正の数と負の数を用いて表したり処理したりすることができる。 | ④自然数を素数の積として表すことにより、約数、倍数などの整数の性質について捉え直すことができる。 | |
| ⑤1より大きい自然数を素因数分解することができる。 | | |

4 単元の指導と評価の計画（本時 第20時／全26時間）

| 小単元 | 授業時間数 | |
|------------|-------|------|
| 0. 整数の性質 | 2時間 | 26時間 |
| 1. 正負の数 | 4時間 | |
| 2. 加法と減法 | 8時間 | |
| 3. 乗法と除法 | 9時間 | |
| 4. 正負の数の利用 | 2時間 | |
| 単元のまとめ | 1時間 | |

小単元3. 乗法と除法

| 時間 | ねらい・学習活動 | 重点 | 記録 | 備考 |
|----|--|----|----|----------------|
| 15 | ・正負の数の乗法の意味を理解し、東西の移動をもとにして考えることができるようにする。 | 考 | | 考③，態①：行動観察 |
| 16 | ・正負の数の乗法の計算ができるようにする。 | 知 | | 知③：行動観察 ノート |
| 17 | ・正負の数で、乗法の交換法則と結合法則が成り立つことを理解し、いくつかの数の乗法をくふうして計算することができるようにする。 | 考 | | 考③：行動観察 |
| 18 | ・累乗の意味を理解し、正負の数の累乗の計算ができるようにする。 | 知 | | 知③：行動観察 ノート |
| 19 | ・正負の数の除法の計算ができるようにする。 | 知 | | 知③：行動観察 |
| 20 | ・正負の数の除法を、逆数を使って乗法になおして計算することができるようにする。（本時） | 知 | | 知③：行動観察 ノート |
| 21 | ・正負の数の四則の混じった計算や分配法則を利用した計算ができるようにする。 | 知 | | 知③：行動観察 |
| 22 | ・数の範囲と四則計算の可能性について調べ、その関係を考えることができるようにする。 | 考 | ○ | 考②：行動観察 |
| 23 | ・小単元で学習したことがどの程度身に付いているかを自己評価できるようにする。 | 考 | ○ | 知③，考①②：小テスト |

5 本時の指導

(1) 目標

正負の数の除法を、逆数を使って乗法になおして計算することができる。【知識・技能】

(2) 評価規準

| 観 点 | 評価内容（評価方法） | 支援の手立て |
|--------|---|---|
| 数学的な技能 | 正負の数の除法を、逆数を使って乗法になおして計算することができる。（行動観察，ノート） | <ul style="list-style-type: none"> ・具体例を示し，全体で共有する。 ・T2と協力しながら支援する。 |

| 資質能力 | | 評価規準 | |
|-------------------------|-----------------|------|--|
| A | ◎地域理解 | 【◎地】 | ・自分たちの地域の歴史や文化，現状や抱えている課題，活用資源を理解し，ふるさとに愛着をもちながら町の発展・創造に関わる自分の役割等を捉える。 |
| B 社会参画に関する 資質能力 | 1 ☆見通す力 | 【☆見】 | ・課題を追究するための取り組みを見通し，誰に聞けばより探究できるか，どのような取り組みが効果的かを検討する力。 |
| | 2 ☆多角的・多面的に考える力 | 【☆多】 | ・課題追究活動のまとめを通して，調べた情報を整理・分析し，自分の力でまとめようとする力。 |
| | 3 ☆提案・発信する力 | 【☆提】 | ・課題解決を通して成長したことや身についた力を，班員や級友に発表する力。 |
| | 4 ★好奇心・探究心 | 【★好】 | ・課題を深く追究するために，自分たちの気づき，疑問を相手に伝えようとする姿。 |
| | 5 ★困難を解決しようとする心 | 【★解】 | ・失敗してもあきらめずに挑戦しようとする心。集団の仲間とともに困難な場面に直結しても粘り強く取り組み，最後までやり遂げようとする姿勢。 |
| C 人間関係形成に 関わる資質能力 | 1 ☆伝え合う力 | 【☆伝】 | ・自分のこれまでの学びが聞き手に伝わるように要点を絞って，発表しようとする力。 |
| | 2 ☆協働する力 | 【☆協】 | ・目標達成に向かって，他者と協力して活動できる力。議論し合ったり，集団活動を統制したりする力。 |
| | 3 ★他者受容 | 【★受】 | 相手の意見を聞く中で，自分が知らなかった視点や考え方があることを知り，新たな知識や考え方を受け入れようとする姿。 |
| D 自律的活動に関する 資質能力 | 1 ☆感じ取る力 | 【☆感】 | ・様々な観点で課題について追究し，新たに気づいたことや発見を自分で整理し，探究する活動へつなげようとしている。 |
| | 2 ☆創出する力 | 【☆創】 | ・出会う「ひと・もの・こと」に触れて面白さや楽しさ，よさを感じ，自分なりに表現する力。新しい表現の仕方を生み出したりする力。 |
| | 3 ★自己肯定感 | 【★肯】 | ・振り返りの際に，自身の成長を実感したり，次の単元に向けての意欲を高めようとしたりしている。 |

チャレンジ学級 生活単元学習 学習指導のための略案

| | |
|-----|--------------------------------|
| 日 時 | 令和2年06月30日(火) 5校時 |
| 場 所 | 住田町立有住中学校 2階 チャレンジ教室 |
| 指導者 | T1 志田竜彦, T2 菅野寿菜 T3 参観者他 |
| 生 徒 | チャレンジ学級 (知的) 3年女子1人, 1年男子1人 |

1 題材 (単元) 名

生活単元学習 おりぞめうちわづくり を たのしもう

2 目標

- ・T2と参観者におりぞめうちわづくりの工程を説明し、作り、作品のできばえを交流しあうことで、他人とのコミュニケーションのたのしさを実感することができる。
- ・肯定的な学習集団の中で、説明や表現活動をくり返し行うことで、自己表現力を高め自信を持つことができる。

3 指導上の立場

(1) 題材 (単元) 観

特別支援学級の教育課程は、学級の実態や子どもたちの障がいの程度を考慮の上、特別支援学校の学習指導要領も参考に実情にあったものを編成する必要がある。(『中学校学習指導要領解説 総則編』第3章3(1)「特別支援学級の場合」参照)

知的障がいの特徴と学習上の特性について、「学習指導要領解説—各教科, 道徳及び特別活動編」には、「社会生活に必要な感覚・運動, 自己統制, 健康・安全, 意思交換などに関する技能の獲得や適応行動に困難性があること」「成功経験が少ないことなどにより, 主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていないこと」がみられるとある。このことから, 知的障がいの学習上の特性を踏まえた教育の基本的対応として「できる限り成功体験を多くするとともに, 自発的・自主的活動を大切に, 主体的活動を助長する」「児童生徒一人一人が集団の中で役割を得て, その活動を遂行できるよう工夫するとともに, 発達の不均衡な面や障がいへの個別的な対応を徹底する」ということを意識した学習展開を組み立てる必要がある。

この「おりぞめうちわづくり」の授業では, 子どもたちにとって, 自分の意図とはちがうデザインのものできたとしても, 肯定的な評価を得られる作品になるはずである。また, ふだん教えられる立場である生徒が, 〈「初めて作る人」に教える〉という行為は新鮮であり, 同時に, 他人と関わらざるを得ないという意味では, 「主体的な活動」が要求される。

(2) 生徒の実態

この学級の生徒は二人だが, 姉と弟という関係である。姉は, 学校生活ではまったく言葉を発しないが, 弟は小さなかすれ声で話すことができる。二人とも毎日の朝の会, 帰りの会, 給食, 清掃活動は, 交流学級のそれに参加し, 自分の役割を果たしている。ただし, 弟の方は, 不登校気味であり, 6月24日現在までの出席数は, 4月4, 5月1, 6月2の合計7で, このうち学校で一日過ごしたのは, 4

月の2回である。

姉の方は、同じクラス担任教師で3年目を迎えた。「話さなくてもいいから、自分の意見や気持ちを自分から伝えよう」という指導方針を生徒本人と保護者に伝えて、いくつかの取り組みを続けている。その成果として、常時メモ帳を携帯し、生徒本人が必要と思われるやりとりを行うことができるようになってきている。この生徒への「話さなくても、伝えよう」というはたらきかけは、時に生徒にとっての圧迫要因となり、コミュニケーション不全を助長する遠因になっている可能性があることをつねに意識しながら、それでも、この課題をクリアしていくことが、今のこの生徒に一番必要であると、考える。

弟の方は、〈まず学校に登校すること〉を第一の目標にして、現在、家庭と連携した取り組みをしている。この次の目標が〈学校生活や担任に慣れること〉である。よって、「①この授業時間にはいない」「②この授業ではじめておりぞめうちわづくりをする」「③姉と同じように、この授業以前におりぞめうちわづくりをした後に授業に参加する」の3つのケースが予想されるが、②③の場合、いずれも姉が中心となって説明を行う態勢を準備する。

本単元の第1～2時は、チャレンジ学級の生徒と担当教師、第3時はチャレンジ学級の生徒と T2 と 参観者（校内教職員のうち、本時の授業担当のない者）で展開する。生徒二人の発達上の課題である「コミュニケーション」に関わる指導は、外部者を加えた肯定的な学習集団という「学び合う仲間」の存在がとても有効かつ必要不可欠だと考えている。「教えられ役」の T2 のほか、参観の先生方にも「おりぞめうちわづくり」に参加していただくことで、生徒への評価のことばが、気持ちよくこの活動を進める助けになると期待している。

| 生徒 | 本時に関わる実態(上段) と 個別の目標(下段) |
|-----------|------------------------------------|
| SA女 3年 | 色彩感覚が豊かである。作業工程は回数をこなすことでわかるようになる。 |
| | 自分が理解していることを他人にわかりやすく伝えること。 |
| SH男 1年 | 促せば、わからないことを小さな声で尋ねることができる。 |
| | 授業に参加し、自分の作品を完成させることができる。 |

(3) 本校の研究主題との関連 (省略)

4 指導計画 (全3単位時間) おりぞめうちわづくり

第1時 おりぞめうちわを作りながら、作り方も覚えよう。

第2, 3時 初めて作る人に説明するために、必要なものを考え、用意しよう。

第4時 参観者といっしょに、おりぞめうちわを作ろう。

5 本時の展開 (第3時)

| 目標：初めての人に「おりぞめうちわ」の作り方を説明し、いっしょに作品を作ることができる。 | | |
|---|------|---|
| 学習活動 | 学習形態 | 教師の支援 (○) と評価 (★) ※参観者 (●) |
| <p>①本時の学習予定を知り、説明の準備をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>導入 5分</p> </div> | 個別 | <p>○生徒に見通しを持たせるため、「最初に説明、その後は製作して、できあがったものにコメントしあう」という授業の流れを確認する。 (前時に予告済)</p> |
| <p>②作業机で、T2と参観者に製作の説明をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>展開 前半 5～10分</p> </div> | グループ | <p>○●「教えられ役」のT2が参観者とともに、生徒の説明を聞く。 T2は、わからないことを生徒に聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>コメント例 ・「どの色からつけてもいいの？」 ・「のりはたっぷりつけるの？」など</p> </div> |
| <p>③一通り説明できたら、T2が作ってみる。</p> | グループ | <p>○☆教師は、生徒の説明で不十分なところに気づいたら、生徒にその分の説明を促し、評価する。</p> |
| <p>④生徒も参観者といっしょに自分の作品を作る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>展開後半 15～20分</p> </div> | グループ | <p>○教師は、製作の経過を見守りながら、生徒の活動目標がクリアできているか評価する。</p> |
| <p>⑤製作を終わらせ、片付けをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>終末 15分 (片付け含む)</p> </div> | 個別 | <p>○生徒には、片付け後、作品の評価コメントを書かせる。</p> |
| <p>⑥参観者に感想を言ってもらおう。</p> | グループ | |
| <p>⑦次時の予告を聞く。</p> | | <p>○次時への意欲を高める。</p> |

6 本時の評価

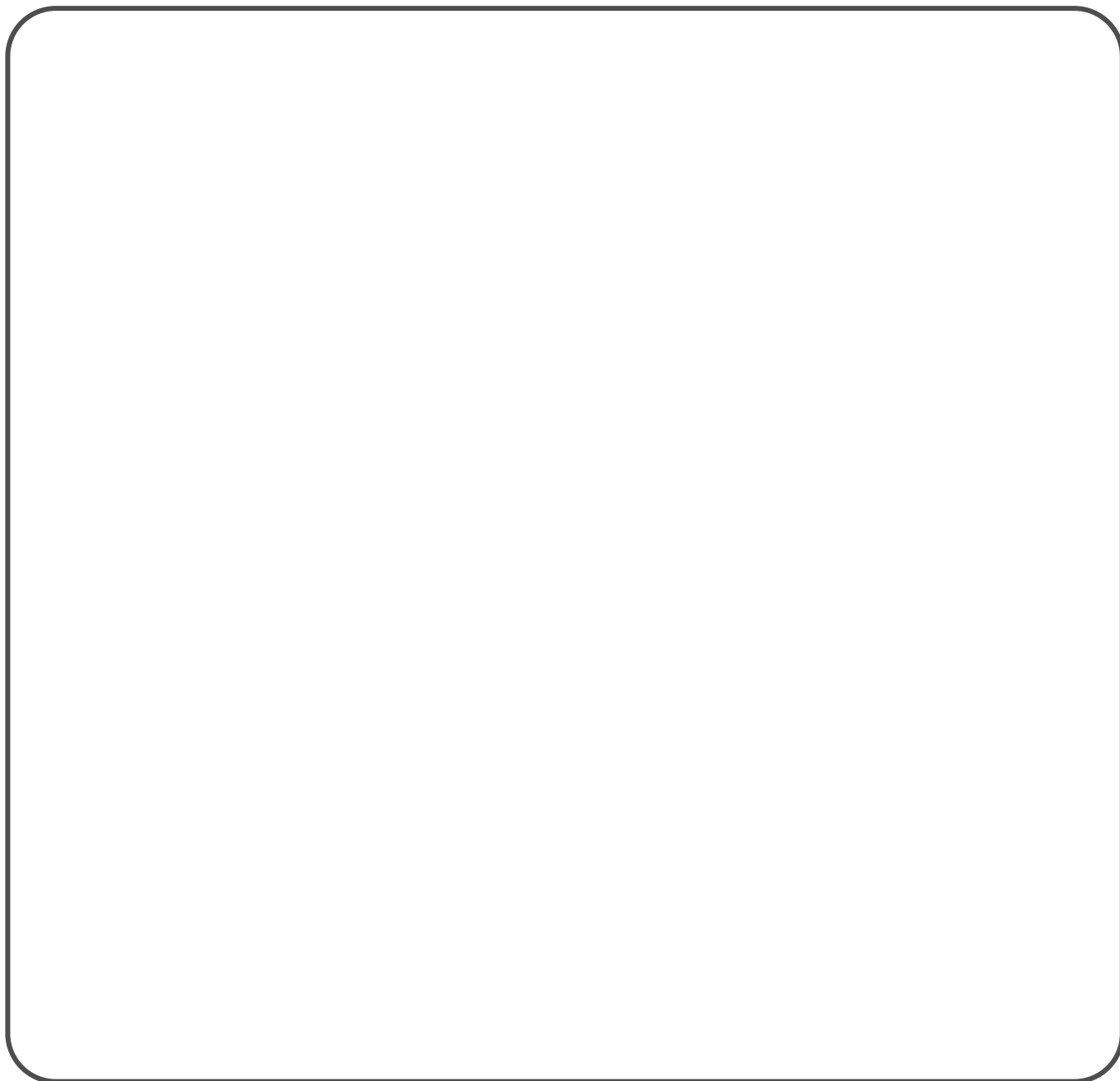
生徒の目標について、担当教師の観察と生徒の感想文により評価する。

「おりぞめうちわをつくろう」

学 級：チャレンジ学級

授業者：志田竜彦 先生

授業を見て学んだこと



氏名

授業参観メモ

黒板

| | | |
|--|--|--|
| | | |
|--|--|--|

| | | |
|--|--|--|
| | | |
|--|--|--|

| | | |
|--|--|--|
| | | |
|--|--|--|

授業を見る視点

- 子どもたちがどのような状態で学びに入っていたか
- 意欲的に学びに向かっていたか
- どの子にどんな学びが生まれたか
- どんなわからなさが存在していたか
- どこでどのように間違ったりつまずいたりしていたか
- 子どもの中から斬新な、あるいは深く鮮烈な考えが出ていなかったか
- 【B1 ☆見通す力】【C1 ☆伝え合う力】【C2 ☆協働する力】【D3 ★自己肯定感】
がどこでどう育まれたか

第1学年 地域創造学学習指導案

日 時 令和3年2月5日(金) 5校時
場 所 視聴覚室・1年教室・1年集会室
学 級 第1学年10名・6年生14名
授業者 伊東昭信・村上勝博・高橋秀治

1 単元名 第3単元「すみたの魅力発信プロジェクト」に取り組んでみて…

2 単元について

(1) 題材について

地域創造学における中学1年生は、小学校5・6年生からの第3ステージの最終学年である。中学校という小学校までとは違った条件のもとで新たな課題解決に取り組み、それまで培ってきた社会的実践力をさらに発揮して自信を深め、第3ステージを締めくくりたい。また、第4ステージに向けて中学2・3年生で身に着けていく力を意識した経験を積ませることで、ステージ間の接続をスムーズにしていきたい。

中学校第一学年の「すみたの魅力発信プロジェクト」は3つの単元で構成されている。第1単元の「住田に地域貢献している人や資源にはどのようなものがあるか？」では、小学校まで学んできたことを振り返り、地域に詳しい方の話を聞くことで、主に地域理解を深めたい。第2単元の「住田で活躍する人の願いや地域資源のことについてインタビューしよう。」では、インタビュー相手の選択、取材の依頼と日時調整の電話、取材先への移手段の手配を自分たちで実行することで、主に社会参画に関する資質・能力を伸ばしたい。第3単元「すみたの魅力発信プロジェクトに取り組んでみて…」では、大人・先輩・後輩という異なる対象に対する発表の機会を重ねる中で、試行錯誤を通して、主に人間関係形成に関する資質・能力や自律的活動に関する資質・能力を伸ばしたい。

(2) 児童(生徒)について

生徒は第1～2単元で、住田テレビの及川さんから取材の仕方を教わり、有住在住の輝いている方を紹介していただいた。それをもとに、3人のグループごとに取材対象を決めて、実際にインタビューを行った。取材後にはポスターを製作し、東海新報住田担当の清水さんを招いて発表会を行った。発表内容に対するアドバイスを受け、記事のまとめ方を教わった。それをもとに、グループごとに2人目の取材対象を決めてインタビューを行い、ポスターを製作した。その後の第3単元では、中高交流会で住田高校の1年生と有中の2・3年生に2人目のインタビューの取材内容を、各種活動報告会では保護者と有中3年生に1人目と2人目両方の取材内容を発表した。

ここまでの各グループに共通した成果と課題は、それぞれ大きく2つある。成果の1つ目は、2度の取材を通して臨機応変に質問を考えるなど、インタビュー時の振る舞いが大きく改善したこと。2つ目は、ポスターに伝わりやすい見出しや写真を載せるなど、構成の工夫が見られるようになったことである。課題の1つ目は、発表の際の説明が原稿やポスターの文章をそのまま読むか暗唱するような状態で、聞き手を十分に意識しきれていなかったこと。2つ目は、ポスターに貼った取材時の写真が小さすぎたため、効果的に見せることができなかつたことがあげられる。

(3) 指導にあたって

3学期は第3単元後半の「実施・改善」の最終段階となる。2学期後半の2度の発表で各グループが発見した課題の解決を図り、最後の発表の機会となる小中交流会に臨ませる。これまでの聞き手は先輩～大人であり年上だけだったが、今回は年下の小学生が聞き手となるため、よりわかりやすい説明ができるように工夫し、修正を図らせた。

具体的には電子黒板とタブレットPCを活用し、取材時の写真を画面上で示しながら説明できるように準備させる。また、発表内容の流れはこれまでのものを活かしつつも、原稿やポスターの文章にとらわれず、聞き手に十分内容が伝わっているか反応を見ながら柔軟な説明や応答ができるように心がけさせたい。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

| | 資質能力の分類 | 資質能力別の目標 |
|--------|--------------------|--|
| 社会的実践力 | A 【地域理解】 | ○活動を通して改めて気づいた住田町で活躍する人の願いや地域資源について、まとめることができる。 |
| | B 【社会参画に関する資質能力】 | ○報告会にて、成果物を示したり、成果・課題について要点をまとめて発表したりすることができる。 |
| | C 【人間関係形成に関する資質能力】 | ○報告会に向けて、聞き手に住田町で活躍する人の願いや地域資源について伝わるように、発表を交流し内容を高めることができる。 |
| | D 【自律的活動に関する資質能力】 | ○振り返りの際に、自身の成長を実感したり、次年度に向けての意欲を高めたりすることができる。 |

(2) 評価規準

☆汎用的スキル ★態度・意欲・学びの価値

| 資質能力 | | 評価規準 | |
|-----------------|-----------------------------|------|--|
| | A ◎地域理解 | 【◎地】 | ・報告会に向けて、活動を通して改めて気づいた住田町で活躍する人の願いや地域資源について、まとめようとしている。 |
| する 資質・ 能力 | B 社会参画に関する能力 3 ☆提案・発信する力 | 【☆提】 | ・報告会にて成果物を示したり、成果・課題について要点をまとめて発表しようとしていたりしている。 |
| にする 資質能力 | C 人間関係形成 1 ☆伝え合う力 | 【☆伝】 | ・報告会に向けて発表原稿や成果物の内容について意見交換し、工夫しながらまとめ、聞き手に住田町で活躍する人の願いや地域資源について伝えようとしている。 |
| 動に 関する 活 | D 自律的活動 3 ★自己肯定感 | 【★肯】 | ・振り返りの際に、自身の成長を実感したり、次年度に向けての意欲を高めようとしていたりしている。 |

4 単元の指導・評価計画（本時 第8時／全9時間）

| 月 | 小単元名 | プロセス | 時 | 主な学習活動 | 関連する教科・領域 | 評価項目（評価方法） |
|---------|-------------------|-----------|---|---|-------------------------|---|
| 12 2 | プロジェクトに取り組んでみて・・・ | 課題の設定の気づき | 1 | ○プロジェクト報告会に向けて、見通しを持ちながら、これまで行ってきた活動をまとめる。 ・プロジェクト報告会の見通しをもつ。 ・プロジェクト報告会の準備の役割分担をする。 ・これまでの活動を確認し、内容を整理する。 | 【特別活動 学級活動】 | ・A ◎地域理解（チェックリスト） ・C1 ☆伝え合う力（チェックリスト） |
| | | 現状把握・情報収集 | 4 | ○プロジェクト報告会に向けた準備をする。 ・プロジェクト報告会の発表原稿や発表資料を作成する。 ・プロジェクト報告会のリハーサルを行う。 ・発表内容の修正をする。 | 【道徳 相互理解 寛容】 | |
| | | 実施・改善 | 3 | ○プロジェクト報告会でこれまでの活動について発表する。 ・これまでに取り組んできたプロジェクトについて発表する。 ・発表についての質疑やアドバイスをいただき必要に応じて返答する。 | 【道徳 伝統と文化】 【道徳 自然愛護】 | ・A ◎地域理解（ポートフォリオ個人・他者） ・B3 ☆提案・発信する力（ルーブリック） |
| | | まとめと振り返 | 1 | ○プロジェクト報告会の振り返りをする。 ・振り返りシートにプロジェクト報告会の振り返りを記入する。 | 【道徳 伝統と文化】 【道徳 自然愛護】 | ・D3 ★自己肯定感（ポートフォリオ個人・他者） |

5 本時の指導

（1）目標

住田で活躍している人がどんな取り組みをしているか、小学生を相手にポスターや写真を使ってわかりやすく説明することができる。【B社会参画に関する資質能力 B3 ☆提案・発信する力】

（2）評価について

○本時のルーブリック

| | | |
|------------------------|---|---|
| パフォーマンス課題 | | ・小中交流会に向けて、発表資料を作成し、発表する。 |
| みとる資質能力 | | ・B3 ☆提案・発信する力 |
| パフォーマンスの特徴 (支援の手立て) | A | ・グループごとに作成したスライドショーを、聞き手の反応を見ながら発表原稿にとらわれすぎずに、興味をひくような説明の工夫をすることができる。 |
| | B | ・グループごとにスライドショーを作成し、ポスターセッションでの発表原稿の内容に沿った発表をすることができる。 |
| | C | ・タブレットや電子黒板の使用方法を適宜指導する。 ・発表原稿を活かした写真の選択や表示の仕方を考えさせる。 |

（3）展開（70分）

| 段階 | 学習内容・学習活動 | ※指導上の留意点 ◆評価 |
|------------|--|--|
| 導入 10分 | <p>1 開会行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会の言葉 ・今日のねらいについて 学級委員長(愛斗) | <p>◆評価</p> <p>・各グループが発表を行う教室を伝えて、それぞれ6年生を教室に案内する。</p> <p>・ポスターや電子黒板は事前に準備を整えておく。</p> |
| 展開 45分 | <p>2 移動・準備</p> <p>3 報告</p> <p>① 13:40～13:53</p> <p>② 13:56～14:09</p> <p>③ 14:12～14:25</p> | <p>課題 (中学生)わかりやすい発表を行い、質問・感想に丁寧に応えよう。 (小学生)発表を聞いての感想や、気になったことへの質問を、先輩にはっきりと伝えよう。</p> <p>・この後の移動について</p> <p>・1グループ13分(報告9分+質疑4分)×3回</p> <p>A. 視聴覚室：莉音・真彩・きらら</p> <p>B. 1年教室：穏・琉真・我流</p> <p>C. 1年集会室：東吾・愛斗・悠輝</p> <p>・6年生は3か所を順番に回る(3分で移動)</p> <p>あ：視聴覚室→1年教室→1年集会室</p> <p>り：1年教室→1年集会室→視聴覚室</p> <p>す：1年集会室→視聴覚室→1年教室</p> <p>◆評価</p> <p>・グループごとにスライドショーを作成し、ポスターセッションでの発表原稿の内容に沿った発表をすることができる。</p> |
| まとめ 15分 | <p>5 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りを行う ・先生から ・中学校生活に向けて | <ul style="list-style-type: none"> ・中学生は発表したグループ、小学生は回ったグループごとに感想を交流し、代表者が全体に向けて感想を発表する。 ・可能であれば、小学校の先生から講評をいただく。 ・小学生からの質問に対する回答を分担して準備しておく。 |

令和2年度 地域創造学中高連携事業ステージ交流会について

研究部

1 日時 令和2年12月16日(水) 4校時(11:25~12:35)

※1~3校時は45分授業で行う

2 場所 住田町立有住中学校 多目的教室(開閉会行事)

パソコン室, 3年集会室, 学習ルーム, 2年集会室

3 次第

○開会行事<進行:高校生> 多目的教室

- (1) 開会の言葉(高校生)
- (2) 主旨説明(菊地:住田高校)
- (3) 連絡(菊地:住田高校, 村上:有住中)
- (4) 終わりの言葉(進行)

○閉会行事<進行:高校生> 多目的教室

- (1) はじめの言葉(進行)
- (2) 感想発表(高校生から1名, 中学3年生から1名)
- (3) 高校生からアドバイス(第4ステージ1名, 第5ステージ1名)
- (4) 閉会の言葉(高校生)

4 タイムテーブル

| | |
|-------------|---------------------|
| 10:55 | 高校生住田高校発 |
| 11:10 | 高校生有住中学校着 |
| 11:15~11:25 | 会場準備 |
| 11:25 | 開会行事(多目的教室) |
| 11:30~12:30 | 研究発表(教室移動を5分間として設定) |
| 1回目 | 11:30~11:40 |
| 2回目 | 11:45~11:55 |
| 3回目 | 12:00~12:10 |
| 4回目 | 12:15~12:25 |
| 12:30~12:35 | 閉会行事(多目的教室) |
| 12:40 | 高校生有住中学校発 |
| 13:00 | 高校生住田高校着 |

5 会場

- ・ 3階2年集会室：発表者A 住高①「『うたプロ』住田の名所を歌にする」
- ・ 2階学習ルーム：発表者B 住高②「肉牛と乳牛の違いについて」
- ・ 2階3年集会室：発表者C 住高③「住田町の伝統芸能の特徴」
- ・ 2階パソコン室：発表者D 住高④「外国籍の人も暮らしやすい町」
- ・ 2階多目的教室：発表者E 有住中1年生

※発表者，聴衆者ともにマスクを着用する

※タイムキーパーは各会場で1名選出し，教室の時計で開始を統一する

6 発表者

| 回数 | 発表者A | 発表者B | 発表者C | 発表者D | 発表者E |
|-----|--|--|---------------------------------------|-------------------------------|--------------------------------------|
| 1回目 | 住高①「『うたプロ』住田の名所を歌にする」 大山湊 | 住高②「肉牛と乳牛の違いについて」 岡崎海樹 | 住高③「住田町の伝統芸能の特徴」 黄川田織 | 住高④「外国籍の人も暮らしやすい町」 佐々木優弥 | 中①「ナデシコ栽培」 齊藤きらら 齊藤真彩 吉田莉音 |
| 2回目 | 岡澤惟亜 佐々木美月 長谷川馨遥 菅野ひなた 古川くるみ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ |
| 3回目 | 新沼由唯 ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | 中②「ケーキ職人」 黒澤我流 畑中琉真 佐藤穂，佐藤響 |
| 4回目 | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | 中③「獵友会，農業」 佐々木愛斗 篠原東吾 藤井悠輝 |
| | 3階 2年集会室 住田高校の <u>プロジェクター</u> 使用 | 2階 学習ルーム 住田高校の <u>プロジェクター</u> 使用 | 2階 3年集会室 有住中の <u>プロジェクター</u> 使用 | 2階 パソコン室 <u>電子黒板</u> 使用 | 2階 多目的教室 <u>発表ボード</u> 使用 |

自然への感心高める

有住中
1年生 種山ヶ原で森林学習

住田町立有住中学校（岩角聖孝校長）の1年生10人が7日、地域創造学の一環として種山ヶ原で森林学習を行った。生徒たちは森林の散策を通じ、地元の自然への関心を高めていた。

この活動は、文部科

学省から研究開発学校
の指定を受け、町内の
各小中学校が特色あふ
れる授業を実践してい
る新設教科「地域創造
学」の一環。この日は
「すみだ森の案内人の
会」の佐々木慶逸さん
が講師を務めた。



種山ヶ原で森林学習を行う生徒たち

車場に集合後、散策を開始。道中、佐々木さんが種山と宮沢賢治の関わりについても説明した。

生徒たちは森の中で柔らかな土壌を踏みしめたり、アザミやアヤメを眺めるなどしながら散策。山頂到着後は、海に向かって合唱し、心身をリフレッシュした。

令和2年度 校内研究のまとめ

研究主題

常に課題を設定し，その時代に合った価値を
生み出せる力を育成する

生徒の知を生み出す力・課題解決力・価値生産力の育成



岩手県立住田高等学校

I 【研究主題】

常に課題を設定し、その時代に合った価値を生み出せる力を育成する
生徒の知を生み出す力・課題解決力・価値生産力を育成する
生徒の興味関心を中心に、生徒によるアクション重視と発表を通し自他ともに成長させる。

II 【主題設定の理由】

住田高校生は皆、素直で真面目である。しかし、自主性に欠けるところが見られる生徒が多い。昨今の変化の激しい社会においては、主体的に物事を考えて行動する力を身につけ、自ら社会を創造しようとする態度を育てることが重要であり、必要とされる。

また、コミュニケーション活動を大切にしながら、地域の方々と繋がりを持ち、地域社会との協働を通じて自己の生き方を考えさせ、生徒個々により良い進路選択ができるようにする。

III 研究仮説

第4ステージは、地域を知るとともに地域の方々から直接情報提供や指導をいただき、生徒個々が考察したうえで、調査研究レポートを作成する。それを公共の場において展示することにより情報発信を行う。そのことで、町内外の方々に住田町（気仙地区及び近隣市町村含む）に関する調査研究成果をどのように伝えることができるかを検証する。

第5ステージは、生徒たちの興味関心をもとに、地域の現状を理解したうえで、住田に関わる人々（誰か）をハッピーにするためのプロジェクトを考え、アクションを起こす。得られたデータをもとにその結果を考察する。

両ステージともに、1年間のスケジュールの中でフィールド調査を実施する。その過程において、地域の多様な方々と関わる機会を持つことや数回にわたる実践発表会を通じて、生徒個々に自主性を育ませる。さらには、主体的に物事を考える力を身につけさせる。

教員及び教育コーディネーターは、伴走者という立場で、生徒に関わり支援していく。

IV 研究の内容と方法

【生徒の活動】

(A) 第4ステージ（1年生）は、「地域学習探究2020」個人研究

4月15日（水） 「地域創造学オリエンテーション」

【地域創造学とは / 住田町クイズ / 調査研究の意義と手法】

4月22日（水） 「問題の理解・現状把握 ①」

【自分の興味関心を知る】

「好きなこと」「興味があること」からマインドマップ作成

5月13日（水） 「問題の理解・現状把握 ②」

【住田町（気仙地区）の未来を考えよう】

20年前の住田町データから20年後の住田町を予想し希望を考える。

5月20日（水） 「問題の理解・現状把握 ③」 講師：小向・奈良

<教育 CN(コーディネーター) >

【住田町の歴史や資源を知るためのレクチャー①】

- 地域の資源についての理解を深め,自分と地域との関わりについて考える。
- 5月27日(水) 「問題の理解・現状把握 ④」 講師:小向・奈良 <教育CN>
【住田町の歴史や資源を知るためのレクチャー②】
 地域の資源についての理解を深め,自分と地域との関わりについて考える。
- 6月3日(水) 「研究の進め方の理解①」
【調査研究の意義や方法について理解する】
 調査研究の意義/調査方法4項目/それぞれの利点・欠点を考える。
- 6月10日(水) 「住田町散策」 CN:小向・小宅・若林・奈良
 協力:せたまい町歩き事務局ガイド
【住田町まち歩き】
 住田町を見て歩き町の魅力を感じる。
- 6月17日(水) 「研究の進め方の理解②」
【フィールドワークの方法や注意点について理解】
 フィールドワーク(実地調査)方法の具体例と注意点
- 7月1日(水) 「課題設定計画①」
【自分の興味関心をもとに調査研究テーマを決める】
 4月以来「地域創造学」で学んできた講話レクチャー・調査方法の意義・まち歩きの実施を経て得た情報を再確認する。
- 7月8日(水) 「課題設定計画②」
【自分の興味関心をもとに調査研究テーマを決める】
 調査研究実施計画を立案。配慮すべき点を,Tutor(伴走者)とともに確認。
 フィールドワーク調査アポイントメントの取り方シミュレーション実施。
- 7月15日(水) 「第5ステージ構想発表会視聴」
【第5ステージの発表会の進め方を理解し,聴衆者として参加する】
 先輩の構想発表会を視聴することで,研究の進め方と発表の仕方を学ぶ。
- 7月22日(水)～8月16日(日) <夏季休業中>
【「地域学習探究2020」調査研究のための資料収集】
 (専門家や地域人材へのインタビュー・フィールドワーク実地調査)
- 8月19日(水) 「発表資料作り①」
【長期休業中に実施した調査研究でわかったことを整理する】
 下調べレポート兼フィールドワーク調査記録用紙とデータをもとに,フィールドワーク調査実施時における振り返りの実施。
- 8月26日(水) 「発表資料作り②」
【長期休業中に実施した調査研究でわかったことを整理する】
 前時のデータ資料を基に,単元まとめ発表会発表資料作成に取りかかる。
 調査結果を踏まえた考察,さらに追加調査すべきことが無いかの確認。
- 9月2日(水) 「発表資料作り③」
【長期休業中に実施した調査研究でわかったことを整理する】
 情報収集のためのプチレクチャー/単元まとめ発表会発表資料作成。
- 9月16日(水) 「発表資料作り④」

【長期休業中に実施した調査研究でわかったことを整理する】

資料作成上のレクチャー／単元まとめ発表会発表資料作成。

9月23日(水) 「発表資料作り⑤」

【長期休業中に実施した調査研究でわかったことを整理する】

発表会へ向けてのレクチャー／単元まとめ発表会発表資料を完成させる。
完成後、発表練習。

9月30日(水) 「単元まとめ発表会」

【「調査活動結果について資料を用いて発表すること」と「他の人の発表を聞いてアドバイスすること」で伝え合う力・協働する力を培う】

第4ステージ発表会(発表者・司会者・聴衆者)／第5ステージ発表会(聴衆者)として参加。

10月14日(水) 「情報収集計画①」

【単元まとめ発表会聴衆者メモを参考に2次アクションについての考察】

単元まとめの発表会を通して確認したことや他者からの意見などを生かし、さらに深めるための構想を練る。

10月21日(水) 「実施・改善①」

【2次アクションの具体的実施計画について考察】

早急に再調査研究活動を行い、資料作成に生かす。見た人に伝わる(レイアウト、文章など)のような資料の作成を考えさせる。

10月28日(水) 「実施・改善②」

【2次アクションの具体的実施計画の取り組み】

調査研究レポート作成(体裁)についてのレクチャー／2次アクションの具体的実施計画に基づき外部との接触が必要であれば、チューターを通じて事前連絡を取り、その後生徒自身がアポイントメントを取る。資料のレイアウト等も考えながら、調査結果を踏まえた考察と発表会へ向けてどのように進めていくかの考察をする。

11月4日(水) 「発表資料づくり2-①」

【2次アクションの具体的実施計画の取り組みとデータ整理】

パワーポイントスライド作成に関するレクチャー／資料のレイアウトや文章などの再検討。調査研究活動の発表に向けた発表内容の検討。発表会原稿の素案入力作業(テーマ・テーマ選定理由・スライドの背景等)。

11月18日(水) 「発表資料づくり2-②」

【2次アクションを踏まえた考察をもとに発表会資料を作成する】

資料のレイアウトや文章などを再検討し、より完成形に近づける。
パワーポイントスライド作成に関するレクチャー2／調査結果を踏まえた考察、発表会へ向けて、資料完成を目指す。

11月25日(水) 「調査研究発表会」<学校公開>

【調査活動結果について資料を用いて発表すること」と「他の人の発表を聞いてアドバイスすること」で伝え合う力・協働する力を培う】

第4ステージ発表会(発表者・司会者・聴衆者)

テーマにより AB の 2 グループ分かれて発表会を実施し、聴衆者との意見交換を行った。

12月9日(水) 「中高連携事業ステージ交流会：世田米中学校」1年A組

【他の生徒の発表を聞いて、意見や感想を述べる】

世田米中学校「地域創造学」プロジェクト発表会並びに地域創造学連携交流会に参加。中学生のプロジェクト発表と高校生代表の発表を視聴し、意見交換をした。

「調査研究レポートの作成」

1年B組

【資料のレイアウトや文章などを検討し、調査研究レポートの完成形を目指す】

12月1日付け指示文書(作成マニュアル)により調査研究レポートを作成し、完成を目指した。

12月16日(水) 「中高連携事業ステージ交流会：有住中学校」1年B組

【他の生徒の発表を聞いて、意見や感想を述べる】

高校生出前授業の形式による有住中学校での地域創造学連携交流会に参加。高校生代表の発表と中学生代表のプロジェクト発表を視聴し、意見交換をした。

1月13日(水) 「地域発信」

【調査研究レポートアンケート結果を基に考察する/校内ステージ交流発表会に向けて完成形を目指す】

12月24日(水) から1月12日(火) まで調査研究レポートを町役場へ展示し、アンケートの回収結果を検証。

校内ステージ交流会(1月20日)へ向けたスライド改善修正をすすめた。

4分科会振り分けと発表順の決定。

1月20日(水) 「校内ステージ交流発表会」

【「調査活動結果について資料を用いて発表すること」と「他の人の発表を聞いてアドバイスすること」で伝え合う力・協働する力を培う】

第4ステージ発表(発表者・聴衆者) / 第5ステージ発表(聴衆者) として参加。

第1【ケラッセ&唐揚げ】第2【健康・福祉・伝統文化】第3【歴史・体験】

第4【魅力発信】の4分科会。

(B) 第5ステージ(2・3年生)は、「すみハピ!プロジェクト2020」

個人・グループ研究

4月15日(水) 「問題の理解・現状把握 ①」

【「すみハピ!プロジェクト2020」を進めるにあたって 課題の発掘】

4月22日(水) 「問題の理解・現状把握 ②」

【自分の興味関心のあることと今までやってきたことを振りかえる】

今年度の取り組みチームまたは個人で、「すみハピ!プロジェクト2020」と関連づけて考える。

- 5月13日(水) 「研究の進め方の理解①」 講師：小宅 <教育 CN>
【地域創造学を学ぶ意味】とは
 地域創造学に参加する意味を捉え返すことで、アクションプランの設定にむけてモチベーションを高める。
- 5月20日(水) 「研究の進め方の理解②」 講師：若林 <教育 CN>
【自分の好きを見つける】
 地域創造学のテーマを設定する上で必要となる”問いの立て方”を学び、生徒自身の好きなことや関心のあることを例に問いを立ててみる。また、グループワークのルールを学び、実践を行う。
- 5月27日(水) 「課題設定①」
【テーマ設定及び調査活動計画(素案)】
 住田町または近隣地域の現状について予測を立てながら、地域創造学のテーマを設定する。
- 6月3日(水) 「情報収集計画①」
【住田町または近隣地域の現状を知るための調査内容と調査方法を考える】
 設定した「課題テーマ」に基づき、住田町または近隣地域の現状を知るための調査内容と調査方法を考える。
- 6月10日(水) 「情報収集計画②」
【住田町または近隣地域の現状を知るための調査内容と調査方法を考える】
 設定した「課題テーマ」に基づき、住田町または近隣地域の現状を知るための調査内容と調査方法を考えるとともに、構想発表会に向けた吟味。
- 6月17日(水) 「発表資料作り①」
【調査活動計画の構想をまとめる】
 構想発表会に向けた資料作成と発表方法を考察する。
- 7月1日(水) 「発表資料作り②」
【調査活動計画の構想をまとめる】
 発表方法を考察するとともにドラフト案を作成する。分科会毎の Tutor (伴走者)を設定し、進捗状況を申告してモニタリング。
- 7月8日(水) 「発表資料作り③」
【調査活動計画の構想をまとめる】
 構想発表会資料を完成する。発表資料の提示に関わる方法及び内容の吟味。
- 7月15日(水) 「第5ステージ構想発表会」 <学校公開>
【今年度調査研究の構想について、各個人またはグループでの発表を行う】
 自分の構想を他者に伝わるように発表することと他者の発表を聞いて自分の考えに基づいた意見を述べることを学ぶ。
 共通テーマを括り4つの分科会にまとめて実施
 発表形態：パワーポイント・ポスターを使用
- 7月22日(水)～8月16日(日) <夏季休業中>
【「すみハピ!プロジェクト2020」現状と課題を捉えるための実地調査】
 (専門家や地域人材へのインタビュー・フィールドワーク実地調査)

- 8月19日(水) 「実施・改善①」
【調査活動を実施し、わかったことをまとめ、調査結果から課題を捉える】
 調査結果データまとめ：フィールドワーク調査を実施してわかったことの整理をし、調査結果から課題を捉え、解決策の計画を考察する。
- 8月26日(水) 「実施・改善②」
【調査活動を実施し、わかったことをまとめ、調査結果から課題を捉える】
 単元まとめ(地域課題解決アクション中間)発表会の資料づくりに取りかかる。
- 9月2日(水) 「実施・改善③」
【調査活動を実施し、わかったことをまとめ、調査結果から課題を捉える】
 発表原稿作成が目標ではなく、研究実施・改善がこの単元であることの確認。
- 9月16日(水) 「実施・改善④」
【調査活動を実施し、わかったことをまとめ、調査結果から課題を捉える】
 発表原稿作成が目標ではなく、研究実施・改善がこの単元であることの確認。
- 9月23日(水) 「実施・改善⑤」
【調査活動を実施し、わかったことをまとめ、調査結果から課題を捉える】
 単元まとめ発表会の資料を完成し、発表の練習に取り組ませる。
- 9月30日(水) 「単元まとめ発表会」
【「調査結果<現状・課題・活動計画>について資料を用いて発表すること」と「他の人の発表を聞いてアドバイスすること」で伝え合う力・協働する力・他者受容能力を培う】
 第5ステージ発表会(発表者・司会者・聴衆者)／第4ステージ発表会(聴衆者)として参加。
- 10月14日(水) 「情報収集計画①」
【他の人からのアドバイスなどをもとに活動計画を見直す】
 単元まとめ発表会の聴衆者メモをもとに課題や改善点・好評価点を洗い出し、2次アクションとして何をすべきか考察する。
- 10月21日(水) 「実施・改善2-①」
【2次アクションの具体的実施計画について考察】
 早急に再調査研究活動を行い、資料作成に生かす。見た人に伝わる(レイアウト、文章など)ような資料の作成を考えさせる。
- 10月28日(水) 「実施・改善2-②」
【課題解決のための行動と課題解決につながったのかの検証】
 2次アクションの計画・スケジュール計画に基づく活動。資料整理(実験・実習・数値データ等)。分科会内プチミーティング(個々の進捗状況報告会)。
- 11月4日(水) 「発表資料づくり2-①」
【自分の研究活動についての発表資料を作成する】
 2次アクション後の資料整理(実験・実習・数値データ等)及び考察。分科会内でのプチミーティング(個々の進捗状況報告会)を実施。／発表会資料作成入力作業。

11月18日(水) 「分科会発表会」

【自分の研究活動についての発表資料をもとに分科会毎に発表会を行う】

2次アクションの結果を踏まえた発表資料に基づき、分科会毎の発表会を実施する。発表内容及びプレゼンテーションの仕方や資料提示等を含めて優秀研究を分科会毎に2組ずつ(合計8組)選考。

11月25日(水) 「プロジェクト発表会」<学校公開>

【「2次アクションを踏まえたすみハピ!プロジェクト2020<現状・課題・活動計画>について資料を用いて発表すること」と「他の人の発表を聞いてアドバイスすること」で伝え合う力・協働する力・他者受容能力を培う】

第5ステージ発表会(発表者・司会者・聴衆者)各分科会代表2組ずつ8組による発表を行い、聴衆者との意見交換を実施した。

12月9日(水) 「プロジェクト改善」

【他者の発表の素晴らしい点や参考となる点を自らの取り組みに取り入れる活動の成果をさらに見直し、プロジェクトの修正・改善に取り組む】

プロジェクト発表会について振り返り <3年生>

これまでのプロジェクトの取り組みを振り返った。

今後の活動を見据えたプロジェクトの修正・改善 <2年生>

校内ステージ交流会(1月20日)へ向けたスライド作成をすすめた。

1月13日(水)「年間のまとめ」 <3年生>

【今年度の活動の振り返り及び第5ステージ(2年間)のまとめ】

自分の活動を振り返り、課題解決に向けて取り組みがされたことを肯定的に評価した。12の社会的実践力のうち身についたと思われる力を3項目、生徒個々に自己選択させた。

「プロジェクト改善」 <2年生>

【他者の発表の素晴らしい点や参考となる点を自らの取り組みに取り入れる活動の成果をさらに見直し、プロジェクトの修正・改善に取り組む②】

今後の活動を見据えたプロジェクトの修正・改善に取り組んだ。

校内ステージ交流会(1月20日)へ向けたスライド改善修正をすすめた。

4分科会振り分けと発表順の決定。

1月20日(水)「校内ステージ交流発表会」

【「調査活動結果について資料を用いて発表すること」と「他の人の発表を聞いてアドバイスすること」で伝え合う力・協働する力を培う】

第4ステージ発表(聴衆者) / 第5ステージ発表(発表者<2年のみ>・聴衆者)として参加。司会進行は、タイムキーパーも兼ねて3年生が行った。

第1【料理】第2【健康・福祉】第3【自然・体験】第4【魅力発信】の4分科会。

<予定> 2月 22日 (月)

「地域創造学」1年間の振り返り及び次年度の調査研究計画考察(1・2年生)

☆ 1月 20日(水)の「地域創造学」最終発表会では、

第4・第5ステージそれぞれが、他ステージの聴衆者となって意見感想を述べあった。
後輩生徒は次年度の調査計画と発表方法の工夫点を先輩から学んだ。

○ 評価について

生徒は、毎時間の振り返りで自己評価シートに記入し、担任が点検した。

また、毎時間ワークシート記入により、活動記録と次回の取り組み内容を確認し、
チューター及び教育CNにも目を通してもらった。

発表会実施においては、発表者の視点と聴衆者の視点の目標を設定し、発表会からの
気づきや学んだことを自己評価シートに記入し、振り返りをさせた。

第4ステージ・第5ステージとも、各担当教員をチューターとし、伴走者として個別
支援することを重視した。

【教員研修】

- 1 4月定例職員会議 4月17日(金)
令和2年度の研究開発学校についての取り組みを確認した。
- 2 校内研修会① 地域創造学構想発表会 7月15日(水)
第5ステージの研究構想発表会を通じて、生徒の取り組み内容について教員間での共有を図った。町内の幼・保・小・中並びに教育委員会関係者にも視聴していただいた。
- 2 校内研修会② 地域創造学単元まとめ発表会 9月30日(水)
第4ステージ・第5ステージそれぞれの研究発表会を通じて、生徒の取り組み内容を確認した。町内の教育委員会関係者にも来校視聴をしていただいた。校内教員及び教育コーディネーターから発表会の振り返りシートによるアンケートを取り集約したうえで、地域創造学担当者及び教育コーディネーターで共有した。
- 3 校内研修会③ 調査研究発表会(第4ステージ)
プロジェクト発表会(第5ステージ) 11月25日(水)
- 4 地域創造学主担当者と教育CNでのミーティング(副校長含む) 11月30日(月)
今年度の活動の振り返りと次年度に向けての検討事項を確認した。
- 5 令和2年度「地域創造学」年間振り返り 臨時職員会議 1月19日(火)
- 6 校内研修会④ 地域創造学校内ステージ交流会 1月20日(水)
- 7 他校研究会等への参加及び視察
町内小・中学校校内研修会(世田米中学校・有住中学校・世田米小学校)
気仙の「探究」勉強会 令和2年10月17日(土)
校長・副校長・研究主任・教育コーディネーター(4名) 計7名 参加
中高連携事業ステージ交流会(世田米中学校・有住中学校) 令和2年12月

V 研究結果の分析と考察

◎ 成果

- 1 「地域創造学」の時間設定 毎週水曜日の7校時に実施（2年目）
指導体制の確立と教育CN（コーディネーター）との連携
事前ミーティング（週1回）
- 2 1年間の流れ
テーマ設定・調査計画 → 調査結果・アクションプラン → アクション・検証
→ 発信・検証 → 1年間のまとめ
各段階においてグループ・分科会毎の発表会を実施した。
- 3 生徒へ教員の関わり 指導ではなく支援 先導ではなく伴走者
- 4 生徒の活動向上（昨年度に比して）
プラン・アクション・リサーチ・プレゼンテーション
- 5 フィールド調査における外部の方々に関わる貴重な体験活動の機会
教育CNの支援体制と町役場の職員をはじめ、地域の多様なの方々から情報や技術を指導していただいた。
- 6 新たな取り組み
住田町まち歩き 中高連携事業ステージ交流会

● 考察

- 1 第4ステージ
前年度よりもテーマ設定から調査計画までの時間を遅らせ、住田町まち歩きを行ったうえで生徒にテーマを決定させた。そのうえで、長期休業を利用してフィールドワーク調査に取り組みさせた。しかし、人間関係スキル（電話対応・言葉遣い）などのトレーニング不足が露見した。生徒の実態に応じた調査活動に関するトレーニングの充実が望まれる。
- 2 第5ステージ
生徒の興味関心を中心とした研究を進めていた。昨年度の経験をもとに「仮説を立てる → 調査を経て課題を明らかにする → 課題克服のアクションを起こす → アクションの結果を検証する」の一連の流れを十分理解して、取り組んでいたようだ。
- 3 課題の設定
第4ステージにおいて住田町を捉えようとしたとき、同じようなテーマで安易に決めたものが見られた。探究学習を意識して「地域創造学」を進めて行くにあたり、本来の自己の生き方・在り方を考えたうえで生徒自身が深めたい・やってみたいというテーマへの取り組みになっていなかったのではないかと。
- 4 フィールド調査活動
教育CNによる地域人材紹介等の支援があり、非常に助かった。しかし、調査対象の重複により、生徒の調査活動において地域人材に負担をかけるケースが見られた。
- 5 生徒間の小中高連携
中高連携事業ステージ交流会を実施できた。

VI 研究のまとめと今後の課題

○まとめ

1 第4ステージ

「地域学習探究」調査研究にあたり、住田町内視察「まち歩き」の実施
外部専門家との協働

住田町役場職員はじめ、町内の多くの方々からの協力を得て、フィールドワーク調査を実施することができた。また、地域人材を活用した探究活動の在り方として、人間関係スキルが大切であることを学ぶことができた。

2 第5ステージ

気仙地区の食材を使った料理やスイーツの考案、また自然や多様な形式での住田の魅力発信をするアイデアが出された。また、カメムシ臭を使った香水をつくる実験の研究もあった。いずれも、現地調査や試作品を作成する等アクションを起こし、他者への提供を行うことで検証することができた。

Eg) メイプルシロップを使った料理研究 大学及び企業との協働研究

歌プロジェクト⇒PVの作成 ⇒ 各種イベントで提供

カメムシ臭で香水をつくる

☆今後の課題

1 研究テーマの設定及び研究スケジュール

特に第4ステージは、テーマ設定以前のガイダンス・オリエンテーション・レクチャー（人間関係スキル・発表会における聴衆者の意見の述べ方等）を充実させる。生徒にとって自己の生き方を十分考えさせたいという、生徒自身が深めたい・やってみたいという取り組みのテーマにする。じっくり考えさせるため、フィールドワーク調査活動は、夏休み以降に行う。第5ステージは、2年生で設定したテーマを探究サイクルで回しながら進めていく。3年生の10月以降の活動内容については検討中である。

2 教員の生徒への関わり

研究は、生徒自身が進めていく中で課題を見いだすような取り組みとする。教員は良い意味での伴走者的役割を演じる。なお、第4・第5ステージとも担当学年の先生方で対応していくこととする。

3 フィールドワーク調査

今年度同様、住田町に限定せず、気仙管内に手を広げて良い。他地域（場合によっては世界）との比較もしながら地域をとらえ、生徒自身の生き方在り方を考えさせていくものとする。

4 中高連携の在り方

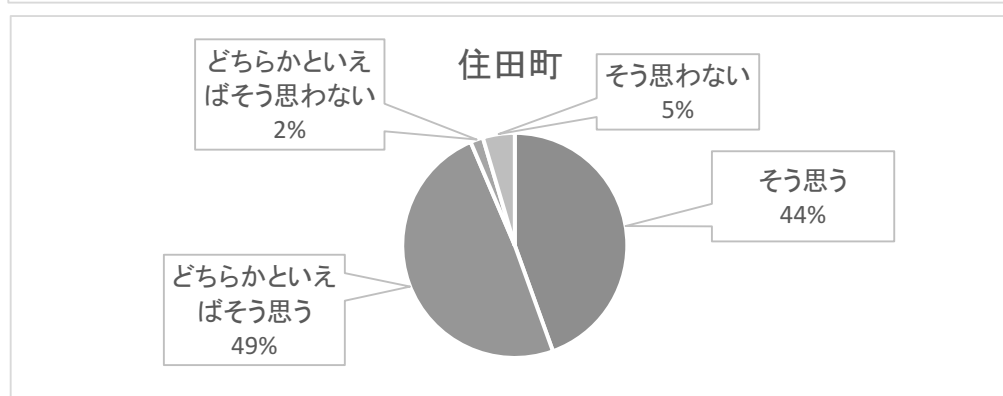
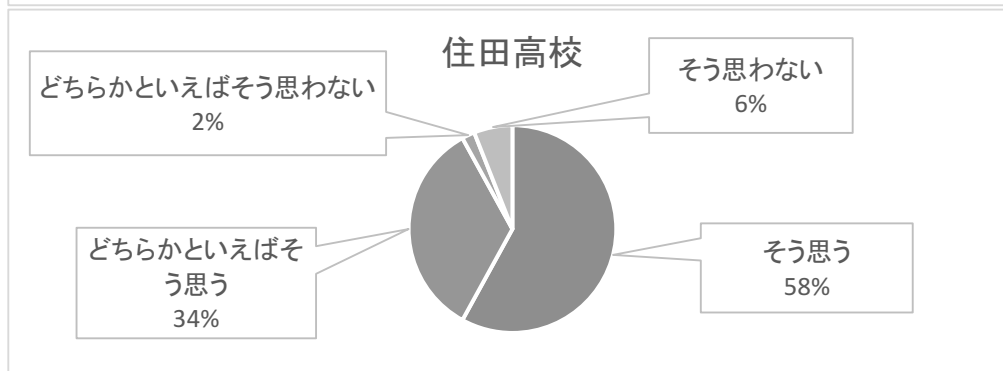
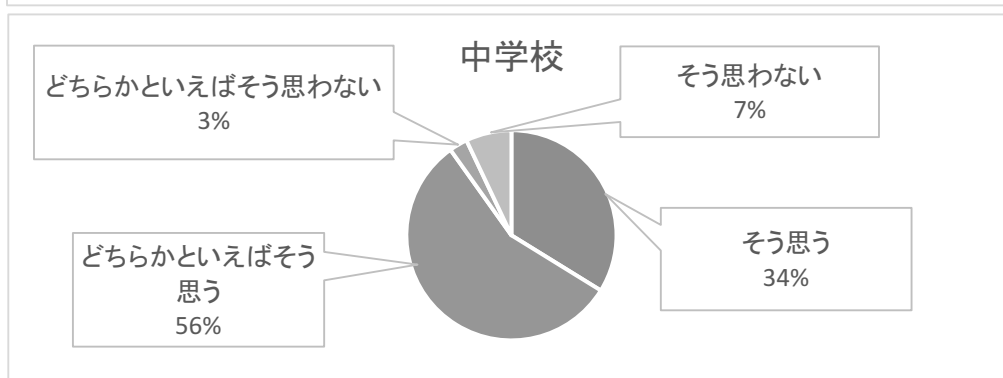
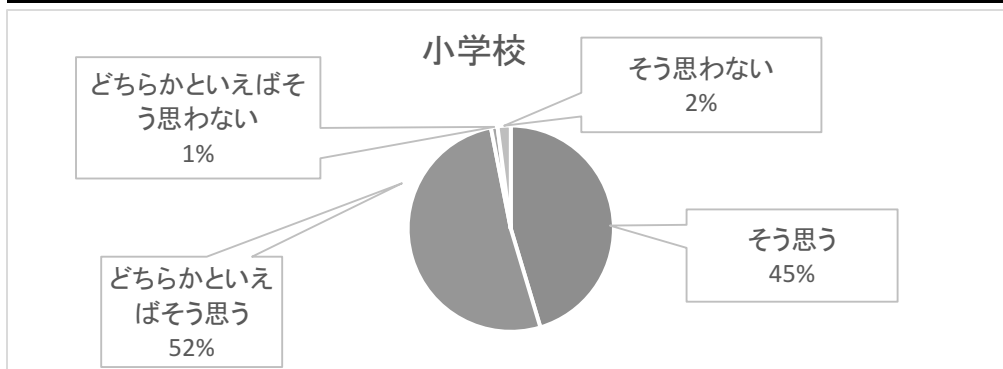
中高連携事業ステージ交流会を実施できたことは良かった。滑らかな接続を考えて第4ステージにおいて、世田米中・有住中の出身者をグループのリーダー的役割に据えることを考えた。しかし、住田町を知るうえで彼らを十分に活かすことはできなかった。次年度、研究開発校指定初年度に小学校6年生だった生徒が入学してくる。過去の経験からの情報を提供してもらおうことも含めて、研究活動を進めていく。

卷末資料

令和2年度 地域創造学 保護者アンケート(令和3年3月実施)

地域創造学の取り組みはお子様の成長にとって有意義だと思いますか

| | そう思う | どちらかといえば そう思う | どちらかといえば そう思わない | そう思わない |
|------|------|------------------|--------------------|--------|
| 小学校 | 44 | 50 | 1 | 2 |
| 中学校 | 24 | 40 | 2 | 5 |
| 住田高校 | 29 | 17 | 1 | 3 |
| 住田町 | 97 | 107 | 4 | 10 |



| 校種 | 有意義 | 回答の理由 | 「地域創造学」に期待したいこと | 意見・感想 |
|-----|------|--|--|--|
| 小学校 | そう思う | 自分が住んでいる、まだまだ知らない住田町を理解するのにとっても良いことだと思う | 4に同じ | |
| 小学校 | そう思う | 地域創造学の調査に、進んで取り組んでいました。親として、大変嬉しいことでした。また、調査した内容を他の人に伝えようとして工夫している点にも、成長を感じました。 | 住田の将来を担う人材の育成を期待します。困難な事に遭遇した時に、諦めずに、皆と力を合わせて乗り越えていけるような人になってほしいと思っています。 | 先生方の工夫と苦労が感じられる地域創造学でした。ありがとうございます。世田米中や住田高校との交流がもっと行われれば、まどめのレベルが高くなるのではないかと思います。よろしくお願ひします。 |
| 小学校 | そう思う | 自分で課題と向き合い、調べ、まとめ、報告することは、社会や仕事で直面することであるから。 | 子供達には得意、不得意な分野があると思うが、出来れば不得意な課題にぶつけて、壁を乗り越える経験が出来れば。 | とても良い取り組みです。関係者の皆様に感謝いたします。 |
| 小学校 | そう思う | 自分の生まれ育った町について理解を深めることができるから | 学習を通じて、感受性や想像・創造力が豊かになり、企画・実行力が付くことになる。 | |
| 小学校 | そう思う | 私が小学生の時は、そういう授業が無く、地元の歴史や文化などほとんど知らなかったです。大人になってから知り得たことが多かったので、子供のうちから地域の現状だったり、歴史等に触れさせるのはとてもいい経験だと思います。 | | 自分の住んでいる町に興味、関心を持つことはとても良いことだと思う。 |
| 小学校 | そう思う | 地域創生を通じて郷土愛を育むことが、地域の発展に寄与する人材を育てることにつながると思うから。 | 地域創造学の授業を通じて様々なことに興味を持ち、客観的にこの町のことが見れるような人材を育てられるような授業内容を検討してほしい。 | |
| 小学校 | そう思う | 地元を知ることほどとても大事であるから。 | 地元を知ることにより、将来の地元就職や、避難が必要となった場合にすべき行動などそういったことが学習できることに期待。 | 地元の人達の学校への積極的な参加。 |
| 小学校 | そう思う | 住田町に住んでいてわかっていないことがたくさんあるので、勉強しながら色々なことがわかるので、良いと思います。 | | |
| 小学校 | そう思う | 地域との関りや、昔からの事を知れて、大人でも知らなかった事を、子ども達から教えられています。 | この勉強を生かし、将来地元に戻って何をすべきか、何が必要であるのかを学んでぜひ活躍して欲しい。 | 学校だけで終わることなく、学んで理解したことを地域のの人にも、知って欲しいです。 |
| 小学校 | そう思う | 子供達には、たくさんさんの会社、地域にどんな仕事をしている人々がいるのか？いろいろな角度から見てもらいたいです。 | 成長して、どこで仕事しても自分が生まれ育った地域の事を考えてガンバってほしいです。 | 地域創造学が、良くわからないので、地元を訪ねる、地元を探る、地元を知る良い事だと思ひます。地域の産業をいろんな方向から支えましょう。 |
| 小学校 | そう思う | 大人の自分達も知らない事が多いので、地域の事を学び、知るといのは貴重だと思います。 | | |
| 小学校 | そう思う | 地域のことをこと細かに調べたり、必要ならば、直接聞きにいったりとても有意義な取組だと思ひます。 | 自分の住んでいる地域のことをもつとよく知って、将来の事にもつなげていって欲わたいいなと思ひます。(地域活性化) | 一般的な勉強も必要とは思ひますが、授業時間を使って細かく地域の事を知るのには、今までなかったことなので、すごいなと思ひます。勉強だけでなく”生きる力”がこれからは重要になってくると思うので、この活動で学んでいってもらいたいなと思ひます。 |

| 校種 | 有意義 | 回答の理由 | 「地域創造学」に期待したいこと | 意見・感想 |
|-----|--------------|---|--|--|
| 小学校 | そう思う | 地域で行っている事を知って、将来地元で仕事をしたいとか、貢献したいと思う気持ちもち芽生えるかもしれないので。 | 子供達の学んでいる内容について、もっと広くいろいろな人に知ってもらえたら、自分たちが学んでいる事について、自信や誇りを持てるようになると思うので、発表の場を一般向けにしてみても良いのでは。 | |
| 小学校 | そう思う | 普段、自分が住んでいる場所を改めて学校の授業の中で学習することにより、深く、楽しく学べると思うからです。 | 今現在は、地域創造学を通し、地域の特色、地域の良さ等を知るのみになっている所があるが、将来的に地域の改善、発展させていくには自分たちが何をしなければいけないかを考えていけるようになってほしい。 | 高齢化、過疎化と呼ばれる今住んでいる住田町の実情を知り、その為の課題、問題点を少しでも考え、その状況を改善していくにはどうしたら、、、と成長とともに考えられる人間になっていくってくれたらと思っております。住田町の特色「地域創造学」を学んだから、、、こそその職業意識、職業選択が出来るようになってほしいと思います。 |
| 小学校 | そう思う | | | 住田の歴史、環境など親から教えられない細かいことが学べて、勉強になっていいと思います。調べたことが今後の生活に生かされるといいなあと思います。 |
| 小学校 | そう思う | 普段はふれることのできない様子を肌で感じて知ることができたこととはとても良かったと思う。 | | |
| 小学校 | そう思う | 自分の住んでいる町のことをよく知ることができて良いと思う。 | | |
| 小学校 | そう思う | 自分の住んでいる町のことをよく学ぶことができてよいと思う。 | | |
| 小学校 | そう思う | 各学年に合わせた取り組みで、興味が持てるよう、身近なものから取り組んでいて、自分が思ったこと、感じたことを、自分の言葉で書いていくのが、とてもよいと思います。 | 学年が上がるにつれて、難しさも出てくるとは思いますが、心の成長に、地域のことを、一緒にできるのからとても良いことだと思います。 | とてもステキな学びだと思います。地域のことを、こんなに知れることはなかなかないので、将来につなげていってほしいと思います。 |
| 小学校 | そう思う | 普段親が連れて行けない、知らない自分の住む場所についてを学べるのはありがたいです。 | | |
| 小学校 | そう思う | | | 自分の住んでいる町でも大人でも知らないことや場所がたくさんあるし、地域の方と関わり話を聞いて町を知り興味をもつきっかけになる事もあると思うので、魅力的な学習だと考えている。 |
| 小学校 | どちらかといえばそう思う | 自分の町に興味を持ち知る機会になったため | | |
| 小学校 | どちらかといえばそう思う | 調べ、まとめ、みんなにわかりやすく伝える力がつくと思うから。 | 限られた郷土の実情を捉えて将来を考える力をつけてほしい。また、狭い郷土と他の地域となの違いを感じてほしい。 | |
| 小学校 | どちらかといえばそう思う | | 文部科学省の指定を受けている4年間が過ぎた後も、取り組みを継続してほしいと思います。 | 今までは地域創造学でどのようなことをしているのか見えにくいと感じていましたが、今回ポータルサイトを開設してもらって、取り組みの様子がよく伝わってきてよかったです。今後何らかの形で取り組みの様子を家庭にも知らせていただけると嬉しいですね。 |

| 校種 | 有意義 | 回答の理由 | 「地域創造学」に期待したいこと | 意見・感想 |
|-----|--------------------|--|--|---|
| 小学校 | どちらかといえそうですが 思う | 自分の住んでいる地域を知る工程で、学校だけでは体験できないコミュニケーション能力を養うことができるため | 子ども達が地域に向かい、張り合いを持つ人が増えれば良いと思います。 | この教科に取り組むにあたり、先生方はかなりの時間と労力をかけて準備をされていると思います。新任の先生はなおさらかと思えます。子どもだけでなく、先生や地域など、大人も一緒に成長できる教科になることが理想的だと思えますので、関係者の皆さまには引き続きのご尽力をお願いいたします。 |
| 小学校 | どちらかといえそうですが 思う | 自然と触れ合ったり、地域の特性を学んだりすることで、物の見方や創造する力につながると思うので。 | 地域を知ることには、他との違いを知ることもあります。世界や日本の他の地域の同年代の子供達からどのような環境にいるのか、知ったり交流ができた方がいいなあと思えます。広い視野がもてるよう、柔軟な考え方ができるようにしてほしいなあと思えます。 | |
| 小学校 | どちらかといえそうですが 思う | 学校で学んだことを家に来ても話してくれず。地域のことについてとても興味をもって知ろうとしていると思います。 | 文字通り、地域を創造するために、、、より住田が発展するためにどんなことが必要なのかを子ども頃から学んで地域の歴史と共に知ってほしいなあと思えます。 | |
| 小学校 | どちらかといえそうですが 思う | | 自分が住んでいる地域のことをたくさん知ってほしい。 | 子ども自身が楽しく取り組んでいるようなのでいいと思います。 |
| 小学校 | どちらかといえそうですが 思う | | | |
| 小学校 | どちらかといえそうですが 思う | | | ただ子どもに受けさせるだけでなく、何をもって達成したとなるのか、その基準が必要だと思う。 |
| 小学校 | どちらかといえそうですが 思う | 自分達の生まれた地域のことを、よく知り、考えるきっかけとなるため。 | 郷土愛の育成。 | お金のことも学ばせてください。 |
| 小学校 | どちらかといえそうですが 思う | 私自身(主人も)住田町出身ではないので、住田のことを教えることはもちろん、知る機会もありません。我が子には自分が住んでいる住田のことをたくさん学び、住田で育つたことを、将来誇りに思ってもらいたいです。 | | |
| 小学校 | どちらかといえそうですが 思う | 人が生きていく為に、なぜそのようなになっているのかを考え、すべての事に根拠がある事を知り、生活する成り立ちを学べる事ができると思う。 | 地域の発展に必要な事を身につけていく事を期待したい。 | 住田町に関して、森林がどのように活用されていき、いかに必要とされているか、理解することができました。東日本大震災の仮設住宅の木材も森林を活用し、災害を受けた方達には安心を届けられたと思います。 |
| 小学校 | どちらかといえそうですが 思う | | | 地域の方々と触れ合う機会があり、その中から学ぶことができ、良い科目だと思えました。 |
| 小学校 | どちらかといえそうですが 思う | 自分の住んでいる所の事への理解を深める事は大切だと思うから。 | | |

| 校種 | 有意義 | 回答の理由 | 「地域創造学」に期待したいこと | 意見・感想 |
|-----|--------------|---|---|--|
| 小学校 | どちらかといえばそう思う | 小さいながらも、地域の事を、学校の授業を通じて取り細むことにより、自分の住んでいる地域の良さに気が付けると思うので。 | 地域創造学を学ぶことにより、地域の良さ、問題点、どこを改善していけば住みやすい地域になるか、等を少しでも考え、住田の良さを改めて感じながら少しずつ成長していったらいいと思います。 | 様々な地域の良さ、問題点もありながらも、自分の住んでいる町に誇りを持ち、素敵な未来を描いていける様にどうしていかねければいけないかを少しでも考えられる人間になっていくっていいかなあと思っています。難しい教科だとは思いますが、各学年、学校別に大変熱心に取り組まれているという印象を持っております。ありがとうございます。 |
| 小学校 | どちらかといえばそう思う | | 地域に興味を持ってもらい、将来展って発展させて欲しい | |
| 小学校 | どちらかといえばそう思う | 本人が楽しそうに学んでいるため | 学校単位だけではなく、小規模校ならではの、学年や学校の境を越えた交流を取り入れた学習が出来れば、これからの学校生活や本人たちのためになるのではないのでしょうか。 | 子どもたちの地域創造学の発表を見る機会を作ってもらいたい。保護者の理解も得やすいのでは？ |
| 小学校 | どちらかといえばそう思う | コミュニケーションや人間関係に関しては役に立つとは思っています | | 地域に出て学校以外の社会に関われるのは地域創造学なので良いとは思いますが、社会の科目でも代用出来るのかなとは思っています |
| 小学校 | どちらかといえばそう思う | 授業や体験の後によく報告をしてもらっています | | 我が子の報告だけでなく他の学年 学校 年代の違う報告など見てみたいとおもいます。 |
| 小学校 | どちらかといえばそう思う | 地元地域の仕事についていろいろ学んで知ってもらえてよかったです。いろいろな生産物があったてたくさんの人がかわっているのもっといろいろ知って調べてそれを発信してほしいです。 | | |
| 小学校 | そう思わない | 時間割りに地域創造学が入っているのがもったいない。その時間を算数や国語、理科などの内容を濃い授業にしてほしい。 | 地域創造学なくとも良いと思います。 | そもそも地域創造学の意味がわからないし、理解できない。地域創造学があって、いろいろな人達が学校にいらつしゃやと聞いた事がありますが、そのために学校の掃除をしたりとか。キレイにする事は良いこと。でもその目的だけで動いて欲しいと思いませんし、子供達にもそういう指導をしと欲しくないと思っています。 |
| 中学校 | そう思う | 自分が住む町の事が、よく知れるので、大変良い取り組みだと思います。 | 今ある物を守る事、発展させるべき事を、子供達が感じて、学んで欲しいです。 | |
| 中学校 | そう思う | | 住田町の良さを理解して将来の住田町を支えて欲しいです。 | |
| 中学校 | そう思う | 今まで知らなかった地域のことをいろんな人の協力をもらいながら関わりをもてるから。 | できないこと、できることいろいろあると思いますが、自分たちで考え、行動できる子どもたちになってほしい。そのために大人たちも最初からダメと一言わずに協力できる体制を作ってほしい。 | 今だけの学びだけでなく、将来的に続いていける学びにしてほしいと思います。 |
| 中学校 | そう思う | 自分の町の良さを掘り起こすことができる。 | | |
| 中学校 | そう思う | 自分の地域についての愛着や理解が深まると思っています。 | 柔軟な発想力や気付きがでてくるといいと思います。 | |

| 校種 | 有意義 | 回答の理由 | 「地域創造学」に期待したいこと | 意見・感想 |
|-----|--------------|--|---|---|
| 中学校 | そう思う | 自分の生まれ育つ地域について、学べる良い機会だと思えます。 | 今まで出てきてきている様々な提案、取り組みが次世代にも受け継がれて、ブラッシュアップされたり、実現出来たりしたらすばらしいと思います。 | |
| 中学校 | そう思う | 自分たちの意見を出し合い作り上げていく事は、社会人としての勉強になっていると思う。大人の方からの意見を聞く良い機会だと思う。 | 子供達のプロジェクトが実現出来るよう頑張っていきたいです。 | |
| 中学校 | そう思う | 自分達で問題点を見つけ、解決するために、他の方と協力し、発信することを体験できているから。 | 地域創造学でやってきたことを他の地域へ発信してみ。 | |
| 中学校 | そう思う | 自分の地元の事を知らないでいるより地元の事を知って社会に出た時、感謝の気持ちを持つと思う。 | 少人数だから出来る事だと思おうので、気仙地区でも、大船渡、高田より住田はここがすごいとか、違いも分かっていると思います。 | |
| 中学校 | そう思う | この体験で子供達が地域のために頑張っているのを知り、良い経験になります。 | この取り組みは続けてほしい。子供達にとって良い体験になると思っています。 | |
| 中学校 | そう思う | 地域のことを学ぶとても良い機会だと思おうので。 | | |
| 中学校 | そう思う | | 大人も子どもも、住田に誇りを持ってもらえるようになっしてほしいと思っています。そのためにはまず、住田のことを知ることが大切。住田には他市町村に勝ることも劣らない素晴らしい歴史や文化、自然などがたくさんありますが、残念ながらそれを知らない大人も多いです。地域創造学で、まずは地元のことを知ってほしいです。 | これまでの集大成である3年生の発表の場があります。12年生は各種活動報告会で発表しています。(コロナ禍の中、地域への発表は難しいといううな分かりますが、学校内での発表も無いようです。地域創造学の時間に違う授業をするのも多いと聞いています。先生と直接話をしたわけではないので、何か理由があったのかもしれないですが、私は、あり得ないことだと思っています。真剣に地域創造学に取り組んできた生徒たちの気持ちを踏みにじるような行為だとも思っています。中学校では、このことをどう捉えているのか、お聞きしたいです。改善、指導すべきだと思います。また、小学校では、5年生で製鉄・鍛冶体験、6年生で釜の学習を長年続けて来ましたが、2年前から無くなってしまいました。このような学習こそまさに地域創造学であり、住田でしか出来ないことだと思っています。早急に復活する手立てを検討してほしいです。 |
| 中学校 | そう思う | 自分たちが住んでいる地域のことに興味を持つ事が出来て良かったと思う。 | 地域創造学で子供達が学習をして、子供たちよりも長く住んでいる親が知らなかった話を聞くことが出来る事が楽しかったです。これからも続けてほしいと思います。 | |
| 中学校 | そう思う | 地域内でも、仕事に関心を持つ事はいいと思います。 | 地域創造学を通じて将来なりたい仕事を見つけてくれる子が、増える事に期待したいです。 | 經理にもふられてほしいです。 |
| 中学校 | どちらかといえばそう思う | | この授業を通して自分の住んでいる町をもっと知り、将来住田町に限らず何かの活動に繋がった方がいいなと思います | |
| 中学校 | どちらかといえばそう思う | | 県内や全国へ発信できればすごいなと思います。 | |

| 校種 | 有意義 | 回答の理由 | 「地域創造学」に期待したいこと | 意見・感想 |
|-----|--------------|--|---|---|
| 中学校 | どちらかといえばそう思う | 小学校では、住田を詳しく知ることができていいと思います。中学校では、さらに発展させる活動まで至っていない気がします。取り組みまでのプロセスや発表の仕方を学ぶ機会にはなっていますが、地域創造学の目的に沿っているかは疑問が残ります。 | 地域創造学が何を目指しているのか、ビジョンが見え明確にした方がいいですね。 | 中学校での取り組みの方法に工夫できないものか、発表会を拝見させていただくと感じます。学年を縦割りを取り組むのは、時間割の都合で難しいのかもしれないですが、単年ごとの取り組みではなく継続的な取り組みができないものかと感じます。学年単位でやると、不公平感が感じられます。今年度1年生は住田テレビを活用してCM作成しようですが、学年により取り組みに格差が有れば、子供たちのモチベーションはどんなものなかと感じました。また、いろいろ企画をしても、予算がつかないということもあり、子供たちが方策に困惑している様子とあります。住田の魅力を理解して、将来のビジョンに役に立てることが目的の一部であるのでしようが、企画、交渉能力、推進力、時間管理等学べることはたくさんあるかもしれません。ただ、子供のモチベーション、達成感というものはどうなのだろうかと感じます。先生方も大変なのは理解できますが、地元の先生が少ないのも大変だと思えます。とりとめもないことを記入して申し訳ありません。 |
| 中学校 | どちらかといえばそう思う | 地域の魅力を発見し、体験活動から伝える力が身に付いてきている。 | 郷土に誇りを持って、地域発展に貢献できる子どもたちを育てほしい。 | |
| 中学校 | どちらかといえばそう思う | 地元のことを知り町づくりに関してアイデアを出して取り組んでいくという趣旨はとても興味深いです。自分たちで調べ考え発表するという大切な力をこの学問を通じて身につけてほしいと思います。特に自分の意見を言うことが苦手な子が多く感じるので。 | 子供たちが新しい発想やアイデアをだしていくには他所を知ることの方が大切だと思います。今は町づくりや地域産業についてのTV番組などもあるのですがそれらを活用しながらより豊かな発想をうん生んでいてほしいと思います。地域創造学を子どもたちがイキイキとできる学びに感じてほしいです。今はあまりイキイキしていないように感じています。 | 中学の文化祭で地域創造学の発表をする必要はないと思います。地域創造学の発表会がすでにあるのに。文化祭は文化祭として違う表現をさせてあげたいです。文化祭がつまらないと感じてしまうなんて可哀想です。 |
| 中学校 | どちらかといえばそう思う | 住田の事に対して、積極的に学ぼうとしている。 | | |
| 中学校 | どちらかといえばそう思う | 自分の生まれ育った地域について、親が教えられれる以上の内容を調べることができ、地域の人との交流もあり、とても貴重な経験になっているように思います。よく考えているような印象がありました。 | | |
| 中学校 | どちらかといえばそう思う | 当たり前すぎて関心の少ない身近な地域の良いところを発見できなくなかなかできないところです。地域の良い所、物、人々など、自ら調査し、知る事で普段は経験できない地元の素晴らしさを感じることができています。まだまだこれからだと思いますので、期待を込めて、この評価にしました。 | 地域創造学が、他の所で実施された時、最初に行っていたのが、住田町だということが、子供達の自信につながって、日本、世界で活躍できれば素晴らしいと思います。 | まだ到達地点が見えていないので、定期的に進捗を住田TVや広報で教えてもらえると嬉しいです。 |
| 中学校 | どちらかといえばそう思う | 人前でプレゼンする事、伝え方、表現方法の工夫などsh会に出て意見を提案する時の力がついたところ。 | 夢やたてた目標を達成する喜びを味わうことができる | |
| 中学校 | どちらかといえばそう思う | 自分の生まれ育った地域のことを知ることができるか | | |

| 校種 | 有意義 | 回答の理由 | 「地域創造学」に期待したいこと | 意見・感想 |
|------|--------------|---|---|---|
| 中学校 | どちらかといえばそう思う | | | 総合的な意図ですが、地域創造学の究極目的は、生まれ故郷を理解し、大人になってもその町で生活するということだと思えます。良いところだけではなく、気仙川はホントにきれいなのか？栗木鉄山はなぜそこまで発展してその鉄を何に利用していたのか？観光地はホントに魅力的なのか？そんなところを追究して自ら問題提起と解決案をだせるような子供たちが出てきてほしいです。そんな子供たちの中にひとりでも多く、住田を背負ってくれる子供たちがいれば、地域創造学の意義は絶大だと感じます。 |
| 中学校 | どちらかといえばそう思う | 地域の事に色々興味をもちはじめたから | 地域を活性化する糸口や方法を学び、それを現実でできる大人になって欲しいです。 | 色々な視点や年代から、多角的なアプローチを期待しています。 |
| 中学校 | どちらかといえばそう思う | 人見知りが少し改善された | | 自分たちで考えて取り組むことはいいことだと思えます。ただ時間をかけ過ぎのような気がします。年1回などもう少し5教科に時間(復習時間)をかけてほしいです。人数が少なく、生徒会、委員会、部活などの役割がある他に創造学のととめ、発表などまで負担が多すぎます。週2日の休みでは時間内に限りがありま |
| 中学校 | どちらかといえばそう思う | 地域のことを知ることはいいことだと思ってるから。 | 地域の方々のしていることをたくさん教えてもらえる機会があればいいと思います。 | |
| 中学校 | どちらかといえばそう思う | コロナ情勢で風聞に行っていたかかは疑問 | | |
| 中学校 | どちらかといえばそう思う | 知識が身につく | | |
| 中学校 | そう思わない | 中学校になってからだったせいで、一貫した内容と思えなかった。成長によっての変化もあるかもしれないが、今後の取組に期待します。 | | |
| 中学校 | そう思わない | 地域創造学のプロジェクトは開始年度から参加しているが、この事業に取り組むにあたり、義務教育がきちんで行われたうえで行うべきプロジェクトだったと痛感しています。学校生活の中で十分な時間をとることもできない、まだ、指導する側も認識不足が否めない状態だったのではないかと思います。何より、生徒自身もなぜこのプロジェクトをやっているのかということ | 地域の発展のために地域創造学を行うというのであれば、地域の行事に今以上に参加し、地域の人々との交流を図ることの方が重要です。自分の住んでいる地域にどんな人がいるか、わからない状態では、本末転倒だと思います。 | 今後も継続していくつもりなら、現状、生徒たちの義務教育の妨げにならないような進め方が必要になるのではないのでしょうか？コロナ禍の中、こういった活動に規制を求められることは否めず、別なプラットフォームを与えるのは生徒にとってもいいこととは思いますが、プロジェクトの在り方について今一度考え直すべきなのではないでしょうか？ |
| 住田高校 | そう思う | 自分で考えたテーマを調べて、パワーポイントを使って、発表する姿を見る機会がありました。テーマの選別もですが、地域の方々の役に立っているならうれしいことだと思えます。 | 地域のために、より良い地域になるために、また、あらゆる世代にどういう事が必要か、子供たちが考えて調べて検証して、これからも子供たち目線の「地域のために」を期待します。 | 住田町は、地域創造学を始め、色々な取り組みが積極的で、とても素晴らしいと思います。 |
| 住田高校 | そう思う | この活動を通して地域のことを知ったり、これからの地域のことを考える良い機会になっているから | 地元のために貢献できる大人になって欲しい | |

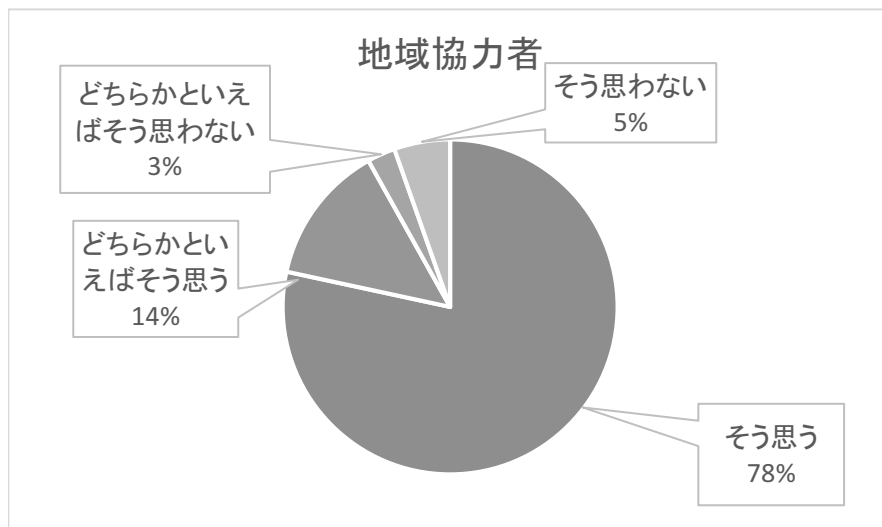
| 校種 | 有意義 | 回答の理由 | 「地域創造学」に期待したいこと | 意見・感想 |
|------|------|--|--|--|
| 住田高校 | そう思う | 自分で課題を選び、協力しながら解決する一連の活動を通して、社会に出た時に役立つ様々な経験ができるから。何より達成感を味わえているから。 | 今後も継続してふるさとを愛する気持ちを持ってほしい。 | (幼)小、中、高と連携していて素晴らしい取組だと思います。どんどん発信してってください。 |
| 住田高校 | そう思う | 住高に入学してから、普通科ではあまり経験できない事をやらせてもらい、とても良かったと思います。 | 町民の皆さんと生徒達で、何か一緒に出来る事を、始めてみては？ | もう少し、小、中学生と高校生の交流があってもいいなと思います。進学先として住高を、選んでもらえるように。 |
| 住田高校 | そう思う | 地域のさまざまな資源を知ることができ | 老人福祉や障害者福祉にも携わっていただければと思います | 小さい頃から地域の資源を知ることがとても良いことだと思います。今後も続けてほしいです |
| 住田高校 | そう思う | 自主性が伸びる | 今後も継続を | とても良い経験をさせて頂いております。感謝致します。 |
| 住田高校 | そう思う | 地域の方に直接お話を聞きに行ったりする中で様々な年代や職業の方と交流できる。がで | 学校の方でいくつか共通のテーマを決めてグループで取り組むこともいいのでは | |
| 住田高校 | そう思う | 身の回りにある課題や問題に対して、自分が感じている事を認識し、よりよい社会管理やリ方を体験活動を通じて考えられる力を身に付けることにつながると思います。 | | |
| 住田高校 | そう思う | | | 地元出身ではないので、現地に連れていくのは正直大変だと思いますが、地元以外の企業、施設に出向き、コミュニケーションや、調査等をする機会があり、とても良いことだと思います。また、施設の方(かっこう、とだて)の対応が良く、働くスタッフの方や仕事にも魅力を感じた様でしたので、進路を決定するにあたり、とてえも重要な時間だったと思います。 |
| 住田高校 | そう思う | 地域、人との繋がりによって、子ども達の成長がわかり、親としてある意味感謝しています。子どもにとっても社会が、物事が、どの様にまわっているかが理解できるような気付きがうかがわれます。 | 地域、人との繋がりによって、子ども達の成長がわかり、親としてある意味感謝しています。子どもにとっても社会が、物事が、どの様にまわっているかが理解できるような気付きがうかがわれます。 | 子どもたちに地域における、問題点、発見、そして地域向上に子どもたちがどこまで仲間と力を合わせてやっていることが、子どもの声でうかがわれたいです。時として、壁にぶつかるとき、地域の方や先生方の助言と言った繋がりがあって、子ども達も後世に伝える、残すという意志が目覚めたところもあつたと思います。他町から住田に通わせていただき、住田の町について、子ども自身もわかったようです。末崎からだ一人の2年生、通学する中で中学時代は「若布」を後世にということ、学習してきました。無駄にならずにすんだ様子が、子どもの口から話された時、この様な授業は大切なんだと感じた次第です。 |
| 住田高校 | そう思う | 地域の方との交流であつたり、地域のことを知ることのできるのもとてもいい取り組みだと思います。 | 地域の方との交流であつたり、地域のことを知ることのできるのもとてもいい取り組みだと思います。 | 提出が遅くなってしまい申し訳ございませんでした。母が忘れてしまいました。申し訳ありません。 |
| 住田高校 | そう思う | 子どもは転居してここに住んでいます。母親が住田高校卒業後以来でございす。その間の住田での出来事を知ることにもなっています。地域創造学を通して、地域での活動を知ることが出来ました。 | 子ども達の成長を通して、住田町全体の成長を地域創造学を通して育んでいけることを望んでおります。 | 住田町の歴史や文化の継承も含め、町の発展人材育成を育んで行って実行していただきたいと思います。 |

| 校種 | 有意義 | 回答の理由 | 「地域創造学」に期待したいこと | 意見・感想 |
|------|--------------|--|--|---|
| 住田高校 | そう思う | 学校以外の人との関わりを持つことで視野が広がると思うし、自主性等も成長する機会だと思えます。 | 生徒個々の良い部分を伸ばせるように、活動を期待したいと思います。 | |
| 住田高校 | そう思う | 住田町のよいところ、歴史、今の現状をもっと知ってほしい。 | 人との対話から自分の興味関心を、もっともっと大きくしてほしい。 | |
| 住田高校 | そう思う | | | 住田町の地域の事や、小・中学校の子どもの交流、大切にしているなと思います。特に、町の事について調べて、発表をしてとても良いことだなと思いました。本人も勉強になったと思います。 |
| 住田高校 | そう思う | 教室での授業だけでは分からない事を知ることが出来、地域の大人とのコミュニケーションのとり方等も勉強になると思えます。(挨拶、電話の仕方等含め) | 教室での授業以外に、いろいろな事に興味をもつて吸収してほしいと思います。 | 自分でコンタクトを取って取材し、パソコンでまとめ発表し、意見を言い合う、という授業はとても勉強になると思います。今後よろしくお願いします。 |
| 住田高校 | そう思う | 町の文化、歴史、仕事を調べ、いろいろな事を学び知る事はとても大事な事だと思うから地域を理解し地元を大切に思う心を持ってほしい。 | | |
| 住田高校 | そう思う | 地元の事を知ったり、地域の人たちとの交流が出来る事。 | | 新聞などで住田(学校「小・中・高」)の記事が載っていて、活動の様子を知ることができ、これからもいろいろ活動頑張ってください。 |
| 住田高校 | どちらかといえばそう思う | 経験することで、将来への知の蓄えとなると考える | | |
| 住田高校 | どちらかといえばそう思う | 自分を取り組んでみたいテーマに意欲的に取り組んでいる姿からそう感じた。生き生きとして楽しそうだった。コロナの影響がなければ、もっと訪問が可能だったと思うと残念。自分が得意な「歌」を通して、住田の良さをさらに感じる事ができたのではないかと思います。 | | |
| 住田高校 | どちらかといえばそう思う | 地域を学ぶことから様々なことを身につけていけると思うから。 | | |
| 住田高校 | どちらかといえばそう思う | 自分で考えて、自分で調べ、自分でまとめ、という工程は、これからの社会で特に必要な能力であるものなので、学校の教科として学べるのは、とても大事だと考える。また、テーマは地元のことなので、地域を知ることは、地域で生きていくためにも、大事なことだと思ふ。 | 自分の考えをひとつの方向にまとめ、自分の言葉で発せられるように、成長してもらいたい。 | |
| 住田高校 | どちらかといえばそう思う | 高校までの給食提供と、通学費補助の面は家計も助かるので子ども自身も安心して通学できると思うのありがたいです。補助面だけでなく学習面、地域理解の学びの機会をもっと充実してほしいです。 | 体験活動のような場面をどんどん取り入れてほしいと思います。 | |
| 住田高校 | どちらかといえばそう思う | 一人では体験できない事にチャレンジ出来るから。 | いろいろな世代との関わり。 | 古い町なみを建物を見学し良いところを発見してほしいです。 |

令和2年度 地域創造学 地域協力者アンケート(令和3年3月実施)

地域創造学の取り組みは児童・生徒の成長にとって有意義だと思いますか

| | そう思う | どちらかといえば そう思う | どちらかといえば そう思わない | そう思わない |
|-------|------|------------------|--------------------|--------|
| 地域協力者 | 29 | 5 | 1 | 2 |



| 有意義 | | 回答の理由 | | 「地域創造学」に期待したいこと | | 意見・感想 | |
|------|--|--|---|--|--|-------|--|
| そう思う | 自身で考える力は通常の科目ではなかなか力をつけることが難しく、将来的に非常に必要な力だから。 | 自分で考える力は通常の科目ではなかなか力をつけることが難しく、将来的に非常に必要な力だから。 | 町の特定の人だけでなく、多くの町民と授業を通して関わると町としての活気にもつながるし、社会性も身につくと思う。 | 今後も継続してほしい。 | | | |
| そう思う | 学校で学んだ成果を実社会で活かすことができるから。失敗や成功の体験を学外で積むことができ、新たな自分の発見につながると思うから。 | 学校で学んだ成果を実社会で活かすことができるから。失敗や成功の体験を学外で積むことができ、新たな自分の発見につながると思うから。 | 大人にとってもいい学びを生むと思うので、地域全体で子供たちの活動を応援する取り組みに、もっとなっていくことを期待しています。地域への浸透が低いと感じるので、「地域創造学とは何か」が簡潔に、視覚的にわかりやすく理解できるような宣伝ツールがあるとういのではないだろうか。 | 高校だけでなく、小中でも、授業づくりのサポートができるコーディネーターの配置を検討していただきたいです。 | | | |
| そう思う | 児童・生徒が、学校の外で社会をフィールドに学ぶことが、生きる力の育成につながるといふことが考えられるから。 | 児童・生徒が、学校の外で社会をフィールドに学ぶことが、生きる力の育成につながるといふことが考えられるから。 | 地域の理解が深まり、挑戦する児童・生徒を応援するような土壌ができてほしい。 | | | | |
| そう思う | 自分達が生まれ育った地域の伝統文化や産業について学べる良い機会だと思う。 | 自分達が生まれ育った地域の伝統文化や産業について学べる良い機会だと思う。 | 地域創造学を通して学んだ事や経験した事により、将来的に、地域発展の担い手になって貰えればありがたい。 | | | | |
| そう思う | 外の人と接する機会や自然を相手にすることなど、基本の勉強だけでは伸びないところにもつながると考えるため | 外の人と接する機会や自然を相手にすることなど、基本の勉強だけでは伸びないところにもつながると考えるため | 地域を知ることもちろん大切なことだと思いますが、外との比較などできたらより地域のことについて探求できるのかなと思います | | | | |
| そう思う | 「ひとものこと」は言い換えれば自然歴史文化。住田町は都会よりも動植物や史跡、遺跡、仏像、民具、建築物、民俗芸能など「生きた教材」が豊かです。これらを活用する地域創造学は子供達の郷土愛醸成のきっかけとなり得ます。地域の課題解決のヒントや答えは、上記のものを理解すれば必ず導き出すことができますからです。 | 「ひとものこと」は言い換えれば自然歴史文化。住田町は都会よりも動植物や史跡、遺跡、仏像、民具、建築物、民俗芸能など「生きた教材」が豊かです。これらを活用する地域創造学は子供達の郷土愛醸成のきっかけとなり得ます。地域の課題解決のヒントや答えは、上記のものを理解すれば必ず導き出すことができますからです。 | 郷土への愛着誇りを持つきっかけとなって欲しいです。 | 本当の意味での総合学習が出来たらいいのかと思います（住田の自然歴史文化を総合的に）。 | | | |
| そう思う | 主体的に行動したり、物事を考えたり、学びの方法、幅を広げられる良いきっかけになります。同時に地域を知る事になり、郷土愛の形成に繋がるとは思いますが、郷土愛の形成に繋がるとは思いません。 | 主体的に行動したり、物事を考えたり、学びの方法、幅を広げられる良いきっかけになります。同時に地域を知る事になり、郷土愛の形成に繋がるとは思いますが、郷土愛の形成に繋がるとは思いません。 | 大人から見ると地域は、足りなさや視点が違うと思うので、若い人達からの意見、新しい発見が見つかると思っています。 | これからの、スミタクラシを見据えて、どうしたら楽しく住田に住み続けられる事が出来るか、自分の将来として捉えて町政に意見を届けられる機会があつては如何でしょうか？ | | | |
| そう思う | 地域を知り、チームで話し合い、自分達のやりたいことを見つけることが出来るから。 | 地域を知り、チームで話し合い、自分達のやりたいことを見つけることが出来るから。 | 故郷は誰かが守るものではなく、自分達で守り築くものだと知って欲しい。 | これからも「地域創造学」は続けて欲しいです。地域課題を楽しく解決する方法を、世代を越えて一緒に見付けて行きたいです。 | | | |
| そう思う | 実際に授業に携わらせていただいた時に、誰かに言われたからとかではなく生徒自ら住田のことを考えて取り組んでいることが伝わってきて本当に感じました。 | 実際に授業に携わらせていただいた時に、誰かに言われたからとかではなく生徒自ら住田のことを考えて取り組んでいることが伝わってきて本当に感じました。 | 基本教科との兼ね合いは大変だと思いますが今後是非継続して欲しいと思います。 | 学校側としてどう考えているのか、どう方向付けていきたいのかを、もう少し講師と事前に打ち合わせたい方がいいいのかなとは思いました。 | | | |

| 有意義 | 回答の理由 | 「地域創造学」に期待したいこと | 意見・感想 |
|------|--|--|--|
| そう思う | 住田町が指定された。と、言うことは、現在進行形の高齢化、過疎化の対策、歯止めを模索しているのか。子供たちにゆだねる | 地域の方がたの協力はなくてはならないなあ。子供たちには今の現状を把握して深く戻つめ問い詰める能力を養える指導にならなければなあ。 | プログラミングの授業が必修になったことですが、田畑を開拓する体験など、具体的に事細かく観察する能力など身に付けられると思う。 |
| そう思う | 地域のひとたちと関わりをもつことで、コミュニケーション能力を高め、社会的実践力を育むことができると思います。 | | |
| そう思う | 課題解決学習であり、これから必要不可欠のプロジェクト学習である。また、どの子もほめて可能性を伸ばしてあげることができるので、自己肯定感ができずばらしい学習であると思います。 | 五葉地域づくり委員会では、地域の特産品を五つ作る予定です。今一つ目でサツマイモジャムができました。これから、皆さんのアイデアを是非出して一緒に作ってみませんか？ | 是非楽しいプロジェクト学習をしていただきたいものです。 |
| そう思う | 社会に出ると、幅広い年代とコミュニケーションのなかで生活していかなければならない。この学習は自分で考えて行動していく力を培う事ももちろんソーシャルスキルを身につけるために必要な経験であると考える | 学習を通して、児童生徒自身が進んで住田を大好きになってもいいです。私は地域に出向く機会が多いのですが、その都度、地域の人からはやはりマイナスイメージを聞く機会が多いです。外に目が向きがちで住田の良さを知らない大人の人たちへ、児童、生徒のみならずこの地域創造学で学んだ事を発する事で、大人の人たちも住田の魅力に目を向けてくれるのではないかと、それが町全体の発展につながると感じています。 | 取材、情報発信のご協力いただきありがとうございます。ぜひ発信の場としてこれからも活用していただければ幸いです。 |
| そう思う | 社会(仕事など)で必要な事、課題と向き合う、調べ、考える、纏める、報告するなどを早くから、経験できる点。 | | 是非、継続してほしい |
| そう思う | 集団の中で自分なりに主体的に動くことを考え実践する機会として機能した場面を見たため。(ジャングルジムで子供を遊ばせるときや資材の準備片付けにおいて、初めは慣れない様子だったが徐々に各方面への配慮ができるようになったことが見られた生徒さんがいました) | 生徒がそれぞれのテーマに関して継続的に深く関わることができれば更に良いかと思えます | |
| そう思う | 住田高校の生徒が取り組んできた、外国人向けのゴミ分別表設置へのプロジェクトが実現するなど、児童・生徒が自ら地域課題を発見し、解決しようとする意識が芽生えてきているように思えます。 | 地域創造学はまさに、住田ならではの取組として多くの可能性を秘めていると思います。この住田「ならで」は「独自性」をさらに押し上げてほしいと思います。経済用語に「コア・コンピタンス」というものがあります。これは、「競合他者には真似できない、核となる能力」といったものを指しますが、地域創造学が住田ならではの「強み」にまで発展していく事を期待しております。 | |

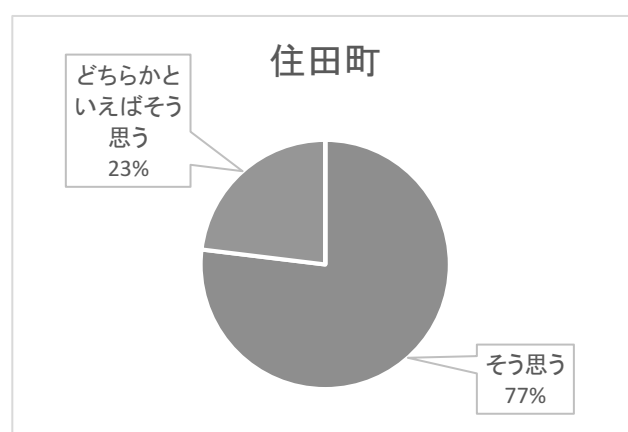
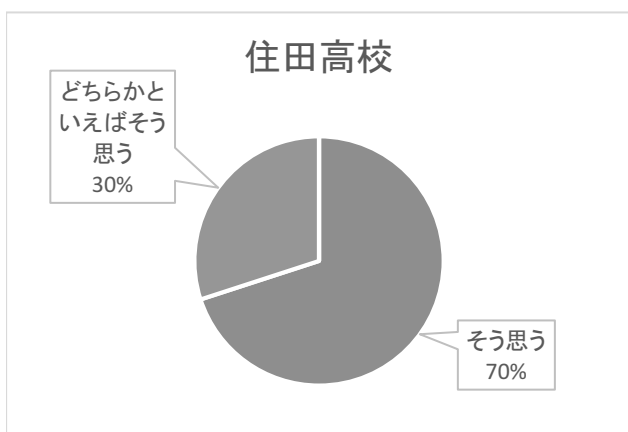
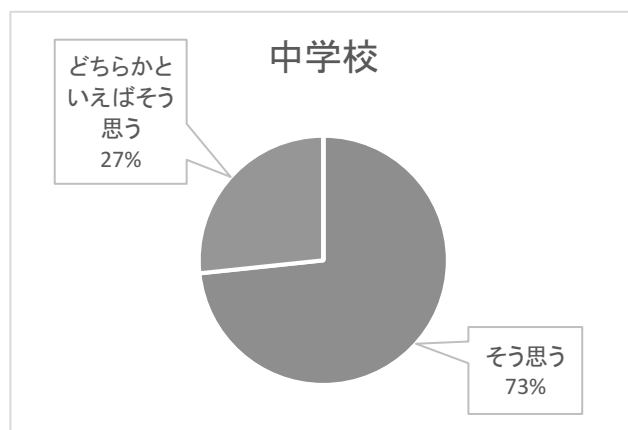
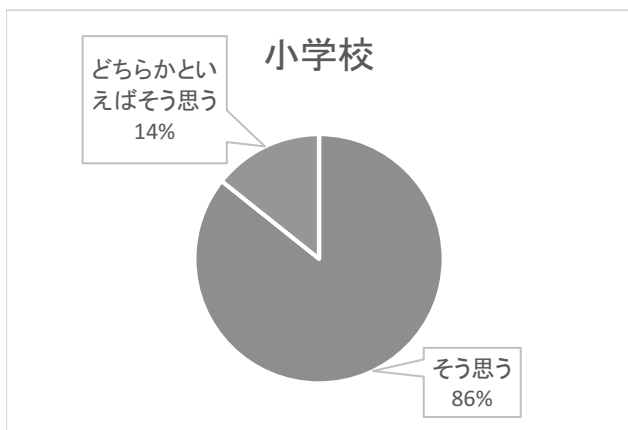
| 有意義 | 回答の理由 | 「地域創造学」に期待したいこと | 意見・感想 |
|------|--|--|---|
| そう思う | 自分のまわりになんか知らない所自分で自分にかかわっているのか知る機会になれば良い事だと思えます。 | 自分の地域を愛し、アイデンティティの確立、他人への感謝を養い、育てて欲しいです | 広い年代が伴に学べる、機会があればよいと思います。 |
| そう思う | 今の時代、何かと人との交わりが大変な時代であり、又、同じくして、地域とかかわりが大切な事と思っている所でもあります。ですから、この取組は、もちろん有意義な活動だと思っています。 | 昔から受け継いでいる伝統芸能、毎月行っている行事などが、後から大切な思い出になることが多いと思います。それによって地域をはなれた子供達が生きる力にもなり、将来、この地域に帰って来て活躍してくれることを期待します。活動を継続してほしいです。 | 今、このところ、学習の中でやらされている子供達も多いと思いますが、この活動を通して本当に自分で興味を持って、やれる事を見付けてほしいと思います。 |
| そう思う | 地域創造学の取組によって、自分が生活している地域の良さや課題を学び、将来の住田町を担う人になる成長していただきたいです。 | | |
| そう思う | 子供達が地域の事に目を向ける、関心を寄せる、良い機会だと思えます | 何か一つでも良いから、皆が盛り上げられる様なものがあったらと思います。 | |
| そう思う | 今の若者は、地域、地元について知らない人が多い様に思う。これは、子どもの頃から、外で遊ぶ機会が少なく、地域の大人と接する事も少ないことから、大人からいろいろな教わる事も少ないためか、いろいろな機会が交流が必要と思う。 | 授業の参加に際し、事前に打ち合わせが必要と感じた。今は全てに便利な世の中になっているが、一方災害も多く発生しており、非常時に生きる力を学ぶ必要もあるのでは？ | |
| そう思う | 児童・生徒が地域を知り、創造して行く事には大変意義のある事だと思いますが、その前提としては広く世間を知る事も大切だと思います。 | グローバルな社会に対応できる常識とマナーを身につけさせる事が大事だと思います。地方でありながらもプロトコルを修得させる事、その事を身につけている事を児童、生徒に認識させることが自信につながると思います。ロジカルシンキングの訓練も大事な事と思っています。 | Uターンをして、15年になりましたが、Uターンした時に最初に感じた事は、世間の常識とはかなりの隔たりがあると言った事でした。地域を創造する事は、地域に住む、我々が意識を変えたい事だと思います。アンケートに必要なフェースシートもなく、答えにくいアンケートでした。思いつくままに駅弁を労しました。地域創造学とは関係ない事かもしれませんが、悪しからず。 |
| そう思う | 児童・生徒の皆さんが自分なりに、質問事項を考え、地域の事を真剣に学ぼうとしている姿を見ると、この取組は、子供達の成長に大きな役割を果たしていると思います。 | 今後この取り組みを続けた方がよいと思います。 | |

| 有意義 | 回答の理由 | 「地域創造学」に期待したいこと | 意見・感想 |
|--------------|--|--|--|
| そう思う | 地域創造学の取り組みは、沢山のひととの触れ合い、いろいろな体験をする事で児童・生徒にとっても地域の良さを知るためにととても良い取り組みだと思います。 | 地域にも色々な職業に携わっている人、趣味を持っていて人が沢山いると思います。児童・生徒のなかには父親、母親のような職業、趣味を持ちたいと考えている子供もいると思います。色んな体験、人との触れ合いで、大人になったらこんな事をしたいと思う児童・生徒が出てくればと思います。 | 昨年、有住中学校の1年生の男子生徒3人が来まして取材を受けました。取材で感じたことは、生徒たちで質問事項を色々考えてきたと思います。質問に答えた後の質問がもう少し質問があってもいいのかなと感じました。地域創造学の学習項目の内容はどのような形で決められているのかわかりませんが、生徒同士が興味を持って取材したいと思う項目を決め、取材したらもっと学習内容の幅が広がるように感じました。 |
| そう思う | でも生徒のみなさんに大人の考えを押しつけてないだろうか。 | もっと生徒たちとお話してみたいです。 | |
| そう思う | | 住田の食材、郷土食をもっと多くの人に知ってほしい。 | |
| そう思う | 学校外の人と関わることで、社会を知る機会になっているし、地元を知る機会にもなっている。自分が経験して思うが、学校の授業だけでは、地元のことを知ることはできない。 | 地域創造学は新しい取り組みで、進めるのが難しいことも多いと思うが、必ず子どもたちのためになると強く感じるので、ぜひ続けてもらいたい。 | コロナ感染拡大防止のため、直接貴町にうかがうことはできませんでしたが、今後は遠隔地の行使とはオンラインで対話することもあってもよいかもかもしれません。「地域創造学」の可能性に期待します。 |
| そう思う | 普段は接することのない人と接し、会話することや、受けた答え、言葉をしっかりと理解するというのは、学習すること以上に大事だと思っています。教室の中だけでは学べないことも学べますし、何より自分が育った町を知ってほしい、好きになってほしいと思います。そういう部分でも、地域創造学は有意義かなと思っています。 | 国語や算数などはもちろん大事ですが、大人になっただらそれ以上に必要なものが沢山あります。そういうものが自然と学べる授業というのはあまりありません。特に小さな町の小さな学校だからこそ深く学べる授業と思っていますので、ぜひ面白いものにしてもらいたいです。 | 住田町の地域創造学は、それに取り組んでいるからといって他の教科が疎かになっているわけではなく、非常によくできていると感じる。全国の見本になっている。 |
| そう思う | | 小さい町で決まった人間関係の中でしか成長できないので、他校と共同で学習するなど、いつも人間関係とは違ういろいろな人達と接する機会を設けて、児童・生徒の成長につなげて欲しいです。 | 小学校どうし、中学校どうし、地区の垣根を超えた交流を取り入れたいなと思います。知らない人と触れ合うというのは中々ないですから。でも大人になれば必要なスキルですから、地域創造学はそれが出る学習ではないでしょうか。 |
| どちらかといえばそう思う | 娘の地域創造学フェアイルを見て、私も知らなかった地域の歴史を娘が知っていることを知りました。地元の人々が地元の歴史を知るの大切だと思います。 | | ゲストティーチャーは地元愛に溢れる人を選任するべきだと思います。 |
| どちらかといえばそう思う | | | 協力者アンケートに答えさせて頂きましたが、恥ずかしいながらも実際にどのような学習に役立てたのかわかりません。どのような事や話が児童の皆さんに役立つのか、事前にご連絡頂けると有り難いです。 |

| 有意義 | | 回答の理由 | | 「地域創造学」に期待したいこと | | 意見・感想 | |
|--------------|---|---|--|---|---|------------------------------|---|
| どちらかといえばそう思う | 何故このようなことをするのか理解できない子供も多いと思うので | 自分が生まれ育った地域について、歩いて知るそして考える、と言うことは良いことだと思います。ふる里を大事にしてくれると思います。 | どのような環境、状況下におかれても受けとめ、考え、切り開いていく、知識と判断力を身につけることにつなげられると思います。 | この地域が抱える課題を直視したうえで、個々のそれぞれが抱えるテーマを考えさせて欲しい。 | 子供たちの個性を活かし、子どもたちのペースで今を有意義に生き、住田を将来に渡って好きになれるよう、伸び伸びと教えていただきたいと思っています。 | 進め方も難しい事業だと思えます、よろしくお願ひいたします | 12年間とありますが、9年+3年と考えても良いのでは？ 住高生の中には町外が多く、小・中の段階が無いのでどの程度「地域創造学」を理解出来ているのか？。昨年のレポート内容についても、見たこと聞いたことにより次に自分がどうしたいのかを書かれないようにでした。次のステップ実践に踏み込めなかった様子。生徒さん達には目標が有ったのでしょうか。 |
| どちらかといえばそう思う | どのが少なく、生徒会、委員会、部活など取り組むものが多く、放課後も部活の時間を削って生徒会活動をしたりしている中で、部活をする時間がなくなっています。学習面でも復習する(先生に聞いたりする)時間も無く、昼時間他の取り組みをして、5教科の学習も中途半端になっています。自分たちで住む町を考える事は大事ですが時間をかけすぎます。子供たちは本当に一人あたりの仕事が多く、部活、学習(5教科)を削っているもので、もう少し大人が考えた方がいいです。学習に遅れている生徒は復習もできないと思います。 | この学習に時間をかけてほしいありません。一人あたりの役割が多すぎます。新3年生(4人)は特に！ | | | | | |
| そう思わない | ・やらされてる感があった。本気度が感じられない。もっとリアリティーな事をした方がいい(社会的な裏側な部分を見せた方がいい)。 | | | | | | |
| そう思わない | 小中学校に子供がいますが、中学に通っている子供の話の聞いているとまったく有意義だと感じていません。それは友達もそう感じているようで、普通に授業をしている方がいいようです。小学校は、社会の授業でやっている事ほとんど変わりはないようです。本来、大人たちが必死にやるべき事なのは？ 地域の課題、問題、在り方、よりよい社会、大人たちが必死に取り組んでいけば子供達はそんな姿を見て成長していくのでは子供達ではなく、大人である自分達が実践していく事が大切です私達大人から地域創造学 | この学習に時間をかけてほしいありません。一人あたりの役割が多すぎます。新3年生(4人)は特に！ | | | | | 小中学校の先生方が例えば住田町出身者であったり、常に住田町の地域の在り方や課題を考えている人であればいいのですが、町外から勤務されている方がほとんどで住田町の事をよく知っているか？疑問があります。その点において住田高校は、コーデイネーターの方達が頑張ってくれているように感じています |

令和2年度 地域創造学 教職員アンケート(令和3年3月実施)
 地域創造学の取り組みは児童・生徒の成長にとって有意義だと思いますか

| | そう思う | どちらかといえばそう思う | どちらかといえばそう思わない | そう思わない |
|------|------|--------------|----------------|--------|
| 小学校 | 12 | 2 | 0 | 0 |
| 中学校 | 11 | 4 | 0 | 0 |
| 住田高校 | 7 | 3 | 0 | 0 |
| 住田町 | 30 | 9 | 0 | 0 |



| 校種 | 有意義 | 回答の理由 | 「地域創造学」に期待したいこと | 意見・感想 |
|-----|------|---|---|---|
| 小学校 | そう思う | 自分のふるさとを具体的にいくつも言える子どもたちに育っているから。住田の良さを感じることは、住田を守ることもつながると思われ。 | 子どもたちと同じ目線で土俵で立ち、住田のよさを見つければ大変興味深くまた驚きや楽しみと共に自分自身も学ぶことができそうです。どんなふうにも指導を工夫すると、子どもたちにより住田のことを理解させることが出来るのかと試行錯誤することも楽しかったです。新しい教科を創造する楽しさを感じました。 | 令和3年度の学校公開へ向けて、今まで以上に地域や各学校が協力して、チーム住田の底力をみせてほしい。心からそう思います。 |
| 小学校 | そう思う | 地域創造学を続けて学習している学年(今年度3年)目を迎える子どもたちは、特に地域への関心が強く、調べ学習も充実していると感じるから。 | 私は、特別支援学級担任ですので、直接指導には関わりませんが、交流する学級は同じですので、子どもたちが変容していく様子が分かり、学びが多かったように思います。 | 子どもたちは、ステージごとに学びを深めていきませんが、指導者は転勤により、新しいメンバーになりますし、1年目すぐに地域理解をし指導を進めていくには、難しい教科であると感じました。 |
| 小学校 | そう思う | 地域を理解することで、地域愛が高まった。地域に貢献したいという気持ちをもった児童もいた。 | 事前に単元について調べることで、見通しを持って指導することができた。これは、どの教科も同様のことがいえるので、これからの指導に生かしていきたい。 | 地域を理解することで、地域愛が高まり、自分の地域を誇りに思うようになる。地域を誇りに思えることは、これからの住田町を築き上げていく上で、とても重要なことだと感じる。 |
| 小学校 | そう思う | 地域創造学は、未来の社会を形成するために必要な、社会的実践力を育成するための新教科であるから。 | 育成すべき資質・能力の内容としての12の資質・能力、また、地域創造学の探究のサイクルのような、様々な捉え方があることを学びました。 | 地域創造学の学びが、未来の学習指導要領に反映されるものとして、文部科学省が求めるようなものになっていくかどうかを考えていきたい。 |
| 小学校 | そう思う | 地域のよさを小学校段階で詳しく学ぶことで住田の魅力に気付き、将来住田町で働く人材が増えると思うから。 | 今年度転任してきませんが、子どもに教える前にまず自分が学ばなければいけないため、最初ころは少し負担に感じておりました。ただ、子どもたちともにも自分も学ぶ中で、住田の魅力に気付き、もともと子どもたちや他の地域の人たちに伝えていきたいと感じるようになりしました。 | |
| 小学校 | そう思う | 身近な地域の現状を知るきっかけになる学習であり、地域とどう関わっていきたいか考えることが児童自身の成長につながっていると感じるから。 | 児童の学びに効果的な資料やデータの選り方や単元計画作成、評価方法について学ぶことができました。 | |
| 小学校 | そう思う | ふるさとを知ってふるさとを好きになる子どもを育てられるから。 | 住田の歴史、観光、町づくりなどについて知ることができた。地元の良いところを伝えることの大切さを学ぶことができた。 | |
| 小学校 | そう思う | 子どもたちのふりかえりや自己評価の中に、「初めて知った」「今までは考えたこともなかったけど」「これからは」という言葉が多く、自分事としてとらえているという実感があるため。 | 体験ありきではなく、意図的に仕組むことの大切さや、学習自体に学意を持たせることの大切さを感じた。 | ・側の整備は絶対に必要だと思います。(指導要領や資質能力の系統表・単元計画の原簿)・人員の増員(学校ごとに担当の指導主事をおくこと、複式解消のための人員配置など) |
| 小学校 | そう思う | 地域を知り、地域に貢献する児童・生徒や地域を好きになる児童・生徒が育成していけるから。 | 有住の素晴らしいところや歴史的財産がたくさんあり、特色ある教材として開発できそうなものたくさんあるから。 | 世田米・有住という学区区での学習ではなく、どちらの地域でも共有できる学習が進められればいいなあと思います。 |

| 校種 | 有意義 | 回答の理由 | 「地域創造学」に期待したいこと | 意見・感想 |
|-----|--------------|---|---|--|
| 小学校 | そう思う | ・町全体での共通理解のもと、資質・能力を系統だてて身に付けることができる機会となる。 | ・自分の学年だけでなく教育課程全体・発達段階を理解することが重要であり、そのような教育が必要であること。 | ・もつと町内の相互授業参観・研究会参加が必要だと思ふ。・相互の話し合い・協議の場が必要である。 ➡ 教育委員会で場や時間の設定があるとよいのではないかと思ふ。 |
| 小学校 | そう思う | 校内における独自のアンケート調査の結果から、子どもたち自身が地域創造学の学習の結果から自分の成長を自覚しているため。 | 学習が自分事となることがこれほどまでに子どもたちの学ぶ力につながるということ。 | 地域創造コーディネーターの方と教育委員会を通してやメールでのやり取りではなく、直接やりとりできるようにしてほしい。 |
| 小学校 | そう思う | 自分が住んでいる住田町のことを学べるから。地域の方とも触れ合いながら学べるから。 | 住田町の学習材を学べば学ぶほど楽しくなる。地域のことがかつ分かっておもしろいと思ふ。 | 研究授業には、ぜひ5つの学校が参加し、研究会にも参加して研究を共有し深めていくことが必要だと思ふ。授業研究をするときは、指導主事の先生方も研究会に参加していただければ成果や課題も共有できるとよいと思ふ。 |
| 小学校 | どちらかといえばそう思う | 地域に対しての愛着を育んでいる。 | 地域の方から学ぶことが多い。 | 特にありません |
| 小学校 | どちらかといえばそう思う | 自分の町のことについてより詳しく知れるから。 | 自分自身が住田のことについて無知だったため、自分が実際に見学先に足を運びお話を伺ったりしたことがかつよい教材研究だったと思ふ。 | |
| 中学校 | そう思う | 地域理解や社会参画能力を高めるために有意義だから。加えて、学校の外に目を向ける良い機会となる。 | 地域の人材を活用することで、新たな学校教育の可能性が見い出せること(地域理解、地域交流など) | |
| 中学校 | そう思う | 自ら課題を見つけ共に考え深め合いこれからの社会に必要な力を育むことができる取り組みだから | 発表の交流は回を追うごとに学びの広がりがや伝えあうことの楽しさにつながっていると感じる | 社会的実践力を身に付けるために12年間の系統性を考えた上で『いま何を学びどのような力を育むか』を考えて指導にあたりたい。 |
| 中学校 | そう思う | 生徒の自主性の伸長が期待できるから。 | 生徒の意欲や考え等を導く「問」の重要性を改めて学びました。 | ずっと続けられるように願っています。 |
| 中学校 | そう思う | 様々な面で苦労や課題はあると思ふが、生徒の様子から課題選択、課題解決家庭での自己決定、報告会等の表現活動を見ると大いに成長していると考えるから | 地域の意欲や考え等を導く「問」の重要性を改めて学びました。 | 地域創造学は、子供たち自身が自らの手で未来を切り拓くための育成になっている。そして、ソサエティ50やsdgsにおいて求められている人材育成にもつながっていると思ふ。大変なことが多々あるが、何とか協力しながら一つでも多くの成果をあげたいものだ。 |
| 中学校 | そう思う | これからの社会を生きるために必要な資質・能力が網羅されていると思ふから。 | 地域の方々、行政、他職種、他の学校、他の先生方と協働することの難しさ。だからこそそれを乗り越えることの意義は大きかった。 | この研究を進める仲間から離れてしまふのが惜しいです。これからの社会で生きていく子供たちに必要なものが詰まったこの科目は、先端をいくものと思ひます。先生方に胸を張っていたただけの価値ある研究でした。生徒たちが想定外の成長を見せてくれ、私たちもワクワクする科目です。どこへ行っても応用可能なものをいただいたとき、心から感謝しております。 |

| 校種 | 有意義 | 回答の理由 | 「地域創造学」に期待したいこと | 意見・感想 |
|-----|------------------------|--|---|--|
| 中学校 | そう思う | 他教科ではできないことや土台を築くことができるから。 | 教師は先導ではなく、伴走であることを学んでいます。どの教科、指導でも同じことが言えると思うので、伴走であっても、子どもたちの想いを盛り上げていける指導力を身に付けていきたい。 | 赴任した当時はわけが分からず、この教科の良さも見えていませんでしたが、ようやく流れがわかかってきて、おもしろさも感じるようになりました。誰か任せではなく、みんなまで取り組んでいきたいです。 |
| 中学校 | そう思う | 地域の人々から学ぶことで、様々な大人とふれあい、その人の生き方や思いを学ぶことができる。 | 地域に住む外国人のためにごみの分別法をわかりやすく教える方法を考えた高校生の発表を聞いて、困りごとを真剣に考えているのだなと、感心した。 | |
| 中学校 | そう思う | 地域のことを知ったり、自分で探求する力、仲間や地域の人などとかかわりあって自発的に取組を進める活動は、生徒にとって有意義だと思います。 | | |
| 中学校 | そう思う | 学習のプロセスがしっかりと組んでおり、生きる力の育成に役立っているから | 小中、中高のつながりの中で、継続した地域創造学を通して生徒の学びが確実な積み重ねの実践の大切さ | |
| 中学校 | そう思う | 地域学習は、地域創造学で掲げる資質・能力の伸長に有効だと思います。また、外部との連絡の取り方やゲストティーチャーとの接し方など、社会に出るから役に立つことを身に付けることができます。小中高の連携が滑らかな接続につながり、地域で子供たちを12年かけて育てていることが実感できるからです。 | 住田の良さや魅力にたくさん触れることができました。特に、地域の歴史と人材、ここに住んでいると気がつきにくい良さなど、子供たちの探究心につられて学ぶことができています。子供たちの「住田の良さを発信したい」「住田に地域貢献したい」という強い思いに、感心させられることが多かったです。 | 地域創造学の学校公開が、とても楽しみです。地域創造学とともに、学力向上やタブレットPCの活用にも取り組んでいってほしいです。 |
| 中学校 | そう思う どちらからかといえばそう思う | 未来への思考能力が育つから。 社会的実践力の育成に向かって年間を通して取り組むを進めているため。ただし、心理学や社会学などの科学的な見地から社会的実践力の発達段階を裏付ける必要がある。 | 子ども達の無限の可能性。 各学年で実践可能な社会参画の在り方を、実践を通して生徒と共に思考することができたこと。社会的実践力・社会参画を軸において、異校種のつながりを意識しカリキュラムを開発したり、カリキュラムマネジメントを実施したりできたこと。 | 地域の方々との交流の機会を増やす。 全国から参観にくる先生方は、「異校種連携」に加え、「総合的な学習の時間」と「地域創造学」の違いに興味があると思います。「異校種連携」については、ここ3年間の実践で十分な見地を蓄積することができたと思います。今後は、「総合的な学習の時間」と「地域創造学」の違い、すなわち「教科の固有性」を具体化する必要があると思います。 |
| 中学校 | どちらからかといえばそう思う | 成長に合わせて、住田町の魅力などを考えることが出来る取り組みだと思う。この先、続けるにあたっては1年間の取り組み時間は少ないように思われる。 | 住田町に赴任して3年目になり、地域創造学によって地域を知ることができた。また、中学生の住田町への想いを知ることが出来た。 | |
| 中学校 | どちらからかといえばそう思う | 取り組み方、取り組みせ方によって、違いが出てくる。支援に仕方だけで、有意義にならない場合も考えられるから。 | 住田町の良さや魅力、取り組んでいること等を知ることができた。 | 今まで各校で取り組んだこと、協力して下さる方々等を自由に閲覧できるようにできれば、次年度の取り組みのヒントになるのではないかと思います。 |

| 校種 | 有意義 | 回答の理由 | 「地域創造学」に期待したいこと | 意見・感想 |
|------|----------------|---|--|--|
| 中学校 | どちらからかといえそうですが | 地域の良さや実態を知りながら、それらを改善していくためにはどうすればよいのか等、自分で考えたり発信したりできるから。主体的な学習になるから。 | 住田町に、外からいろいろな人達が町おこし？のために入っている。町民でも知らない取り組みがありする。 | 人材バンクのような所があるよ。講師の願いや取材活動等をする時に、いちいち地域創造学とはどのようなものかから説明しなくても話が通じると、教師側の負担も減らせるのではないかと。住田町内の小・中・高を挙げて、このような取り組みをしていますというアピールが、もつと必要かと思う。例えば、新年交賀会のような場面で、町内の事業者の方にも知ってもらおうとか。 |
| 住田高校 | そう思う | 地域の様々な方たちと交流したり皆の前で発表したりすることで、社会的実践力が身につくから。 | 生徒が地域創造学に取り組むことにより、最初は尻込みしていた生徒も積極的に関わり友人や地域と関わろうとする姿勢が醸成されるということ。 | 幼小中高の接続を意識した取り組みは非常に素晴らしいと思います。これからも異種学校間の密接な連携を目指していただければと思います。 |
| 住田高校 | そう思う | 総合的な探究の時間の代替教科としての役割を十分果たしている。具体的には、本校にとって主体的・対話的で深い学びを象徴する教科となっている。 | 主体的・対話的で深い学びを具現化する方法を模索中。 | 今のところは、研究指定は継続申請しない方向です。 |
| 住田高校 | そう思う | 答えが確かではないことに、試行錯誤しながら探究する体験は、現在の児童、生徒には必要と考えます。 | 生徒はスタートラインに立たせてあげれば、自走する。しかし、自分からスタートラインに立つ力が弱い。 | もつと大人との関わり合いを持たせる。可能であれば、町の将来を考える会議などに高校生を参加させるなど。そういったワークショップなどを何度か開き、考えを磨いてからの話ですが。生さずぎた考えで済みません。 |
| 住田高校 | そう思う | 地域を知る良いきっかけとなり、探究活動やプレゼンテーションの基礎を学ぶこともできるから。 | | |
| 住田高校 | そう思う | 探究活動を通して、地域人材との接する機会／発表交流活動の経験を経て、自信と自己効力感を高められるから。 | 高校生は町外出身者が多く、異なる生育環境から、個々に多様な考えを持っており、交流を通して思考力を高めあえること。 | 町内在住の様々な分野の専門家の地域人材を活かした探究活動の在り方を確立できたらいいと考える。 |
| 住田高校 | そう思う | 社会について考え行動する力が養える。 | 高校生の視点は大人が思う以上にユニークである。 | 人と予算がつくのが好ましいが、、、いずれにしても継続させてほしい。 |
| 住田高校 | そう思う | 意欲的に取り組んでいる生徒の様子から感じられた。 | 住田町教育研究所管内の保小中と県立学校とが一体感をもって取り組むことが実現できたこと | |
| 住田高校 | どちらからかといえそうですが | 探究学習の機会となっているため。 | 地域連携のありかた | |
| 住田高校 | どちらからかといえそうですが | 自ら行動を起こす場面があるので、自主性や積極性が養われると考えているため。 | 指導の行き届きが生徒によってまちまちであるため、指示の仕方・方法・手段などあらゆる方向から考える癖が身についた。 | 現在のところ、特にありません。 |
| 住田高校 | どちらからかといえそうですが | 町内の方との接触や交流により普段学ぶことの少ない大人への対応を学ぶことができる(電話の応対、敬語の使い方など)・住田町外出身の生徒に、学校が設置されている地元に対する理解が進む。 | | ・住田高校における「地域創造学」は、「継続して」地域創造学を学ぶか、「新しく」地域について学ぶか、地元からの入学生徒数によってそのあり方が大きく変わると思います。 |

【教育達成測定シート項目】

| 学校 | | 年 | 名前 | | | |
|--|--|-------------|---------|-------------|-------|---------|
| <p>◆次のア～シの項目について、現在のあなたは、どの程度当てはまりますか。当てはまると思った数字一つに○をつけてください。このアンケートは、学習の成績には関係ありません。</p> | | | | | | |
| 質問内容 | | まったく当てはまらない | 当てはまらない | 多少なりとも当てはまる | 当てはまる | よく当てはまる |
| ア | 地域に関する学習は、自分に役立っていて、「地域は大切だ」と思うようになり、地域が好きになった。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| イ | 自分たちの地域には、どのようなよさや問題があるのかを見つけて、問題の解決のために見通すことができる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ウ | 地域のことについて正しい情報をもとに、自分の考えがふさわしいかどうかを、その理由も明らかにしながら考える。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| エ | 地域のためになることをあれこれ考えたり、生み出したりして提案や発信ができる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| オ | 地域のことについてもっと知りたい、調べたいと思うことがたくさんある。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| カ | 思った通りに進まないことがあっても、あきらめないでやりとげようとする。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| キ | 自分の意見を積極的に言ったり、仲間の意見をよく聞いたりして、仲間とコミュニケーションをとることができる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ク | 目標の達成に向かって、仲間と協力して活動することができる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ケ | 仲間の考えには、役立つ意見やよりよい考えがあるので、自分にとって仲間の存在は必要だと思う。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| コ | 目標の達成に向けて、自分の取組の進み具合を確かめることができる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| サ | 伝えたいことが効果的に伝わるように、いろいろな表現の仕方を考え、その中からふさわしいものを選ぶことができる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| シ | 自分の役割を果たしながら、仲間とともにこれからいろいろなことに挑戦しようと思っている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

これで終了です。ありがとうございました。|

教育達成測定についての岩手大学山本奨教授の分析結果について

要旨

地域創造学の学習成果について、これを実施していない対照群と比較することで、明らかにすることを試みた。まず、学習成果を『地域』『仲間』の2観点でこれを測定する尺度を作成した。これを用いて、地域創造学取組3年目と4年目に、各4回測定したところ、次のことが明らかとなった。

小学生では、『地域』は2年間継続して対照群よりも高い成果が認められた。『仲間』については、同様に高い成果が認められていたが4年目の2月のみ差が認められなかった。

中学生では、小学生同様『地域』については2年間継続して対照群よりも高い成果が認められた。『仲間』は3年目において対照群との差がなかったが、4年目は対照群よりも高い成果が認められた。

高校生では、『地域』は3年目の5月には対照群との差がなかったが、7月には対照群よりも高い成果が認められた。4年目には差がない状態となった。『仲間』は3年目において差がなく、4年目は対照群の方が高かった。

I. 学習成果測定尺度の作成

1. 目的

地域創造学に取り組む児童生徒の学習成果を捉える測定尺度（地域創造学学習成果測定尺度）を作成する。

2. 方法

(1) 調査対象

住田町と対照群の児童生徒に対して測定を行った。対照群は、県内の同規模で、地域創造学に相当する学習を組織的・計画的に実施していない町の児童生徒が選ばれた。回答が不備であったものを除いた対象者は次のとおりであった。地域創造学を履修する住田町立学校の小学生（4～6年生）104名、中学生（1～3年生）101名、高校生（1～3年生）90名及び対照群となる同学年の岩手県内の町立学校の小学生90名、中学生111名、高校生98名で、合計594名であった。

(2) 調査時期

令和元年5月

(3) 調査材料

社会的実践力を構成する12の資質・能力に対応し、子どもたちの学習への達成感等を見とる観点から作成した12項目からなる暫定尺度を用いた。

(4) 調査手続き

学級（ホームルーム）担任教師等が学級（ホームルーム）活動等で一斉に配付し、記入を求め、その場で回収した。

3. 結果と考察

地域創造学の学習成果を評価するための観点を導くために、暫定尺度の12項目について因子分析（最尤法，プロマックス回転）を行い，累積寄与率と固有値を参考に2因子を抽出した。第1因子は，「地域のことについて正しい情報をもとに，自分の考えがふさわしいかどうかを，その理由も明らかにしながら考える」などの項目に高い寄与率を示したことから，地域に対する価値の発見や課題を解決するために必要な能力に関するものだと考えられた。そこで，『地域』と命名した。第2因子は，「目標の達成に向かって，仲間と協力して活動することができる」などの項目に高い寄与率を示したことから，仲間との協働に係る態度に関するものだと考えられた。そこで，『仲間』と命名した。2因子までの回転前の累積寄与率は69.1%，因子間相関は.555であった。以上のことから，地域創造学の学習成果は『地域』と『仲間』の2観点で評価できると考えられた。

次に，各因子に高い寄与率を示した項目を用いて足し上げによる尺度を作成することを試みた。その際，いずれの因子にも一定の寄与率があり弁別性に問題のあると考えられた項目と内的整合性に問題がみられた項目を削除した。その結果，それぞれ4項目からなる下位尺度が作成された。クロンバックの α 係数は『地域』では.851，『仲間』では.835で，下位尺度間相関は.673であった。

II. 令和元年度の学習成果

1. 目的

地域創造学の取組2年目の学習成果を明らかにする。

2. 方法

(1) 調査対象

住田町と対照群の児童生徒に対して測定を行った。対照群は，県内の同規模で，地域創造学に相当する学習を組織的・計画的に実施していない町の児童生徒が選ばれた。回答が不備であったものを除いた対象者は次のとおりであった。地域創造学を履修する住田町立学校の小学生（4～6年生）104名，中学生（1～3年生）101名，高校生（1～3年生）90名及び対照群となる同学年の岩手県内の町立学校の小学生90名，中学生111名，高校生98名で，合計594名であった。

(2) 調査時期

令和元年度の5月，7月，12月，2月

(3) 調査材料

上で作成した地域創造学学習成果測定尺度を用いた。

(4) 調査手続き

学級（ホームルーム）担任教師等が学級（ホームルーム）活動等で一斉に配付し，記入を求め，その場で回収した。4回の測定を紐付けるため出席番号と氏名の記入を求めた。

3. 結果と考察

分析は校種及び下位尺度毎に行うこととした。それぞれ群要因（住田町・対照群）×時期要因（5月，7月，12月，2月）の2×4の2要因混合計画の分散分析を行った。多重比較にはHolm法を用いた。

(1) 小学生

ア. 地域

交互作用が有意であったが ($F(3,576)=12.38, p<.01, \eta_p^2=.06$)、効果量が十分でなかったため、群要因の有意に注目することとした ($F(1,192)=83.59, p<.01, \eta_p^2=.30$)。群要因では住田町の方が高かった。

イ. 仲間

群要因が有意で ($F(1,192)=20.87, p<.01, \eta_p^2=.10$) 住田町が高かった。時期要因も有意で ($F(3,576)=3.97, p<.01, \eta_p^2=.02$) 7月は2月よりも高かったが ($MSe=2.52, p<.05$)、効果量は十分でなかった。

(2) 中学生

ア. 地域

交互作用が有意であった ($F(3,630)=9.73, p<.01, \eta_p^2=.04$)。効果量が十分でなかったことから、群要因の有意 ($F(1,210)=63.30, p<.01, \eta_p^2=.23$) と時期要因の有意を ($F(3,630)=12.96, p<.01, \eta_p^2=.06$) 考慮しながら、水準毎の単純主効果を検討したところ、いずれの時期においても住田町が高く ($F(1,210)=56.99\sim 21.56, p<.01$)、住田町においては時期要因は有意でなく ($F(3,630)=1.19, ns$) 安定しており、対照群においては時期要因が有意で ($F(3,630)=21.50, p<.01$)、7月と12月は5月と2月よりも高く ($MSe=4.11, p<.05$)、不安定であった。

イ. 仲間

時期要因のみ有意で ($F(3,630)=4.02, p<.01, \eta_p^2=.02$)、12月と2月は7月よりも高かった。群要因は有意でなかった ($F(1,210)=2.85, p<.10, \eta_p^2=.01$)。

(3) 高校生

ア. 地域

交互作用が有意で ($F(3,558)=2.80, p<.05, \eta_p^2=.01$) であった。その効果量は小さいものであったが、有意であった群要因も同様であったので ($F(3,558)=5.92, p<.01, \eta_p^2=.03$)、水準毎の単純主効果を検討することとした。住田町における時期要因は有意であり ($F(3,558)=6.24, p<.01$)、5月から7月の間に上昇し以後これを維持していた ($MSe=3.61, p<.05$)。対照群における時期要因は有意でなかった ($F(3,558)=2.48, p<.10$)。また7月と12月における群要因は有意でいずれも住田町の方が高かった ($F(1,186)=4.24\sim 5.72, p<.05$)。

イ. 仲間

群要因 ($F(1,186)=1.64, ns, \eta_p^2=.01$) も、時期要因 ($F(3,558)=1.55, ns, \eta_p^2=.01$) も有意でなかった。

Ⅲ. 令和2年度の学習成果

1. 目的

地域創造学の取組3年目の学習成果を明らかにする。

2. 方法

(1) 調査対象

住田町と対照群の児童生徒に対して測定を行った。対照群は、県内の同規模で、地域創造学に相当する学習を組織的・計画的に実施していない町の児童生徒が選ばれた。回答が不備であったものを除いた対象者は次のとおりであった。地域創造学を履修する住田町立学校の小学生（4～6年生）94名、中学生（1～3年生）91名、高校生（1～3年生）76名及び対照群となる同学年の岩手県内の町立学校の小学生91名、中学生92名、高校生99名で、合計543名であった。

(2) 調査時期

令和2年度の5月、7月、12月、2月

(3) 調査材料

上で作成した地域創造学学習成果測定尺度を用いた。

(4) 調査手続き

学級（ホームルーム）担任教師等が学級（ホームルーム）活動等で一斉に配付し、記入を求め、その場で回収した。4回の測定を紐付けるため出席番号と氏名の記入を求めた。

3. 結果と考察

分析は校種及び下位尺度毎に行うこととした。それぞれ群要因（住田町・対照群）×時期要因（5月、7月、12月、2月）の2×4の2要因混合計画の分散分析を行った。多重比較にはHolm法を用いた。

(1) 小学生

ア. 地域

交互作用が有意であったが ($F(3,549)=6.83, p<.01, \eta_p^2=.04$)、効果量が十分でなかったため、群要因の有意に注目することとした ($F(1,183)=84.40, p<.01, \eta_p^2=.32$)。群要因では住田町の方が高かった。

イ. 仲間

交互作用が有意で ($F(3,549)=8.34, p<.01, \eta_p^2=.04$) であった。その効果量は小さいものであったが、有意であった群要因も同様であったので ($F(1,183)=17.52, p<.01, \eta_p^2=.09$)、水準毎の単純主効果を検討することとした。住田町における時期要因は有意であったが ($F(3,549)=2.95, p<.05$)、多重比較の結果各時期間に有意な差はなかった ($MSe=2.85, p<.05$)。対照群における時期の要因は有意で ($F(3,549)=6.69, p<.01$)、2月は5月より高く、12月と2月は7月よりも高かった ($MSe=2.85, p<.05$)。5月と7月と12月における群要因は有意で ($F(1,183)=25.91\sim 9.42, p<.01$)、いずれも住田町の方が高かった。2月における群要因は有意でなかった ($F(1,183)=0.02, ns$)。

(2) 中学生

ア. 地域

群要因が有意で ($F(1,181)=92.76, p<.01, \eta_p^2=.34$)、住田町が高かった。時期要因が有意

で ($F(3,543)=3.07, p<.05, \eta_p^2=.02$) , 5月よりも2月の方が高かった ($MSe=2.66, p<.05$) 。

イ. 仲間

交互作用が有意であったが ($F(3,543)=3.30, p<.05, \eta_p^2=.02$) , 効果量が十分でなかったため, 群要因の有意に注目することとした ($F(1,181)=10.76, p<.01, \eta_p^2=.06$) 。群要因では 住田町の方が高かった。

(3) 高校生

ア. 地域

交互作用が有意であった ($F(3,519)=5.08, p<.01, \eta_p^2=.03$) 。その効果量は小さいものであったが, 有意であった時期要因も同様であったので ($F(3,519)=6.91, p<.01, \eta_p^2=.04$) , 水準毎の単純主効果を検討することとした。住田町における時期要因は有意でなかった ($F(3,519)=0.12, ns$) 。対照群における時期要因は有意で ($F(3,519)=11.87, p<.01$) , 5月よりも12月と2月は高く, 7月よりも12月と2月は高かった ($MSe=2.55, p<.05$) 。各時期における群要因はいずれも有意でなかった ($F(1,173)=2.43\sim 0.18, ns$) 。

イ. 仲間

群要因が有意で ($F(1,173)=8.96, p<.01, \eta_p^2=.05$) , 対照群が高かった。時期要因は有意でなかった ($F(3,519)=0.23, ns, \eta_p^2=.00$)

地元のお宝再発見

世田米小児童が「まち歩き」

住田

住田町立世田米小学校(田代航校長)の3年生18人が4日、地域創造学の一環で世田米地区の町役場や蔵、浄福寺を見学した。子どもたちは歩いて地区内各所を回りながら、それぞれが感じた地元の良い点を記録し、改めて地域の魅力に理解を深めた。

この活動は、文部科学省から研究開発学校の指定を受け、町内の各小中学校が特色あふれる授業を実践している新設教科「地域創造学」の一環。

児童たちはこの日、住田町役場の内外を見学。平成26年に完成し、木のぬくもりあふれる役場内を回った児童からは「杉の香りがする」「すごく太い柱があった」といった「気持ち」が上がった。

役場見学後は、昭和橋のたもとから川沿いの蔵並を眺めた。その後は商店街通りに移動し、江戸、明治、大正時代にそれぞれ建設された蔵を見て回った。

このうち、明治時代に完成したとされ

る「泉田家式番蔵」は地元音楽サークルの活動拠点にもなっており、内部をのぞいた子どもたちは「羊タマやドラムなどを見つけて歓声を上げた。

蔵の見学を終え児童たちは浄福寺も訪問。同寺の境内に立つ、樹齢三百数十年のモミの木で制作した高さ約3.5mの観音聖人像を見上げ、「地域の宝」

に触れた。
柳田真朝さんは「初めて蔵の中を見たけど、ひんやりしてて気持ちよかった。住田町のいいところをたくさん見つけることができました」と話していた。
……
蔵を見学する児童たち(電子新聞に別写真あり)



成果を伝え一緒に成長

有中生と有
小生が交流

地域創造学異校種間連携

住田

方、足腰に不安を抱える高齢者や障害者は洞内探訪に難しさがある点などを指摘した。今後は、インターネットや映像媒体も生かした発信力向上などが重要とまとめた。

住田町の有住中学校(三浦政勝校長)の2年生と有住小学校(菊池国子校長)の6年生による「地域創造学異校種間連携」は13日、

有住中学校で行われた。小学生は地域の魅力を探究する、先輩たち「の奥深さにふれたほか、中学生は異なる世代に学びの成果を伝える大切さを学びとっていた。

両校をはじめ町内の小中学校では、平成29年度から小中学校のつながりを生かした独自の

新設教科「地域創造学」を実践。子どもたちの社会的実践力の養成や、地域資源を生かした教育課程確立を目指すとともに、学校や年代の枠を超えた「つながりある学び」も重視している。



中学生は本年度探究した「住田の課題」「住田の環境」について、これまでの授業で磨き上げた表現力で6年生に伝えるかを確認しようとした。

発表会では、中学生17人が3、4カ所に分かれ、本年度それぞれが取り組んだ成果を模造紙1枚にまとめ、その内容を説明する「ポスターセッション」を展開。観光施設や移動手段、町産食材などについて調べ、現状や魅力をまとめただけではなく、課題にも言及しながら今後につながる提言も行った。

一方、小学生9人は、それぞれの発表に真剣な表情で耳を傾けるとともに、今後の授業に生かそうと熱心にメモを取った。積極的に発言を行い、感想や疑問を伝えながら中学生と交流を深めた。



6年生の黒澤我流君(12)は「この発表も、細かいところまでよく調べていると思った。最初は難しい内容が多いと予想していたが、どれも分かりやすかった」と話していた。

このうち、2年生の吉田莉玖君(14)は、滝観洞について発表。洞内の「日本屈指の滝」など特徴を分かりやすくPRしている点などを良さと挙げて一

有中生の学習成果を有
小生らに示した発表会
(電子新聞に別写真あり)

「地域創造学献立」給食に

世中生考案のメニュー

町内中学 仲間のレシピも生かし

住 田



地元産食材を使った給食献立考案に携わった生徒たち

住田町立世田米中学校(及川賢一校長、生徒62人)の3年生が考案した献立が、24日の町内中学校の給食で出された。町内小中高校の独自教科である地域創造学授業の一環で、栄養バランスなどを追い求めて知恵を絞るだけでなく、別のテーマで取り組んでいたグループの考案メニューも取り入れた。生徒たちはプロジェクト実現を喜ぶとともに、今後の「定着」に期待を込めていた。

新設教科は、文部科学省による研究開発学校事業の一環。平成29年度に世田米小、有住小、世田米中、有住中、県立住田高校の計5校が指定を受けた。教育実践の中で浮かび上が

る諸課題、時代に対応した新しいカリキュラムや指導方法の開発を旨とし、学習指導要領等の国の基準によらない教育課程を編成・実施できる。

町内各学校の時間割には「地域創造学」が生まれ、地域資源を生かした社会的実践力などにつながる授業が行われている。世田米中生はこれまで「住田の魅力」を発信するため、住田の〇〇を生かしたプロジェクトを考えよう」をテーマに取り組んできた。

このうち、3年生の畠山徳輝君と美野航南君は「同世代の人たちに、住田町の食材を伝えたい」と、給食の献立づくりに挑戦。町内小中高校の給食を担う世田米の町学校給食センターに相談するなどして、メニューをまとめた。

相談に先立ち、2人は献立に「クリームきのことスープ」を入れようと、10月上旬の授業で試作。この時、3年生の菊池聡太君、平空君、水野仁君のグループは地元食材を使ったレシピづくりの一環で「ありすポークの肉巻き」を調理していた。試食で好評を博したことから、肉巻きもメニューに加えた。

学校給食センターでは、スープと肉巻きを生かした献立に向けて、職員から栄養バランスや見た目の彩りなどについてアドバイスをを受け、実際に給食として出すための調整を重ねた。24日の給食では、世田米中、有住中の生徒ら向けに約140食分が用意された。3年生19人の教室では、メニュー作成にかかわった5人を囲むようにして会食。生徒た

ちからは「おいしい」「食べやすい」といった声が寄せられた。肉巻きレシピを完成させた菊池君は「給食で食べることができてうれしい」と笑顔。献立をまとめた美野君は「きょうを楽しみにしていた。思っていた以上においしくなっていて、給食センターの方々に感謝したい」と話していた。

生徒たちが楽しそうに食べる様子を見守った学校給食センターの古山桂子栄養教諭は「きょうはオクラと町産のジャガイモを肉で巻いたが、本来のレシピにあるアスパラガスが旬の時期にも、提案を考えたい。今後もこのように生徒たちから提案があれば柔軟に対応し、身近に感じられる部分で食育が広がっていく」と語り、期待を込めていた。

住田の「いいところ」PR

生徒らが歌を制作

地域創造
学の一環 「自然」「人」など歌詞に

住田高校



住田町の県立住田高校(菅野誠二校長、生徒85人)の3年生7人が、同町をPRする歌『輝け住田』を作り、このほどPV(プロモーションビデオ)の撮影を行った。地域創造学の一環として取り組んできたもので、自然や人など住田の「いいところ」を盛り込んだ一曲となっている。PVは完成後、町営ケーブルテレビ・住田テレビで放送される予定。

地域創造学は、文部科学省による研究開発事業の一環。平成29年度に世田米小、有

住小、世田米中、有住中、住田高の5校が指定を受けた。教育実践の中で浮かび上がる諸課題、時代に対応した新しいカリキュラムや指導方法の開発を目指す。

PV(プロモーションビデオ)撮影を行う3年生の生徒たち

組む内容を示す構想発表会が開かれた。

この中で、長谷川馨彦さん、古川くるみさん、菅野ひなたさん、新沼由唯さん、佐々木美月さん、大山澤さん、岡澤惟亜さんの3年生7人は、「歌が好き」という共通点があったことから、「うたプロ」住田の名所を歌にする」とのテーマを掲げた。

7人は夏休み明けから活動を開始。作詞に当たっては、校内のほか町内の小中学校を対象にアンケートを実施し、児童・生徒が思う住田の好きな所などを調査。300枚以上の回答用紙を集計した結果、自然に関する回答が多く寄せられたという。

生徒たちは、アンケート結果と自分たちの持ち寄ったアイデアをもとに作詞に挑戦。歌詞は1番、2番に分かれており、1番は「こ

県一山越えると小さな町が」と始まり「耳をすますと森や風がささやいている」「大きく流れる気仙川、そこに流れるあゆの群れ」などと自然に関する歌詞で構成されている。

一方、2番は「すてきな笑顔がたくさん輝くよ」「人と人が寄りそうあたたかさ」など、人の温かさを伝えたい。

作曲は、同校で音楽の授業を受け持つ講師・細田富士子さん(43)が担当。同校に赴任して2年目で、過去にも勤務経験を持つ細田さんは「やっぱり住田の魅力は自然と人」と語り、曲調も住田らしく、仕上げた。

歌は7月中旬に完成したが、新型コロナウイルスの影響によって当初予定していた保育園でのお披露目が延期と

なったため、PV撮影を企画。

住田テレビスタッフが同校で撮影を行い、生徒たちは校舎や川、山をバックに、自分たちが考えた振り付けで歌いながら、元気に明るく住田をアピールした。

リーダーの長谷川さんは「子どもでも歌えるような、いい曲に仕上げたと思う。住田町の皆さんに聞いてほしいし、県内外にも広まって住田のことを知ってもらえれば」と話していた。

PVは2週間ほどで完成するといいい、完成後は住田テレビで放送。「生歌」のお披露目はまだ未定だが、生徒たちは「文化祭でも歌ってみたい」と意欲をみせている。

『輝け住田』を生徒と一緒に歌ってみたいという人は同校の細田さん(TEL46・3142)まで連絡を。

住高生のプロジェクト実現

外国人向けごみ分別表

町が5カ所に設置 地域創造学で取り組む

住 田

住田町は、外国人向けのごみ分別表を製作し、町内5カ所のゴミステーションに設置した。住田高校の佐々木優弥君(2年)が、独自教科である「地域創造学」で取り組んできたプロジェクトを知り、実現させた。佐々木君は自らの海外研修での経験などから、「外国人も暮らしやすいまちに」と外国人向けのごみ分別表の製作を提案。「まずは第一歩。これから、気仙全体が外国人にとって住みやすい場所になれば」と今後の活動に意欲をみせている。



佐々木優弥君

佐々木君は本年度から、地域創造学において「外国籍の人たちも暮らしやすいまちをつくる」をテーマに活動



活動を根底には、小学校時代のALT(外国語指導助手)との交流がある。陸前高田市高田町出身の佐々木君は、東日本大震災の津波で自宅が被災し、高田高校第2グラウンドに整備された仮設住宅に小学2年生から中学1年生まで入居していた。同じ仮設住宅に入居していたALTと交流するうちに、日本の町内5カ所に設置されたごみ分別表

生活で困っていること、苦労していることを教えてもらったことが、今回の活動につながった。

一昨年、当時の大船渡高校3年生の生徒が行っていた在住外国人の生活充実に支援する取り組みにも影響を受けた。また、佐々木君は昨年度、海外派遣事業でオーストラリアを訪問した際に、自身も「外国人」としての苦労を感じたという。

これまでに、住田町内在住の外国人の数や、他自治体による外国人へのアンケート調査の結果を調べ、町内の外国人技能実習生などにもインタビューを実施。昨年12月には、気仙の高校生が探究授業や課外活動で取り組んできたプロジェクトを発表し合う「ケセンブー

向けのごみ分別表の取り組みについて語り、それが町の目にとまると実現に至った。現在、町内にはアメリカ、中国、ベトナムなど合わせて約1000人の外国人が在住。外国語版の分別表は、外国人居住者の多い世田米地内の計5カ所に設置。燃やせるごみ、燃やせないごみそれぞれを日本含めて4カ国の言語で説明し、イラストも添えられている。

自身のプロジェクトが実現したことを受け、「教育コーディネーターや先生方、中学校で発表を聞いてもらったおかげでいろんな人の頭に活動が残ったのだと思う。多くの人のつながりでプロジェクトが形になったので、発表を聞いてくれた人たちに感謝しています」と語る佐々木君。「これを第一歩として、日本人の私たちが気づかないような部分も改善していきたい。コロナが落ち着いたら、日本人と外国人の交流会も開きたい」と意気込む。

町教育研究所の千葉邦彦指導主事は「このように、自分なりに地域課題を見つけて提言・解決していくのが地域創造学の目指すところ。子どもたちの考えを社会が受け止めて、ともによりよい社会をつくっていくのが社会的実践力。そういう意味で、目指すべき事例の一つになった」と語り、今後の地域創造学の発展に期待を寄せる。

住田町の「いいな」を発見

わたしは一年生のころから地いきそうぞう学の学習で、世田米のいいところを見つけてきました。一年生では、町を探けんしたり、種山で木の実や葉っぱを見つけたりしました。二年生では、世田米の商店がいについて調べました。わたしは、探けんしたり町のことを調べたりすることが出来る地いきそうぞう学を楽しんできました。今年は、住田町の名所の「いいところ」を調べ、有住小学校の三年生と交流することになり、とつてもわくわくしていました。

世田米の名所をみんなで歩いて探し、住田町役場・じょう福寺・くらしをしようかいすることになりました。調べていく中でわたしはくらのマークに注目しました。くらのマークには、火事やさいがいから守ってくれるようにとねがいがこめられているそうです。漢字や花がらなどさまざまなマークがありました。わたしは、こんなねがいがこめられているなんて知らなかったので、びっくりしました。有住小学校の友だちにも伝えたいと思いい調べてまとめたいことにしました。

わたしは、くらグループとして絵をかいたり、文章を書いたりしました。文章がなかなか決まらずにこまっていますと、先に書き終わった嵩渡さんがいっしょに考えてくれました。

「くらのマークに意味やねがいがこめられていることを

かいてみたらいいよ。」とアドバイスをもらい、書くことができました。発表の練習のときには、グループのみんなと相談して、一歩前に出て、紙を見ないように暗記をして話すことにしました。

有住小学校との交流会では、はじめに世田米小学校から発表しました。どのグループも、はつきりと聞こえやすい声で話していたり、クイズをだしていたりしていたので、すごいなと思いました。私たちのグループの発表も、練習をしてきたことをしっかりできたので、よかったです。有住小学校のみんなも、楽しそうに聞いてくれたので、うれしくなりました。

有住小学校の発表は、少ない人数でも、クイズを出したり、地図や絵を使ったりしてくふうしていました。とくに、いんしょうにのこった名所は、なぞにつつまれた「じごくく穴」です。

自然に空いた穴で、深さも分からないくらい深いということに、とてもおどろきました。この交流会で世田米と有住の名所をいっぱい知ることができました。

今回の学習で、住田町のいいところやそこに住んでいる人についてすることができました。また、文章を書く力もついたと思います。地いきそうぞう学を学習してきて、さらに住田町がよいところに思えてきました。来年は、もつと地いきのことを調べて、住田町を知らない人にも、名所やよいところを教えてあげたいです。

